

愈々有効トナルマデ、正面攻撃ノ實行ヲ見合ハセ、而カモ敵ヲ退却セシメナイ爲ニ其場ニ抑留スルヲ要スル場合ニハ、正面攻撃ニ任ズル將官ノ爲ニ過早ニ眞面目ノ戦闘ヲ惹起サヌヨウニ、一定ノ適當ナル處置ヲ規定スルノガ有利デアラウ。

如何ナル程度マデ細部ニ亙ツテ規定スベキカハ、命令者ノ地位ニモ依ルノデアアル。獨立シタ、高イ位置ノ將官等ノ率キル數軍ノ上ニ立ツ將帥ハ、其部下ニハ自己ノ意圖ヲ示シ、最善ノ研究ニ依ツテ之ヲ實現スルコトヲ任カセ得ルデアラウ。即チ前掲ノモルトケノ命令ニハ其意圖及國王ノ概略ノ意圖ヲ示シタニ過ギヌ。但シ夫レガ、疑ヲ生ゼヌ如ク、又共同ノ目標ニ對スル各軍ノ協力ヲ保證スル如ク示サレテアル。

千九百十四年白耳義及北部佛蘭西通過ノ前進ニ關スル小モルトケノ統帥法ニ就テハ、遺憾ナガラ同一ノ斷定ヲ下スコトガ出來ス。即チ各軍ニ過度ノ自由ヲ與ヘ、其各軍ノ運動ヲシテ調和ヲ保タシムルコトヲ怠リ、爲ニ敵ヲ徹底的ニ撃破スベキ好機ヲ空シク逸シ而シテ豫想外ノ狀況ニ遭遇セシ時ニハ、兵力ヲ使ヒ盡クシテ、一兵ヲモ手許ニ持タナカツタノデアアル。

此ノ如キ結果ニ陥ルコトヲ防グニハ、首將タルモノガ、如何ナル場合ニ於テモ、少ナクトモ一部ノ兵力ヲ確實ニ、自己ノ手許ニ握ツテ置カネバナラヌ。此ノ兵力ハ操縦ノ困難ナル巨船ノ舵トモ云フベキモノデ、首將ガ、自ラ會戰ニ干與スル時ノ槓桿ニナルノデアアル。

例ヘバモルトケ大將ガ若シマルヌ河畔ヘノ進撃中ニ、全軍ノ右翼後ニ豫備ヲ持ツテ居タナラバ、(夫レニハ東方戰場ニ送ツタ軍團ヤ敵ノ要塞ノ許ニ殘シタ軍團ナド十分デアツタ)第二軍ガ過早ニ退却ノ決心ヲ爲シテカラ、手ヲ拱スイテ、災厄ヲ傍觀スルガ如キ失態ヲ演ゼズニ濟ンダデアラウ。

而シテ敵ニ一番近クテ大本營カラ一番遠イ部分ハ、大ニ自由ヲ與ヘラレ、敵カラ遠クテ、首將ニ近ク、其使用ニ供セラル、部分ハ、全ク限定シタ命令ヲ與ヘラレテ、拘束サル、コトヲ甘受セネバナラヌ。然シ何レハ廻リ持チニナルノデアアルカラ、此ノ束縛モ敢エテ意トスルニ足ラヌノデアアル。

命令ヲ下ス者ノ位置ガ遠ク離レ且ツ其手中ノ兵力ガ全體ノ兵力ニ比シテ小ナルニ從ツテ、其命令ガ益々詳細トナルベキモノデ、行動ノ自由ヲ比較的狹範圍ニ制限シ、他隊トノ關係ヲモ顧慮スベキコトニナル。

尙ホ普佛戰爭ニハ命令ノ特別ナ種類ガアツタ。即チ最初ノ數日間ハ、大本營ガ直前ノ行動ニ就テノミ示セル、單簡ナ電報命令ヲ以テ、各軍ヲ指揮シタ。然シ此ノ處置ハ、此ノ戰役ニ關スル參謀本部ノ戰史ニモ述ベテアル通り、概シテ好都合ニ行ツタモノトハ云ヘナカツタ。故ニモルトケ大將ハ、最早獨逸軍ノ展開ガ阻害サレ、一ノ軍ガ孤立シテ、敵ノ優勢ナル兵力ノ爲ニ攻撃サレル危險モ無クナリ、一層行動ノ自由ヲ得ラル、ヤウニナルヤ、否ヤ、直チニ其區處ヲ所謂

訓令ノ形式ヲ以テ與ヘルコトニシタ。此ノ語ハ偶然ニ選バレタモノデ此ノ語ハ適當デナク、之ヲ非難スルモノモアツタガ、然シ夫レ自體ハ立派ナモノデアツタ參謀本部編纂ノ戰史ニハ「Directive (訓令)トハ上カラ下ノ者へ與ヘル通報デ、夫レニハ現在ノ處置ニ就テノ命令ヲ含マズニ、寧ロ主トシテ指導的意見ヲ述ベテアルモノデ、之レガ自ラ獨立的ニ爾餘ノ決心ヲ爲ス際ノ、指針トナル」ト説キ元ノ陣中要務令ニハ「訓令ハ目的ヲ力説スルガ、其實行手段ハ受令者ニ任カスベキモノデアアル」ト示シテアル。大ナル行動ノ餘地ヲ與へ、而カモ各隊ノ協力ヲ保證スル所ノ此ノ種ノ通報ナルモノハ、今日ニ於テモ、相離隔シタ兵團ヲシテ、一貫シタ目的ニ向ツテ努力セシムベキ場合ニ適合スルモノデアツテ、大規模ノ作戰ニ際シ、數日間ニ亘ル運動ヲ規定スベキ場合ニ於ケル最良ノ統帥法デアアル。故ニ吾ガ邦ノ新シキ戰鬪教令中ニモ訓令、教示トシテ採用シテアル。

而シテ之ヲ用フルハ必ずシモ全軍ノ統帥ニ限ラズシテ、各軍司令官モ亦、其兵力ノ一部ヲ孤立シテ特別ニ任務ニ服セシムル場合ニ之ヲ用ヒル。

訓令ヲ與フル際ニハ、往々起リ得ベキ種々ノ場合ヲ豫想スル必要ヲ感ズルデアラウガ、普通ノ場合ニハ、不確實トナルカラ、良シク無イ。此ノ如キ不確實ナ基礎ノ上ニ區處ヲ立テルコトハ、實際ニモ過ヲ起スノデアアル。敵ハ吾ガ豫想シタ二、三ノ場合ノ中間ノ策ヲ取ルコトガアリ、其場合ニハ甚ダシキ悩迷ニ陥ルデアラウ。

然シ、戰爭デハ決定セネバナラズ、而カモ敵ガ如何ナル行動ニ出ヅベキカハ全ク不明ナ場合ガ起ル。

結局、訓令ナルモノハ總テ、思慮ニ富ミ獨立的ノ行動ニ慣レタ部下ヲ豫想シテ居ルモノデアアル。

次ニ各種ノ命令ニ依ツテ研究スル。

作戦命令ハ軍隊ノ戰爭行為ヲ定メルモノデアアル。夫レニハ命令ヲ出ス司令部ノ名ヲ冠シテ、軍命令軍團命令、師團命令、砲兵命令、等ト稱ヘル。又軍隊區分ニ依ツテ唱へ、前衛司令官ノ出ス命令ヲ前衛命令、前哨司令官ノ出スモノヲ前哨命令ト稱スルコトガ出來ル。命令ハ意見ヲ述ブルノデナク、或ル方向ヘノ前進トカ、攻撃トカ、防禦ニ於テ維持スベキ線トカ、總テ處置ヲ規定スルモノデアアル。而シテ命令ハ通常、發令者ガ最モ確實ニ起ルト豫想スル場合ニ就テノミ示ス。然シ元來命令ト訓令トノ區別ガ、何時モ嚴密ニ維持サル、モノデモ無イカラ、多少ノ例外ハ免レヌ。(然シ夫レハ稀ナモノデアアル)平時ノ演習ニ於テ殊ニ多ク用ヒル、「某軍又ハ其隊ハ狀況ニ應ジテ行動スベシ」ト云フガ如キ言ヒ方ハ無用デアアル。豫メ何等規定セラレヌ事ハ、特ニ夫レヲ許サレズトモ、斯ク動作スル外ハ無イノデアアル。命令ハ訓令ヨリモ遙カニ定マツタ形式ヲ以テ示サラレルノデアアルガ、然シ其手本ヲ示スコトハ出來ヌ。然シ其内容中ニ決シテ缺クコトノ出來ヌ二、三ノ點ハ之ヲ決定シ得ル。

第一ニハ、前ニモ既ニ述ベタ通り、戦争ニ於ケル總テノ命令ハ、必ズ敵情ニ就テ或豫想ヲ下シ、夫レヲ基トシテ立テタモノデアアル。命令ハ皆豫想カラ出發シテ居ルモノデアツテ、犯セバ罰セラル、所ノ法律ノ章條ノ如キニ、之ヲ考ヘテハナラス。其命令ノ基礎トナツテ居ル豫想ガ適中シナカツタコトガ判明シタ場合ニハ、直チニ其効力ヲ失フノデアアル。

夫レデアアルカラ總テ命令ニハ必ズ其始メニ敵情ヲ示スノデアアル。之ニ就テ注意スベキ件ガアル。多クノ場合ニ——殊ニ自己モ尙ホ少シク疑ヲ持ツテ居ル場合——ニハ、敵情ヲ何ニ依ツテ得タカラ示ス方ガ良イデアラウ。上カラ單ニ「敵ニ就テノ報告ニ依レバ云々」ト示サレルト、下ノ方デハ動々モスレバ夫レガ確定的ノモノ、ヤウニ取り易ク、之レガ爲ニ誤ヲ來スコトガアル。其出處ニ就テ「飛行機寫眞ニ據レバ」、「住民ノ言ニ依レバ」、「斥候ノ報告ニ依レバ」ナドト明示スレバ、其情況ノ確實ノ程度ニ就テ、總テノ指揮官ニ判斷ガ出來ル。之レガ爲ニ指揮官等ガ或ハ敵情ニ疑ヲ置キ、從ツテ用心スルコトニハナルカモ知レヌガ、却ツテ其安心ハ増スデアラウ。報告中ノ實際ノ内容ト、推定ニ依ツテ補足シタ部分トノ區別ヲ、判然ト立テルコトモ亦、緊要デアアル。サモナイト本來想像ニ止マル事ガ、終ニハ全ク確實ナ事ノヤウニ、取ラレ易イ。之レガ動々モスレバ處置ヲ誤ラス原トナル。

故ニ命令ノ劈頭ニ掲グル敵情ヲ示スニハ、極メテ嚴密ナル注意ヲ必要トスル。其僅カニ、三行ノ文

ヲ綴ルニ當ツテモ、頭腦ヲ鋭ク働カセネバナラス。

其次ニハ、隣接部隊ノ情況ニ就キ、其行動ガ受命者ニ必要ナ程度ニ、簡單ニ附記スル。例ヘバ、何レノ道路ヲ前進スルカ、何レノ地點ニ達センコトヲ努ムルカ、如何ナル戰鬥目的ヲ有スルカ等ヲ示スノデアアル。

作戰命令ノ第二項ニハ指揮官ノ意圖ヲ概括的ニ示ス。之レハ敵狀及我が軍ノ情況ヲ基トシテ起ルモノデアアルカラ、形式ノ上ニ於テモ之ヲ第一項ノ次ニ置クノガ良イノデアアル。

首將ヤ軍隊指揮官ナドガ、其意圖ヲ明確ニ示スヲ要スルコトハ、當然ノ事デ、彼是説明スル迄モナイヤウデアアルガ、實際ニ徵スルト必ズシモ、一概ニ斯ク斷定シ去ル譯ニ行カヌノデアアル。

先ヅ第一ニ差當ツテノ決心ヲ定メルコトガ困難ナ場合ガ往々アル。戦争ノ狀況ハ甚ダ不確實ナモノデ早朝ニハ、午前九時カ十時ニナツタラバ果シテ如何ナル希望ヲ起スカト云フコトサヘ、豫見シ、得ヌホドデアアル。軍隊ニ對スル顧慮上翌日ノ爲メノ命令ヲ多クハ晩方ニ出サネバナラス。而カモ其夜ノ内ニ色々ノ變化ガ起ル。運動ヲ起ス準備ヲ整ヘテ置ク爲メニ、翌朝集合スベキ場所ヲ示スノ外、何等豫定シ得ヌ場合モ屢々アル。此ノ場合ニハ準備ノ命令(集合命令)ヲ下シ、夫レニ搜索警戒ノ區處ヲモ示シ、之ニ依ツテ部下ニモ先ノ事ハ總テ不確實デアリ、從ツテ敵ト過早ニ戰鬥ヲ交ヘテ、行動ノ自由ヲ束縛シテハナラスト云フコトヲ承知サセテ置ク。又此ノ種ノ命令ハ、無用ノ緊急集合ヤ、過早ノ準

備ヲ豫防スルコトガ出來ルカラ、軍隊ノ爲ニモ、利益ヲ與ヘルコトニナル。

又一面ニ於テハ、高等司令部ノ意圖ハ、良ク知レ渡ツテ居テ、急イデ書ク簡單ナ命令ニ再ビ夫ヲ繰リ返ヘス必要ナドハ無イヤウニモ見エル。其意圖ニ於テハ、司令部デモ又廣ク高級ノ指揮官ノ間ニモ、夫レ迄ニ絶エズ其話ガ出タノデアルカラ、何人モ夫レヲ知ツテ居ル筈ダトツイ思フヤウニナルノデアル。然シ夫レガ、丁度大事ナ所ニ知レズニ居ルコトガアル。場合ニ依ツテハ、本來ハ全然今迄他ノ役割ニ當アラレテ居ツタ部隊ガ重大ナ任務ニ服スベキコトモ起ルノデアアル。

故ニ首將ノ意圖ノ概要ハ、將來獨立ノ行動ニ當ルコトノアルベキ將官ニハ悉ク皆之ヲ知ラセテ置カネバナラス。何時ノ戰爭デモ、下級指揮官ガ自己ノ考デ、作戰ノ指揮官ノ意圖外ノ會戰ヲ惹起シテ居ル。此ノ如キ出來事ハ、將來ニ於テモ軍隊ノ企圖心ガ旺盛デ下級ノ指揮官ガ獨斷專行ノ精神ニ富ム所ニハ、必ズ起ルデアラウ。而シテ二ツ以上ノ大兵團ガ共同シテ戰フ場合デ、其儘ニスレバ好機會ヲ逸スベキ場合ノ如キハ、其様ナ事ガ起ルノガ、却ツテ良イノデアアル。然シ此ノ獨斷專行ハ、若シ首將ガ餘リ心配シテ、自己ノ意圖ヲ胸ノ中ニ藏ツテ置クト、動々モスレバ全軍ノ不幸ヲ招クコトニナリ易イ。敵ニ秘密ノ漏レル虞ハアルガ、夫レガ吾ニ危險ヲ與フルコトハ極メテ稀デアアル。即チ其通報ハ最初ハ少數ノ高級者以外ニハ知レズ、其實施命令ガ出ル際ニハ、實行マデノ間ガ少ナイカラ、其情報ガ敵ノ所ニ届イテモ時ガ既ニ遅クナツテ、夫レヲ利用スルコトガ出來ナイ。

戰鬥ヲ生ズベキ重要ナ運動ノ開始マデニ、時間ガ非常ニ切迫シテ居ル場合モ、往々アルデアラウ。然シ其時デモ、首將ノ意圖ヲ今一度明確ニ示ス爲メノ一句ヲ挿入スルダケノ時間位ハ必ズ得ラレル。萬一命令ガ希望ノ如ク實行シ得ラレヌ場合ニ於テ其首將ノ意圖ガ下級指揮官ノ處置ニ對スル唯一ノ指針トナルノデアアルカラ、之ヲ良ク明瞭ニ知ラセテ置ク必要ガアルノデアアル。

指揮官ノ意圖ヲ示シタ項ノ次ニハ、當然其區處ヲ示ス。其内容ハ全ク其場合ノ狀況ニ依ツテ定マル。其各場合ニ就テハ、後章ニ述ベル。

一般ニ時間及地域ヲ精密ニ考慮スルコトガ、最モ大切デアアル。此ノ點ニ於ケル過失ハ、到底許スコトノ出來ヌモノ、ヤウニ思ハレルガ、然シ名將ト雖モ此ノ過失ヲ犯シテ居ル。蓋シ戰爭ノ實際ヲ知ル者ハ、之ヲ諒解スルコトガ出來ルノデアアル。今一ツノ決心ガ下サレ、夫レニ應ズル命令ガ出來タ後ニ、突然注意ヲ他ニ向ケサセルヤウナ事件ガ生ズル。其當座ハ其決心ノ當否ガ疑ハシク思レルカラ、命令ヲ出スノヲ差控ヘル。暫ラク經ツテカラ、狀況ガ判明シ、先ノ命令ガ無線電信ナリ、自動車ニ乗ツタ將校ナリニ依ツテ、傳達サレル。程經テ命令中ノ指定時刻ヲ改メル必要ヲ覺エ。蓋シ其間ニ多クノ時間ヲ經過シタ爲メニ招致スベキ隊ナドガ、指定ノ時刻マデニハ、倒底來ラヌコトニナツテ居ルノデアアル。多クハ更ニ無線電信ヲ以テ其誤ヲ正スノデアアルガ、又タ受令者ノ方ノ適當ナル判斷ニ任カセ、所要ノ變更ヲ期待スルコトモアルデアラウ。然シ誤ハドコマデモ誤デアアル。其原因ヲ知ル者ハ、恕シテ

モ吳レルデアラウガ、夫レデモ尙ホ斯カル出來事ハ——殊ニ夫レガ屢々繰リ返ヘサレ、且ツ一見シテ知レル場合ニハ——信用ヲ傷ツケルコトニナル。

次ニ處置ヲ列記スベキ順序ニ就テ述ベル。

此ノ順序ハ主トシテ各處置ノ輕重ニ依ツテ定メル。劈頭ニ掲ゲタモノハ、一番頭ニ強ク殘ル、故ニ特ニ理解ヲ助クル爲メニ、準備的區處ヲ示スヲ要スル場合ノ外ハ、眞先ニ最モ重要ナ事項ヲ置ク。其後ニ、其主要ナ企圖ノ援助及保護トナルベキ第二、第三ノ處置ヲ列舉スル。

飛行機及騎兵ノ共同シテ行フベキ搜索ニ關スル區處カラ初メテ行フノガ一番良イ。斯クスレバ、地圖ヲ參照シテ、自己ノ任務ニツキ命令ヲ讀ンデ行クト、後ノ條項ニモ關係ノアル住民地、道路等ノ位置ヲモ同時ニ知ルコトガ出來、先ノ方ヲ讀ム時ニ、夫レガ役ニ立ツテ、早ク確實ニ理解スルコトガ出來ル。

搜索ニ關スル事ガ終ツタナラバ、次ニハ軍隊區分ニ示サレタ各部隊ノ一ツ宛ニ就テ述ベ、且ツ其順序ハ行軍序列ニ從フ。

誰モ(假令退却ノ時ノ命令デアツテモ)輻重ノ區處ヲ軍隊ノ區處ノ先ニ掲ゲタリ、或ハ其中ニ混入シタリスル者ハアルマイ。之ハ當然終ニ示スベキモノデアアル。

戰時ノ命令ハ、屢々不利ナ環境ノ中ニ、書キ、讀ミ且ツ理解セネバナラヌコトヲ、顧慮スベキデア

ル。

世人ハ戰史ヲ讀ンデ、忘レタリ、見落シタリシタ事實ニ遭遇スルト、動々モスレバ夫レニ酷ナ判斷ヲ下シ、「ドウシテソナ事ニナツタノカ」ト喚ブ者ガアル。其人達ハ、將官ガ自己ノ地位ノ重キヲ十分ニ自覺シナガラモ、何時デモ頭ガハツキリシテ元氣デ居ルト云フ譯ニ行カズ、ヤハリ疲勞ニハ勝テヌ場合ガアルコトヲ、想像セヌカラデアアル。恐ラクハ終日馬上ニ在ツテ互寒、風雪ト戰ツタ後ニ、協議ヲシタリ、報告ヲ受ケタリ、命令シタリ、又報告ヲ出シタリシテ、夜ノ更ケル迄、起キテ居テ、貧弱ナ宿舍ニ疲レ果タ身ヲ漸ク横ヘタ所ヘ、無線電話ガカ、ツテ來テ、寢入際ヲ起サレテ、再ビ仕事ニ就キ、直チニ讀ンダリ、考ヘタリ、決心シタリシテ、夫レカラ更ニ部下ニ命令ヲ與ヘタノデアラウ。サホドノ艱苦ニ遇ハヌ場合デモ、之レニ似タ故障ハ往々起ル。即チ五體ガ甚ダシク疲勞シタ時ニハ、得テ仕事ガ情クナル。暗イ燈火ヤ、火光ノチラノ／＼スル爐邊デ命令ヲ讀ム。地圖ヲ取り寄セ、又夫レヲ擴ゲル。机ヲ骨ヲ折ツテ持ツテ來ル。其様ナ場合ニ、命令ガ長クテ、地名ナドガ澤山アリ、其區處ガ巧妙複雑デ、主要事項ト細カイ事柄トガ混ジツテ居ルトキニハ、或ハ誤解シタリ、或ハ輕イ事柄ニ氣ヲ取ラレテ、主要ナ事項ヲ見落スト云フヤウナ過失ヲ犯シ易イノデアアル。

尙ホ又相當ノ地位ニ在ル者ハ、總テ(少ナクトモ我ガ獨逸デハ)心身ノ精力ガ、既ニ減退スル年

齡ニ達シテ居ルコトヲモ考フベキデアル。那翁ハ四十一歳ノ時ニ、往年ノ元氣ガ無クナツタコトヲ嘆ジ、「少シノ距離ヲ馬ニ乗ツテモ骨ガ折レル」ト自ラ認メテ居ル。フリードリッヒ大王ハ四十八歳ニ達シタ時ニ、其友ノダンヂユンニ心中ヲ打ち明ケテ、「自分ハ精力ガ減退シ持病ガ増進スル年齢、打ち開ケテ云へバ、希望モ不幸ニ對スル慰安モソロ／＼無クナリ始メタ年齢ニ於テギリシヤノ昔ノ武神ノ如キ働ヲ爲サネバナラヌノデアル」ト云ハレタ。吾ガ邦デハ先ヅ、聯隊長ガ此ノ同年輩デアツテ、大戦中ニ稍々重要ノ地位ヲ占メタ者ハ、其最年少者ト雖モ、夫レヨリ遙カニ年ガ多カツタ。今日ノ如ク將校ノ劃一ガ保タレ、從ツテ其各員ニ、最高ノ地位迄進ムベキ道ガ開放サレテアリ、進級ガ概シテ停年ニ依ツテ行ハル、間ハ、右ノ状態ハ到底改マル見込ガ無イ。高級者ノ多數ヲ退職サセレバ、上級將校ノ年齢ガ漸次若クナルガ、國家ノ財政上ノ顧慮ノ爲メニ、一定ノ制限ヲ受ケルカラ此ノ案モ或程度ヲ越エルコトガ出來ヌ。之レガ爲メ、世界大戦ノ際ニモ、高級ノ地位ハ、高貴ノ方ヲ除ケバ、皆高齢者ノミデアツタ。然シ滿六十歳ニ近キカ或ハ之ヲ越エタ者ハ、速ク理解ガ出來ナクナリ、思考モ元ホドノ力ヲ失ツテ了フモノデアアル。

總テノ命令ガ分リ易ク、且ツ其主要點ヲ容易ニ握ミ得ル如クナツテ居レバ、良ク右ノ事情ヲ顧慮セラルモノト云ヘル。

其一ツトシテ先ヅ第一ニ、運動(行軍、前進)及戰鬪ニ關スル區處ヲ、他ノ事項ヨリ引キ離スノデアアル。軍隊ハ輻重ニ就テモ、彈藥、糧食、病院等ノ位置位ハ承知シテ居ラネバナラヌカラ、勿論全然之ヲ除外スルコトハ出來ヌノデアアルガ、其位置ダケ示セバ、大概ハ間ニ合フ。此ノ點ニ就キ尙ホ必要ナル詳細ノ事項ハ、「作戰命令附屬ノ特別區處」ヲ以テ示ス。

時ニハ各部ニ共通シタ上述ノ形式ノ命令ヲ與ヘル餘裕ガ無ク而カモ狀況ガ切迫シテ、各部隊ガ自己ノ行フベキ事ヲ一刻モ早ク知ルヲ要スル場合ニハ、各個命令ヲ出ス。然カシ夫レニモ隣接部隊ノ取ルベキ行動ニツキテ、單簡ニ指示スベキデアアル。戰鬪間ニハ各個命令ヲ用フベキ場合ガ極メテ多イ。然シ行動ノ統一ヲ促進スル爲ニ、後カラ(各個命令ヲ出シタ場合ニハ何時モ行フ所デアアル)總テノ部隊ニ亘ル合同命令ヲ送ルベキデアアル。其他ニ就テハ戰鬪命令ニ就テハ守ルベキ型ナドハ一ツモ無イ。

「作戰命令附屬ノ特別區處」ハ多クハ其命令ヨリモ廣汎ナモノデアアル。夫レニハ、各一部分ノ爲ニ必要デアアルガ全般ニ知ラス必要ノ無イモノヲ悉ク收メテアル。從ツテ總テノ部隊ハ之ヲ一様ニ示スモノデハナク、其隊ノ爲ニ定メタコトノミヲ與ヘルノデアアル。依ツテ常ニ搜索、警戒、及軍隊ト司令部ノ連絡若シクハ軍隊相互間ノ連絡等ニ關スル、多數ノ事項ニ就キテ區處スル。空中防衛ニ就テモ考慮シ、次ニ荷物行李、糧食行李、並ニ彈藥段列ノ行動ヲ規定スル。又糧食ノ支給、彈藥補充、衛生及獸醫ノ勤務其他飛行機及自動車隊ノ燃料、器材並ニ修理等ニ關スルコトヲ指示スル。

「輻重縱列ノ爲メノ特別區處」其行動ノ細部ヲ定メルモノデアアル。此ノ縱列ハ數梯團ニ分チ、夫々

指揮官ヲ付ケル。然シ充實シタ縦列ノ前進ト空縦列ノ後退トヲ、絶エズ行ツテ居ル間ニ、其梯團ノ編合モ亦殆ンド日々變更スルカラ、夫レヲ一々命令スル。又梯團ノ編組外ニ在ツテ行動スル縦列ノ任務ヲ定メ、空縦列ノ補充ニ關スル區處等ヲモ爲ス。而シテ戦闘部隊ヲシテ此等ノ細事ヲ一々知ラス必要ガ無イノト同様ニ、縦列ニモ亦作戰命令ノ全文ヲ知ラス必要ハナイ。之レハ秘密漏洩ノ點カラモ考ヘ物デアアル。然シ、一輪卒ニ至ルマデモ必ズ戰線ノ狀況ヲ概略承知サセテ置カネバナラヌ。之レニ依ツテ其勤務ニ對スル熱心ト、責任感トヲ高メル。又縦列長ヤ梯團指揮官モ、何ヲ必要トスルカヲ知ツテ始メテ、其職域内ニ於テ、適當ノ處置ヲ爲シ得ルノデアル。故ニ「輻重縦列ニ對スル特別區處」モ其始ニ作戰命令中ノ重要事項ヲ單簡ニ示スモノデアアル。

「日々命令」(軍團日々命令、師團日々命令、聯隊日々命令等)ハ内務ニ關スル事項ヲ處理スル。

「司令部命令」ハ司令部ノ本部ニ於ケル内務ニ關スルモノデアアル。

命令ニハ總テ發令ノ日時ヲ記入シ、且ツ其下ニ宛名ト其傳達法ヲ記入スルコトガ大切デアアル。又地名ノ現ハシ方ニ意ヲ用ヒ、地圖ト一致セシメネバナラヌ。若シ數種ノ地圖ヲ使用サレアル場合ニハ、其内ノ何レニ據ツテ命令ヲ書イタカヲモ示スベキデアアル。發見ノ困難ナルモノ、又ハ多クアル地名、之ヲ避ケルカ、若シクハ説明ヲ加ヘ(例ハ甲ノ南、乙ノ北)ネバナラヌ。

戰爭ノ際ハ、本來ノ軍隊指揮ノ外ニ、何レノ職務ノ者モ、常ニ心ヲ勞スル幾多ノ錯雜シタ事柄ガアル

モノデアアルガ、指揮官タルモノハ、總テノ雜事ヲ措イテ、戰略及戰術上ノ事ヲ、絶エズ明確ニ頭ノ中ニ畫イテ置カネバナラヌ。司令部ヤ本部ヲ其重要ノ程度ニ應ジテ等級ヲ區分シテ置イテ、夫レニ所要ノ資料ヲ分配スルガ如キハ、良ク此ノ主旨ニ適フモノデアアル。

作戰命令ノ結構ハ、恰カモギリシヤノ塔ヲ見ルガ如ク、一見シテ直チニ分ルヤウニナツテ居ラネバナラヌ。此ノ如クシテ始メテ理解ノ明晰ト行動ノ確實トヲ期待シ得ル。

命令ヲ下スコトニ就テハ、世界大戰ニ於テハ、技術ノ力ニ依ルコトガ、從來ヨリモ遙カニ廣カツタ。夫レニ用ヒタ手段ハ普佛戰爭當時ノ人ナドガ到底夢想ダモシナカツタ所デアアル。

即チ飛行機ノ如キハ、離陸後十五分位デ既ニ戰線ヲ發見シ、其所カラ無線電信ニ依ツテ、自己ノ觀察ノ結果ヲ報告シタ。大無線電信局ニ依ツテ總司令部ガ中繼ノ局ヲ用ヒズニ、高加索ニ在ル獨逸軍隊モ指導シ得タ。又右線電信ニ依ツテ、互ニ二百乃至四百軒ヲ隔テタ指揮官ガ、恰カモ顔ヲ見合ツテ居ルヤウニ、意見ヲ通ジ合フコトガ出來タ。此レ等ノ事物ハ殊ニ今ト昔トノ相違ヲ語ルモノデアアル。

現今ノ將帥ハ假令世界大戰ノ如キ廣大ナル範圍ニ亘ル場合ト雖モ、尙ホ戰爭行爲ヲ通覽スルコトハ從來ヨリモ遙カニ容易デアアル。

然シ之ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ、有利ナリト判斷スベキデハナイ。即チ敵ノ弱點ノミナラズ、

其長所マデモ、從來ヨリ一層良ク知レル。之レガ爲メニ從來ナラバ、決行シタヤウナ計畫ヲモ、今ハ敢行セスト云フ弊ニ陥リ易イ。敵ノ實況ヲ十分ニ知ラネバコソ、思ヒ切ツタ命令ヲモ出シテ、時ニ大勝ヲ博シタコトモアルノデアアルガ、今日ノ如ク大抵ノ場合ニ、情況ガ見エ透イテ居テハ、恐ラクスカル命令ハ出ナイデアラウ。

尙一ツ考慮ヲ要スルコトガアル。時ノ古今ヲ問ハズ、指揮官タルモノガ、自己ノ決心ノ爲メ詳細ナル報告ヲ、過度ニ期待スルコトガ、抑々良シクナイノデアアル。其反對ナノモ勿論間違ツテ居ルガ然シ熟慮カラ斷行ニ移ルベキ機會ト云フモノハ、中々容易ニハ分ラヌモノデアアル。今日ノ如ク詳細ナ報告ガ澤山來ルト、却ツテ益々此ノ弊ヲ助長スル。裝備ノ整ツタ軍隊デハ、技術上ノ手段ヲ以テ情況ヲ隅カラ隅マデ知リ得ルカラ、指揮官ハ無意識ノ中ニ何時モ實行ニ移ル前ニハ、此ノ如ク詳細ナル狀況ヲ知ラネバナラヌモノト云フ考ヲ起シ易イ。然ルニ不意ノ霧トカ、飛行機ノ油槽ノ破裂ナドノヤウナ搜索ヲ阻害スル事情ガ屢々起ル。故ニ指揮官ハ必ず好機ヲ逸シマイト望ムナラバ、豫メ此ノ事ヲ良ク心得テ置クベキデアアル。

尙ホ一ツ、技術上ノ施設ノ完備ニ關連シテ起ル危險ガアル。之モ亦心理ノ領域ニ屬スルモノデアアル。今日ノ高級ノ指揮官ハ、非常ニ遠隔シタ兵團及戰場ニ在ツテモ、連絡ガ良ク取レルカラ、其一部ノ兵團ニ對シテ自己ノ意志ヲ告ゲ得ヌ場合ナドハ無イ筈ニナツテ居ルコトハ、確カニ一ツノ利益ニハ相違

ナイ。然シ此ノ事情ガ動々モスレバ、下級ノ指揮官ヲシテ誤ツタ考ヲ起サセ易イ。

之ニ就テハ、陣地戰中ニ、彼我ノ兩軍ニ於テ行ハレタ特別ノ現象ガ、良イ實例デアアル。今其一例ヲ紹介シヨウ。

此所ニ敵ノ陣地中ノ或地區内ニ如何ナル部隊ガ守備シテ居ルカヲ知ラントスル場合ニハ、必ず捕虜ヲ捕ヘル手段ニ出デ、夫ニ應ジテ斥候ノ強襲的企圖ヲ行フベキ命令ヲ與ヘラレル。然ルニ廣ク鐵條網ヲ張り渡シテアル散兵壕ニ向ツテ、唯ダ單純ニ突進シテモ、何等ノ効果ガ無イカラ、奇計ヲ用ヒル。即チ重砲、輕砲、迫撃砲及機關銃ノ猛火ヲ集注シ、次デ少數ノ勇敢ナ兵ヲ出シテ、始メテ目的ヲ達シ得ルノデアアル。ソコデ先ヅ數日間敵ヲ偵察シ、飛行機、空中寫真等ヲ補助トシテ歩哨、援隊及機關銃ノ位置、其他陣地ノ細部ニ就テ確メル。往々戰線ノ後方ニ攻撃スベキ敵ノ陣地ニ良ク似セタ、一堡壘ヲ作り、之ニ就テ突撃隊ヲ練習サセル（其際敵ノ探ルベキ對抗策ヲモ詳細ナル顧慮ヲ拂フ）。斯クシテ總テノ基礎ガ出來ルト、其企圖ヲ實行スベキ少（中）尉ガ命令ヲ作り、多クノ場合ニ、尙ホ豫定經過ノ説明ヲモ添ヘタ。此ニ於テ、軍司令官ニ至ルマデノ各上官ガ、此ノ命令ニ目ヲ通ホシテ、各自ノ意見ヤ修正案ヲ附シ、人間ノ智慧デハ、是レ以上ハ出來マイト云フマデニ練リ上ゲル。夫レデ最初ノ命令カラ、厚イ一冊ノ本ガ出來テ了ツタ。

右ノ處置ハ時ニハ至當ノコトデアリ、且ツ好成绩ヲ得タコトモアルデアラウガ、之ヲ本則トシテ適

用シタナラバ、國軍ノ自ラ進ンデ責任ヲ負フ所ノ、獨立的精神ヲ萎靡セシメ、爲メニ戰勝ニ最モ緊要ナル基礎ヲ失フコトニナル。

他ノ一面ニ於テハ「上官ガ自己ノ意志ヲ實現シ得ル手段ガアルノニ、十分ニ夫レヲ盡クサナイノハ、怠慢ノ責ヲ免レヌ」トノ非難ヲ受ケ易イ。

戰ニ失敗シタ場合ニハ、殊ニ多ク其様ナ非難ガ起ル。

ルーデンドルフガ總司令部ニ居ツタ(事實上ノ參謀長)時代ニハ、獨逸軍ノ統帥ハ每晚各軍ノ參謀長ト行ツタ電話ノ協議ニ重キヲ置イタ。將軍ハ重大ナル戰鬪ヲ交エツ、アル部分ノ戰線トハ間斷ナク意見ヲ交換シタ。然シ斯カル場合ニ將軍トノ交渉ニ當ツタ者ハ、一人トシテ、夫レガ爲メニ獨立ノ觀念ヲ傷ヅケラレタカンジ感ヲ持ツタ者ハ無カッタデアラウ。寧ロ將軍ハ獎勵援助ヲ與へ、過失ヤ怠慢ヲ認メタ場所ニ限り、其干涉ノ手ヲ下シタノデアアル。

即チ命令ヲ與ヘル機關ハ善惡ヨリモ其用ヒ方如何ガ大切ナノデアアル。

或場合ニハ、技術ノ進歩スルニ從ツテ、益々害ヲ及ボスコトニモナリ得ル。非常ナ動搖ヲ生ジ、全軍ノ混亂ヲ來タシタ場合ニ、夫レガ現ハレテ來ル。斯カル場合ニハ責任ノ無イ者ガ、無線電信ノ通信所ヤ電話ヲ使用シテ、不測ノ災厄ヲ惹起スルコトガアル。千九百十八年十一月ノ革命當時ニハ、之ニ就テノ恐ルベキ實例ガアリ、皇帝ノ退位ノ如キモ一片ノ電報交渉ニ依ツテ引キ起サレタノデアアル。

現狀ニ至ル距離ノ遠近ガ、戰況ノ判斷ニ影響スルモノデアアルカラ、此ノ距離ガ命令ニ及ボス影響ヲ、少シク述ベテ置キタイ。

何時デモ直接ノ印象ガ、一番強ク利クモノデ遠方ニ在ル危險ハ眼前ニ迫ツテ居ル危險ホドノ感カンジヲ與ヘヌノハ自然ノ理デアアル。故ニ戰爭デハ何人モ、自分ガ戰ツテ居ル所ガ、一番激シク、其所ノ戰況ガ最モ困難ダト思フ。其爲メニ一面ニ於テハ自己ニ對スルヨリモ他ノ隊ニ對シテ求ムル所ガ多クナル。是ハ隣接隊ガ果スベキ任務ヲバ良ク承知シテ居ルノニ、其任務遂行ヲ妨グル障礙ガ如何ニ大ナルカハ夫レホド迄ニ分ツテ居ナイカラデアアル。又他ノ一面カラ考ヘレバ場合ニ依ツテハ、危險ヤ困難ヲ直接ニ感ズル所デ考ヘタリ、處置ヲシタリセヌ方ガ良イト云フコトニナル。

遠隔シテ居ルホド、思ヒ切ツテ決心ガ出來ルト云フコトハ、經驗ノ教ヘル所デアアル。戰場カラ離レテ居レバ、何時モ靜カニ戰場全般ヲ見廻シ、現場ニ在ル者ガ、直接夫レニ當面スル爲ニ、重要ト思フテ、報告スル事ヲモ、容易ニ其眞價ヲ判斷シ得、又一方ニ起ツタ不利ヲ、他方ノ成功ニ依ツテ購フ手段ヲモ容易ニ案出スルコトガ出來ル。

就中統帥部ノ如キハ、各軍ノ戰場カラ相當ニ遠隔シテ位置スルコトガ、極メテ有益デアアル。統帥部ハ如何ナル事變ガ起ツテモ、其活動力ヲ失ナツテハナラス。又何時デモ麾下ノ司令官ガ決心ニ迷ツタ場合ニハ、夫レニ代ツテ自ラ責任ヲ負ヒ、全體ノ企圖ノ内カラ最モ緊要ナモノヲ選ブコトガ出來ネバナ

ラス。故ニ敵ノ近ク位置スル隊ニ毎日起ルガ如キ、警報、騷擾、不安等カラ隔絶シ、冷靜ナル雰囲気ノ内ニ居ルベキデアル。唯ダ極メテ重要ナル場合ニ限リ、稀ニ自ラ戦ノ現場ニ赴キ、其直接ノ影響ノ下ニ、區處ヲ爲スコトガ出來ル。然シ之ヲ屢々行フトキハ、全般ノ監督ガ行キ届カナクナリ、悲惨ノ光景ニ動カサレテ決心ガ鈍ブルコトニナル。

飛行機攻撃ニ對スル顧慮ダケデモ統帥部ガ直接戦争ノ生々シイ息ノカ、ル地域カラ、若干遠ザカルベキ十分ノ理由トナル。其冷靜ナル判斷ト、戰鬥ノ影響ヲ受クルコトノ多イ各軍團司令部ノ判斷トノ間ニ、自ラ程良ク平均ガ取レテ、夫レガ全般ノ利益トナルノデアル。各軍團司令部ノ至當ノ警戒心ハ、良ク災厄ヲ豫防スル効ガアルト同様ニ、最高司令部ノ大處ヨリ割り出シタ要求モ亦、其活動ニ對スル有効ナ刺戟トナル。

或ハ「卓拔、果敢ナル考案ハ全ク戦争ノ危険ヲ感ズルコトガナク、充分落チ着イテ熟考ト作業ノ出來ル内地ノ平役所ノ机上デ畫策スベキモノデ、總司令官ガ交戦軍ノ方ニ居ル必要ハ、全然無イ」ト主張スル者ガアルカモ知レヌ。前ニモ述べタ通り、現代ノ通信機關ハ、如何ナル遠隔ノ地ヲモ手ニ取ル如ク見セテ呉レルカラ、此ノ説モ一應尤ナ考デハアルガ、會戰ヲ内地ノ机上デ指揮スルコトハ、考ヘ物デアル。斯クスレバ、交戦軍隊トノ生キタ連繋ガナクナツテ、忽チ要求ト實行、目的ト手段トノ調和ガ失ハレルカラ、遂ニ失敗ヲ招クニ至ルコトハ必定デアル。十八世紀ニ於ケル維納宮中ノ軍事

會議ノ如キ統帥ノ仕方ハ、常ニ吾人ノ大ニ戒ムベキ所デアリ、又此ノ點ニ關スルガムベツタノ般鑑ヲモ、忘レテハナラス。ガムベツタハ軍隊カラ遠ク離レテ、ツールヤボルドーデフレシネート共ニ巧妙ナル作戰計畫ヲ立テ、之ヲ部下ノ將官等ノ許ニ送り、自己ハ夫レト電報デ連絡ヲ取ツテ居タノミデアツタ。然シ此計畫ハ跡方モナク支離滅裂ニ歸シテ了ツタ。蓋シ新設ノ共和政府軍ノ能力ヲ適切ニ判斷シ、夫レヲ基トシテ立案スルコトヲ怠タツタ爲メデアル。

即チ總司令部ハ戰場カラ若干ノ距離ヲ隔テ、位置スル必要ハアルガ、又何時^{ナンドキ}デモ軍隊ノ脈ヲ取ルコトガ出來、其内部ノ興奮ヲ相當ニ感取スルヲ得。一時的ノ印象ノ爲メニ、過度ニ心ヲ痛メズ、而カモ現在如何ナル程度マデヲ要求シ得ルカヲ適切ニ判斷シ得ナケレバナラス。

自動車ハ此ノ要求ヲ滿タスニ最モ適スル。之ニ依ツテ迅速ニ戰鬥ノ焦點ニ赴キ、其所デ自ラ視察シ、且ツ其晩ニハ、再ビ本部ニ歸ツテ仕事ニ就ク事ガ出來ル。自動車デ間ニ合ハヌ所ニハ鐵道若シクハ飛行機ヲ用ヒル。

首將及其顧問役ガ、戦線ニ行ツテ、軍カラ日常ノ戰鬥ノ急迫ヲ親シク見聞スルコトハ何レノ場合ニ於テモ有益デアル。夫レニ依ツテ、過當ノ要求ヲ豫防シ得ル。又遠方カラハ甚ダシク危虞サレタ障礙ニモ、親シク真相ヲ究ムルニ至ツテ、其心配ガ雲散スル場合モアル。

大ナル作戰ヲ指導スル場合ニ似タ關係ガ會戰ノ場合ニ於テモ亦現ハレル。高級ノ指揮官ガ、其戰鬥

線ニ餘リ接近スルコトヲ戒ムルノハ至極尤モノコトデアアル。適度ニ危険ヲ避ケルコトヲモ考慮ノ内ニ置クベキデアアル。

クラウゼウイツツハ大戦學理ノ第二卷ニ、戦闘ノ焦點ニ圍ム種々ノ地帯ノ特色ニ就イテ、有益ナ説明ヲ試ミテアル。即チ、

「今、戦争ノ經驗ナキ若武者ヲ戰場ニ案内スルモノト假定スル。戰場ニ近ヅクニ從ツテ砲聲ガ漸次判然ト聞エ終ニハ砲彈ガウナリテ飛ブノガ耳ニ入り、同行ノ若武者ノ注意ヲ引ク。ヤガテ砲彈ガ前後ニ落下スル。トアル高地ニ上ルト、其所ニハ軍司令官ガ多數ノ士卒ヲ隨ヘテ陣取ツテ居ル。此所ニハ近ク彈丸ガ落下シ、破片ガ頻リニ飛ビ來リ、生死ノ問題ガ若武者ノ腦裡ニ去來スル。突然知人ノ一人ガ斃レル——榴彈ガ一發群集ノ中ニ落ちて覺エズ身ヲ避ケル。一同皆最早安閑トシテ集マツテ居ルベキ場合デナイトノ考ヲ起ス。元氣ナ者モ多少離レ、ニナツテ陣取ル。

更ニ歩ヲ進メテ、演劇ノ如ク眼前ニ展開スル戰場ニ踏ミ入レテ、間近ノ師團長ノ許ニ行ク。此所ニハ彈丸ガ相次デ落下シ、味方ノ砲聲ガ一層噪カマシサヲ増ス。更ニ進ンデ旅團長ノ所ヘ行ク。全軍ニ勇名ヲ轟カシタ將官デアアル。旅團長ハ用心深ク家ノ後ニ控ヘテ居ル。確カニ危険ガ増シタニ相違ナイ。彈子ハ屋根ヤ畑ノ上ニ雨霰ト降り、砲彈ハウナリヲ生ジテ縦横ニ飛ブ。時々小銃彈モ飛ンデ來ル。

尙ホ進ンデ部隊ノ位置マデ行ク。之レハ數時間モ前カラ、死力ヲ盡シテ頑強ナ抵抗ヲ續ケテ居ル歩兵デアアル。此所ニハ小銃彈ガ雨ノ如ク注ガレ、夫レガ短カイ鋭イ音ヲ立テ、身邊ヲ掠メテ飛ブ。無數ノ死傷者ニ注グ同情ノ心ガ、波立ツ胸ニ込ミ上ゲテ來ル。」

此ノ描寫ハ今日ト雖モ尙ホ良ク實況ヲ現ハシテ居ル。唯ダ火器ノ射程ガ増大シタ爲メニ、各地帶ガ著シク擴大サレタノデアアル。從來ハ何時ノ戦争デモ、「今コソ全然生命ノ危険ハ無い」ト安心スル時期ハ必ズ在ツタモノデアアルガ今日ノ飛行機ノ爆彈投下ノ爲メ、此ノ時期サヘモ全ク奪ハレテ了ツタ。今度ノ戦争デハ内地ノ住民デサヘ、或程度マデハ不安心ヲ感ジタ。戦闘ノ與ヘル印象モ亦、從來ヨリモ遙カニ強イ。飛行機ノ投下スル重爆彈及、最大重砲ノ爆裂榴彈ナドノ威力ハ、今迄ノ何レノ彈丸ヨリモ遙カニ多クノ破壊力ヲ現ハシ、且ツ、神經ヲ刺戟スル。普佛戦争ノ時ノ最モ濃密ナ彈雨ト雖モ、今日ノ機關銃ノ束縛ニ比較スレバ、殆ンド兒戲ニ等シイモノデアアル。何レノ指揮官ト雖モ、高地ノ上ナドニハ居ラレヌ、歩兵ノ射程内ニ於テ馬上ニ居ル者ハ一人モ無い。高地上ノ幕僚ガ馬デ乘リ廻ハス光景ナドハ、間違ツタ演習ノ繪ニ過ギヌ。彼ノ日露戦争以來世ニ知ラレタ「戰場ノ空虚」ハ、クラウゼウイツツガ、巧ニ書キ現ハシタ戰場トハ頗ル趣ヲ異ニスル。然シ之レガ爲ニ戦闘ノ恐怖ガ減ジタノデハ無く、却ツテ増大シタノデアアル。

ソコデ前述ノ如ク此ノ戰場ニ立ツテ眞ニ泰然自若トシテ、何等ノ印象ヲ留メヌ者ハ、極メテ少數

ノ人ニ限ルノデアアル。クラウゼウイツツモ、氏ノ説明シタ各地帯ニ入ル毎ニ、若武者ガ如何ニ其思考ノ力ガ外界ノ爲メニ亂サレルカ、又冥想的思索ノ場合トハ如何ニ趣ヲ異ニスルカヲ感得シテ居ルコトヲ説イテ居ル。危険ノ感ハ回ヲ重ネルニ從ツテ漸次弱クハナルガ、然シ百戰ノ將卒ト雖モ、通常多少ノ印象ヲ與ヘラレル。ソコデ深ク戰鬪ノ渦中ニ入込ムニ從ツテ其脈搏ハ早クナリ、其心ハ益々忙シク飛ビ廻ハリ而カモ不鮮明ニナリ、自己ノ一身ト、自己ノ目前ニ迫レル死トニ就テノ考念ノ爲メニ、其思考ガ中斷サレルコトガ益々甚ダシクナル。人間ハ自己ノ死ホド大ナル物的損失ハナク、從ツテ生命ノ維持ニ就テ非常ニ敏感ナモノデアアル。

指揮官ハ思慮ト理智ノ働トヲ要スルコト大ナルニ從ツテ生命ノ危険カラ益々遠ク隔絶シテ居ルベキデアアル。眼界ノ大ハ多クハ前線ヨリ遠隔セル場所ニ於テノミ求メ得ルモノデアアル。指揮官ガ後方ニ在ルコトヲ不可ナリトシテ、其眼界ヲ大ニスルコトヲ怠ルガ如キハ、誤ツタ名譽慾、血氣ノ小勇ト云フベキデアラウ。首將ガ自ラ生命ヲ輕ジテ部下ノ志氣ヲ鼓舞シ得ルノ程度ハ、下級將校ノ場合ト餘リ變ラヌコトガアル。之ニ反シテ其決心ヲ定ムルニ當ツテノ明透ト、沈思熟慮トニ依ツテ部下ノ爲ニ盡クシ得ル所ハ、更ニ幾百倍スルモノガアルデアラウ。

此ノ點ガ高級指揮ノ適切ナル位置ノ選定ヲ聲援スル有力ナル理由デアアルガ、其位置ノ變換ガ餘リ容易デナイコトモ亦或ハ理由ノ一二數ヘ得ルデアラウ。軍司令部ナドニハ、人馬ヤ車輛ノ多數ガ集マツ

テ居リ、普通ノ宿舍ノ外ニ、多數ノ事務室ヲモ必要トスルカラ、容易ニ適當ナ住民地ヲ何時デモ得ラレルト云フ譯ニ行カス。其上ニ軍司令部ニハ電信及電話ノ線ガ設ケラレ、夫レガ軍ノ凡ラユル部分及隣接軍ヲ始メトシ集團軍若シクハ總司令部ニモ通ジテ居ル。此ノ設備ヲ撤去シテ新ニ架設スルニハ、多大ノ時間ト勞力ト材料ヲ要スル。之ヲ行フハ是非共必要ナ場合ニ限ル。此ノ理由カラ、軍司令部ハ運動戰ニ於ケル數日間、同一地點ニ止マリ、躍進的ニ軍ノ後ヲ追フ。司令部ノ位置變更ハ次ノ豫定地ニ所要ノ導線ヲ架設シテカラ、實行スル。之ハ其指揮ニ技術上ノ手段ヲ必要トスル所ノ、總テノ司令部(本部)ニ適用サル、原則デアアル。

此ノ注意ヲ缺クトキハ、重要ナル戰鬪間ノ司令部(本部)ノ位置ノ變換ハ、重大ナ結果ヲ示スデアラウ。即チ報告ハ其行先ニ迷ヒ、又直接ニ報告ヲ爲サントスル部下ハ、或ハ司令部ヲ發見シ得ズ或ハ其時機ヲ逸シテ了ヒ、尙ホ命令ヲ希望ノ如ク迅速且ツ確實ニ實施者ノ許ニ達スルコトモ出來ヌデアラウ。

高等司令部ガ容易ニ移動シ得スト云フコトハ、確カニ不利デアアル。然シ司令官ガ作戰部ノ將校(參謀長ヲ除ク)ノ中カラ、所要ノ人員ヲ取ツテ、小サナ幕僚ヲ作り、夫レニ補助官等ヲ附ケテ、司令部ノ戰鬪梯團トモ云フベキモノト爲セバ、右ノ缺點ヲ救フコトガ出來ル。即チ司令官ハ何時デモ、自己ノ赴クヲ必要ト考ヘル場合ニ、自動車又ハ飛行機ニ乗ツテ行クコトガ出來ルノデアアル。

若シ獨逸ノ最高統帥部ガ千九百十四年九月初ニ、此ノ如キ戰鬪梯隊ヲ以テ大事ナ翼ノ後方ニ居タナラバ、ルクセンブルヒナドニ居テ、作戰ノ經過ヲ左右シ得タヨリモ、遙カニ有効ナ働ヲ爲シタデアラウ。

陣地戰デハ、軍司令部ガ一乃至數個ノ觀測所ヲ前方ニ出シ、其所デ麾下ノ軍團ト何時デモ容易ニ電話及無線電信ヲ以テ通信シ得ル如キ設備ヲ施スノガ有利デアラウ。

軍以下ノモノ司令部(本部)デハ位置選定ノ着眼點ガ、變ツテ來ル。軍團長ハ軍司令官ニ似タル地點ニ立ツトキ即チ軍團ガ孤立シテ戰鬪スル場合ニ限り、軍司令官ノ如ク動作スル。之ニ反シテ軍ノ一部トシテ會戰ニ加ハルトキハ、一層敏活ニ戰鬪ノ指揮ヲ行フヲ要シ、從ツテ又一層詳密ニ狀況ヲ觀察スル必要モ起ルコトガアル。ソコデ戰場ニ近ク位置スベキコトニナル。

中級及下級ノ指揮官ハ、戰鬪及危險ニ近ク位置スベキ必要ノ方ガ高マツテ來ル。全般ノ狀況ヲ通覽スベキ要求ハ減ジ、刻々ノ動機ニ應ジテ迅速果敢ナル動作ヲ爲スベキ必要ガ、増進スル。此ノ場合ニハ印象ノ直接ト云フコトガ、行爲ノ大切ナ源泉トモナルノデアアル。

師團長ニ就テハ、我が戰鬪教令ニモ、常ニ自己ノ軍隊ノ中ニ居ルベキコトヲ示シテアル。前進間ニハ前衛ノ所ニ居リ、師團ガ數縱隊トナツテ前進スル時ニハ、主力ノ存スル所ニ居ル。敵ト衝突セル場合ニハ、自ラ觀察シテ前衛ニ其處置ノ方針ヲ示ス。戰鬪遂行ノ爲ニハ、戰鬪間其司令部ヲ置クベキ場

所ニ移ル。其場所ハ成ルベク近イノガ良イノデアアルガ、然シ通信ノ機關ガ敵ノ有効ナ射撃ヲ免レ得ル程度ニ止メネバナラス。其所カラ十分ノ展望ガ出來ヌ場合ニハ、良ク展望ノ出來ル地點ニ觀測將校ヲ出シ(此ノ地點ハ前方ノミニ限ラズ、時ニハ側方ヤ後方ニ選定スルコトモアル)、其所カラ電話ヲ報告サセル。

戰鬪間ノ師團司令部ノ位置ニハ、指揮ニ關係ナキ者ハ一切近ヅケテハナラス。

蝸牛式眼鏡ヲ高地ノ稜(線後)、其上カラモ直接ニ展望スルコトノ出來ル程度ノ所)ニ設置スル。高地上ニハ何人ト雖モ身體ヲ出スコトヲ許サヌ。眼鏡ノ使用ニ慣レタ將校ガ絶エズ觀察ヲ繼續スル。其間ニハ師團長自身モ、眼鏡カラ前方ヲ觀察スル。師團長ノ傍ニハ二人ノ參謀ガ居ル。其間近ニハ、側方ノ急斜面ニ密接シテ、孔ノ中ニ電話ノ通信所ガ設ケラレ、部下ノ各本部及軍團司令部ト連絡ヲ取ツテ居ル。其側ニ小形ノ無線電信機ガ据エテアル。一、二ノ傳令將校、命令受領者及隣接師團ノ通報將校ガ、一般ノ經過ヲ知り得ル程度ノ距離ニ控ヘテ居リ、又何時デモ通信設備ニ故障ガ起ツタ場合ニハ、迅速ナ騎行デ其間ヲ補足スルノ用意ヲモ備ヘテアル。師團長ノ間近ニ、砲兵隊長ガ自己ノ本部ト共ニ、設備ヲ整ヘテ居テ絶エズ師團長ト相談スル。師團長ハ工兵隊長及軍醫部長ト相談スルコトハ少ナイガ、然シ此ノ兩者ハ自己ノ監督下ニアル部隊等ノ使用法ニ就キ、何時デモ意見ヲ上申スル考ヲ持ツテ居ルベキデアアル。故ニ此ノ兩者ハ、他ノ戰鬪指揮ヲ妨害セヌ

コトニ意ヲ用ヒナガラ、自ラ觀察シ、又狀況ヲ聞イテ居テ、絶エズ戦闘ノ經過ヲ明ラカニシテ居ラネバナラス。戦闘指揮ハ靜カニ行ハレ、他ノ仕事ノ爲ニ妨害ヲ受ケヌヤウニ注意スベキデアル。故ニ司令部ノ殘餘ノ者ハ馬及車輛ト共ニ副官ノ指揮ノ下ニ、本部ヨリ離シテ置ク。

飛行機ニ對スル遮蔽ニハ特別ノ顧慮ヲ要スル。爲シ得レバ、樹木ノ下カ家屋ノ蔭ニ位置シ、且ツ敵機ノ接近セル際ハ、總テ目立ツヤウナ動作ヲ避ケル。

師團長ヨリ下ノ指揮官ハ其隊ニ對シテ自ラ干與スベキ必要ガ高マツテ來ル。同一地區内ニ戦闘スル歩兵及砲兵ノ指揮官ノ位置ヲ成ルベク合一シ、以テ此ノ主要兵種間ノ相互ノ援助ヲ容易ニスベキデアル。

追撃ノ際ハ、總テノ指揮官ガ遙カニ前方ニ位置スル。退却ノ際ハ高級ノ指揮官ダケガ砲兵隊長ヲ伴フテ、新ニ抵抗ヲ試ムベキ場所ノ方ニ行キ、下級指揮官ハ部下ト行動ヲ共ニスル。

第三章 戦争成功ノ條件

若シ戦争成功ノ條件ヲ盡ク列撃シ得レバ、統帥上ニ利スル所ガ少クナイデアラウ。然シ其數ガ多ク、到底枚擧ニ違ナイホドデアルカラ、遺憾ナガラ、此所ニハ主要ナルモノニ、三ヲ紹介スルニ止メル。

先ヅ第一ニ指ヲ屈スベキモノハ、通常ハ、軍人ニ同情ヲ持タヌ所ノ政策デアル。

フリユツヘル將軍ハ維納會議ノ當時ニ書ヲ寄セテ「卿等ハ實ニ相手ヲ見ルノ明ガ無イ。維納會議ハ丁度銘々ニ馬ヲ牽キテ來テ賣ツタリ交換シタリスル田舎ノ馬市ノ如キモノデアル。我が伯林市民ハ吾吾ハ立派ナ馬ヲ持チ出シテ、瘦馬ト交換シテ來タト云フテ居ル」ト述べタ。老將軍ハ此ノ政治家ノ處置ニ齎慨シテ、其職ヲ去ラウト迄シタノデアアルガ、將軍ノ怒モ、政策ガ戦争ノ凡ラユル事件ニ及ボス所ノ大勢力ニ對シテハ、如何トモ致シ方ガ無カツタノデアアル。

戦争ハ武器ヲ手ニシテ政策ヲ繼承シ、續行スルニ外ナラスモノデアアル。從ツテ其政策ガ、作戰ノ方法ニモ影響ヲ及ボスコトニナルノデアアル。若シ此ノ影響ヲ非難スルナラバ、寧ロ其政策其物ヲ攻撃スルガ良イ、不良ノ政策ハ復タ、當然不良ノ影響ヲ作戰ノ上ニ及ボスノデアアル。

勿論政策ヲ狭義ニ解シ、所謂「外交政略」トノミ考ヘテハナラス。内治政策モ亦等シク重要デアツテ

政策ナル語ハ之ヲ廣義ニ解スベキデアル。

國家ノ全般ノ態度、氣概、意見、有形及無形ノ勢力等ハ、政策ト關係ヲ持チ、作戰ハ復タ此レ等ノ状態ト關係ヲ持ツ。

クラウゼウイツツハ次ノ如キ意見ヲ述ベテ居ル。

『佛蘭西革命ハ國家及統治ノ組織、政府ノ性質、國民ノ状態等ニ至大ノ影響ヲ及ボシタガ、佛國ノ作戰ノ手段及方針ニハ夫レホドマデノ影響ヲ及ボシテ居ラス。他ノ諸國ガ、總テ此レ等ノ事柄ヲ悉ク不正ナリト判斷シタルコト、又新興ノ強大ナル勢力ニ對シテ、尋常ノ手段ヲ以テ拮抗セントシタルコトハ、總テ皆政策ノ誤デアツタ。』

普魯西ガ千八百五年ニ、多クノ有力ナ同盟諸國ノ後援ヲ得テ、武装ノ完全ナル大軍ヲ提ゲ、決定的發言權ヲ求ムルコトヲ敢テシナカッタノモ、亦政策ノ誤デアツタ。其軍備ニハ尙ホ若干ノ缺陷ハ在ツタガ、當時ノ一般的情勢ハ頗ル有利デアツテ、其武力ヲ適切ニ使用スレバ、確カニ成功ヲ收メ得タノデアル。普國ノ誤ツタ政策ハ、此ノ利益ヲ利用シナカッタノミデナク、直ニ其惡影響ヲ招クニ至ツタ。即チ當時普國軍隊ノ優秀ニシテ思慮アル將校ハ、今度コソ長イ間ノ動搖ヲ鎮メ、普國ヲシテ世界ノ舞臺ニ活躍シ得サセルデアラウト考ヘタ。從ツテ其期待ニ反シテ何等得ル所ナキヲ見テ、甚ダシク失望シ、今迄ニナイホドノ打擊ヲ受ケ、自棄、羞恥、落膽ノ情ガ、多クノ人々ノ心ヲ滿スニ至ツタ。ソコ

デ此ノ次ニハ是非名譽恢復ノ爲ニ戰ヒタイト云フ考ガ軍隊ノ間ニ起ツテ來タ。好機ヲ逸シタト云フ觀念ガ、普國ノ主戰派ノ不滿ヲ高メ、夫レガ終ニ勃發シテ千八百六年ノ禍ヲ起スニ至ツタ。

之ニ似タ事情ガ、千八百七十年ノ佛國ニ起ツタ。千八百六十六年ニ佛國ヲシテ、復タ歐羅巴全體ニ對スル霸權ヲ掌握シ得ル絶好ノ機會ヲ失ハシメタト云フ考ガ、國民的名譽心ヲ激發シ、那翁三世ハ千八百六十七年ニ之レガ慰撫ヲ試ミテ失敗シタ後、遂ニ自己ニ不利ナル時ニ於テ決戰ヲ行フノ止ムヲ得ザルニ立チ至ツタノデアル。

第三番目ノ苦^{ニガ}イ實例ガ、ウイ^{ニガ}ルヘルムニ世治下ノ獨逸帝國ニ起ツタ。千九百十四年八月ニ、獨逸ヲシテ固ク相結ベル極メテ優勢ナ諸強國ト、相對抗スルニ至ラシメタノハ、主トシテ外交政略ノ失敗デアツタ。而シテ此ノ如キ形勢ニ於テ、奧國ノ冒險的政策ニ引キ込マレ、且ツ過去四十年間ニ平和主義ヲ示シタルニ拘ハラズ、世界ヲシテ平和ノ破壞者ノ如ク思ハセルニ至ツタノモ、總テ皆對外政策ノ失敗カラ來テ居ル。

誤レル内治政策ノ結果モ亦、之ニ劣ラヌ影響ヲ及ボシタ。其原^{モト}ハ、獨逸ガ最大危機ニ際シテ、生命及自由ニ對スル自己ノ權利ノ爲ニ、國民ノ全能力ヲ、思ヒ切ツテ投ゲ込マナカッタ點ニ存スル。非國家主義ヲ奉ズル一部ノ國民ガ、益々勢力ヲ占メ終ニ「ホーヘンツォルレルン」家ノ皇位ヲ覆スニ至ツタ事實モ亦、主トシテ内治政策ノ失敗カラ來テ居ル。

外ニ對シテモ亦自國ノ民ニ對シテモ軟弱デ、唯徒ラニ大言壯語ヲ以テ一時ヲ糊塗スルノガ我が國ノ重大ナル病弊デアツタ。然シ平和ノ渴望ト柔弱ヲ以テシテハ、到底武力主義ノ諸外國ノ眞只中ニ、一國ノ存立ヲ維持シ得ルモノデナイ。當時ノ獨逸帝國ハ、實ニ累卵ノ危キニ置カレテアツタノデ、克ク自ラ救フノ道ハ、唯ダ時ヲ逸セズニ劍ヲ拔クノ外ナカッタノデアアル。

所謂「新政策」ナルモノノ根本的錯誤ハ、所謂舊時代ノ宰相モ尙ホ之ヲ能クセル所ノ、獨逸帝國ノ恒久的勢力ノ維持ト云フコトヲ併セ考ヘズシテ、徒ラニ世界政策ヲ追フタ點ニ存スル。此ノ勢力ノ維持ハ、普佛戰爭ニ於テ完全ニ立證シタ通り、佛國ニ對スル軍事的優越ニ俟ツベキモノデアツタ。若シ之ニ破綻ヲ生ジタナラバ、帝國ノ安全ヲ害スルノミナラズ、世界貿易及世界政策ノ大事業ヲ成就スベキ見込モ、全然失ハレテ了フノデアツタ。故ニセダンノ戰ニ於テ收メ得タ成果ハ、如何ナル犠牲ヲ拂フトモ、絶エズ之ヲ保護スベキデアツタ。此ノ目的ハ他ノ凡ラユルモノヲ差シ置イテ、之ヲ第一義トスベキデアツタ。然ルニ獨逸ハ、佛國ガ飽クマデ獨逸ヲ敵視スル態度ヲ繼續シツ、再ビ第一流ノ陸軍國トナルノヲ平然トシテ傍觀シ、尙ホ益々熱心ニ新シイ世界政策ヲ追求シタ。之レガ爲メ、歲月ヲ經ルニ從ツテ、ビスマークノ偉業モ、遂ニ失墮セントスル危險ナ情勢ヲ來スニ至ツタ。即チ佛國ハ同盟國ヲ得タ。其復讐心ハ、獨逸ノ世界市場ニ於ケル成功及國際政局ニ於ケル勢力ノ増進ニ對シテ不安ヲ感ズル諸外國ノ嫉妬心ト相交フコトニナツタ。獨逸ハ自己ノ計畫ノ爲ニ、一ツノ強國ノ後援ヲ得タナ

ラバ、將ニ起ラントスル暴風ヲモ、恐ラクハ鎮メルコトガ出來タデアラウ。即チ露國ニ對抗シテ英國ト結ビ、以テ伯林——バグダット鐵道ノ標語ニ依ツテ代表サレタル近東政策ヲ遂行スルカ、然ラザレバ英國ニ對抗シテ露國ト結ンデ、艦隊ノ建設及植民地政策ヲ實行スルコトガ出來タノデアアルガ、然シ佛國ガ側面ニ攻撃ノ機ヲ覘ツテ居ルノニ、英國及露國ヲ敵トスルコトヲモ顧ミズニ、同時ニ二ツノ目的ニ向ツテ進ムコトハ當分力ガ及バナカッタノデアアル。何レノ國ト結ブコトヲモ、故ラニ斥ケ又佛國ニ對シテ何等ノ處置ニ出スト云フ「自國政策」ハ、實ニ獨逸ノ墓穴デアツタ。

普國ハ千八百六年ニ、從來ノ戰ニハ十分間ニ合ツタ普通ノ軍備ヲ携ケテ、國家ノ安危ニ關スル戰ニ臨ンダ。而カモ一般國民ハ冷靜ナ態度デ傍觀シ、敵愾心ヲ起サナカッタ。當時ノ國軍ハ、差當リ獨逸ニ集メタ那翁ノ野戰軍ヲ支ヘ得タノデアラウガ、解放サレタ佛蘭西國民ノ力ヲ以テスル攻撃ニハ、到底堪ヘ得ナカッタ。佛國ノ政策ハ、良ク同國ヲシテ異常ノ手段ヲ取ルコトヲ得サセ、且ツ夫ニ依ツテ、從來知ラレナカッタ作戰上ノ能力ヲ發揮セシムルニ至ツタ。之ニ就テ普國ハ、（既ニ那翁ノ壞國ニ對スル數次ノ外征ニ就テ、警示ヲ受ケテ居タノデアアル）豫メ覺悟ヲ爲シ、且ツ絶エズ兵ヲ召集スベキデアツタ。然シ之レニ至ラシムルニハ、普國モ亦政策ニ依ツテ、開戰ノ餘程以前カラ、國民ヲシテ斯カル奉公ヲ爲スコトヲ當然ノ事ト思ハセルヤウナ状態ニ置クベキデアツタト思フ。

千九百十四年以前ノ状態モ亦、之ニ似テ居タ。此ノ時ニモ亦獨逸國民ヲシテ、形勢ノ極度ニ重大ナルコトヲ知ラシメルノヲ怠ツタ。既ニ大ニ時期ヲ先シ、且ツ不十分デアツタ所ノ千九百十三年ノ國防令案ガ、隣邦ノ不斷ノ武装ニ對シテ、獨逸政府ノ必要ト認メテ採ツタ處置ノ總テデアツタ。實際ニ危險ヲ知ラナカッタノカ、サモナクバ、正シイ認識カラ所要ノ斷定ヲ導キ出スコトヲ恐レタノカ、何ニシテモ、獨逸國民ヲシテ近代ニ於ケル最モ困難ナ時ニ於テ、精神的ニモ將タ又物質的ニモ準備ガ不十分デアツタ事ハ、其政策ノ罪ニ歸セネバナラヌ。

前述ノ如ク政策ガ現今ニ於テモ、從來ト同様ニ廣イ影響ヲ作戰ニ及ボスノデハアルガ、其事情ハ一層單純デアアル。クラウゼウイツツガ政策ト作戰ノ相互ノ關係ヲ説明スルニ當リテハ、同盟戰爭或ハ奧國ノ皇位繼承問題ノ戰爭ノ如キ同盟各國ガ、互ニ一定ノ兵力ヲ以テ相援助スル約束デアツタ時代ノ戰爭ニ就テ取扱ツタノデアアル。然シ此ノ如ク、自國ノ兵力ノ一部分ノミヲ敵ニ送り且ツ政略本位デア參戰スルコトハ、今日ニ於テハ避クベキデアアル。第一此ノ如キ情勢ガ今日ノ歐羅巴ニ起ル筈ガナイ。現ニ千九百十四年ニ奧匈國ハ、其國軍ノ一部ヲ以テ、セルビアヲ撃チ破ラウトシテ失敗シタ。是ハ直チニ露國ガ土儀ノ上ニ現ハレ、從ツテ他ノ諸強國ガ、戰爭ニ引キ込マレタカラデアアル。今後モ亦之レニ似タ事ガ繰リ返ヘサレルノデアラウ。今日ノ歐羅巴ハ人間ガ一杯トナツテ居ルカラ、其各民族ノ生存上ノ利害ハ、互ニ交錯關連シテ居テ、世界ノ何レノ隅ニ戰爭ガ起ツテモ、各國ガ皆多少共必ず夫レニ引

キ込マレルヤウニナツテ居ル。縱令小國ノミガ參加シタ場合ニモ、忽チニシテ一ツノ強國ガ夫レニ加擔シ、ソコデ又他ノ一強國ガ之ニ對抗シテ參加スルコトニナル。一度強國ガ參加シタ以上ハ、最近ノ經驗ガ教ヘル如ク、常ニ最初カラ組織シアル軍備ノ全部ヲ擧ゲテ、決戰ニ用ヒルデアラウ。昔カラ良ク例ガアリ、又嘲弄ノ種トモナツタ各國聯合ノ戰爭ノ微温キ戰ヒ振リナドハ、世界大戰ニハ少シモ見ラレナカッタ。現代ノ戰爭ノ性質ハ、之ニ參加シタ總テノ國ニ向ツテ、勝ツカ亡ビルカト云フ死活ノ問題ヲ提供スルノデアアル。苟モ滅亡ヲ欲セザル國ハ、自己ノ有スル力ヲ、餘ス所ナク傾ケ盡サネバナラス。此ノ如キ事情デアルカラ、今日ニ於テハ重大ナ政治上ノ利害以外ニハ戰爭ガ起ラヌコトハ自ラ明ラカデアアル。勿論此ノ重大ナ政治的利害ナルモノモ、中ニハ妙ナ着物ヲ纏ツテ居ルノモアツテ、兩國民ノ國交斷絶ガ、外見上ハツマラヌ事カラ起ルノヲ見受ケル。現ニ鴨綠江岸ノ森林伐採權擴張ノ爭ガ、千九百十四年ノ日本ノ露國攻撃ノ口實トナツタ。又從來ノ戰史ノ中ニモ之ニ似タ輕イ事柄ノ爲ニ各國民ガ運命ヲ賭シテ互ニ相戰ツタ多數ノ實例ガアル。セラエウオニ於ケル奧國皇嗣ノ惡ムベキ暗殺ト雖モ、夫レガ爲ニ、百萬ノ人ヲ殺サネバナラヌホドノ原因デハナイ。總テ此レ等ノ場合ノ外面的ノ動機ハ、長イ間ノ軋轢カラ起ツタ政治上ノ不和ニ對スル、口實ニ過ギヌノデアアル。

以上ノ説明ニ依ツテ、隣接スル國民間ノ戰爭ハ、必ず不和、敵視ヨリ起ルト云フ根本ノ事情ニ、或程度マデ觀察ヲ進メ得タ。只ダ今日ノ戰爭ガ昔ト相違スル所ハ、其不和、敵視ガ、自然的衝動、慾望

カラ起シノデハナク、思想上ノ利害（國ノ勢力及體面ガ殊ニ重キヲ爲シテ居ル）カラ起ル點ニアル。而シテ國ノ勢力及體面ト云フコトガ、政策ノ起動原因トナツテ居ル。

政策第一ト云フ那翁ノ金言ハ、今日ト雖モ動カスコトガ出來ヌ。獨逸デ大戰後ニ、經濟第一ト云フコトニ其方針ヲ改ムベキダト信ジタノハ、大ナル誤謬デアツタ。經濟上ノ顧慮ハ大ニ政策ヲ左右シ得ルモノデハアルガ、夫レヲ政策ヨリモ上ニ置クノハ、間違ツテ居ル。開戦前ノ十餘年間ノ獨逸ノ情勢ハ、經濟上ノ損失ヲ覺悟シテ、政策ニ都合ノ良イヤウニシテ行ツタ方ガ（其相手ガ英國タルト露國タルトヲ問ハズ）有利デアツタラウト思フ。然ルニ獨逸ハ速カニ國富ヲ増進スル方ガ一層重要ノ事ト考ヘテ、經濟上ノ問題デ、英露ノ兩國ト争ツタカラ、却ツテ今日ノ如ク自己ノ勤勞ノ成果ヲ皆諸國ノ爲メニ收穫サルルヤウナハ、メニナツテ了ツタノデアアル。白耳義ハ政治上ノ利害カラ、千九百十四年ニ於テ英佛側ニ加擔シタノデアツテ、經濟上カラ云ヘバ、是非獨逸側ニ加ハルベキデアツタ。蓋シ獨逸ガ若シ、其主要地域ノ產物ヲ、アントワープノ港カラ出サナクナレバ、其埠頭ニハ忽チ草ガ生エルデアラウ。戦後ニ於ケル佛國ノ處置モ亦、政治上ノ要求ガ重キヲ爲スコトノ確カナ證據デアアル。其歲入ノ關係カラ云ヘバ、獨逸カラ多額ノ賠償金ヲ得ルコトガ、絶對ニ必要ノ如クニ思ハレ、夫レヲ實行スルニハ、獨逸ノ經濟的復興ヲ必要トスル。然ルトキハ獨逸ノ軍事方面モ之ト共ニ復活シ得ルカラ、佛國ハ口ニコソ出サナイガ、金ノ支拂ヲ受ケル方ハ差措イテ、獨逸帝國ト共ニ、其經濟ヲモ破壊スルコ

トヲ望ムノデアアル。即チ此ノ場合ニモ亦政治上ノ目的ガ主トナツテ居ル。

戰爭着手ノ方法ニ就テモ亦、政策ガ主トナル。千八百六十六年ノ普墺戰爭ニ於テモ、若シ斷乎タル手段ニ出デズ、戰爭ノ實施法ガテスルカツタナラバ、到底彼ノ様ナ結果ハ得ラレズシテ、先ヅ普國ガ一旦占領シタシユレスウイツヒヲ再ビ手離サナイ位ノ所デ止メテデアラウ。其場合ニハ普國軍隊ハ唯ダ防勢ニ立ツコトニナリ、而シテ若シ墺國ノ方デ、他國ノ信賴ヲ得ル如キ態度ニ出タナラバ獨リ「小獨逸」ガ夫レニ味方スルノミニ止マラズ、佛國モ亦攻撃ニ參加シタノデアラウ。右ト同様ナ想像ハ、千八百七十年ノ普佛戰爭開戦ノ際ニモ下スコトガ出來ル。而シテ其場合ニ戰爭ガ如何ナル經過ヲ取ルベキカハ、容易ニ推測シ得ル。即チ吾々ハケーニヒグレッツツノ戰、セダンノ快舉、獨逸帝國ノ建設ナドハ、到底實現サレナカッタデアラウ。世界大戰ニ於テモ、獨逸ニシテ若シ協商國ノ戰備ガ、千九百十四年ノ時ノ如ク完成スルニ先チ、早ク適當ノ時期ニ、自己ノ身邊ニ纏ハル鐵鎖ヲ思ヒ切ツテ斷チ切ルノ舉ニ出タナラバ、大戰ノ經過ハ大ニ其趣ヲ異ニシタデアラウシ、又多分彼ノ様ナ大戰トナラズニ濟ンダデアラウ。

此ノ如ク政策ハ間接ニ戰爭ニ干與スル國トノ關係ヲ定メテ行クノミナラズ、其戰爭ノ經過ニ間接ノ利害ヲ感ズル國トノ關係ヲモ、左右スルカラ、其政策ノ當否ハ極メテ重大ナモノデアアル。獨逸ハ世界大戰中ハ、此ノ點ニ就テ非常ナ不利ニ陥リ、中立國ノ多大數ハ協商國ノ壓迫ノ下ニ、多少共故意ニ獨

逸ノ經濟的活動ノ閉息ヲ援助シタノデアアル。米國ノ態度ハ最モ獨逸ノ爲メニ不利デアツタ。若シ米國ガ、其中立ノ期間中、相方ニ軍需品ヲ供給セザルカ、若シクハ相方ニ同等ニ供給シタナラバ、獨逸軍ノ爲ニ非常ニ都合ガ良カッタデアラウ。

尙ホ政策ハ多クハ戰爭開始ノ時機ヲ決スル。此ノ時機ノ選定ノ當否ガ非常ニ大切デアアル。而シテ其戰爭ガ實際ニ、攻撃ヲ目的トシタル政策ノ追及、從來ノ外交的交渉ノ繼續デアル場合ニハ、只管平和ヲ念トスル國民ガ計ラズモ國家防衛ノ爲メ若シクハ名譽ノ爲メニ、止ムヲ得ズ干戈ニ訴ヘネバナラスコトニ立チ至ツタ場合ヨリモ、開戦ノ好機ヲ捕ヘルノニ、非常ニ都合ガ良イノデアアル。後ノ場合ニハ、政策ガ戰爭ヲ何所マデモ避ケンコトヲ希ヒ、最後ノ時期マデ交渉ノ成功ヲ期待シ爲メニ軍事上ノ好機ヲ逸シテ了フ。然ルニ敵ノ方デハ自己ノ都合ノ良イ時ヲ選ンデ、戰端ヲ開ク。即チ千九百十四年ニ於タル獨逸ノ場合ガ夫レデアツタ。獨逸ガ露國ニ對シテ宣戰シタノハ、永ク時日ヲ費ヤシテ、自己ノ軍事上ノ形勢ヲ益々不利ニ陥ラスコトヲ避ケンガ爲メニ外ナラナカッタノデアアル。

要スルニ政策ハ、國家ガ戰爭ヲ始メル時ノ總テノ狀況ヲ定メルノデアアル。而シテ此ノ全般ノ狀況ナルモノガ、復タ、將師ノ決心及態度ヲ始メトシ、尙ホ國軍及國民ノ志氣ニ甚大ナル影響ヲ及ボスノデアアル。

戰爭ガ今日ノ如ク激烈デアツテハ、開戦ト共ニ、對外政策ハ從來ホド、重キヲ爲サナクナツタ。從

來ノ戰策デハ、既ニ公然鬪爭ヲ開始シテ後モ、尙ホ他ノ葛藤ヲ生ジタ場合ニ備ヘル爲メニ、國軍ノ一部ノ兵力ヲ手許ニ控置シタ。ソコデ更ニ兵力ノ補充ヲ増大スルカ否カハ、政策ニ依ツテ決定サレタ。彼我ノ兩國間ノ外交上ノ交渉モ往々繼續サレタ。現ニ七年戰爭中ニハ、英國ノ公使ハ依然トシテ露都ニ留マツタ。之ニ反シテ今日ハ最初カラ全力ヲ傾注シテ輸贏ヲ爭フ。萬事ハ戰爭ニ依ツテ運命ヲ決シタ後ニスルノデアアル。

交戦兩者ノ一方ガ戰爭ノ繼續ヨリモ、平和ノ必要ヲヨリ多ク感ズルニ至ルマデハ對外ノ政策ハ再ビ物ヲ言ハヌ。固ヨリ對外政策ガ其本來ノ目的ニ反シテ誤ツテ容喙スルコトハアル。現ニ大戰中ニ獨逸ノ種々ノ平和提議、就中帝國議會ニ於ケル所謂「平和ノ決議」ノ如キハ、何レモ戰爭停止ヲ促進スル効果ハ、少シモ無カツタ。反對ニ敵國側ニ多少アツタ所ノ講和的傾向マデモ消滅サセ、獨逸側ヲ擊滅スル迄戰ヲ繼續スベシト主張スル黨派ヲシテ、益々氣勢ヲ揚ゲサセタ。又法皇其他、米國ノ平和主義者及自動車王ノフォードナドガ、平和ノ招來ニ盡力シタガ、何等ノ成功ヲ見ルニ至ラナカツタ。此ノ如キ世界の大事件ニ手ヲ出スト云フコトハ、最初カラ失敗スルニ定マツタモノデ、全然手ヲ引イテ居ルノガ一番良イノデアアル。

戰爭ノ成行ガ十分ニ判明シタ場合ニハ、無論交戦兩者ガ爭ヲ止メ得ル如キ新關係ヲ設定スル爲メニ、外交政策ノ力ヲ待タネバナラス。而シテ其際弱者ハ極メテ困難ナ、任務ヲ負フモノデ、決シテ軍事上

ノ形勢ヲ益々不良ナラシムル如キ政治上ノ處置ヲ取ツテハナラヌ。然ルニ大戰ノ場合ニハ、マツクス、フオン、バーデン親王ヲ首相トセル獨逸政府ハ、敵トノ交渉ニ際シ、他ノ方面ト相談セズニ、自己ノ最銳ノ武器タル潜水艇攻撃ヲ止メテ了ツタノハ、正ニ此ノ過失ヲ犯シタモノト云フベキデアアル。

戰爭ノ末期ニハ、第三國ノ干涉ガ屢々起ル。夫レガ最初ハ政治的性質ノモノデアアルガ、後ニハ武裝シタ強制的ノ覺書トナツテ、勝者ハ何所マデ主張シテ良イカ、敗者ハ何所マデ讓ルベキカラ、定メテカカルコトニナル。此ノ如キ情勢ニ於テハ政治ガ、將帥ノ決心ニモ、直接ニ効力ヲ及ボス。場合ニ依リ政治上ノ顧慮カラ、純軍事的見地カラハ最早必要ノナイ會議ヲ、一方デハ最後ノ試ミトシテ、又他ノ一方カラ云ヘバ最後ノ強制手段トシテ、之ヲ實行スルコトモアル。

戰爭間ニ於ケル對内政策ハ、對外政策トハ大ニ趣ヲ異ニシ、交戰中ト雖モ、平時ニ比シテ、其必要ノ程度ガ減退セスノミナラズ、寧ロ其必要ガ高マツテ來ル。而シテ其任務ハ單純明瞭デアツテ、敵ト對峙シツツアル士卒ニ、絶エズ新タナ勢力ヲ賦與スルコトニ意ヲ用フルニアル。内地ハ國軍ノ育親デアツテ、之ニ新銳ナ人及所要ノ軍需品ヲ供給スルノミナラズ、復タ精神的ノ援助ヲモ與ヘネバナラス。ソコデ甚大ナル犠牲及窮乏（將來ノ食料不足ニ對スル心配ガ非常ニ重要ナ勢力ヲ持ツテ居ル）ヲ忍ビツツ敵ニ勝タントスル意志ヲ、何所マデモ維持サセルノガ大切デアアル。

即チ外カラ迫リ來ル生命ノ脅威ニ對シテハ總テノ内爭ヲヤメ商業工業就中戰時ノ重要工業ヲ獎勵シ

國家ニ危險ヲ與フル分子ヲ抑壓シ、敵愾心ヲ阻害セントスル敵ノ努力ヲ無効ナテシムルコトニ力ヲ致スベキデアアル。此ノ目的ヲ達スルニハ、一ニ堅實、適切ナル指導ニ俟ツノ外ハナイ。而シテ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ行フカハ、國民ノ政治的教養ト文化ノ程度ニ依ル。西方ノ民主國デハ、我が獨逸ヨリモ、一般民衆ノ政治的理解ガ多イカラ、大戰中、指導者ニ民主的的全權ヲ與ヘタガ（現ニクレマンソイヤウイルンソノ如キ權力ヲ與ヘラレタ者ハ、近頃ノ主權者ニハ無カッタ）獨逸ノ方デハ、其中ノ各聯邦政府等ハ何カ國民ノ權利ヲ損ジハセヌカト云フヤウナ事バカリ心配シテ居タノデ、前者ノ方ガ餘程良ク其國民ヲ指導シ得タノデアアル。佛國デハ軍隊ニ於ケル反亂ニ對シ、多數ノ兵ヲ一纏メニ銃殺シ、又他ノ協商國デモ、講和運動ヲ企テタ者ヲ早速投獄シタリ、射殺シタリシタノニ、獨逸ノ方デハ帝國議會ノ左黨、即チ戰爭ノ勝利ヤ國家ノ將來ヨリモ、獨逸ノ帝制ヲ覆ヘスコトヲ以テ主ナル念願トシタ所ノ政派ガ、益々多ク指導ノ地位ニ立ツコトニナツタ。ヤガテ此ノ政派ガ、自ラ權力ヲ握リ、革命ニ依ツテ獨逸ノ敗北ヲ招イテカラ内治的處置ニ依ツテ對外的形勢ヲ挽回セント企テタ。即チ爲シ得ル限り速カニ歸還軍隊ヲ解散シ、從來ノ立派ナ諸制度ヤ秩序ヲ廢止シ、只管協商國ニ對シテ、利己的民主主義ノ理想ヘノ降伏ヲ示サントシテ、頻リニ其歡心ヲ求メタ。彼等ハ之ニ依ツテ皇帝ノ治下ノ獨逸ニ許サルルヨリモ遙カニ有利ナル講和ヲ爲シ得ルモノト考ヘタガ、却ツテ之ガ爲メニ、敵ノ輕蔑ト嘲笑トヲ買ヒ、彼等ノ前ニ提出サレタル講和條件ハ實ニ苛酷極マルモノデアツタ。今迄ニモ、戰爭ノ當然ノ

結果ヲ輕減シテ貫フ爲ニ、勝者ノ袖ニスガツテ哀願スル所ノ外交手段ハ、成功シタ例ガ無イ。之ニ反シテ戰ニ敗レ、且ツ何等ノ活動ヲモ爲シ得ヌヤウニナツタ。佛國ヲ代表シテ、維納會議ニ出席セル Jarveyard^{ワァーランド}ノ自信アル態度ハ、相當ノ成功ヲ收メテ居ル。

純然タル破壊的ノ兇暴カラ發スル戰爭ナドハ、最早歐洲ノ國民間ニ起ル筈ガ無イ。而シテ國家ニハ生存ノ必要カラデナクトモ、或ル價值ノアル目的(即チ政治上ノ立場カラ)テ無クテハナラヌ。ソコデ戰爭ハ、今後モ依然トシテ、政策ノ爲メニ實行サレ、利用サルルコトニナル。

然シ現今ニ於テハ、一旦開戰シタ以上ハ、其政策ノ其對外的タルト對內的タルト問ハズ、凡ラユル手段ヲ盡クシテ、戰爭目的ヲ達成スルコトノ外ニ、何等他ノ目標ヲ認ムルコトヲ許サヌ。將帥及首位ノ政治家ハ、敵ヲ全然擊破スルノガ、其政策ノ爲メニ一番役ニ立ツコトヲ良ク心得テ居ルベキデア。此ノ原則ヲ尊重スルコトニ依ツテ、政策ニ大ナル自由ヲ與ヘ、兵力ノ使用ニモ、大ニ活動ノ餘地ヲ與ヘルコトニナル。戰爭中ニ政治的勢力ガ勝ヲ占メ軍隊ノ運用ノ上ニ、他事ヲモ顧慮セネバナラヌ國家ハ、災デア。斯カル國軍ハ必ズ終ニ敗北ヲ招クデアラウ。

政策ガ國民生存上ノ、明瞭ニシテ眞實ナル利益ニ資スベキ大目的ヲ、眞面目ニ追求シ、而カモ之ヲ達成スル爲メニ他ニ手段ナキ場合ニ限り、干戈ニ訴ヘルノ方針ヲ執ル所ハ、此所ニ政策ト作戰トノ間ノ協力ガ、最モ良ク行ハレルノデア。此ノ如キ政策ニシテ始メテ國民ニ高尚ナル理想ヲ示スヲ得、

之ニ依ツテ各政黨間ノ鬭争ノ上ニ超越シ、勢力ヲ一定ノ方向ニ集注シ得ルノデア。即チ之ニ依ツテ國民ノ尙武心ヲ増進シ、武備ヲ十分ニ維持スルコトガ出來、殊ニビスマルクノ云ヘル如ク、神明ノ加護ヲ信ジテ、重大ナル時機ニ國民ノ幸福ト自由ノ爲ニ、斷然タル處置ニ出ヅベキ好機ヲ、空シク逸スルコトナドモナクナル。

例ヘバ若シウイェルヘルム二世治下ノ獨逸ノ政策ガ、大ナル國民的理想ヲ奉ジテ進ンダナラバ既ニ久シイ前カラ「生ケル屍」ニ等シキ埃匈帝國ノ維持ニ總テヲ打チ込ミ、夫レト利害興亡ヲ共ニシテ、時代ノ大勢ニ反抗スルガ如キ愚ヲ爲サズ、二十世紀ニ到底維持ノ出來ナクナツタ同國カラ、獨逸系統ノ部分ヲ、獨逸ノ方ヘ取り込ンデ、此ノ國ヲ崩潰セシメタデアラウ。世界大戰ハ主トシテ獨逸ノ對抗カラ起リ、而シテ夫レガ又多クハ埃匈帝國ニ對スル立場ヲ異ニスル點カラ發生セルコトヲ考ヘテ見レバ、「獨逸ノ兩國ガ、埃匈國問題ニ就テ主義ノ一致ヲ見、夫レニ依ツテ世界大戰ヲ防止シ得タラウ」ト云フ意見ハ、必ズシモ否定スベキデナイト思フ。

適切ナル國防令ハ或明瞭ナ國民的ノ特色ヲ帶ビテ居ルベキモノダト云フコトハ、既ニ前章ニモ述ベテ置イタ。然シ此ノ特色ハ復タ將帥及軍隊ノ働ニモ現ハレテ來ネバナラヌ。

苟モ戰略及戰術ヲ説ク者ハ、又國民的戰略及國民的戰術ヲモ説明セネバナラヌ。斯シテコソ始メテ夫レガ、自國ノ爲ニ用ヲ爲スノデア。

一般ノ生活ニ於テモ多クハ、個人ガ自己ノ占ムベキ適切ナ地位ニ置カレテ、始メテ自己ノ能力ヲ發揮シ得ルト同様ニ、軍モ亦、先ツ自己ノ長所ヲ現ハシ得ル如キ條件ノ上ニ置カレネバナラス。

千九百十四年以前ノ數年間、國際間ノ風雲ガ急ヲ告グルニ際シ、獨逸ガ優柔不斷ノ態度ヲ取り、結局ハ平和ガ維持サレルデアラウト云フコトヲ空頼ミシテ居タコトハ、吾々ノ歴史ノ傳統ニモ、將タ又々國民的特性ニモ、其ニ全ク合致セヌ所デアツタ。此ノ處置ハ自ラ苦キ報ヲ受ケ、爲ニ吾々國民ヲシテ、彼ノ千七百五十六年ニ普魯西ノ若イ國王ガ、夫レニ似タ場合ニ、隣接諸國カラ一般ノ攻撃ヲ加ヘラレルニ先ダチ、速カニ斷乎タル處置ニ出デタ事蹟ヲ、追慕セラレル。

之ニ反シテ、愈々開戦トナツテカラノ獨逸軍ノ用法ハ、良ク我が國民性ニ適合シタモノデアツタ。即チ我が國軍ハ、平素カラ猛烈果敢ナル攻勢——攻撃ニ次グニ攻撃ヲ以テシテ決戦ヲ行フコトヲ訓練サレテアツタ。學術練習ニ於テモ、將タ又々實兵ノ演習ニ於テモ、默々トシテ攻撃精神ノ涵養ニ努メ、將來ノ教育ニ於テモ獨斷專行ヲ養成シ、實際ノ成果ヲ收ムルヲ主トシ、總テ實行主義玉碎主義ヲ獎勵シタノデアツタ。其後我が軍ガ過失ヲ犯シ且ツ又敵軍ガ優勢デアツタ。爲ニ、自ラ防禦ノ地位ニ立ツニ至ツテカラモ、爲シ得ル限リハ、攻勢的ニ之ヲ實行シタ(多大ノ成功ヲ收メルコトハ出來ナカツタガ)。若シ獨逸軍ガ純然タル防禦ヲ行ツタナラバ、到底彼ノ様ニ長ク支ヘ得ナカツタデアラウ。最後ノ勝利ハ、終ニ我が軍ニ歸シナカツタガ、我が國土ヲシテ戰場ノ慘禍ヲ免レシメタノハ、飽クマデ攻

撃ノ考ヲ持續シタ御蔭デアアル。故ニ此ノ點ダケカラ考ヘテモ、將來ノ戰爭ニモ亦(勿論軍事技術界ノ實況ヲモ、或程度マデ顧慮スベキデアアルガ)、此ノ獨逸一流ノ戰法ヲ十分ニ實行スベキデアアル。

戰爭ヲ有利ニ進歩サセル爲ニ、緊要ナ條件ノ一ツハ、國軍ノ精神ノ狀態ノ良イコトデアアル。各隊ガ出征スル時ニハ皆一定ノ精神、或基調ト云フモノヲ持ツテ居ル。然シ夫レガ時日ノ經過ト共ニ段々鈍ツテ來ル。時ニハ判斷ニ苦ムヤウナ變化動搖ヲ現ハス軍紀ハ固ヨリ軍ノ精神ノ價值ヲ維持スルノニ、有力ナル手段デハアルガ、恐怖災害、若シクハ不可解ナ偶發事件等ヨリ來ル所ノ、心ノ興奮動搖ニ對シテハ、軍紀一點張デ、之ヲ治メテ行クコトガ出來ヌ。如何ニ精銳ナル軍隊ニ在ツテモ、恐惶ヤ逃走ノ事實ヲ全然見ナイト云フ譯ニハ行カヌ。

世界大戰ニ於ケル獨逸軍ノ勵ハ、實ニ歴史ニモ其類例ヲ見ヌホドニ、目醒マシイモノデアツタガ、之ハ主トシテ開戦當時ニ、我が軍隊ガ持ツテ居タ精神ノ發露デアツタ。而シテ夫レガ莫大ナル死傷ト名狀スベカラザル艱苦缺乏トニ堪ヘツ、千九百十六年マデモ維持サレタ。ソナムノ會戰ハ獨逸軍人ノ心カニ戰勝希望ヲ奪ヒ、夫レ以後ハ信賴ト志氣トハ次第ニ減退シテ、唯ダ默々トシテ義務ヲ果スコトニナツタ。然シ幸ニ此ノ精神ダケハ、大概ノ隊ニ、最後ノ時期マデ良ク維持サレタ。

勝○タ○ン○ト○ス○ル○意○志○ハ、將帥ニモ軍隊ニモ、極メテ大切デアアル。勝利ト敗北ハ、及第ト落第ノ如ク判然タルモノデハナク其限界ハ動キ易イノデアアル。現ニ獨逸軍隊ガ、世界大戰中ノ幾多ノ戰闘ヲ實行シ

タ如ク、苟モ自己ガ戰ツテ居ル土地ハ敵ニ渡サヌ所ノ軍隊ハ、其損害ガ如何ニ多クトモ、結局ハ勝利ヲ得タモノト云ヘル。何所マデモ勝者ノ地位ヲ維持セントスル強固ナ意志ハ、軍隊ガ内ニ有スル精神ヲ、最モ良ク表明スルノデアアル。此ノ場合ニ、平戰兩時ニ亘ル過去ノ印象ガ、其精神的努力ヲ致サシムルニ多大ノ助ケトナル。即チ今迄ノ戰ノ經過ガ有利デアリ、且ツ統帥ニ對スル信頼ガ厚イ場合ナドニハ、非常ニ好都合デアアル。此ノ點ニ就キ、大ニ參考トナルノハ、獨逸ノ多數ノ聯隊中デ、名譽ノ高イ古イ歴史ヲ持ツタモノガ、今回ノ大戰ニ於テモ亦別シテ勇戰シ、又長ク其隊ニ屬シテ居タ者ガ少數トナツタ場合デモ、其隊ノ精神ハ忽チ後繼者ニ傳ヘラレテ、目醒シイ働ヲ爲シタ事實デアアル。

精神的條件ニ次デ物質的條件ガアル。此ノ兩者ニ對スル考慮ガ、適當ニ均衡ヲ得レバ、軍隊ノ能力ガ大ニ揚リ、好結果ヲ收メルコトガ出來ル。

物質的條件中ノ重要ナモノハ、兵數デアアル。數上ノ優勢ハ少ナクトモ勝利ヲ收ムベキ第一階梯デアアル。「神ハ中隊ノ數ノ多イ方ニ居ル」ト云フ佛蘭西ノ諺ニモアルガ、歴史ノ事實モ亦、之ヲ證明シテ居ル。橫隊戰術時代ノ如ク一回ノ衝突デ勝敗ガ定マラヌ今日デハ、十分ノ兵數(部隊ノ數)ヲ持ツコトガ、一層必要トナツタ。陣地戰デハ殊ニ夫レガ立證サレタ。即チ敵ノ方デハ、我が軍ヨリモ頻繁ニ、其師團ヲ交代サセテ、後方ノ休憩地ニ送ツタ爲ニ、其軍隊ハ比較的長ク元氣デアリ、夫レガ何回モ相次デ攻撃ヲ復行サレル場合ニ、多大ノ利益トナツタ。運動戰ニ於テモ過剩ノ兵力ガアレバ對等ノ兵力

ヲ以テ敵ヲ抑留シ、殘餘ノ兵力ヲ以テ、之レガ擊破ヲ企テルコトガ出來ル。

又巧妙ナル統帥法ニ在ツテモ、全體ニ於テハ對等兵力ノ場合デモ先ヅ比較的少數ノ兵力ノ果敢ナル行動ニ依ツテ、敵ヲシテ我が兵力ノ判斷ヲ誤ラセルカ、若シクハ敵ヲシテ多大ノ兵力ヲ要スル處置ヲ取ラセ、以テ敵ノ全兵力ヲ抑へ、其結果トシテ決勝點ニ、優勢ノ兵力ヲ使用スルコトモ出來ル。此ノ場合ニハ即チ兵力ノ經濟的使用法ニ依ツテ成功ノ基礎ヲ作ルノデアツテ、夫レニ依ツテ不十分ナガラモ、物質上ノ不足ヲ補フコトガ出來ルノデアアル。

總テ戰爭ニ於ケル兵數ノ價值ヲ論ズル場合ニハ、勿論精銳ナ小軍ト劣惡ナ大軍ナドヲ比較スルノデハナク、常ニ同等ノ價值ヲ有スル兩軍ニ就テ云フノデアアル。而シテ兵力ノ多數ト云フコトガ、其隊ノ能力ノ缺陷ヲ補ヒ得ル程度ニ限りノアルコトハ言フ迄モナイコトデ、國軍ノ力トナルモノハ、兵數ガ主デハナク、其精神ガ主デアルト云フ說ニ對シテハ、吾々モ決シテ異論ヲ唱ヘル者デハナイ。現ニ世界大戰ニ於テ、露國ノ大軍モ、獨逸軍ノ精銳ニハ勝テナカツタノデアアル。

大軍ト雖モ、其組織ト教育トニ缺陷アルモノハ、訓練ノ行届イタ軍トノ戰鬪ニ於テハ、兵數ノ多イ爲ニ生ズル運用ノ不便ガ、却ツテ弱點トナル時ガアル。

クラウゼウイツハ嘗テ、フリードリツヒ大王ガコリンノ戰デ遂ニ三萬ノ兵ヲ以テ、五萬ノ墮軍ヲ破リ得ズ、那翁ガラライブチツヒデ十六萬ノ兵ヲ以テ、二十八萬ノ聯合軍ヲ擊破シ得ザリシ事實ヨリ歸

納シテ、天才の名將ト雖モ、二倍ノ敵ニ對シテ勝利ヲ獲ルコトハ困難デアルトノ斷定ヲ下シ、次ノ如ク述ベテ居ル。

『二倍ノ兵力ヲ以テスレバ、假令名將ヲ相手トシテモ、夫レホドノ勢力ヲ保チ得ルモノトスレバ大
小ノ戰鬪ニ於テモ、相當ノ優勢（二倍以下ノ）ヲ以テスレバ、假令其他ノ狀況ガ不足デアツテモ、
勝利ヲ得ルニ相違ナイ。固ヨリ十倍ノ兵力ヲ以テ之ヲ通過シ得ヌ如キ隘路ナドヲ考ヘラレヌコト
ハ無イガ、然シ此ノ如キ場合ノ戰鬪ハ問題トナルマイ。』

爾來戰鬪法ハ改マツタガ、此ノ關係ニ就テハ何等ノ變化ヲ來タサズ、クラウゼウイツツノ算定ハ、
今日ニ於テモ尙ホ之ヲ認容セネバナラス。現ニ第一次マルヌ會戰ノ際ニ、獨逸軍ガ尙ホ三、四軍團ダ
ケ兵力ガ多ケレバ勝利ヲ得ラレタコトハ何人モ疑ハザル所デアル。

兎ニ角決勝點ニ、爲シ得ル限り多クノ兵力ヲ用フベキコトハ、今日ノ作戰ニ於ケル最高ノ原則デア
ル。

武器モ亦大ニ勝敗ニ關係ガアル。如何ニ勇敢ナ兵卒デモ、鎗ヤ刀デハ、機關銃ヤ速射砲ニ手向フ譯
ニユカス。勿論國軍ノ武器ノ精否ト精神ノ良否トガ、全ク相反對シテ居タ實例ハ、今迄ニ一度モ無カ
ツタ。是レハ軍隊ノ精神ノ中ニハ、武器尊重ノ精神ヲモ含ンデ居ルカラデアル。然シ今日ノ如キ進歩
ノ早イ時代デハ、時代後^{オカ}レノ儉約、技術上ノ錯謬、自負心ヤ、一度良イト主張シタ武器ヲ中々放棄セ

ヌ如キ誤ツタ考ナドノ爲ニ、何時デモ精神ト武器トノ間ニ、可成^{カナリ}ノ懸隔不一致ヲ見ルコトニナル。現
ニ大戰前ノ獨逸ハ、航空機及野砲ナドノ方面デ、佛國ニ一籌ヲ輸シ、多大ノ不利ヲ招イタノデアル。
之ニ依ツテ見テモ、時代ニ適應シタ武器ヲ備ヘルコトハ、勝利ヲ得ルニ必要ノ條件デアルコトガ分ル。
此レニ關スル缺陷ハ直チニ兵卒ノ自信力ニ影響ヲ及ボス。兵卒ガ此ノ點ニ就テ當局ノ怠慢ヲ感ジ、自
己ノ責任デ無イコトノ爲メニ、敵ニ一步ヲ讓ラネバナラスト感ズルコトハ、甚ダ良シクナイコトデ、
敗北シタ場合モ、自分ノ責デハナイト思フ。斯クテハ誠ニ由々シキ結果ヲ招クコトニナル。

余ガ武器ニ就テ説ク所ハ、無論其使用ニ對スル理解ヲモ含メテ居ルノデアル。サモナク^ハ機械ノ價
値ガ一向發揮サレヌノハ言フ迄モナイ。經驗ニ乏シイ新軍デハ、有利ナ武器ヲ手ニ入レタダケテ勝利
ヲ得ラレルモノト考ヘ、兵器庫中ニ、虎ノ子^{ウチ}ノヤウニ大事ニ藏ツテ置キ、愈々之ヲ使用スベキ時ニ至
ツテ、其取扱ガ分ラヌト云フヤウナ失態ガ、屢々アル。

兵數ト武器ノ準備トノ關係ニ就テハ、近年間々誤ツタ考ヲ持ツタ者ガアツタ。世人ハ初メ武器ノ進
歩ト共ニ、兵數ヲ減少シ得ルモノト考ヘ敵ガ國境ニ迫ツタ場合ニモ、國家ノ防衛ハ少數ノ專門ノ軍人
ニ一任シ、壯者ノ多數ハ吞氣^{ウチ}ニ家ニ居レルモノト思ツタ。之レハ非常ニ危險ナ誤デアル。成程^{ナルホド}個々ノ
戰鬪行爲ニ就テ云ヘバ、機械ノ力ガ大ニ人力ヲ補ツテ吳レ、僅々二、三人ノ銃手ノ可扱フ機關銃ガ、
百人ノ散兵ノ代用ヲスルコトモアル。然シ二ツノ大ナル國民ガ相鬪フ場合ニハ、其人ト武器ノ盡クル

マデハ、決シテ自己ノ敗北ヲ承認セヌデアラウ。故ニ「國軍ヲ建設スルニ當ツテ、數ノ上ニ重キヲ置クベキカ、成ルベク完全ナ武装ヲ備フベキカ」ト云フ問ニ對シテハ、其兩方ニ力ヲ致セト答ヘル外ハ無イ。

戰鬪隊形モ亦重大ナ意義ヲ持ツ。之レハ軍隊ノ肉ヤ血ノ中マデ染ミ込メ居ルモノデ、夫レガ實戰ニ臨ンデ用ヲ爲サストナルト、非常ニ志氣ヲ阻喪サセル。エーナノ戰ニ、勇敢ナ普魯西モ亦、佛軍ノ散兵隊形ノ見慣レヌ戰法ニ遭ツテ、二、三時間ノ内ニ潰亂シテ了ツタ一事デモ、十分ニ之レヲ理解スル事ガ出來ル。戰鬪隊形ハ戰術ニ關スル規典中ニ定メテアル。故ニ之ヲ實戰的、實用的ナラシムルコトハ、特ニ意ヲ用フベキデアル。軍隊ヲシテ最初ノ戰デ、其戰鬪隊形ニ對スル信用ヲ失ハセ、不安ニ陥ラセルヤウナコトノ無イヤウニスルニハ、徒ラニ演習場裡ニ於ケル美觀ヤ、古イ慣習ナドヲ思ヒ切ツテ棄テネバナラス。殊ニ永イ間平和ガ續キ、其間ニ多クノ技術的改良ガ施サレテアル場合ニ、不意ニ戰爭ガ起ツタ時ニハ、一層此ノ點ニ注意ヲ拂ヒ、成ルベク斯カル弊害ヲ減殺スルコトニ、努力スル必要ガアル。

先ニ兵員ノ豊富ノ必要ヲ説イタガ、更ニ金ノ豊富ノ必要ヲモ述ベネバナラス。戰爭ノ實行ニハ何所マデモ金ヲ必要トスル。凡ラユル資源ヲ思ヒ切ツテ使用スベシトノ原則モ、ツマリ公債ニ依ツテ金ヲ得ナケレバ實行ガ出來ヌ。大戰中獨逸ハ、毎日六千萬乃至七千萬金貨「マルク」ヲ要シタ。如何ナル

國家ト雖モ、斯クノ如キ巨額ノ金ヲ數年モ、支拂ヒ得ルモノハナイ。唯ダ其信用ニ依ツテ、始メテ之ヲ實行スルコトガ出來ルノデアアル。而シテ又其信用ノアル間ハ、敗北ガ決定的デハナイノデアアル。通常ハ物質ノ方ガ人間ヨリモ先ニ盡キルカラ、金ト武器トヲ持ツテ居ル間ハ、多クハ未ダ抵抗力ガ存シテ居ル。要スルニ戰爭ヲ長ク繼續シ得ル者ハ、最後ノ勝利ヲ得ル見込ガ多イノデアアル。

固ヨリ貨弊ノ所有量ノミガ標準トナルノデハナク、之ガ利用ノ難易モ亦關係ガアル。戰爭ノ際ニ海上ノ交通ノ自由ナ國ハ、開戰ト共ニ直チニ世界ノ貿易カラ遮斷サレル國トハ、其信用ヲ利用スルニ非常ニ便利デアアル。尙ホ前者ハ其新軍ヲ編組スルニ當ツテ、他國ノ工業ヲ利用シテ武器裝具ヲ取ルコトガ出來ル。若シ之レガ出來ナカツタナラバ、普佛戰爭ニ於テ、佛軍ノ新政府ガ、世界ヲ驚カセタヤウナ大軍ヲ新設スルコトハ、到底不可能デアツタラウ。又若シ千八百十四年ニ那翁ガ、之ニ似タ狀況ニ置カレテアツタナラバ、其戰爭ノ經過ガ餘程相違シタデアラウ。亞米利加ノ南北戰爭ニ於テ、南方政府ハ軍事上ノ能力ニ優ツテ居タニモ拘ハラズ、海外トノ交通ガ出來ヌ爲メニ、遂ニ敗北ヲ招クニ至ツタ。故ニ制海權ヲ占ムルコトハ、假令艦隊ヲ以テ直接ニ陸軍ノ行動ヲ援助シ得ザル場合ニモ、間接ニ多大ノ強ミトナルノデアアル。

世界大戰ニ於ケル獨逸ノ運命モ亦、制海權ノ價值ニ對スル有力ナル例證デアアル。國民ノ犧牲的精神ト、産業ノ非常ナ發達トノ御蔭デ、英國海軍ノ海上ノ封鎖ノ効力ニ對抗シテ、克ク五十ヶ月以上モ

維持シ得、又休戦ノ時ニモ、更ニ長時日ノ抵抗ヲ爲シ得ルダケノ人員ト、多額ノ金及軍需品トヲ持ツテ居タガ、然シ食料品ノ供給ノ方面デハ、敵ガ其目的ヲ達成シタ。是レハ既ニ開戦ノ餘程前カラ英國トノ争ヲ顧慮シテ國內ニ穀物ノ蓄積ヲ主張シタ人々ノ警告ヲ、當局者ガ採用シナカツタカラデアアル。夫レガ爲メ、獨逸ノ諸港ヘノ食料品輸送ニ對スル妨害ハ、時ヲ經ルト共ニ効力ヲ現ハシテ、國民ノ總テノ階級ヲシテ、最低限度ノ食料ヲ取ルニ至ラシメタ。之ト共ニ傳染病死亡率ヲ著シク増加シ、出生率ヲ甚ダシク低下サセタ。其爲ニ、遂ニ心身ノ憊憊ヲ來シ、勇氣ガ挫ケテ、武器ヲ抛ツニ至ツタノデアアル。

尙ホ原料品ニ就テ一言シテ置キタイ。兵器工業ガ未ダ幼稚デアツタ時代ノ戦争ニハ、原料品ハ餘リ問題トハナラナカツタ。滑腔砲及單筒小銃ヲ鑄造スル材料ヤ火藥及鉛ナドハ、少シ廣範圍ノ産業地域ニ就テ求メレバ、容易ニ之ヲ得ラレタノデアアル。然ルニ今日ハ此ノ點ニ就テ大ニ趣ヲ異ニシテ來タ。現代ノ戦用器材ノ莫大ナル調達ハ（單ニ化學ガ此ノ方面ニ應用サル、程度ニ就テ、考ヘタダケデモ、其一斑ハ推察サレル）各種多様ノ原料ヲ必要トシ、米國ヲ除イテハ何レノ國ト雖モ其總テヲ自國內デ得ルコトガ不可能トナツテ來タ。ソコデ、一ツノ國ガ、勝利ヲ得ル見込ガ十分ニ有リナガラ、是非共必要ナ原料ノ只一種ガ缺乏シタ爲メニ、心ナラズモ戦争ヲ止メルト云フ場合ガ、起リ得ル。例ヘバ飛行機及自動車用ノ「ベンチン」ガ無イカ、瓦斯防面ノ填實劑ガ無クテ、如何ニシテ戦争ヲ繼續シテ行

クカト云フコトハ、一寸見込ガ立タス。此ノ理由ニ基キ、總テ戦争ニ必要ナ原料品ハ、悉ク皆ナ自己ノ國土ノ内ニ持ツテ居ルト云フコトニ、嚴密周到ナル注意ヲ拂フコトガ、戦争成功ノ爲メニ、重要ナ條件ノ一ツト爲ル。

然シ結局主トナルモノハ精神上ノ力デアツテ、物質上ノ力デハナイ。大切ノ時ニ我欲ヲ出スヤウナ國民ニハ、非常ナ富ト雖モ用ヲ爲サス。時ヲ逸セズ自ラ進んで國ニ捧グルノ心ガナクテハナラヌ。適當ノ時ニ自己ノ爲スベキコトヲ怠ツテ、後ニナツテ夫レヲ回復セントシテモ、中々夫レガ出來ルモノデナイト云フコトハ、カルターゴ人等ガハンニバルニ就テ、學ンダ所デアツテ彼等ハ其錯誤ノ代償トシテ、自國ノ自由ヲ失ツタ。獨逸帝國モ亦之ト同一轍ヲ踏ンダモノデアアル。

最後ニ戦争ノ諸條件ノ中デ戦闘力ノ適切ナル使用法ニ屬スル諸項モ揚グベキデアルガ、之レハ次章ノ「運動及戦闘」ノ各事項ニ關スル研究ノ方デ述べルコトニスル。

第四章 運動及戰闘

第一節 總 說

運動及戰闘ノ事ハ、獨逸ノ陸軍デハ、千九百十四年迄ハ、大體ウイルヘルム一世時代ノ戰爭ノ状態ヲ、參考トシテ居タ。是レハ其後ノ戰役ハ、總テ特殊ノ狀況ノ下ニ行ハレ、其儘中歐ノ戰場ニ應用シ得ナカッタカラデアアル。

之レガ爲メ獨逸デハ、一般ニ相變ラズ迅速ナル經過ノ戰爭行爲ヲ考ヘテ居タ。即チ戰場ニ於テ、次カラ次ト決戰ヲ行ヒ、深ク敵地ニ侵入シ、夫レニ依ツテ速カニ有利ナ講和ヲ爲シ得ルコトヲ夢ミタ。千八百六十六年(普埃戰役)ヤ千八百七十年七十一年(普佛戰役)ガ、其通リデアツタカラ、千九百十四年ニモ亦、其様ナ進展ヲ見ルモノト、國民ハ考ヘテ居タ。

固ヨリ識見ノアル軍人ハ、我が統帥部デハ此ノ如キ主義ノ下ニ、次ノ戰爭ヲ行フコトヲ、努メルノデハアルガ、今度ノ戰爭ハ、從來トハ餘程趣ヲ異ニシ、少ナクトモ戰爭ニ運動性ガ乏シクナルベキコトヲ、豫メ知ツテ居タノデアアル。

吾々ノ親ノ時代ノ戰爭ノ如キ有利ナ經過ガ、二度ト見ラレルモノデ無イト云フコトハ、實際當時ノ

如キ有利ナ軍事上ノ條件ガ、再ビ得ラレナイ事情カラ考ヘテモ、良ク分ツテ居タノデアアル。普埃戰爭デハ、普魯西軍ハ天才ノ將帥ヲ戴イタノミナラズ、軍隊ガ精銳デ、武器モ優ツテ居リ、又普佛戰爭デハ、我が軍ハ最初ニハ數ニ於テ優勢デアリ、後ニハ、佛國ノ新募ノ軍ニ對シ、其質ニ於テ優ツテ居タノデアアル。

此ノ如キ有利ナ事情ハ、千九百十四年ニハ到底見ラレナカッタ。却ツテ大戰ニ於ケル獨逸ハ終始數ニ於テ劣等デアツタ。我が軍ハ同盟諸國ト共ニ、千九百十四年ヨリ千九百十八年マデノ間ニ、二千二百萬以上ノ兵ヲ戰場ニ立タセタガ、敵ハ常ニ吾ニ倍スル兵ヲ以テ對抗シタ。協商國ハ十五億ノ人間ノ中カラ兵ヲ取ツタノニ、同盟國側デハ、其十分ノ一餘ノ中カラ取ルニ過ギナカッタ。

昔獨逸ガ持ツテ居タ所ノ戰爭準備、武裝、戰術及戰略上ノ訓練等ノ優越モ亦、大方失ハレテ居タ。ソコデ今度ノ戰爭ハ從來トハ全ク違ツタ條件ノ下ニ行ハレ、敵國ノ方ガ非常ニ優勢デアツタカラ、本來ナラバ、寧ロ敵側ヨリ見テ昔ノ戰爭ニ似寄ツタ經過ガ實現サルベキ筈デアツタ。

現ニ敵國ハ其様ナ意志ヲモ持ツテ居タノデアアル。即チ露國ノ大軍ヲ以テ、獨逸ノ國土ヲ片端ヨリ蹂躪スルコトヲ考ヘ、佛國デハ四十四年前ノ普佛戰爭ノ時ノ如ク、相變ラズ、頻リニ「柏林城下ノ盟」ヲ喚ビ、英軍ハ心潜カニ、印度ノ騎兵ヲシテ、馬ヲスブレー河畔ニ飲ハシメンコトヲ期シタノデア

此レ等ノ望ガ叶ハナカツタノハ、獨逸軍ノ勇猛ニシテ且ツ能力ニ富ミシニモヨルガ、緒言ノ中ニモ述ベテ置イタ軍事界全般ノ革新ニ基ク所モアルノデアアル。即チ使用シ得ベキ地域ニ比シテ、兵力ノ大ナリシコト、防禦工事ノ廣ク應用サレタルコト、及火器ノ効力ノ異常ナル發達ヲ見タルコト等ノ原因デ、戰爭行爲ガ從來ニ比シ、甚ダシク運動性ヲ減ズルニ至ツタノデアアル。

從來ノ用兵法ハ、運動ト戰鬪、若シクハ策動ト會戰トノ相互ノ作用交感ガ、特色トナツテ居タ。將帥ノ苦心ハ、敵ノ弱點ニ對シテ優勢ナル兵力ヲ迅速且ツ不意ニ集中シ、次デ猛烈ナル攻撃ヲ行ツテ、敵ノ配置ヲ粉碎スルノニアツタ。此ノ二ツノ主ナル戰爭行爲ヲ、巧ニ併用スルコトガ、勝利ヲ得ルノ要訣デアツテ、名將ガ其名ヲ歴史ニ殘シタノモ、全ク此所ニ基クノデアアル。

而シテ此ノ事情ノ存續スル限りハ、兵力ト軍事的能力トノ相匹敵スル兩軍ノ間デハ、運動性ニ富ム者ガ、勝利ヲ得ル筈デアアルガ、世界大戰ニ於テハ、勝利ハ最早單ニ運動及戰鬪ノ結合ニ依ツテノミ得ラレズシテ、莫大ナル兵器、器材ノ集中的使用ニ依ツテ、勝利ヲ收ムルコトニ努メ、且ツ夫レガ達成サレルコトガ段々ニ顯著トナツテ來タ。ソコデ作戰ニ對スル運動ノ價值ハ、後者ノ價值ノ爲メニ著シク減退スルニ至ツタ。

此ノ事ハ西方戰線ノ陣地戰ニ於テ最モ顯著デアツタ。此ノ場合ニ於テモ亦、比較的狹小ナル地區ノ後方ニ、各種口徑ノ大砲彈藥ノ驚クベキ數量ヲ集積シ、且ツ無數ノ兵員ヲ集結スル爲ニ、鐵道、自動

車縱列及徒步行軍ヲ以テ、人員材料ノ大規模ノ移動ヲ實行シタノデアアルガ、然シ之ハ敵モ吾ト同様ニ何時ニテモ自由ニ策動シ得ベキ地域ニ於テ、眞ノ策動ヲ爲シタノデハナク、唯ダ自己ノ戰線ノ後方デ、側方ヘノ移動ヲ行ヒ、且ツ後方ヨリ新銳ノ兵力ヲ招致シタニ過ギヌノデアアル。而シテ此ノ種ノ企圖ハ、敵ノ空中偵察ニ對シテ秘匿シ得ナイカラ、防者ノ不意ニ出ヅルト云フコトヨリモ寧ロ一定ノ場所及地域ニ於テ、敵ニ優ル軍隊及兵器、器材ヲ集メルコトノ方ガ、重キヲ爲シタノデアアル。之ニ次デ行ハル、所ノ攻撃ハ、全然火器ノ破壞力ヲ基トシタモノデアツタ。

千九百十八年ノ夏ノ末ヨリ秋ニ亘ツテ聯合軍ガ、獨逸軍ノ薄弱ナ線ヲ所々突破シ得タ時デサヘ、其突破點ニ大部隊ヲ注入シ、以テ行動ノ自由ヲ回復スルコトヲ敢テセズ、一地區ヨリ一地區ニ、一定ノ方式ヲ守ツテ緩漫ナル前進ヲ續行シタ。之ガ爲メ、從來ノ戰史ニモ其類例ナキ所ノ處置、即チ、半バハ運動戰、半バハ陣地戰ト云フ特殊ノ現象ヲ現ハスニ至ツタ。

西方戰場デハ、彼ノマルヌ會戰後、兩軍ガ競フテ海岸ノ方ヘ翼ヲ延長シテカラハ、前述ノ如ク、策動的要素ガ全ク見ラレナカツタガ、東方戰場ニ於テハ、尙ホ夫レガ大ニ重用サレタ。東普魯西及波蘭土ニ於ケルヒンデンブルヒ將軍ノ征戰ト、ルーマニアニ於ケル運動戰トハ、之ガ好適例デアアル。

而シテ又レットウ、フォルベツクハ東亞弗利加ニ於テ、至大ノ運動性ヲ發揮シテ、非常ニ優勢ナル敵ニ對抗スルコトガ出來タ。即チ機敏ニ各所ニ出沒シテ、敵ニ一撃ヲ加ヘ、敵ノ集積場ヨリ戰

用器材ヲ補足シツ、巧ニ包圍ヲ免ル、コトガ出來タ。

此ニ於テ、將來ノ爲メニ戰鬪ノ原則ヲ定ムルニ當リ、單ニ陣地戰ニ於テ得タル經驗ノミヲ基礎トスルコトノ不當ナルハ、殆ンド疑ヲ容ル、餘地ガナイノデアアル。少ナクトモ吾々獨逸人ハ、假令現在ノ如キ困難ナル事情ノ下ニ於テモ、戰爭ニ於ケル運動ノ價值ヲ大ニ尊重シ、輕々シク之ヲ蔑視スベキデ無イコトヲ經驗シテ居ル。

此ノ問題ノ研究ニ當ツテハ、先ヅ千九百十四年ノ如キ緒戰ハ、當分ノ間歐羅巴デハ全ク起リ得ナイ、ト云フコトヲ考慮スベキデアアル。最初ノ開進ニ於テ長イ、動キノ取レヌ線ヲ以テ、兩軍ガ近ク相對峙スルコトハ、今ハ此ノ如キ處置ヲ必要トスル所ノ大軍ガ無イ點カラ見テモ、將々又天然ノ地形ガ之ヲ許サヌ點カラ考ヘテモ、到底再ビ起ル筈ガ無イノデアアル。即チ英佛ノ間ニハ海ガアリ、佛伊ノ國境ニハ高山ガ在ツテ、大軍ノ集中ヲ許サヌ。

翻テ中歐及東歐ニ於テ起リ得ベキ戰爭ニ就テ考察スルニ、統帥部ガ其兵力ヲ集中スル上ニ於テ、多少共決心ノ自由ガ得ラレル。千八百六十六年普軍ガ行ヘル如キ開進ヲモ、再ビ實施シ得ヌコトハアルマイ。然ラバ兩軍ガ國境地方ヲ隙間ナク占領スル、窮屈ナ開進法ノ場合ニ於テ、其必要ヲ生ズル所ノ敵線ノ純然タル正面突破ニ、先ヅ着手スル如キコトナク、寧ロ兵力ノ結合ト協力トヲ目的トスル、相隔ツタ數團ノ前進運動ヲ以テ、戰ヲ開始スルコトニナルデアラウ。

サレバト云ツテ、輕快ナ武裝ヲ有スル小サナ國軍ノ方ガ、重大ナ武器ヲ備フル大ナル國軍ヨリモ有利デアルナド、斷定スルコトノ出來スノハ勿論デアアルガ、然シ又、兵數ト兵器トニ於テ劣ツテ居ル軍ガ、其敵ト同様ノ原則ニ從ツテ戰鬪ヲ行フノハ良シク無イ、ト云フコトヲモ茲ニ一言シテ置キタイ。

諸外國ノ近頃ノ戰鬪教令ヲ見ルト、現在ハ平推^{ヒラオシ}ニ攻撃シテ行クコトヲ考ヘテ居ルコトガ、明ラカニ認メラレル。夫レニハ、丁度西方戰場ニ於テ、千九百十八年ノ秋ニ、聯合軍ガ實施シタ前進法ヲ範トシテ、之ヲ實行セントシ、尙ホ爲シ得レバ、更ニ一層方式ニ嵌マツタ方法ヲ取り、更ニ一層多クノ兵器、器材ヲモ使用セントシテ居ル。其前進ニハ、極メテ狭ク限定シタ目標ヲ與ヘ、微細ノ事マデモ上カラ規定シ、命令シ、決シテ成行ニ任カセタリ、下級指揮官ノ獨斷專行ナドニ一任スルコトヲ許サヌ。而シテ敵ト衝突スル際ニハ、只管偉大ナル火器ノ威力ヲ發揮シテ、利益ヲ收メンコトヲ期シ、多數ノ重砲及最大重砲ト爆發飛行機隊トヲ以テ、自己ノ奪取スベキ地區ニ存スル凡ラユル抵抗ヲ擊破シ、更ニ無數ノ戰車ヲシテ、擊チ漏ラサレタル機關銃ヲ壓服シ、然ル後歩兵ヲシテ此ノ大兵器ノ既ニ占據シアル地區ヲ占有セシメル。其際ニモ尙ホ此ノ歩兵ヲシテ爲シ得ル限りハ、戰車ノ蔭ニ隠レサセヨウトスル、斯クシテ第一目標ニ達シタ後ニハ、更ニ再ビ攻撃準備ヲ整ヘ、兵器器材ヲ集メタ後ニ、次ノ前進ニ移ルノデアアル。

此ノ方法ニ依ツテ、前進ヲ爲ス所ノ佛國ノ大軍——不安ナル歐洲ノ天ヲ掩フ所ノ妖雲——ニ對シテハ、目下之ヲ支ヘ得ル國軍ハ、何レニモ之ヲ求メラレヌコトハ確カデアアル。然シ佛國流ノ、此ノ如キ物質偏重ハ、其内ニ種々ノ弱點ト危險トヲ包藏スルコトヲ忘レテハナラス。

過度ニ大兵器ヲ備フル軍ハ、常ニ運動ガ緩慢デ、操縦ガ困難トナリ、強固ナ大道路以外ニ運動シ得ズ、且ツ後方ノ輸送ノ爲ニ甚ダシク制肘サレ、鐵道線ヨリ遠ク離レルコトガ出來ヌデアラウ。加之、戰場ニ於ケル前進ヲ全ク一定シタ形式ヲ以テシ、時刻ヲ基トシテ攻撃ヲ實行セント努メ、下級指揮官ハ嚴重ニ夫レヲ守ラネバナラス爲メニ、全般ノ戰鬪動作ガ、極度ニ緩慢ニ陥ラザルヲ得ヌ。

又此ノ如キ物質偏重ニ對シテハ、精神上ノ害ヲモ考慮スル必要ガ起ル。若シ戰場ニ於テ、人間ガ單ニ御供ニナリ、小銃ヲ持ツタ單獨兵ナドハ居ラナクナツテ、装甲ヲ施シタ器械ノ外ニ、誰モ顔ヲ出サヌヤウナコトニナレバ、終局ノ勝敗ヲ決スベキ軍人的徳性ヲ、如何ニシテ國軍ニ養成シ得ルデアラウ。「戰フノハ結局兵卒デアアル」ト那翁モ云フテ居ルデハナイカ。如何ナル技術上ノ發明ト雖モ、「最後ノ戰鬪ニ於テ、各兵ノ勇氣ト熟練トガ、勝敗ヲ決スル」ト云フ事實ヲ、少シデモ動ガスコトナドハ、到底出來ルモノデナイ。

若シ歩兵ニ此ノ如キ徳性ノ教育ヲ怠リ、砲兵、飛行機、及戰車ガ仕上ゲタ果實ヲ、摘取ルコトノミニ慣レサセルト、其攻撃精神ハ全ク消滅シテ了フ。

此ノ如キ國軍ニ對シテハ、運動性ニ富ミ、元氣旺盛ナル軍ヲ以テ、何時デモ多クノ成果ヲ收メ得ルデアラウ。

第二節 運動及戰鬪ニ對スル軍紀ノ價值

現今ノ一流ノ陸軍國ノ有スル大軍隊ヲ想起スル者ハ、此ノ如キ大軍ヲ如何ニシテ統率シ得ルカラ疑フデアラウ。此ノ大軍ヲ手足ノ如ク動カシ得ルモノハ、一ニ軍紀ノ力デアアル。然シ此ノ軍紀ナル語ニハ、種々ノ解釋ガアルカラ、少シク、説明ヲ加ヘテ置ク必要ガアル。

世人ハ通常軍紀ヲ以テ、「其爲ニ定メタ規定ト其適切ナル應用トカラ涵養サレタ、軍隊ニ於ケル(節制)及秩序」ト解シテ居ル。然シ夫レニ就テモ法律規則ヲ嚴格ニスルコトナドガ、一番ノ要點デハナイト云フコトヲ考慮スベキデアアル。最近ノ諸戰役ニ於ケル獨逸軍隊ハ、今迄大戰役ニ從事シタ諸國ノ軍隊中デ、一番寛大ナ罰則ヲ與ヘラレテ居ツタニ拘ハラズ、其軍紀ノ嚴正ナリシコトハ、他ニ比類ガ無カッタノデアアル。世界大戰ニ於テモ(少ナクトモ最初ノ二、三年間ハ)亦同様デアッタ。夫レト反對ニ、嚴重苛酷ナル罰則ト無節制トガ長ク相併存スルコトハ、古今ノ歴史ニ其例證ヲ發見スル所デアアル。佛蘭西共和國ハ千八百七十年九月四日ニ、不從順ナ兵卒ニ對シテ銃殺ノ刑ヲ設ケ、軍律ニ據ル銃殺ガ日課ノヤウニナツテ居タ。而カモ尙ホ軍隊ニ於ケル軍紀ハ、依然トシテ弛ミ切ツテ居タ。然シ

之ハ別ニ怪ムニ足ラスコトデ、總テ法則ハ先ヅ目下ノ状態ニ適應シテ設ケラレルモノデ、夫レニ依ツテ改善ノ働キガ現ハレルノハズツト後ノコトデアアル。

「文明國民ノ軍隊ニハ、軍紀ハ自然ニ行ハレルモノデアアル」ナドト、考ヘテハナラス。普通社會ノ道徳ノ訓^レダケデハ、之ヲ涵養スルコトガ出來ス。蓋シ之ニ要スル試鍊ガ餘リ強烈ニ過ギルカラデアアル。固ヨリ教養アル國民ノ軍隊デハ、半開ノ國民ノ軍隊ナドヨリモ、必ズ犯行ハ少ナイノデアアルガ、單ニ犯行ヲ防止スルト云フ事ダケデハ、軍紀ノ要求ヲ滿タシ得ス。軍紀ハ軍人ニ向ツテ敵ニ打チ勝ツコトト、自己ノ生命ヲ投ゲ出スコトヲ要求スル。軍紀ハ軍人ニ向ツテ異常ノ事ヲ期待シ、軍人ヲシテ、夫レヲ曲グベカラザル事、當然ノ事ト、考ヘルホドニ、習慣ト爲サネバナラス。

ダーヴィンガ其名著「人類ノ起原」中ニ、「軍紀ノ正シイ兵卒ガ、軍紀ノ無イ鳥合ノ衆ニ對シテ示ス所ノ優越ハ、主トシテ各人ガ其戰友ニ對スル信頼ノ結果デアアル」ト述べテアルノハ、良ク軍紀及其偉大ナル勢力ヲ説明シ得タモノト云フベキデアアル。

實ニ此ノ絶大ノ信頼コソ、軍紀ノ働ヲ現ハサシムル最モ貴重ナル仲介者デアアル。之ニ依ツテ吾々ガ屢々口ニスル所ノ軍紀ナル語ノ特性モ、明カニ認メルコトガ出來ル。

「上カラノ命令規則ハ、必ズ遵奉セネバナラス」ト云フコトヲ示シ得ル程度ノ嚴格ノ規則ガ、常ニ必要ナ^レハ言フ迄モナイ。「血氣ハ規則ノ力ヲ俟タナケレバ、到底之ヲ制縛スルコトガ出來ス」ト、

クラウゼウイツツモ云フテ居ル。不從順ノ行爲ハ、必ズ即時嚴重ニ戒メネバナラス。此ノ點ニ就テハ世界大戰中ノ獨逸軍ハ、佛蘭西ト反對ニ、餘リ軟弱デアツタ。軍隊ニ於ケル軍紀ノ弛緩ガ、見エ始メタ時ニ、議員ノ壓迫ノ爲メニ、抗命及逃亡等ニ對スル刑罰ヲ輕減シテ了ツタ。此ノ時コソ、從來ノ罰則ヲ嚴重ニ實行スベキデアツタノニ、緩カナ手綱、寬大ナル取扱ガ、此ノ場合ノ事態ヲ改善シ得ルモノト考ヘタノガ、抑々大ナル誤デアツタ。

軍隊ニ居ル軍人ガ、上下ノ別ナク悉ク皆一樣ニ服從ヲ守ルト云フコトガ、軍紀ニ取ツテ特ニ大切デアアル。口ヤ筆ヨリモ手本ヲ示スノガ一番効果ガアル。自己ノ戴ク將校ガ、其上官ニ服從スルノヲ見タ兵卒ハ、直チニ自己モ亦斯クスベキモノト云フ考ヲ起ス。然シ上官カラ命令ヲ受ケタ時ニ、之ニ服從スルダケデ能事了レリト思フテハナラス。自己ノ勤務其物ニ對シテ、良ク服從ヲ守ルベキデアアル。兵卒ニ取ツテハ、自己ノ責務ホド神聖ノモノハ無イ。而シテ單純ナ義務ヲ忠實ニ果サセルコトガ、高尚ナ義務ヲ説クヨリモ理解ガ良イ。將校トナル者モ亦、此ノ基礎カラ修得セネバナラス。之ヲシテ先ヅ普通ノ兵卒ト全ク同様ノ位置カラ、修業ヲ始メサセル制度ノ精神モ、全ク此所ニ存スルノデアアル。即チ命令ヲ下シ得ンガ爲メニハ——殊ニ、一兵卒ノ單純ナル頭ニモ良ク、理解シ得ル如ク命令シ得ンガ爲ニハ——先ヅ自ラ服從スルコトヲ修業セネバナラス。尙ホ又最下級ノ者ノ職務ノ服行ヲモ、自己ノ體驗ニ依ツテ修得セネバナラス。後ニナルト其仕事ニ縁ガ遠クナルガ、一旦之ヲ修得シテ置ケバ、大

ニ兵卒ノ信用ヲ得ルノデアアル。

昔カラ獨逸軍隊ガ、所謂「小勤務」(内務)ナルモノヲ熱心ニ實行シテ居ルノハ、決シテ單ナル慣例ヤ、役ニモ立タヌコセツキカラ來タモノデハ斷ジテナイ。之レハ全ク兵卒ノ理解力ニ應ジタ方法ニ依ツテ、義務ノ觀念ヲ涵養セントスル、精神上ノ目的ヲ持ツテ居ルノデアアル。此ノ細事ヲ忠實ニ實行スルト云フコトハ、啻ニ軍事的教育ノ用ヲ爲スノミデナク、ヤガテ又人間トシテノ修養ニモ推シ及ボスベキデアアル。即チ之ニ依ツテ、清廉、規律、正確、注意、正直、信實等ノ徳性ヲ助長シ、且ツ夫ニ依ツテ、軍紀ノ養成ニ資スベキモノデアアル。

以前カラ隊附將校ニ、經理事務、就中兵卒ノ被服及糧食ノ事務ヲ擔任サセタノハ、軍紀ノ養成ニ資セントスル、深キ精神ガ含マレテ居タノデアアル。單ニ經濟上ノ顧慮ノミデナク、寧ロ之ニ依ツテ上官ト部下トノ關係ヲ親密ニシ、上官ノ部下ニ對スル感化指導ヲ、促進スルノ主旨ニ基クノデアアル。被服庫及兵卒ノ居室ノ執務、炊事場及食料品倉庫ノ監視等ハ、軍紀ノ責任者、支持者タルベキ中隊長ヲ、其中隊ノ父ト爲シタノデアアル。兵卒ガ動々モスレバ笑談ニ、中隊長ノ事ヲ「親父」ト云フタノハ、無邪氣ナ精神ノ内ニモ、深イ情味ガコモツテ居ルト思フ(此ノ語ハ割合二年取ツタ上級將校チノ罵ル意味ニモ用ヒラレタノデアアルガ)

舊獨逸軍隊ニ於ケル此ノ特殊ノ仕組ガ、義務ヲ忠實ニ果タスノ必要ヲ教ヘタト共ニ、又完全ナル共同、共存ノ情誼ヲ養成シタ。其所ニ獨逸軍隊ノ長所ガアツタノデアアル。上、下共同シテ眞面目ニ仕事

ヲコルコトガ、將校兵卒間ノ親密融和ヲ來シ、夫レガ即チ世界大戰ノ戰場デモ、立派ナ實ヲ結ンダノデアアル。而シテ又此ノ情誼ガ革命ノ悲ムベキ數年ヲ經テ、新獨逸國軍——目下頻リニ舊軍隊ノ貴重ナル傳統ノ保續ニ努力シツ、アル所ノ軍隊——ノ列伍ノ間ニ復活シツ、アルノデアアル。

今日ノ獨逸軍隊ニ於テハ、各兵ガ自己ノ經驗カラ、「己レノ屬スル將校ハ、如何ナル場合ニ於テモ、其隊ヲ見棄テ、走ルガ如キコトヲセヌ」ト、確信シテ居ル。自己ノ隊ノ上官モ、部下ト同一ノ利害ヲ有スル一家族デアルト考ヘ、危急ノ場合ニモ泰然自若トシテ、相憑リ相扶ケテ行クコトヲ疑ハヌ。此ノ信念、コソ彼ノダーヴィンノ言ヘル信賴ヲ生ムノデアアル。而シテ軍紀正シキ軍隊ノ長所ガ、此所ニ存スルモノト斷定シタノハ、流石ニ人性ヲ解セル此ノ大學者ノ卓見ト云フベキデアアル。兵卒ガ敵ノ彈雨ノ中ヲ、敢然トシテ奮進スルノハ、自己ノ隣兵モ亦斯ク爲シ、自己ノ上官モ卒先シテ前進シ、自分ハ夫レ等ヲ見殺ニシテハナラヌト考ヘルカラデアアル。

此ノ上下ノ一致、共同ノ情誼カラ發スル所ノ內的勢力ハ、若シ單ニ法規ニ依ツテ立テラレタル秩序ガ、一時失ハレタ時デモ(戰鬪ガ混亂ニ陥リ、精神ガ興奮シタ時ニハ、上官ノ直視ガ届カヌ)、尙ホ依然トシテ之ヲ維持シ得ベキデアアル。此ノ場合ニ於テハ兵卒ノ心ノ中デ、義務ノ觀念ト名譽ヲ重ズル精神トガ、合一シテ決シテ、他人ニ後ヲ取ツテハナラヌト云フ決心ヲ生ミ出スノデアアル。

此ノ如キ次第デ、我ガ獨逸軍隊ハ、世界大戰ニ於テモ、何レモ皆從來ト同様ニ、苟モ全般ノ爲ニ利

益ト判断シ、若シクハ現ニ好機會ガ現ハレタ場合ニハ、假令優勢ノ敵ニ對シテモ、何等躊躇スル所ナク、之ヲ攻撃シ得タノデアアル。重要ナル企圖ヲ敢行セル將官ハ、己レノ砲聲ヲ聞ケバ隣接兵團ガ直チニ馳セツケルモノ、又自己ガ有利ニ着手シタ仕事ガ、假令自己ノ力ニ及バナクナツテモ、要スレバ他ノ隊ガ之ヲ完成シテ呉レルモノト、確信シテ居ツタ。總テ指揮官ハ小隊ノ先頭ニ立ツ少尉ニ至ルマデモ、悉ク皆此ノ如ク信ジ且ツ之ヲ實行シタ。之ニ依ツテ獨逸軍隊ノ威力ガ大ニ増進サレタコトハ、自明ノ理デアアル。之ガ爲メ、統帥部ノ如キ、戦闘及會戰ノ經過ニ直接干與スルコトノ十分ニ出來ヌモノデモ、尙ホ安心シテ前述ノ如キ決心ヲ爲シ得ルコトモ亦、説明ヲ要セヌ。蓋シ假令其進路ヲ異ニスルモ、苟モ餘力ノ存スル部隊ヲ持ツ者ハ、必ズ共同シテ其敵ニ向ツテ呉レルコトヲ承知シテ居タノデアツテ、何事カ未ダ實行シ得ル餘裕ガアルニモ拘ハラズ、他隊ノ苦戰ヲ傍觀スルガ如キ指揮官ハ、斷ジテ一人モ無イコトヲ確信シ得タ。蓋シ獨逸軍隊ノ軍紀ガ夫ヲ保證シテ呉レタノデアアル。

此ノ軍紀コソ、世界大戰中ノ我ガ獨逸ノ諸軍ヲシテ、十分ノ活動ヲ爲サシメタモノデアアル。然シナガラ此ノ軍紀ガスクマデ十分ニ其力ヲ發揮シ得タノハ、全軍ノ士卒ガ其理想トスル目標、義務ノ忠實ナル服行及國家ニ對スル献身ト云フコトニツキ、同じ考ヲ以テ全然相一致シ、相共力シタカラデア

ル。上述ノ如ク、嚴正ナル軍紀ノ基礎ハ、主トシテ道德的方面ニ置カル、ノデアアルガ、之ヲ維持スル爲

ニハ、又純然タル外部的ノ状態ニモ、注意ヲ拂フ必要ガアル。

世界大戰ニ於テ吾々ハ、堪ヘラレヌ状態、即チ人力ヲ超越セル勞苦、激シキ戦闘ノ壓迫、難苦、缺乏、饑餓其他反逆的行爲ノ爲ニ惱マサレテ、流石ニ根柢ノ深カツタ獨逸軍ノ軍紀モ、終ニ間々弛廢ヲ見ルニ至ツタ。此ノ如キ情勢ニ對シテ執ルベキ唯一ノ手段ハ、時機ヲ逸セズ果斷ノ處置ヲ取ルニアル。斯クスレバ千九百十四年八月ニ於ケル獨逸軍ノ如キ困難ノ情勢ニ陥ルコトヲ避ケ得ル。又若シ戰爭實行ニ就テノ一般的狀況ガ有利ナラバ、甚ダシキ過失ヲ犯サル限り、其經過モ大ニ有利トナリ、軍紀ノ動搖ヲ來ス心配モ亦無クナルデアラウ。

軍隊ヲシテ、無駄骨ヲ折ラセラレトノ感^{カンジ}ヤ、適當ナ處置ヲ取り、周到ナ注意ヲ拂ヘバ斯程ノ損害ヲ受ケズニ濟ムト云フ感^{カンジ}ヲ、決シテ持タセテハナラス。此ノ如キ事ガアルト、軍紀ハ甚ダシク害サレルノハ、當然デアアル。現ニ露軍ノ統帥部ガ、獨軍ノ陣地ヲ攻撃スルニ當リ其無限ノ人員ヲ不注意ニ消費シタ爲ニ、軍隊ニ於ケル革命思想ノ傳播ヲ大ニ促進シテ了ツタ。單純ナル兵ガ、武装ヲセズニ、敵彈ノ下ニ送ラレ、戰死シタ戰友ノ小銃ト彈藥ヲ採ツテ戰ヘ、ト云ハレタナラバ、如何ナル感^{カンジ}ヲ持ツデアラウカ。

尙ホ編制モ亦重要ナ關係ヲ持ツテ居ル。

長ク慣レテ居ル平時ノ建制ヲ、戰時ニモ成ルベク維持スベキデアアル。之レヲ破壞スルトキハ、如何

ナル場合ニ於テモ、必ズ軍紀ニ害ガアル。之レニ依ツテ生ズル利益ハ、其害ヲ償フニ足ラス。元ノ獨逸軍隊ニ於テハ、軍隊ノ家族的生活ヲ十分ニ養ヒ、隊長ハ皆自己ノ聯隊、大隊若シクハ中隊ヲ自慢ニシ、夫レニ甚大ノ信賴ヲ置キ、他ノ國軍ヨリモ遙カニ多クノ勢力ヲ部下ニ對シテ持ツテ居タ。兵卒モ亦之レト同様デアツテ、何レノ豫備兵モ、舊所屬聯隊ト共ニ、出征センコトヲ熱望シタ。蓋シ自分デハ其隊ガ全軍中デ一番良イ聯隊ト思ツテ居タノデアアル。其所ニ入隊スレバ知人、戰友、舊上官等ガ居テ、夫レ等ノ人々トノ間ノ諒解モ容易デアリ、隊ノ様子ニモ直グニ慣レルカラ萬事ガ好都合デアアル。自分モ嘗ツテハ其隊ノ名譽ノ爲メニ盡シタコトガアリ、其隊ノ一員タルノ誇ヲ感ジテ居タノデアアル。之レニ全ク各部隊間ノ高尙ナル競争ヲ起ス所ノ團體的感情(愛隊心)ノ現レタノデアアル。然ルニ千九百十四年ノ動員ニハ、多數ノ部隊ヲ新設シタ爲メニ、多大ノ移動ヲ生ジ、爲メニ僅カニ一部ノ者ニノミ、右ノ希望ガ叶ヘラレタニ過ギナカツタ。然シ當局ニ於テモ爲シ得ル限りハ、此ノ弊ヲ制限シ、最も大切ナ時機ニ、兵卒ト其指揮官トヲ引キ離サヌヤウニ意ヲ用ヒタノデアアル。戰爭中ニ既存ノ師團ヲ割イテ、更ニ新タナ師團ヲ増設スル際ニモ、纏マツタ中隊、大隊及聯隊ヲ新設隊ニ移スコトニシタ。此ノ方法ニ依ツテ、小ナル單位ハ破壊サレズニ濟ンダ。實際兵卒ニ取ツテハ大單位ヨリモ、小單位ノ方ガ、重大ナ關係ガアルノデアツテ、己レノ故郷ト頼ムノハ、軍ヤ軍團デハナク、聯隊ヤ中隊ナノデアアル。傷病兵ガ再ビ全快シテ從軍スルトキニ、自己ノ舊聯隊ニ入り得ズシテ、至急ニ、補充ヲ要スル部隊ニ

編入サレタコトハ、誠ニ不幸デアツタ。一ツノ建制部隊内ニ、系統ヲ異ニスル者ガ混交シテ居ル場合ニハ、常ニ不利ヲ感ジ、之レガ爲メニ、統御ガ困難トナツタ。是レハ獨逸帝國內デモ、出身、系統ヲ異ニスルニ從ヒ、或者ハ嚴格ニ、或者ハ穩カニ、或者ハ親切ニ取扱フノヲ可トスルカラデアアル。甲ハ適切ノ時ニ叱責シテ、督勵シタ方ガ良ク、乙ハ大ニ稱賛シタ方ガ獎勵ニナル。現ニ伯林人ヤブランダンプルヒ人トウエストフアリア人、東普人ト、ラインランド人トノ間ニハ、氣質ノ上ニ多大ノ相違ガアル。指揮官中戰時ニ指揮シタ軍隊ヲ平時カラ知ツテ居タ者ハ、良ク其心ヲ捕ヘル事ヲ心得テ居タカラ、萬事ニ好都合デアツタ。

隊ノ慣習ト愛隊心トガ、舊陸海軍ノ精神的原動力デアツタ。同一隊内ノ將校ガ餘リ頻繁ニ交代シテハ、之レヲ發達セシメ得スコトハ勿論デアアル。

兵卒ノ教育ヲ主ニ掌握スル所ノ中隊長ニ就テ殊ニ然ルヲ認メル。尙ホ各部隊ノ平時人員ヲ過度ニ少ナカラシメルノモ良シクナイ。蓋シ或傳統ヲ繼承サセルニハ、其外形ガ貧弱デアツテハナラズ、又各種ノ専門教育ヲ施ス爲ニモ、比較的多クノ人員ヲ必要トスルノデアアル。

道德的ノ軍紀ノ外ニ、尙ホ軍隊ニ於ケル智能ノ涵養ガ必要デアアル。之レガ無クバ、統率ガ著シク困難ニナル。急速ニ編成シタ國軍、危急ノ場合ニ狩リ集メタ義勇隊等ニハ、才能モ教養モアル立派ナ人物ニ乏シクナク、國民中ノ最良ノ分子(假令今迄軍務ニ服シタコトガナクとも)斯カル場合ニハ軍旗

ノ下ニ馳セ參ズルカラ、心的能力ノ高イ者ヲ多數ニ集メ得ルノデアアルガ、軍事ニ關スル齊一ノ訓練ヲ受ケテ居ラス爲ニ、規律正シイ働ガ出來ナイノデアアル。

此ノ齊一の訓練ガ有ツテ始メテ、行動ノ統一ガ期シ得ラレル。指揮官ノ行爲ハ強イテ一定シタ規則ニ符メ込ム必要ハ無イガ其任務ヲ果ス方法ハ主旨ニ於テ相一致シテ居ラネバナラス。之レハ復タ戰闘教令ノ研究及實地ノ演練ニ待タネバナラス。要スルニ指揮官ニハ確實ナ訓練ガ必要ナノデアアル。

此ノ如キ訓練ガ國軍ニ於テ良ク行ハレタナラバ、高級指揮官ハ安ンジテ多クノ事ヲ、各指揮官ノ獨斷專行ニ、一任シ得ル。即チ自ラ干與シ得ザル場合ニハ、假令自ラ實行スル通りニハ行ハレヌ迄モ、自己ノ方針ニ戻ルコトナク、概ネ適當ノ處置ヲ、部下ガ實行シテ吳レルコトヲ確信シ得ル。

尙ホ又一般ノ指揮官ガ、同一ノ社會的階級(地位)ニ在ル時ニハ、精神的軍事教育ノ齊一ガ期セラレル。既ニ平時カラ、將校團ノ大部分ヲ下士卒ノ階級カラ採用シアルトキハ、最早行動ノ完全ナル統一ハ、確實ニ行ハレナイ。

第三節 動員及開進

總テ國軍ガ戰爭行爲ヲ始ムルニハ、先ヅ平時狀態ヨリ戰時狀態ニ移ラネバナラス。之レニ關連シテ行ハル、諸ノ仕事ヲ動員ト稱スル。其圓滑且ツ迅速ナル進展ガ、有利ニ開戰ヲ爲ス爲メノ第一ノ要件

デアアル。現今行ハル、所ノ動員ヲ發明シ、且ツ組織立テタモノハ、普魯西デアアル。其起リハ、遠クフリードリツヒ大王ノ時代ニ遡ルモノデ、大王ノ處置ガ、其後絶エズ(殊ニモルトケニ依ツテ)改良サレタ。夫レガ千八百六十六年ノ戰役ノ初メニ、非常ナ效果ヲ舉ゲ、夫レカラ獨逸全體ニ普及スルニ至ツタ。千八百七十年七十一一年ノ普佛戰爭ニ於テ、我が軍ガ到ル所有利ナ戰ヲ爲シ得タノハ、主トシテ佛軍ノ動員ガ甚ダシク滯滞シタルニ反シ、我が軍ノ方デハ、奧國トノ戰爭ノ經驗ニ基ヅイテ、動員法ヲ益々改善シテアツタ爲デアアル。

千九百十四年ニハ、今迄ノ戰爭トハ大ニ趣ヲ異ニシ、獨逸ガ動員ニ於テ、敵ニ先ヅルコトガ出來ナカツタ。隣接諸國モ亦、吾ガ邦ニ學ビ、獨逸流ノ動員法ヲ實施シタノデ、獨逸軍ガ國境デ開進シタ時ニハ、敵モ亦同様ニ戰備ヲ整ヘテ吾ニ對抗シタ。

如何ナル部隊ト雖モ、直チニ戰備ヲ整ヘテ、衛戍地ヨリ敵ニ向ツテ前進シ得ルモノハ無イ。動員開始後數時間内ニ、國境守備若シクハ特別任務ノ爲ニ、出發スル部隊ト雖モ亦、同様デアツテ、之レハ定員ニ滿タザル兵數ヲ以テ出發シ、敵前ニ於テ戰時狀態ヘノ轉換ヲ完了スルノデアアル。世界大戰ノ初メニ於テ、此ノ種ノ部隊ヲ以テリエーデヲ攻略セルコトハ、世人ノ知ル所デアアル。其一部ノ如キハ、任務終了ノ後ニ、動員完成ノ爲ニ、再ビ舊衛戍地ニ歸ツタモノサヘアル。

動員ハ陸軍省ノ管掌ニ屬シ、同省ヨリ毎年計畫ヲ立テ、官衙及軍隊ニ示達スル。

千九百十四年ノ動員ノ時ハ、二日前ニ先ヅ「動員準備」ヲ令シ、其二日間ニ動員ノ進捗ヲ圓滑ナラシムル爲メノ規定ヲ實行スル爲ニ、若干ノ技術的準備作業ヲ行ツタ。

此ノ通告ハ實ニ、百萬餘ノ在郷兵ヲシテ、其職業ヲ抛ツテ、軍旗ノ下ニ參集スベキ信號デアツタ。豫後備兵ハ悉ク皆、平生カラ動員ノ場合ノ規定ヲ手交サレ、各人ハ夫レニ依ツテ自己ノ應召スベキ部隊、日次及時刻、其所ニ赴ク爲ニ利用スベキ列車、其途中デ食物ヲ受領スベキ場所マデモ、承知シテ居タノデアル。此ニ於テ鐵道ハ非常ナ活動ヲ開始シタ。參謀本部ノ一ツノ班ハ、鐵道ノ官衙ト連絡ヲ取ツテ、精密ナ準備ヲ爲シ、輸送ノ爲ニ應召者ヲ取纏メ、且ツ所要ノ列車ヲ整ヘタ。同時ニ他ノ火急ノ輸送ヲモ開始シタ。即チ取り敢ヘズ國境ニ派遣スル所ノ部隊ノ輸送、及各種ノ軍用器材、馬及食料品ノ輸送ノ外、尙ホ石炭及空ノ貨車及汽關車等ノ移送ヲ、殊ニ必要トシタ。ソコデ、動員及開進ノ期間ニハ、普通ノ鐵道運表ノ代リニ、軍事運表ヲ用ヒタ。之レハ軍事上ノ要求ヲ主トシ、且ツ長イ列車ノ速度ノ均一、各列車ノ時間ノ間隔ノ平均等ヲ實行シ、普通人ノ乗車、及都市ヘノ食料品等ノ輸送ハ、爲シ得ル限り制限シタ。而シテ軍事運表ニ依ツテ實施スルニハ、鐵道網上ノ空車等ヲ、新ニ配置シ直ホス必要ヲ生ジタ。工業ヤ商業ノ盛ンナ都市ニ、之ヲ集メル必要ガナクナツテ、主トシテ大部隊ノ居ル衛戍地ヤ、野戰軍ノ出テ居ル宿營地等ニ集メネバナラナカツタ。

常設隊ノ動員ハ最モ容易ニ行ハレタ。其中デモ步兵聯隊ハ、總テガ單純デアルカラ、殊ニ容易デアツタガ、乘馬隊等デハ、多數ノ新馬ヲ入レタ爲ニ、多少困難ヲ感ジ、就中輜重隊ハ多數ノ縱列ヲ編成スル爲メニ餘程苦マサレタ。

既存ノ官衙、新設スベキ官衙及部隊等ハ、既存ノ諸隊ニ配當シテ其動員ヲ擔任サセタ。各部隊官衙ノ爲メニ、夫々特別ノ日程表ニ依ツテ、其實行スベキ仕事ノ順序ガ定メテアツタ。倉庫ニハ被服、裝具、武器ガ直グ渡サレルヤウニ用意シテアリ、車輛ヤ馬具モ車庫カラ引キ出スバカリニナツテ居タ。

斯クシテ、兵營及練兵場ニハ、既設ノ司令部、豫備兵隊、後備兵隊、國民兵隊、新設ノ軍司令部、兵站監部、要塞司令部等（夫レニハ多數ノ種々ノ部班ヨリ成ル本部ヲ持ツテ居タ）ノ外、尙ホ監督部、糧食及郵便部、野戰製麵麩部、金櫃、法務、衛生、宗教等ヲ掌ル者ガ出來タ。多數ノ集積場及倉庫ヲ設ケ、各種ノ食料品ヲ購入貯藏シ、馬、自動車、自動二輪車ノ多數ヲ徵發シ、且ツ之レヲ軍隊官衙ニ分配シタ。縱列ノ車輛ニハ積載及繫駕ヲ實行シ、且ツ駕馬ノ調教ヲ行ツタ。車廠縱列ノ爲ニハ、車輛ヲモ購入シタ。自動車、飛行機、飛行船ノ燃料ノ供給ニハ、特別ノ處置ヲ必要トシタ。危險ノ要塞ハ防禦狀態（臨戰地境狀態）ヲ令シ、戰時守兵、各種ノ機關及官衙ヲ設ケ、且ツ食料及家畜等ヲモ準備シタ。平時業務ハ之レヲ閉鎖スルカ、若シクハ留守ノ諸官衙ニ移シ、記錄及帳簿ハ、戰時中確實ニ保管シ得ル道ヲ講ジタ。

此レ等ノ仕事ヲ始メ種々多數ノ業務ハ五日乃至七日間ノ内ニ完了シ、以テ動員セル部隊ヲ、爲シ得ル限り早ク國境ニ向ツテ輸送シ得ル如クシタ。

千八百七十年ノ役ニハ、七月十六日ノ夜ニ動員令ガ出テ、八月四日ニ國境ヲ越エ、且ツ第一回ノ勝利ヲ得タ。千九百十四年ニハ、其規模ガ宏大デアリ、且ツ裝備及作戰ノ方法ガ全ク變ツテ前者ヨリモ非常ニ困難ナ狀況ニ置カレテアツタニ拘ラズ、一層早ク實行サレタ。七月三十一日ノ午後一時ニ、最初ノ準備ノ處置ニ着手シ、動員第一日ガ八月二日デ、同月十六日ニハ既ニ、西方戰線ガ敵ニ向ツテ一般的前進ヲ開始シタ。東方正面ニ於テハ其翌日ニ獨逸ノ領土内デ、第一回ノ戰鬪ガ實行サレタ。

獨逸ノ動員ハ千九百十四年ノ時モ、從來ノ戰役ノ時ト同様ニ、圓滑ニ進捗シ、何所ニモ故障ガ起ラズ、又陸軍省ヤ參謀本部ノ質議的照會ナドモ、無カッタホドデアル。

帝國ノ統治及行政諸機關ハ、良ク此ノ大任務ニ堪ヘルコトヲ證明シタ。而シテ其際一般國民ガ、各機關ノ繁劇ナル業務ニ對シテ、熱誠ナル援助ヲ與ヘタ。斯クテ動員ニ依ツテ、國家ノ機關ガ完全デアルコトヲ示シ得タノミナラズ、國民ノ敵愾心モ亦申分ノ無イト云フコトモ分リ、兩者其實ニ間然スル所ガナカツタ。

然シ尙ホ將來ニ對シテ多少ノ希望ガアル。若シ戰時狀態ニ移ル爲メノ附帶事項ガ、更ニ良ク一般ノ人ニ知レ渡ツテ居タナラバ、好都合デアツタラウト思フ。動員ヲ細部マデ準備スルコトガ、獨逸軍ノ長所デアツタ時代ニハ、夫レヲ秘密ニスル必要モアツタガ、夫レガ最早獨逸軍ノ專有物デナクツテ居タノデアアルカラ、左程秘密ニスル必要ハナカツタ。佛國デハ既ニ十年前ニ公ノ所カラ、動員ニ關スル平易ナ、教科書的ノ書物ガ配布サレテアツタ。獨逸ガ此ノ如キ處置ヲ怠ツタ爲メニ、戰時狀態ニ移ルニ就テ、協力スベキ責任ノアル多數ノ人々ガ、自己ノ職責ニ就テ良ク理解シテ居ナカツタト云フ結果ヲ生ジタ。(而カモ夫レガ全般ノ爲メニモ何等ノ利益ノ無イ、誤ツタ秘密維持カラ來タノデアアル)。加之動員ニ就テノ知識ガ普及シテ居ナカツタ結果。民衆ガ「ヒステリー」的ノ興奮ニ襲ハレ、荒唐無稽ノ風説ヲ信ジテ、夫レヲ傳播シ、愚ニモツカヌ處置ヲ當局ニ強要シ、馬鹿々々シキマデニ間牒ニオビエテ、罪モナキ同胞ヲ殺シタリシタノデアツタ。之レハ大國民トシテハ感心ノ出來ヌ事デアルガ、國民ヲシテ此ノ如キ氣分ヲ起サセルトキハ、軟弱ナ政府ヲシテ其處置ヲ誤ラセ、極メテ大切ナ時機ニ、頭腦ノ冷靜ト明透トヲ失ハセルコトニナルカラ、今後ハ一層之レヲ戒メネバナラヌ。

民衆ガ如何ニ知ラウト努メテモ、動員ノ結果即チ、動員ヨリ生ズル戰鬪力ノ兵數、編組、區分及用途ヲ秘匿シ、且ツ其秘密維持ニ深甚ノ注意ヲ拂フベキハ、勿論デアアル。

以上ノ二ツノ要求ハ別ニ面倒ナク兩立サセ得ル。

扱テ動員ニ引續イテ、參謀部ノ掌ル所ノ開進ガ實行サレル。之レハ戰備ノ出來タ戰鬪部隊ヲ、國境ニ近ク集メルノデアアル。開進ハ、全般ノ作戰計畫ノ主ナル要素デアアル。但シ此ノ作戰計畫ヲ立テルノニハ、單ニ軍事上ノ見地ノミナラズ、政治上經濟上ノ願慮ヲモ要スルノデアアル。依ツテ開進ニ就テハ作戰計畫ト併セテ少ノ節ニ於テ更ニ説明スルコトニシ、此所ニハ單ニ其專門的方面ニ就テノミ述ベルコトニスル。

開進ノ際ニ取ルベキ第一ノ區處ハ、國境ノ守備デアアル。國境ノ諸州ハ敵軍ノ一部ガ殺到シテ、其地方ヲ蹂躪シ、住民ニ非常ナ災厄ヲ被ムラス恐レガアル。又敵軍ガ國境ニ侵入シテ來レバ、最初ノ會戰ガ自國ノ土地デ實行サレルコトニナル。何人ト雖モ之ヲ避ケタイト願ハヌ者ハアルマイ。千九百十四年ニ獨逸軍ガ劣勢ナリシニ拘ハラズ、大體ニ於テ斯カル成行ニ陥ルコトヲ避ケ得タコトニ就テ、我が國民ハ大ニ軍隊ニ感謝スベキデアアル。東普魯西ノ荒廢ヤ、白耳義及佛蘭西ノ陣地戰ノ跡ヲ目撃シタ者ハ、開戰ノ時ニ直チニ有力ナ軍隊ヲ、國境ニ送ルノ必要ヲ痛感シタデアラウ。即チ國軍ヲ其衛戍地ニ於テ、迅速且ツ整然ト動員スルノミナラズ、之ヲ作戰計畫ニ定メアル國境ノ地域ニ、速カニ送ル必要ガアルノデアアル。之レニモ亦根本的準備ガ緊要デアアル。若シ夫レニ缺クル所ガアルト、焦噪、錯誤、缺陷等ノ爲メニ、不幸ヲ招キ、國民ノ敵愾心ヤ志氣ノ旺盛ヲ以テシテモ、到底夫レヲ補ヘヌコトニナル。

然シナガラ、茲ニ一考ヲ要スルハ、危險ハ必ズシモ怠慢ニノミ存スルノデナク、接壤國ガ互ニ競フテ動員及開進ヲ急グ結果カラ起リ易イ所ノ、過度ノ要求モ亦、等シク危險ヲ包藏スル。如何ニ精銳ノ部隊ト雖モ、不可能ノ任務ヲ之ニ要求シテハナラス。到底力デ及バヌ事ヲ課セラレタトノ感^{カン}ジハ、其明察ト決心トヲ鈍ラス。此所ニモ亦、動々モスレバ現代人ノ病弊タル「神經質的ノ過度ノ興奮」ガ現ハレ易イノデアツテ、之レガ爲メニ戰爭ニ惡影響ヲ及ボシタ實例ハ、一再ニ止ラヌノデアアル。此ノ如キ次第デアルカラ、開進ノ期間ハ如何ニモ貴重ナ時間ニハ相違ナイガ、餘リ急イデ、秩序ヲ亂スヤウナ事ガ起ツテハナラス。

尙又國境ノ防備ノ要求ガ、今日ハ從來ト異ツタ意義ヲ持ツテ居ル。戰爭ノ指揮ガ獨裁君主ノ自由意志ニ屬シタ時代ニ於テハ、戰爭ノ時ニ全州ヲ放棄シタ實例ガ、少ナクナイ。又過去ノ戰爭ノ經驗ハ、重大ナル利害ノアル場合ニハ、此ノ如キ犧牲ヲモ斷乎トシテ拂フベキコトヲ教ヘテ居ル。然シ今日ハ全國民ノ勇氣、勢力、及信賴ノ外、尙ホ其國民的名譽ト云フ事ガ、非常ナ力ヲ持ツテ居ルノデ、中々此ノ考ヲ推シ通ホシ兼ネルノデアアル。今假リニ獨逸ガ、世界大戰ノ初メニライン左岸ノ地、若シクハワイクセル(ウイステユラ)河以東ノ普魯西ヲ放棄シタ場合ヲ想像シテ見ルガ良イ。露國モ亦千九百十四年ニハ、獨軍ノ攻撃ヲ受クルニ先チ、其軍ヲ廣大ナル國土ノ中ニ撤退スルコトノ出來ヌ情勢ニアツタノデアラウ。

此ノ如キ處置ヲ取ル理由ハ、軍人カラ適當ト認メラレテモ、一般ノ民衆ニハ、夫レガ分ラヌノデ、夫レホドノ必要モ無ササウナノニ、廣大ナル國土ヲ空シク敵ノ蹂躪ニ委スルコトヲ、頗ル不安ニ思フノデアラウ。夫レガ復タ國民ノ戰爭繼續ノ決心ニモ、惡影響ヲ及ボスコトニナル。千九百十四年ニ我が國ノ防衛手段ノ効モナク、露軍ガ東普魯西ニ侵入シテ來タ時ニハ、我が最高統帥部ハ、國民ノ要請ニ動かサレ、無理ニ西方軍カラ兵力ヲ割イテ、東方ニ送ルニ至ツタ。即チ、新聞紙ヤ一般輿論ハ、我が國土ヲ敵ノ手ヨリ救ヒ出スコトヲ、激シク要求シタ。ソコデ尙ホ佛國ニ對スル勝利ヲ獲テ居ラヌ内ニ、二軍團ノ兵ヲ實際ニ東方戰場ニ輸送シタノデアアル。之レニ依ツテ見ルモ、此ノ問題ニ關スル事ガ如何ニ將帥ノ決心ニ影響ヲ及ボスカヲ窺フコトガ出來ル。

一ツノ州ヲ任意ニ放棄スレバ、其所ノ物質及人間ノ利用ヲモ斷念スルコトニナル。夫レガ中々出來ヌノデアアル。例ヘバ若シ獨逸國民ニ取ツテ大切ナ農産地タル、東普魯西ヲ棄テレバ、國民ノ食料供給ガ怪シクナリ、ライン左岸地方ノ工業ノ力ヲ借リナケレバ、國軍ノ裝備ト兵器トガ到底完全ニ行ハレヌコトニナル。加之假令尺寸ノ國土ト雖モ、敵ノ占領ニ委スル時ハ、講和ノ場合ニ、他ノ方面ニ於テ餘程有利ノ地歩ヲ占メテ、我が條件ヲ悉ク承認サセル場合デナクバ、之ヲ奪回スルコトガ困難ニナル。世界大戰ニ於テモ證明サレタ如ク、假令微弱ナ兵力ヲ以テ占領セル線デモ、多大ノ抵抗力ガアリ、又重砲兵ガ恐ルベキ破壊力ヲ有スルノ事實カラ考ヘテ見ルト、上述ノ顧慮ハ今日モ尙ホ依然トシテ尊重

ナレルノデアアル。

千八百六年ノ敗戦後、學識アル評論家ガ次ノ如キ説ヲ唱ヘタ。

普魯西軍ハオーデル河ノ後方デ露軍ト合スル爲メニ、手早ク那翁ノ軍ヲ避ケテ同所ニ後退シタ方が有利デアツタラウ。假令其爲ニ、ザクセンガ離反シ、且ツ長キ退軍中ニ多クノ兵ガ逃亡シテモ、彼我ノ兵力ノ割合ガ佛軍ニ不利トナツタデアラウ。

此ノ説ハ誠ニ尤デアアルガ、若シ那翁ノ攻撃ガオーデル河ノ線デ、失敗ニ終ツタ所デ、皇帝ハ尙ホ其間ニ普魯西ノ最良ノ諸州ヲ手ニ有スルコトニナリ、普魯西軍ノ方デハ、開戦前ノ狀況ニマデ戻スニハ、先ヅ自國ノ國土ヲ戰ニ依ツテ奪回セネバナラナカッタ。故ニ最初カラ之レヲ維持セント企テタノハ、決シテ非難スベキデナカッタ。「握ツテ居ル者ノ幸」ト云フ諺ハ、戰爭ニモ當テ箴マル。

故ニフリードリッヒ大王モ、千七百五十七年以來東普魯西ヲ出來ル限リ長ク保有シテ居タ。大王ニラウデツツ地方ノ數次ノ征戰 於テ、オーベルシレデエンノ保護ニ意ヲ用ヒタ。千八百五年ノ役ニモ、普魯西軍ガチューリンドンゲン及フランケンニ集マツテ了ツタ時ニ、尙ホ一兵團ヲナイセ附近ニ留メタノモ、全ク此ノ理由ニ基クノデアアル。千八百六十六年ニモ普魯西軍ハギツチンノ方向ニ向ツテ、ペーメンニ進入スルノガ既定ノ方針デアツタニモ拘ハラズ、尙ホ一軍ヲナイセニ出シタ。世界大戰ノ際ニモ、獨逸ハ先ヅ佛國ニ決定的打撃ヲ與ヘル計畫デアツタノニ、少ナカラザル兵力ヲ東方ニ殘シタ。

扱テ敵ノ脅威ヲ受ケル諸州ノ保護ハ、必ズシモ國境ノ直接ノ占領ニノミ求ムベキデナイ。有力ナル軍ノ近傍ニ於テハ、暴露シアル地方ニモ、敵ガ自ラ危險ヲ感ジテ侵入シ得ヌ場合ガ屢々アル。自ラ攻撃ヲ行フ考デアレバ、其効力ニ依ツテ自己ノ側方ノ土地ハ間モナク安全トナルデアラウ。遠隔セル地帯ニ對シテモ、多クノ場合ニ、敵ノ方カラ餘リ有力ナ部隊ヲ出サヌカラ、其監視ハ國民軍又ハ義勇兵隊ニ任セテモ良イノデアアル。此ノ故ニ千七百九十五年ニ露國ト戰爭ガ起ラウトシタ時ニモ、大臣ノフオン、シユレツタルハ、沼湖、丘阜、森林等ノ一杯アル東普魯西ハ五、六萬ノ民兵ヲ以テ掩護シ、一三要害ノ地ニ兵ヲ止メテ之ヲ支援スル案ヲ立タノデアアル。此ノ考案ハ、我が獨逸カラ分割サレタ此ノ州ノ、現下ノ情勢ニ鑑ミテ、特ニ興味アルモノデアアル。

野戰軍ノ一部デ、先ヅ開進中ノ國境防備ノ任務ヲ負擔シタモノハ特殊ノ場合ノ外ハ、其後ノ大策動ニ參與スベキモノデアアル。但シ、同時ニ敵ノ優勢ナル兵力ヲ抑留シ得ル場合（例ヘバ七年戰爭ニ於ケルレワルド元帥ノ兵團及世界大戰ノ始メニ、露軍ニ對抗セル獨逸ノ第八軍若シクハ有力ナル敵ヲ誘致シテ決勝點ヨリ遠ザケ得ル場合（例ヘバ千八百五年ノ役ニ伊太利ニ於ケルマツセナノ如キ）ニハ、之ヲ我が本軍ヨリ離シテ置イテモ、夫レニ應ズル利益ガ十分ニ收メラレル。現ニ大戰中千九百十六年ノスエズ運河ニ對スル企圖ノ如キハ、其一例デアアル。即チ土耳其兵ニ獨逸ノ兵ヲ交ヘタル一萬ノ軍ニ對シ、英國ハ埃及保護ノ爲メニ有力ナル軍隊ヲ使用シタ。若シ又之レヲソムノ戰場ニ送ツタナラバ敵

ノ優勢ヲ來シテ、其形勢ニ少ナカラザル影響ヲ及ボシタデアラウ。

分離シタル兵團ガ、特ニ此ノ如キ利益ヲ收メ得ル見込ノナキ場合ニハ、之ヲ大決戰ニ招致シ得ル如ク配置シテ置クベキデアアル。

即チ開進ニ依ツテ自國ノ領土ヲ掩護スルコトハ、大ニ必要ノコトデアアルガ、此ノ要求ト大ナル決戰ニ總テノ兵力ヲ協力セシムベキ顧慮トノ調和ヲ謀ラネバナラス。開進ヲ行フベキ線ハ、敵トノ衝突ノ際、成ルベク多クノ利益ヲ收メ得ル如クシ、且ツ其所ニ會合スベキ兵數ヲモ顧慮ニ入レテ、之ヲ選定スベキデアアル。注意ノ周到ト果敢斷行トガ大切デアアル。我が軍ガ敵ニ優ル兵力ヲ開進シ得ルニ先チ敵ガ其前面ニ有力ナル兵ヲ出シ得ル如キ地點マデモ、遠ク開進位置ヲ進メルノハ、良シクアルマイ。斯クスレバ、開進ノ始メニ打チ壞ハサレテ、緒戰ニ敗ヲ招クノ不利ヲ來ス。之レニ反シテ餘リ後方ニ之ヲ選定スルト、貴重ナ地歩ヲ空シク敵ニ讓リ、且ツ其戰鬪準備ニ要スル大切ノ時間ヲモ敵ニ與ヘルコトニナル。敵ニ先チテ自ラ策動ヲ開始シ得ル如キ位置ガ、何レノ場合ニモ一番良イノデアラウ。

強國ノ國軍ヲ、其全國ニ散在スル衛戍地ヨリ、國境ニ向ツテ神速ニ送ルノニハ、鐵道ノ力ニ依ルノ外、他ニ良法ガ無イ。之レハ千八百六十六年ノ役ニ、普魯西軍ガ始メテ鐵道開進ヲ實行シテ以來、各國ノ認ムル所トナツタノデアアル。故ニ歐洲諸強國ノ鐵道ハ、何レモ皆軍ニ經濟上ノ顧慮ノミデナク、軍事上ノ立場ヲモ顧慮シテ建設シテアル。地圖ヲ一瞥スレバ、素人ニモ直グニ夫レガ分ル。例ヘバ露

國ガベトログラード及モスコウヨリワルシヤウニ通ズル二條ノ幹線ノ間ニ、更ニボロゴエヨリジードルツエニ向ツテ一直線ニ、復線ノ鐵道ヲ設ケテアルコトハ、普通ノ考デハ其理由ヲ發見スルニ苦ムノデアアルガ、之ハ全ク開進ノ際、前記ノ二條ノ鐵道ヲ十分ニ利用サセル爲メデアアル。佛國ガルヴィニ—
—ヱイリ、ル、フロンソア線ヲ復々線ト爲シアル理由モ亦、同一ノ主旨ニ基クモノデアアル。

千九百十四年ニハ佛國ガ列強中デ一番ニ、軍事上ノ目的ニ叶ツタ鐵道網ヲ持ツテ居タ。十年ニ亘ル努力ノ結果、終ニ此ノ如キ鐵道網ヲ得ルニ至ツタモノデ、其國境ヘノ交通ハ、之ニ向ツテ全力ヲ注イテ來ル敵國デナケレバ、殆ンド問題トスルニ足ラヌホド、完全ナモノデアツタ。即チ、地中海沿岸—
—ビレニース山脈—大西洋岸ヲ連スル一大弧線ヨリ、復線ヨリ成ル多數ノ幹線ガ、狭小ナルロ、ア二州ノ國境ニ向ツテ走り、常備ノ各軍團ハ各々獨立ノ輸送線ニ依ツテ、開進ヲ行ヒ得ルコトニナツテ居タ。

獨逸ハ地理上及國際上ノ關係カラ、其鐵道網ハ東西兩方面ニ向ツテ、能力ヲ發揮スル必要ガアツタノデ、佛國ヨリ遙カニ困難ナ立場ニ置カレタノデアアルガ、幸ニ其組織ガ完全デアツタ爲メニ、克ク軍事上ノ要求ニ應ズルコトガ出來タ。

如何ナル場合ニモ軍ノ集中ニ時日ヲ徒費シテハナラヌカラ、開進ノ際ハ、國境ヘ通ズル鐵道線ヲ、悉ク各隊ニ配當スベキデアアル。而シテ敵手ニ落ちヌ終末停車場ガ、大體ノ開進線トナル。之ト敵ノ開

進トノ關係ヲ考察スル必要ガアル。固ヨリ其位置ハ判明シテ居ル譯デハナイガ、概要ノ位置ヲ判斷スルコトハ出來ヌコトハナイ。何トナレバ、敵ニ在テモ大體ハ我が軍ト同様ノ見地ヲ以テ開進地ヲ定メルカラデアアル。敵ト鐵道線ノ位置ト危險ナ諸州(後ニハ首府)ヲ掩護スベキ必要ト國境要塞ノ配置ナドヲ考察スレバ、開進ヲ行フベキ地方ハ、自ラ判明スル。

而シテ多クノ場合ニハ概略ノ敵ノ兵力、及鐵道ノ能力ヲ豫メ承知シテ居リ、從ツテ開進ニ要スル時日ヲモ知り得ルカラ、實際ノ場合ニモ、終局ノ狀勢ハ、大體ニ於テ豫想ト左程相違スルコトハナイデアラウ。現ニ餘程以前カラ佛國ノ軍事界ニ於テ發表サレタ所ノ、獨逸ノ西方正面ニ於ケル開進法ニ對スル豫想ガ、千九百十四年ニ於テ我が軍ノ實行シタ所ト、殆ンド符節ヲ合セタホドニ似テ居タ事モ、敢ヘテ怪ムニ足ラヌノデアアル。而シテ獨逸軍ガア、ロ二州ノ國境ニハ、全然兵力ヲ展開セズニ、右翼ヲ著シク北ノ方ヘ擴ゲルニ相違ナイト判斷シタノハ、誠ニ正鵠ヲ得タモノト云フベキデアアル。而シテ此ノ見地ヨリ、更ニ進ンデ、獨逸軍ガ白耳義ヲ通過シテ前進スル必要ガアルト云フ結論ヲ得テ居ル。現ニ此ノ種ノ意見ニ附ケテアツタ要圖ノ如キハ、一見獨逸カラ出タ材料デハ無イカト疑ハレルホドニ、實際ニ吾ガ當局ノ計畫シタ所ト合致シテ居タノデアアル。

吾ガ軍ノ開進ト敵軍ノ夫レトヲ比較スレバ、止ムヲ得ズ先ヅ防勢ヲ取ラネバナラヌガ、夫レトモ自ラ攻撃ニ移ルベキカ(之ハ何レノ場合ニモ望マシキコトデアアル)、ガ、定マル。其防勢ニ立ツ場合ニ於

テハ、有利ナル陣地ヲ會戰ヲ爲ス爲メニ、兵力ヲ纏メ得ルヤウニナツテ居ルコトガ必要デアリ、攻勢ヲ取ル場合ニハ、集中區域カラ敵ノ方へ、良好ナ道路ガ通ジテ居ルコトガ必要デアル。此ノ要求ニ應ズル爲メニ、軍隊ハ下車ノ後小距離ノ行軍ヲ行フ。其際騎兵ヲ先ニシ、重砲及縱例ヲ後ニスルノハ、言フ迄モ無イ。

鐵道ノ終點ト其所ヨリ敵方へ通ズル道路トノ位置ノ關係カラ、通常全兵力ガ自然ニ各軍毎ニ分置サレル。千八百七十年ニモ、千九百十四年ニモ皆左様デアツタ。兎ニ角此ノ際ニハ、單一ツノ軍ノ兵力ヲ増シ、他ノ軍ノ兵力ヲ減ジ、甲隊ヲ此ノ兵團ニ、乙隊ヲ彼ノ兵團ニ配屬スルト云フヤウナ、徒ラニ時間ヲ要スル所ノ無用ノ兵力移動ナドヲ、行フベキモノデ無イ。

強國ノ有スル兵力ノ開進ガ、多數ノ有力ナ鐵道ノ存スル地方ニ於テノミ行ハレルノト同様ニ、水ヤ食料ノ供給ト宿營トニ都合ノ良イ所デナクバ、一地ニ多數ノ人馬ヲ集メルコトガ出來ヌ。開進地ニハ食料等ヲ其所デ供給シ得ネバナラス。固ヨリ軍隊ハ衛戍地カラ、五、六日分ヲ携行シテハ居ルガ、内地ニ於ケル最後ノ宿營ニ優待ヲ受ケルノハ、體力ノ顧慮カラモ將タ又志氣ノ上カラモ望マシイコトデアル。鐵道ハ主トシテ軍隊ノ輸送ノ爲メニ其力ヲ傾注スベキデアルカラ、少ナクとも、軍隊ノ食料ノ一部ハ、開進地ニ於テ補充スル必要ガアリ、倉庫ヲ充實スル爲メニ、食料品ノ購入ヲ其地デ實行シ得ネバナラス。要スルニ鐵道、道路及水路ノ十分ニアル、豊カナ地方ノ開進ハ、荒涼タル貧弱ナ地方ノ

夫レヨリモ容易ニ行ハレルノデアル。後者ニ在テハ場合ニ依リ、特別ノ救濟策ヲ講ゼネバナラス。現ニ前ニモ述べタ所ノ、土耳其ノ南部パレスタインニ對スル遠征ノ時ニハ、同所ニ兵力ヲ集メル以前ニ先ヅ、鐵道、通路、井戸等ヲ設ケ、諸種ノ衛生的施設ヲ爲シ、且ツ食料ノ全部ヲ送致シタノデアル。

世界大戰ニ於ケル兩軍ノ開進ハ、恰カモ大規模ノ民族移住ノ如キ光景ヲ呈シタ。彼我ノ兩軍ガ開進豫定地ニ向ツテ突然送り出シタ兵力ハ人員八百萬、馬匹二百萬ニ達シタ。之レガ輸送ニ任ジタル無數ノ列車ノ往復ヲ整理スルノニ、如何ニ多大ノ努力ヲ要シタカハ、説明ヲ俟タズシテ明ラカデア。之ガ準備作業ニハ何レノ參加軍ニ於テモ、少ナカラザル數ノ參謀將校、官吏及技術官ヲ要シタノデア

ル。開進ヲ適切ニ行フコトハ中々容易デナイ。其代リニ復タ開進ハ、統帥部ガ全然自己ノ考へ通りニ實行シ得ル唯一ノ戰爭行爲デア。之ニ關係アル條件ヤ、考慮スベキ事項モ、多種多樣デハアルガ、然シ又、愈々敵ノ飛行機ノ偵察行爲ヤ、遠距離射撃砲ノ効力ヲ發揮シ出ス迄ハ、開進ハ再後ノ戰爭中ノ大部分ノ經過ト異ツテ、前以テ豫定ノ出來ルモノデア。蓋シ夫レカラ先ニナルト、運命ガ獨自ノ勢力ヲ振ヒ始メテ來テ、如何ニ人智ヲ盡クシテモ、其經過ヲ透視スルコトガ出來ナクナルノデア。何レニシテモ、動員及開進ヲ、徹底的ニ準備シナケレバ、如何ニ巧妙ナル作戰計畫ト雖モ、結局畫餅ニ等シキモノトナル。何等カノ理由ニ依ツテ、此ノ準備ヲ實行シ得ザル國家ハ、自ラ防衛スル力ノ

無イモノデアツテ、假令、アレキサンダー、フリードリッヒ、那翁ノ如キ名將ヲ戴クトモ、有利ナル自國ノ野戰軍ヲ編成スルニ先チ、敵ノ大兵團ガ自國ノ領土内ニ推シ寄セテ來ルノヲ防グ事ハ、到底出來ナイデアラウ。我ガ敵國ハヴエルサイユノ條約ヲ定ムルニ當ツテ。獨逸ニ對シ戰時ニ野戰軍ヲ編成スルニ就テノ凡ラユル準備ヲ、防止スルコトニ成功シタ。今ヤ獨逸人ハ自國ハ此ノ條項ノ存續シ、且ツ其實行ヲ國內ニ駐在スル敵國官吏カラ監視サル、間ハ、唯ダ敵國ノ意ノ儘ニ、服従スベキ境遇ニ置カレテアルコトヲ良ク肝ニ銘ズベキデアアル。

千九百十四年ニ彼我ノ兩軍ガ、動員及開進ヲ行ツテ居ル期間ニハ、飛行機ハ未ダ何等ノ用ヲ爲サナカツタガ、將來ハ之ト全ク趣ヲ異ニスルデアラウ。空中戰ハ宣戰ト同時ニ(甚ダシキハ既ニ其以前ニ)開始サレルデアラウ。

敵味方共多數ノ爆撃機ヲ使用シテ、鐵道進行中ノ列車、乘車中及下車中ノ軍隊、兵器材料等ノ集積場及倉庫、重要軍事工場等ヲ襲ヒ、又敵國ヲ不安ト混亂トニ陥レ、且ツ兵力ノ集中ヲ遲滞セシムルコトヲ謀ルデアラウ。之ニ對スル防衛ハ、我ガ戰闘飛行機ノ任務デアツテ、直チニ全力ヲ擧ゲテ、敵ノ爆撃隊及之ヲ護衛スル戰闘機ニ當ラネバナラヌ。ソコ、將來ノ戰爭ハ、恐ラク先ヅ制空權ヲ獲ル爲メニ、激烈ナル空中戰ヲ演出シ、且ツ之ヲ以テ、從來ノ戰爭ノ始メニ行ハレタ大騎兵團ノ戰闘ニ代ヘル

コトニナルデアラウ。而シテ此ノ空中戰ノ勝者ハ、多大ノ利益ヲ收メ、其行動ハ頗ル自由トナリ、其爆撃隊ハ敵ノ攻撃ヲ受クルコト少ナキヲ以テ、晝間ニ於テモ之ヲ使用シ得ルニ反シ、敵ハ僅カニ夜間ニ於テ之ヲ試ミ得ルニ過ギヌ。尙ホ勝者ハ敵ノ處置ヲモ十分ニ監視シ得ルガ、敗者ノ方ハ夫レガ意ノ如クニ出來ズ、又空中ノ戰闘力ヲ再ビ建設スルニハ、相當ノ時日ヲ要スル。

尙ホ遠距離射撃砲ヲ以テ、飛行機ノ効力ヲ補フコトガ出來ル。此ノ砲ハ敵ノ開進ニ是非共必要トスル所ノ施設ヲ、主トシテ破壊スルニ用ヒル。

然シ遠距離射撃砲ハ、全ク直接ニ敵ノ開進ノ妨害(甚ダシキハ其潰亂)ノ目的ノミニ用アルコトモ考ヘラレヌコトハナイ。各國ノ軍事界ニ於テ「此ノ兵器ヲ以テ、最初ヨリ敵國ノ大都市ヲ射撃シテ、一般市民ノ恐怖ト殲滅トヲ企テ、依ツテ以テ眞劍ノ戰爭ガ始マラヌ内ニ、夫レヲ終熄サセルノガ良クハ無イカ」トノ説ガ討究サレタ。然シ其場合ニハ、大戰ノ時ニ數倍スル効力ヲ有スル毒瓦斯ヲモ使用スル恐レガアルト云フノデ、此ノ考案ニ對スル反對ガ強イノデアアル。然シ有力ナル陸軍國ハ、皆之ヲ實行スル準備ヲシテ居ル。現ニ佛國ノ「大部隊ノ使用法教令ノ草案」ノ緒言ノ中ニモ、「佛國ハ自ラ批准セル國際聯盟ノ規約ヲ尊重シ、開戰ノ際ニハ、聯盟諸國ト共ニ、敵國政府ヨリ軍用瓦斯ヲ武器トシテ使用セヌト云フ同意ヲ得ルコトヲ努ムルデアラウ。若シ此ノ同意ヲ得ナカツタ場合ニハ、其時ノ狀況ニ應ジテ、自ラ處置スベキコトヲ保留スル」ト述べテアル。

他ノ諸強國モ亦、之ニ似タ立場ヲ取ルモノデ、自ラ瓦斯戰ノ準備ヲ爲シナガラ、其使用ニ關スル責任ハ、敵國ニ負ハセヨウト考ヘテ居ル。

要スルニ飛行機ヤ爆彈ノ發展ニ對シテ、人類ヲ保護スルニハ、國際聯盟ヤ平和會議ノ力デハ駄目デアツテ、結局、此レ等ノ武器ヲ無効ニスルヤウナ、新發明ニデモ依賴ルノ外ハナイノデアアル。

第四節 作戰計劃

「余ハ今迄定マツタ作戰計劃ナドヲ立テタコトハ無イ」ト那翁ハ言フテ居ルガ、然シ今日ニ至ルマデモ、作戰計劃ニ對スル信仰ハ失セナイ。名將ノ記念ノ像ヲ建テル場合ニモ、ブリュツヘルノ如キ軍隊指揮官トシテ武名ヲ揚ゲタ將軍ニハ、劍ヲ拔キテ、萬事ヲ叱咤スルノ狀ヲ現ハシテアルガ、大モルトケノ如キ智謀ノ將ニハ、其手ニ卷物ヲ持タセテアル。此ノ卷物ハ即チ其功績ノ象徴タル、作戰計劃デア。世人ハ此レ等智謀ノ將軍ハ、良ク戰ノ經過ヲ洞見シ、何所デ、何時敵ヲ擊破スベキヲ豫言シタト言ヒ傳ヘル。史家ハフリードリッヒ大王ガ丁度五月四日ニ軍ヲブラーグ城下ニ進メ、六日ニハ埃軍ヲ擊滅スル考デアツタナドト、百年ノ間、世ニ誤リ傳ヘテ居ル。ケーニヒグレッツツ、グイオンヰイル、サンブリバー及セダン等ノ會戰ハ、總テモルトケ將軍ノ作戰計劃中ニ在ツタノゴト考ヘテ居ル者モ少ナクナイ。今度ノ戰爭中ニモ、獨逸軍ハ九月五日ニ巴里ノ城下ニ推シ寄セ、七日ニハ之ヲ陷レル計畫

ダト、誠シヤカニ言ヒフラ、タモノデアアル。又ヒンデンブルヒ將軍ハ戰爭前毎年ノ休暇ヲ利用シテ、タンネンベルヒ地方ヲ偵察シ、丁度其所デ露軍ヲ捕虜ニスル劃策ヲ立テ、居タナド、書キ立テタモノヲモ見受ケタ。

ソコデ余ハ我が參謀本部ノ編纂ノ普佛戰史中ヨリ、左ノ一節ヲ紹介スルノ必要ヲ認マル。

「唯ダ世人ハ戰役ノ經過ヲ見テ、豫メ微細ノ事マデモ定メテ置キ、且ツ其通りニ最後マデ實行シタモノト考ヘル。確カニ、將帥ハ自己ノ大目標ヲ心中ニ確定シテ置イテ、一時ノ形勢ノ變化ナドニ、心ヲ動サレナイノデアアルガ、然シ夫レニ達スベキ進路ヲ、遠クノ方カラ確定シテ置クヤウナコトハ決シテナイ。」

之レハ那翁ノ言ニ大分近ヅイテ來テ居ル。否ナ那翁ノ言ハ其主旨ニ於テ、此所ニ引用シタ所ト同一デアルト見テ良イノデアアル。其第一歩ガ或程度マデ明ラカニ豫見シ得ル以上ハ、那翁ト雖モ之ヲ頭ノ中ニ置キ、夫レヲ達成スベキ方法ヲ徹底的ニ準備シタノデアアル。彼ガ極メテ思慮周密ノ將帥タリシコトハ、爭フベカラザル事實デアアル。要スルニ那翁ハ舊式ノ軍學者ノ作戰計劃、即チ一寸見タ所デハ如何ニモ巧妙デアアルガ、其實役ニ立タス素人藝ニ過ギナイヤウナ、作戰計劃ヲ排斥シタノデアアル。

其例證ト爲スベキモノハ、千八百五十五年十一月三日ニポツツダムニ開カレタ主權者ノ會議ニ於テ、ブラウンシユワイヒノカール、ウイルヘルム、フェルデナンド太公ガ、述べタ作戰計劃デアアル。此ノ時

那翁ハ既ニウルムニ於テ、埃將マツクヲ降服サセ、將ニ長驅シテ、抵抗力ナキ埃國ノ首都ニ向ハントシテ居タノデアアル。然ルニ太公ノ計畫ノ要旨ハ左ノ如クデアツタ。

埃軍ガチロール地方ニ在ル間ハ、那翁ハ其ノ傍ヲ通過シテ前進スルコトハアルマイ。故ニ那翁ハ容易ニ前進スルコトガ出来ナクナルデアラウ。其場合ニ普魯西軍ハ北ヨリ進ミ、埃軍ハフユツセ^スンヲ越エテ其背ヲ撃ツ。ソコデ那翁ハ必ズ引キ返ヘスニ相違ナイカラ、露軍ガ直ニ、其頸部ヲ取ツテ抑ヘル。太公ハネツカル河畔デ那翁ノ軍ト佛國トノ連絡ヲ絶ツ。依ツテ那翁ハ急イデ、ライ^ンヲ渡ツテ逃レルカ、或ハ瑞西ニ逃ゲ込ムコトニナルデアラウ。連勝ノ同盟軍ハ、冬ノ間ハ、ライ^ン河畔ニ駐メテ、ウエーゼルヨリボーデンゼー(湖)マデヲ守備シ、那翁ヲシテライ^ンヲ渡ラシメヌヤウニスル。而シテ尙ホ普魯西ノ將軍等ヲシテ、和蘭及伊太利ヲ經テ攻撃セセル。

斯クシテ北海ヨリ地中海ニ亘ツテ、大キナ網ヲ張ツテ獅子ヲ逐ヒ詰メテ、之ヲ引捕ヘル。

「然ラバ那翁ガ一戰シテ、此ノ包圍ヲ免レタ場合ニハ、後ハ如何ニスル」トノ反問ニ對シテ、太公ハ無難作ニ「ナニ那翁ハ其會戰ニ敗ケル。必ズ敗ケルニ定マツテ居ル」ト答ヘタノデアアル。

其様ニ確カナ勘定ガ出来ルモノナラバ、作戰計畫ニハ、豫メ最後ノ時期マデモ包括スルコトガ出来ル。然ルニ實際ハ佛軍ガ退却セズシテ、進納ニ向ツテ驀進シ、太公ノ豫期ニ反シテ、アウスラルリツツノ勝利ヲ得、而シテ全般ノ作戰計畫ハ、無價値ノ空想ニ過ギナカッタコトガ暴露サレテ了ツタ。

扱テ軍ノ開進後ノ運動開始ト共ニ、戰爭ニ付キモノタル不確實ト云フコトガ勢力ヲ振ヒ始メル。

最初豫想シタ所トハ、變ツタ進展ヲ見ルノガ、戰ノ常デアアル。之レハ當然ノ事デアツテ、自分ノ意志ニ對シテ、敵ノ自由意志ガ反抗シテ來ルカラデアアル。戰ノ成行ヲ豫メ斷定セント欲スル者ハ、丁度一ツノ既知ノ量ト、一ツノ未知ノ量トカラ、算出スルト云フノデアアルカラ、其結果ガ全然不確實トナルノヲ免レヌ。有爲ノ將帥ト雖モ、夫レニ依ツテ事ヲ爲スコトハ出来ヌ。其作戰計畫ナルモノハ、思慮アル制限ヲ加ヘ、唯ダ最初ノ第一歩ダケヲ確定スル。夫カラ先ノ事ハ大器ノ方針ノミヲ定メ、事情ノ許ス限り之レヲ維持スル。從ツテ「作戰計畫」ト云フヨリモ、寧ロ「策動案」ト稱ヘル方が、實際ニ適合スルノデアアル。

更ニ理解ヲ助クル爲メニ、普佛戰爭ノ基礎ノ「策動案」(作戰計畫)ニ就テ、一瞥ヲ試ミヨウ。元來此ノ案ノ原ハ獨逸統帥術ノ師タルモルトケ元帥ノ考案ニ出デ、千八百六十八年ヨリ翌年ニ亘ル冬ノ間ニ書イタモノデアツテ、如何ニセバ、此ノ種ノ案ノ立テ方ヲモ知り得ルカラ、今日デモ尙ホ參考トスル價値ガアル。

此ノ策動案ニハ、獨逸及佛國ノ形勢ノ一般ノ觀察ト、兩國ノ兵力ノ比較トヲ試ミタル後ニ、獨逸軍ノ開進ニ説キ及ボシ、三ツノ軍ヲ編成スベキコトヲ斷定シ、且ツ其開進地域ヲ可成詳細ニ示シ

テアル。(其後實際ニモ之ヲ實行シタ)。次ニ、佛軍ノ主力ヲ求メテ、之ヲ攻撃スベキコトヲ明確ニ述ベ、而シテ如何ナル場合ニモ、其主力ガ我が前面ニ近ク位置スベキヲ豫測シテアル。從ツテ我が前進方向ハ容易ニ之ヲ決スルコトガ出來タ(實際千八百七十年八月ニモ其通り實行シタ)。其以後ノ事ニ就テハ、唯ダ大體ノ方針トシテ、敵ノ兵力ヲ巴里及資源ノ豐富ナル南部地方トノ後方連絡線ヨリ隔離シテ、之ヲ北方ニ壓迫スベキコトヲ示シテアル。

此ノ考案ハ或程度マデ確カニ實現シ得ルモノデアツタ。パーゼーヌガ退却セルメツツ南方ノモーゼル河畔ニ向ツテ、獨逸ガ前進シタコトモ、シャーロンニ向ツテ第三軍ガ進ンダコトモ、又セダンニ向ツテ前進シタコトモ、共ニ皆此ノ案ノ承認シ得ル所デアアル。

何レノ場合ニモ、之ニ似タモノニナルデアラウ。萬事ハ勝ツカ負ケルカニ依ツテ變ツテ來ルノデアアル。故ニ如何ナル策動案デモ、最初ノ決戰以後ノ區處マデモ、定メテカ、ルベキモノデナイ。

兩軍ノ何レガ強イカト云フコトガ、愈々立證サル、ニ至レバ、形勢ガ或ル程度マデ分ツテ來ル。ソコデ強者ハ、將來若シ弱者ノ方デ強者ノ意志ヲ妨害セント試ミル場合ニモ、自己ノ意志ヲ推シ通ホスコトガ出來ルコトヲ覺ル。

兩軍共右ノ如キ優者ノ地位ヲ占メルコトヲ努メル。ソコデ單純ナ場合ニハ、相方カラ、決勝的大會戰ヲ求メル。其ノ他ノ場合ニ於テモ、斷乎タル決心ヲ有シ、且ツ自信ヲ有スル方カラ、必ズ此ノ決戰

ヲ求メテカ、ル。故ニ軍ノ運動ノ目指ス第一ノ目標ハ、敵ノ本軍デアリ、世界大戰ノ如キ非常ニ大規模ノ場合ニハ、種々ノ敵軍中ノ最モ強クシテ、且ツ危險ナル敵ヲ目標トシタ。

若シ此ノ原則ヲ守ラヌ場合ニハ、敵ノ爲ニ擊退サレヌコトハ稀デアアル。

其會戰デ、勝ツタ者ノ方ハ、敵ノ意志ヲ我が意志ニ從ハセルヤウニ努メルガ、然シ敵ノ意志ヲ全然奪ツテ了フ譯ニユカヌ。カント、セダン、タンネンベルヒ等ノ如ク、一撃ニ依ツテ全軍ガ戰場カラ消エ失セルコトハ、極メテ稀デアアル。ソコデ敗者ト雖モ、勝者ノ意志ニ尙ホ絶エズ、若干ノ影響ヲ與ヘルコトニナル。

故ニ最初ノ會戰ニ勝ツタ場合デサヘモ、自己ノ考案ヲ十分確實ニ實行シ得ルモノデハナク、其後ニ於テモヤハリ彼我ノ對抗的威力ヨリ生ズル所ノ其時々ノ影響ニ依ツテ左右サレルノデアアル。敗者ノ對抗的意志ニ依ツテ、更ニ戰鬪ヲ惹起シ、各戰鬪毎ニ狀況ガ變ツテ來ル。故ニ將帥ハ毎日(時ニハ數時間ノ内ニ)、變化セル條件ノ下ニ自己ノ意志ヲ綴ツテ行ク。戰史ニハ其様子ヲ十分ニ書キ現ハシタモノガ少ナク、簇生セル多數ノ事件ノ内カラ、一般ノ注意ヲ引イタモノ、ミヲ掲ゲテアル。一時重要デアツタ事ヲモ見逃シ、後ニハ夫レガ誤ツテ忘レラレテ了フ。故ニ戰役ノ後ニハ、事實ノ歴史ヲ編ムノミニ止メズ、希望シタ事柄ヲ書キ殘シテ置ク必要ガアル。又物語(備忘錄的ノモノ)モ有益デアアル。其錯雜セル經緯ハ人ノ想像以上ノモノデアアル。書籍ニ數行ヲ以テ記シテアル一日モ、實際ニハ、一ツノ

立派ナ記録ニ價スルモノガアルデアラウ。

多クノ事柄ヲ頭ニ入レネバナラヌノデアアルガ、夫レガ、遠クニ立テ、アル目標ヘノ進ムベキ道ヲ正シク踏ンデ行クニ就テノ、助ケトナル場合モアレバ、又却ツテ害ニナル場合モアル。新シイ狀況ニハ又常ニ新シイ計畫ヲ必要トスル。總テノ事柄ノ中ニ、一貫シタ大方針ヲ立テ、行クコトハ將帥ノ確實ナル精神ト明晰ナル頭腦トニ依ルノデアアル。

然ラバ此ノ大方針ハ何ニ依ツテ定マルカ。

之レハ全般ノ軍事上、政治上、並ニ經濟上ノ情勢カラ生レル。多クノ場合ニハ此レ等ノ考察ニ依ツテ敵ヲシテ戰爭ノ繼續ヲ斷念セシムルニハ、何ヲ達成セネバナラヌカニ就テ、一定ノ判斷ヲ下シ得ルデアラウ。

弱者ハ抵抗ヲ繼續シテ强者ヲ疲レサセルカ、或ハ同盟ノ仲間ヲ得ルコトヲ企テ、强者ハ總テノ戰爭ノ最終目的タル、有利ノ講和條約ヲ結ブ爲メニハ、敵軍ヲ撃チ破リタル後、何所マデ進入スベキカ、敵ノ首都カ、軍事上重要ナル諸州カ、將タ又全國土ヲ占領スベキカヲ熟考スルデアラウ。

之ニ依ツテ、絶エズ變化シテ行ク出來事ノ中ニモ、常ニ力ヲ致スベキ事柄ノ經過ニ就テ、大體ノ見込ガ立テラレルデアラウ。即チ増援隊ガ到着スルカ、若シクハ吾ハ味方スル國ノ軍ガ來ル迄、某々地區デ抵抗スルト云フヨウナ方針ヲ立テ得ルデアラウ。又有力ナ者ハ、敵ヲ撃破シ得タ時ニハ、直チニ

敵ニ不利ナ方向ヲ取ラセテ、己レガ豫^カネテ選定シタ地方ヘ、之ヲ追ヒ込ムコトヲ企テラデアラウ。然シ此ノ如キ一般的ノ着眼ヤ指示以外ノ事ハ、如何ニ立派ナ戰略ト雖モ、之ヲ示スコトハ出來ヌ。細部ニ至ツテハ、其直前ノ事ヲ決定シ得ルノミデアアル。

從ツテ策動案(作戰計畫)ガ示ス所ノ全範圍ハ、極メテ狭イモノデアアル。今日ニ於テハ即チ、直チニ使用スベキ空中ノ兵力ト、遠距離射撃砲ノ使用法ノ外ニハ、敵ノ首都ニ向ツテ進ムベキ軍ノ最初ノ集中、以外ニ亘ラヌノデアアル。而シテ其際ニハ、往々軍ト其使用シ得ル地域トノ間ニ、一定ノ關係ノ存スルコトハ前ニモ述べタ通りデアアル。即チ千九百十四年ノ西方戰場ニ於テハ、「策動ノ自由」ハ左程問題トナラナカツタ。兩軍共、丁度其兵力ヲ併列スルダケノ場所ガアツタ。其際佛軍ハ勿論國境要塞ノ線ニ留マリ、其線ハ北ノ方リユツツヒ(リエーデ)ニ都合良ク連亘シテ居タ。彼我ノ戰線ハ最初カラ近ク相對岐シ、唯ダ直進スルノ外ナカツタ。加之獨逸軍ノ方デハ、和蘭ノ國境ヨリ瑞西ノ國境マデニ亘ル敵ノ要塞線ヲ突破セネバナラヌ爲ニ、活動ノ餘地ハ一屬狹メラレタ。此ノ如キ場合ニハ防者ガ野戰軍ノ有力ナル部隊ヲ直グニ出セヌ方ニ、攻撃ヲ向ケルノハ當然ノコトデアアル。獨逸軍ハ此ノ顧慮カラ敵ノ左翼ヲ選定シタ。而シテ北ノ方面ニ於テ若シ神速ナル攻撃ニ依ツテリユツツヒヲ陷レバ、唯ダ白耳義軍兵ト衝突スルノミデアツタ。而シテ白耳義軍ハ直チニ處分シ得、從ツテ希望スル所ノ策動ノ自由(右翼ノ方面ノミデアアルガ)ガ得ラレル譯デアツタ。

其以後ノ事ハ其場合ニ依ツテ處スルノ外ハナク、夫レハ策動計畫ニハ最早決定スル事ガ出來ナカツタ其後ノ運動ニハ、英佛連合軍ヲ、其左翼ヲ包圍シツ、攻撃シ、且ツ決定的ニ擊破スルト云フ考ヲ基トシタ。

獨逸ガ東西ノ兩正面ニ對スル戰爭ヲ爲スベキ危險ハ、餘程以前カラアツタ。其原ハ地理的關係カラ來テ居ルガ、又普魯西獨逸ト露西亞帝國トノ間ノ長イ間ノ親善ガ、汎「スラープ」主義ノ潮流ト佛國ノ使曠及巨萬ノ資金トニ依ツテ、次第ニ覆ヘサレテ、佛露ノ兩國ガ相結ブニ至ツテ、其危險ガ愈々激シクナツタ。ビスマルクノ國策ノ成功ハ、獨逸國民ヲシテ其民族的宿望ヲ遂ゲル爲メノ戰爭ヲ、毎回一ツノ強國トノミ行ハシメタ點ニ存シタ。其後繼者ガ此ノ點ニ成功セズシテ、終ニ獨逸ヲシテ甚ダシク優勢ナル兵力ニ對シテ戰ハシムルニ至ツタノハ、千九百十八年ノ戰敗ヲ來シタ最初ノ而カモ最深ノ原因デアツタ。從ツテ此ノ大不幸ヲ招イタ根本ハ、要スルニ政策ノ失敗カラ來テ居ルノデアアル。

而シテ獨逸ガ兩正面ノ戰爭ヲ行フニ當リ、主力ヲ佛、露兩國中ノ何レニ向ケルカハ、獨逸ニ取ツテ最モ重大ナ問題デアツタ。夫レニハ軍事上、政治上及經濟上ノ立場カラ、考慮スル必要ガアツタ。而シテ此ノ問題ニ對シテハ、歲月ノ推移ト共ニ、其時々ノ形勢ニ依ツテ、今迄ニ種々ノ解決法ヲ取ツテ來タモノデアアル。

モルトケ元帥ハ元々、東西兩方面ニ向ツテ、同時ニ攻撃ヲ行フ考デアツタ。其當時ニハ獨逸ノ國軍

ハ戰備及戰鬪能力ニ於テ、遙カニ兩國ニ優リ、敵ノ開進ヲ其始期ニ打破リ得ル見込ガアツタカラ、此ノ案ハ蓋シ當ヲ得タモノデアツタ。然ルニ其後佛國ノ要塞ガ大ニ發達シテ、佛國ニ對シ到底迅速ニ攻撃ヲ進捗シ得ヌヤウニナツタノデモルトケハ千八百七十八年以降ニハ、佛國ニ對シテ防勢ヲ取り、主ニ露國ヲ攻撃スル決心ヲ取ツタ。當時露國ハ其軍ヲ西部波蘭土ニ開進スル計畫デアツタカラ、之ニ對シテ獨逸軍ハ東普魯西ヨリ、埃國ハガリチアヨリ、大體ワルシヤウノ方向ニ向ツテ之ヲ合擊スルノガ最モ有効ナ手段デアツタ。此ノ根本方針ハ、モルトケノ後繼者タルワルゼルゼー元帥モ亦、獨逸ノ作戰計畫ノ基礎ト爲シタ。唯ダ千八百八十六年及八十七年ダケハ、主力ヲ佛國ニ對シテ用フルコトニシタ。是レハ、佛國ガ其同盟國ノ協力ヲ待タズシテ、自ラ攻勢ニ出ヅルト云フ豫想カラ來タモノデアアル。次デシユリーフエン伯ハ東方ニ向ツテ攻勢ヲ取ル案ヲ放棄シテ了ツタ。之レニハ種々ノ理由ガアツタ。伯ハ第一ニ佛軍ヲ以テ、露軍ヨリモ強ク、且ツ危險ナル敵ト考ヘタ。更ニ露國ノ開進ハ、コウノ——
グロドノ——
ピアリストク——
ブレスト、
リトウスクノ線ニ退ゲラルベキ徵候ガアルト考ヘ、從ツテ東方ニ於テハ、容易ニ捕ヘ得ベキ攻撃目標ガ無ク、ニエーメン河——
ホブル河——
ナレウ河ノ堅固ナ線ノ後方デ露軍ヲ取り抑ヘルノニハ、時日ヲ要スル面倒ナ、運動ヲ爲ス必要ガアリ、尙ホ又タ露軍ガ其膨大ナル領土ノ中ニ、益々深く逃レテ決戰ヲ避ケル危險モアルト思フタ。加之シユリーフエンノ時代ニハ、西方正面ニ於テハ、モルトケノ計畫シタ所、即チライン河及其河畔ノ要塞ヲ利用シテ、防禦ス

ル事ガ最早出來ナイ事情ガ生ジタ。之レヲ行フ時ハ、一時ライン左岸ノ工業、ザール炭礦及ロートリ
ンゲンノ鐵礦ヲ一時放棄スル事ニナルガ、此ノ地ノ資源ヲ除イテハ、獨逸軍隊ノ武裝ガ疑問トナルラ
シイノデ、夫レヲ敢行シ得ナクナツタ。然ルニ、ライン河ノ前方ニ出デ、防禦スルニハ、兩翼ヲ中立
國ノ國境ニ依托セネバナラズ、夫レニハ、獨逸ノ全軍ガ必要トナリ、從ツテ露國ヲ攻撃スル兵力ガ無
クナル。然ラバ兩翼ヲ國境ニ托スル事ヲ止メタナラバ如何ニナルカ。此場合ニハ白耳義及和蘭ヲ通過
シテ、迂回サレ、其間ニ置イタ兵力ヲラインノ後岸ニ退ゲネバナラナクナル。而シテ獨逸軍ノ方カラハ
西方ニ向ツテ進出スレバ、何レノ場合モ有利ナ目標ニ遭遇スル。恐ラク佛軍ハ中途デ迎撃スルデアラ
ウ。蓋シ佛人ガ最早防勢ニノミ立ツ必要ヲ認メナクナツタラシイコトハ、佛國ガ英國ト協商ヲ結ンデカ
ラハ、佛國ノ新聞雜誌等ノ論調ガ攻勢的ニナツテ來タノデモ分ツタ。然ラバ決戰ハ一層迅速ニナリ、夫
レガ復タ獨逸ノ爲メニ、全然利益トナルノデアアル。依ツテシリーフエンノ計畫ハ、先ヅ全力ヲ注イデ
佛國ヲ撃チ破リ、然ル後轉ジテ露國ニ向ヒ塊軍ト協力シテ之ヲ攻撃スルニアツタ。獨逸ガ開戦ノ際、
確カニ優勢ナル兵力ヲ以テ、西方戰場ニ臨ムヲ得、而シテ露國ノ動員ガ我が軍ノ動員ヨリモ二、三週
間モ遅レ更ニ此ノ期間ガ實際ニ利用サル、モノナラバ、シユリーフエンノ計畫ハ確カニ成功ノ見込ガ
アツタ。

小モルトケモ、彼レガ自ラ言フテ居ル通り、確信ヲ以テシユリーフエンノ此ノ計畫ヲ繼承シタ。

而シテ千九百十四年ニモ（固ヨリ餘リ感心セヌ修正ヲ加ヘタガ）、之ヲ適用シタ。英國ガ敵ニ加擔シタ
爲ニ、獨逸ノ軍事上ノ全般形勢ガ、大ニ變ツテ來タノニ、此案ヲ實行シタノデアアル。實ハシユリーフ
エンノ參謀總長在職中ノ晩年ニモ、此ノ如キ形勢ニ陥ル可能性ガアツタノデアアルガ、當時夫レガ左
程重大視サレナカッタノハ、丁度其時分ニハ、露國ガ日本トノ戦ニ敗レ、次デ起ツタ革命ニ依ツテ、
活動力ヲ失ツテ居タカラ、伯ハ露、佛、英ノ三國トノ戦ヲ、眞面目ニ期待スル必要ガナク、而シテ佛
英兩國ノミガ、獨逸ニ向ツテ來ル場合ニハ、獨逸軍ノ西方ノ開進ヲ改メル必要ヲ認メナカッタノデア
アル。然ルニ其後露國ガ、再ビ西方ニ顔ヲ向ケ、日本ニ傷ヅケラレタ面目ヲ、他ノ方面デ回復センガ爲
メニ、巴爾幹ニ於テ類リニ政治的飛躍ヲ試ミ、且ツ著シク英國ニ接近スルニ及ビ、獨逸ガ歐洲ノ近接
三強國ヲ相手トシテ戦フベキ危険ガ、非常ニ増大シテ來タ。

之ヲ豫防スベキ時期ハ無クハナカッタ。然シ夫レニハ、獨逸ノ國境ヲ環ツテ設ケラル、鐵鎖ヲ不意
ノ猛撃ニ依ツテ寸斷スルノ外、他ニ手段ガ無カッタ。何レ一度ハ必ズ起ル事ニ定マツテ居ツタ戦争ナ
ラバ、敵ノ準備ガ終ラヌ間ニ、夫レヲ斷行スベキデアツタ。然ルニ獨逸國民ノ運命ヲ握レル人々ハ、
此ノ勇斷ニ出デ得ズ、彼等ノ間ニハフリードリッヒ大王ノ氣魄ガ少シモ傳ハツテ居ナカッタ。我が外
交ハ其内ニ何トカシテ英國ノ參戰ヲ止メル事ガ出來ルデアラウナドト、當テニモナラヌ宿望ヲ懷キ、
而シテ參謀總長ハ獨逸國軍ニ不可能ノ任務ヲ負ハス如キ政策ニ對シテ、警戒スルノヲ怠ツタ。然シ我

ガ國民ハ自己ノ指導者ノ如キ態度ニ満足シ、其急速ニ増進スル富力ニ拮据シテ、其繁榮ガ一朝ニシテ消エ去ルコトニ少シモ氣ガ着カナカツタ。

我ガ國民ハ今ヤ、列強ハ劍ニ依ツテ其大ヲ致シ、而シテ又劍ニ依ツテ之ヲ維持ストノ、歴史ノ教訓ヲ忘レタコトヲ、痛切ニ悔ヒ且ツ改ムベキデアアル。

以上述べた所ニ依ツテモ、シユリーフエンノ計畫ニハ、其適用上是非其注意スベキ特殊ノ點ノ存スル事ガ分ル。即チ此ノ計畫ハ或ル政策——戰爭ヲ其政策達成ノ手段トシテ最初ヨリ豫定シ、且ツ其開始ノ時期マデモ決定スル所ノ政策——ト相俟ツテ始メテ役ニ立ツモノデアツタ。シユリーフエン伯ハ大ビスマルク時代ニ人ト成ツタ者デアアルカラ、伯ハ此ノ如キ政策ヲ當然ノ事ト見做シテ居タノデアアラウ。而シテ伯ハ勿論其後繼者ニモ、此ノ假定ガ實際ニ合ハヌ場合ニハ、更ニ獨自ノ考案ヲ立ツベキコトヲ特ニ注意シ、且ツ其責任ヲ負ハセタニ相違ナイ。

獨逸ハ敵國ニ開戦ノ時期ヲ自由ニ選バセタ以上ハ、露國ノ動員ノ緩慢ヲ利用スル事ガ出來ナクナル。其場合ニハ佛、露兩國ハ（千九百十四年ニモ夫レヲ實行シタ如ク）強大ナル國軍ヲ提ゲテ、同時ニ獨逸ノ國境ニ迫ルデアラウ。

シユリーフエンノ計畫ノ第二ノ假定タル西方正面ニ對スル數上ノ優勢ハ、モルトケガ普國ノ參謀總長タリシ時代ニ、益々消滅シテ來タ。世人ノ知ル如ク、佛國ガ普遍的兵役義務ヲ極度マデ勵行スルニ努メタノニ、獨逸デハ之ヲ怠リ、漸ク千九百十三年ノ五月カラ陸軍ノ擴張ヲ計畫シ常備兵十二萬人ヲ増加シ、以テ數年ノ間等閑ニサレタ所ヲ、急イデ回復スルコトニシタガ、時既ニ晚ク、爲メニ國民ノ力ヲ十分利用シ得ルニハ至ラナカツタ。其結果、兩國ノ人口ニハ、多大ノ懸隔ガアツタノニモ拘ハラズ、大切ノ時機ニハ、僅少ノ優勢ヲ占メ得タニ過ギナカツタ。之レガ爲メ、西方戰場ニ於テ、迅速ニ成功ヲ收ムベキ見込ハ消滅シテ了ツタ。

其上ニ英國ガ敵對スルニ至ツテ、歐洲ノ戰爭ハ更ニ擴大サレテ世界ノ戰爭トナツタ。ソコデ我ガ將帥ハ戰略上ノ問題ノ外ニ、尙ホ封鎖ト云フ重荷ヲ負ハセラレタ。自國ノ産業及國民ノ食料補給ヲ、百千ノ水路ニ依ツテ世界ノ貿易ト連絡シテ來タ獨逸ガ、若シ此ノ連絡ヲ絶タレタナラバ、如何ニシテ今後ヲ支ヘテ行ケルカ。

饑餓ノ惡魔ニ對シテハ、シユリーフエンノ作戰計畫ハ何等ノ救濟策ガナカツタ。

此ノ救濟ニハ國民ノ食料供給ノ爲メニ、大規模ノ計畫ヲ立テ、カ、ラネバナラス。此ノ見地カラ、或ハ農産物ノ豐富ナル地方ノ占領ヲ、獨逸ノ作戰目標ト爲シタ方ガ良クハナカツタカ。既ニ千九百十五年ニ於テ、埃匈國ト共同シテ、ウクライナ地方ヲ攻略シ黑海マデ突出シタナラバ、饑餓ノ危險ガ大ニ緩和サレタ事ハ之ヲ否ム事ガ出來ヌ。

然シ夫レニシテ尙ホ、シユリーフエンノ計畫ヲ固守スルノガ、千九百十四年ニ於テ行ヒ得ル最良ニシテ且ツ一番有効ナ手段デアツタカモ知レヌ。然シ夫レガ即チ、獨逸ガ當時有利ナ戰爭ヲ行フ餘地ノ無イヤウナ形勢ニ置カレテアツタト云フ、證明ニモナルノデアアル。

千九百十四年八月一日ノ形勢ニ於テシユリーフエンノ計畫ヲ實行シタコトハ、固定的ノ戰略ヲ以テ、活世界ノ問題ヲ解決セントスル、コレ試ニ過ギナカッタ。夫レガ失敗ニ歸シタノハ當然デアアル。

愈々作戰計畫ヲ實行スル爲メニ動員及開進ニ着手シタ時期ニハ、多クハ尙ホ外交上ノ交渉ガ盛ニ行ハレル。千九百十四年ニモ其通りデアツテ、各國ノ大統領ヤ總理大臣ハ、愈々砲火ノ開カル、瞬間マデ、猛烈ナ活躍ヲ試ミ、或者ハ平和ノ維持ニ努メ、或者ハ時日ノ餘裕ヲ得ント欲シ、若シクハ、自己ノ意圖ヲ秘匿セント謀ツタ。

斯カル危機ニ際シテハ、作戰ト政策トガ最モ緊密ニ相提携シテ進ムコトガ極メテ大切デアアル。戰爭ナルモノガ果シテ、異ナツタ手段ヲ以テスル政策ノ繼續ニ外ナラヌモノナラバ、國家ノ機關ハ何等ノ軋轢ヤ動搖ヲ起スコトナク、平時狀態ヨリ戰時狀態ニ移ルベキモノデ、此ノ時コソ眞ニ沈着、確實、秩序ヲ最モ必要トスルノデアアル。

獨逸トノ戰爭ニ對スル英國ノ戰爭準備ハ、水モ漏サヌアザカ鮮サデアツテ、政治上ニモ、軍事上ニモ、將

タ又經濟上ニモ、一ツトシテ間然スル所ガナカッタ。

エドワード七世ハ、既ニ千九百三年ニ、獨逸ニ對スル包圍政策ニ着手シタ、其目的ハ英國ノ爲メニ同盟者ヲ得、且ツ獨逸ニ對スル世界ノ同情ヲ失ハシムルニアツタ。佛國ト協商ヲ結ビ、日本ト同盟ヲ約シ、伊太利ヲ三國同盟ヨリ離間スルコトヲ試ミ、露國ヲ協商ニ引キ入レ、白耳義ヲ壓迫シテ軍備ノ改革ヲ決行セシメ、獨逸ニ對スル軍事協約ノ結果トシテ、自國ノ外征師團ヲ七個ニ増加シ、海軍ヲ擴張シ、且ツ艦隊ノ配置ヲ改メテ、重點ヲ北海ニ移シ、更ニ進ンデ、同盟諸國ノ參謀本部及軍令部ト戰時ニ採ルベキ處置ニ就キテ詳細ナル協定ヲ爲セル等、悉ク皆、世界ノ貿易及霸權ノ競爭者タル獨逸ノ擊滅ニ向ツテ、着々トシテ歩ヲ進メル大政策ノ、合理的連鎖ニ外ナラナカッタノデアアル。

世界ノ各部ニ亘リ、獨逸ノ名聲ヲ傷クル爲メノ宣傳戰及獨逸ノ産業ノ壓迫モ亦周到ニ準備サレタ。此ノ二件ハ開戰ト同時ニ其實行ニ着手シ且ツ多額ノ經費ヲ投ジテ、周密ナル計畫ノ下ニ之ヲ遂行シタ。

英國ノ政策ハ其際ニモ、尙ホ最後ノ瞬間マデ、行動ノ自由ヲ維持スル事ヲ忘レナカッタ。實際英國ハ中立ノ態度ヲ取ツテモ、決シテ不利ヲ招クコトハナカッタ。即チ英國ガ若シモ獨、露互ニ相反噬スルヲ傍觀シ、而シテ講和ヲ議スルニ當リ、其新銳ノ威力ヲ提ゲテ判者ノ地位ニ立タバ、何レノ場合ニモ、自己ノ利得ハ多大ナルモノデアツタラウ。然ルニ實際ニ於テハ、戰爭ニ參加スル方ガ、更ニ一層

利益ナリト判斷シ、且ツ獨逸ガ白耳義ヲ通過セル爲メニ、民衆ヲシテ「可憐ナル小白耳義」ノ救援ニ感激セシムルノ機縁ヲ與ヘタノデ、國家及國民ヲシテ、戰爭開始ニ必要ナ決心ヲ取ラシムルニ、何等ノ努力ヲモ要セヌコトニナツタ。

之ニ反シテ、其當時ニ於ケル獨逸側ノ狀態ハ、政策上ノ指導ト軍事上ノ指導トノ協調ニ於テ、悲シムベキ缺陷ガアツタ。

政策ハ平和ヲ希望シタ。首相ノフォン、ベートマンガ、其爲ニハ先ヅ第一ニ英國ト親善ノ關係ヲ結ブ必要ガアルト認メタノハ、正當デアツタ。氏ハ此ノ目的ヲ達スル爲メニ、凡ラユル努力ヲ爲シタ。然ルニ其際ニモ尙ホ、參謀總長ガ機密箱ノ中ニ、其實行ノ第一ニ於テ必ズ英國ノ宣戰ヲ喚ビ起ス如キ佛國ニ對スル作戰計畫ヲ藏ツテ置クコトヲ許シテ置イタノデアアル。

局外者カラ見タ所デハ、佛國ニ對スル攻撃ハ、概シテ從來ノ獨逸ノ政策ト調和サセ難イモノデアツタ。戰爭ハ埃國ノ問題デ起ツタモノデ、露國ノ埃國ニ對スル脅威ガ獨逸ヲシテ劍ヲ拔クニ至ラシメタ原因デアアル。同盟ノ義務ヲ飽クマデ忠實ニ果スコトハ、世界ノ同情ヲ喚起スルニ足リル。然シ何故ニ此ノ場合ニ於テ佛國ニ宣戰シ且ツ外見上全ク無關係ナ白耳義ヲ侵シタカト云フコトハ、世人ニ諒解ノ出來ナカツタ所デアアル。

縱令之ニ就テノ軍事上ノ理由ガ尙ホ一層明カデアツタトシテモ、又白耳義ガ擊滅サル、ダケノ背信

行爲ガアツテ、獨逸軍ノ行ツタ前進法ニハ眞ニ止ムヲ得ヌ至當ノ理ガ存シタト云フコトガ、一般ニ知レタトシテモ、尙ホ軍人ト政治家トガ、別々ノ道ヲ取ツタ事實ハ、依然トシテ殘ツテ居ル。

元來政策ト作戰トハ、互ニ相補ヒ相扶掖シテ進ムベキモノデアアル。若シ戰爭ガシユリーフォンノ計畫シ、モルトケノ實行シタヤウニシテ、開始スベキモノデアツタモノナラバ、此ノ前進法ハ夫レヲ政治及外交ノ上ニモ、用意シテカ、ル必要ガアツタ。而シテ其場合ニハ獨逸自ラ開戰ノ時期ヲ選ブベキデアルト云フ結論ニ必ズ達シタデアラウ。陸軍ノ當局者ガ若シ此ノ如キ政策ヲ遂行サセル事ガ出來ナカツタナラバ、自分ノ方デ、其作戰計畫ヲ改ムルノ外ニ手段ハナカツタノデアアル。

他ニ尙ホ開戰ノ方法ガ一ツアツタ。即チ若シ獨逸ガ白耳義ヲ犯サザル事ニ注意シ且ツ東西兩正面ニ對スル戰爭ニ、英國ヲシテ中立ヲ守ラセルコトニ成功シタナラバ、東方ニ對シテ攻撃ヲ取ルモ亦一案デアツタラウ。

此ノ目的ヲ達センガ爲メニハ、早クヨリ之ヲ心掛ケ、賢明ニシテ忍耐強キ外交ヲ必要トシタ。尙ホ夫レト共ニ、軍事上ノ方面ニ於テモ、又タ貿易政策ノ方面ニ於テモ、或程度迄英國ノ希望ニ添フ如キ制限ヲ、甘受セネバナラナカツタデアラウ。此レガ爲メニ、獨逸ノ佛國ニ對スル勢力、獨逸ノ海上ニ於ケル地位及其貿易上ノ自由發展等ニ、影響ヲ受ケルコトニナルガ、然シ、露佛ノ兩國及英國ニ對スル戰爭ハ、獨逸ノ力ニ餘ル以上ハ、是非之ヲ避ケネバナラヌト云フコトガ、他

ノ何レノ願慮ヨリモ大切デアツタノデアアル。此ノ如キ目的ヲ達シ得ル可能性ガ、サライエウオーニ於ケル皇太子暗殺ノ當時ニモ、尙ホ在ツタカ否カハ、疑問デアアルガ、兎ニ角是非之ヲ試ミル必要ガアツタ。

之レガ爲ニハ獨逸ハ、彼ノ重大ナル數週日ノ間ニ、外交的大活動ヲ必要トシタ若シ英國ニ向ツテ、「白耳義ノ中立」ヲ英國ト共ニ尙ホ一度、世界ニ聲明シ且ツ兵ヲ佛國ノ土地ニ入レズ、其艦隊ヲ北海ニ出サシメザルコトヲ要求シタナラバ、英國トシテハ、其國民ヲシテ、獨逸ニ對スル戰爭ノ必要ヲ感ゼシムルコトガ出來ズ、戰旗ヲ推シ立テル口實ガ得ラレナカツタノデアラウ。少ナクトモ初ノ間ハ、中立ヲ維持シタデアラウソコデ佛國ハ自分ノ方カラ白耳義ノ中立ヲ犯シテ、英國及世界ノ非難ヲ受ケルカ、若シクハ其攻撃ヲア、ロニ洲ノ國境ヲ越エテ正面ヨリ實行スルカラ自分ノ方デ決セネバナラヌコトニナル。獨逸ニ取ツテハ何レノ場合ニモ、當時獨逸ガ實際ニ行ツタ（換言スレバ敵ノ爲メニ白耳義通過ヲ實行サセラレタ）所ヨリモ、遙カニ有利デアツタ。

露國ニ對スル徹底的ノ攻撃ハ、埃國ト協力シテ迅速ナル成功ヲ收メ得、而カモ獨逸ガ其獲物ノ大部ヲ收得シテ、全ク新ナル形勢ヲ贏チ得タデアラウ、此ノ意見ニ對シテ、其場合ニハ露國ハ最初カラ其軍ヲ國內ニ後退セシメ決戰ヲ避ケタラウト云フ反對意見ヲ主張スル者モ往々アルガ、之ハ當ヲ得タ見解ト云ヘヌ。第一ニ此ノ如キ戰法ハ露國ガ參戰シタ政策上ノ主義ニ一致シナイ。即チ

露國ハ埃國ニ對シテ、セルビアヲ保護セント欲シタモノデ、此ノ目的ハ攻撃ニ依ツテ始メテ達シ得ベク、例ノラツソフ元帥ノ戰略ヲ以テシテハ、永久ニ達成サレヌ。加之決戰ヲ避ケテ後退スルガ如キ戰法ハ、露國ノ大陸軍ノ著シク向上セル自負心ガ、承知シマイカラ、必ズヤ、自ラ攻勢ヲ取ツテ來タニ相違ナイ。

露國ニ對シテ主攻撃ヲ向ケル場合ニ、獨逸ノ西方國境ノ防禦ニ、強大ナル兵力ヲ使用スベキハ勿論デアアル。此ノ兵力ヲ以テスレバ、要塞ト、渡河ノ容易ナラザルライン河トノ掩護ヲ受ケテ、庶幾クハ其任務ヲ達成シ得タデアラウ。

茲ニ尙ホ講究ヲ要スル一事ガアル。獨逸ノ軍隊ハ動員令ヲ發スルト直チニ、白耳義及ルクセンブルヒノ國境ヲ越エタ爲メニ、總テノ外交的交渉ハスツカリ駄目ニナツテ了ツタ。然ルニ獨逸ノ政策ハ實際ニ戰爭ヲ回避センコトヲ欲シ、平和ヲ維持スル爲メニ、凡ラユル手段ヲ盡クシテ居タノデアアル。武器ヲ手許ニ置イテ行フ交渉ガ、最後ノ瞬間ニ戰爭ノ勃發ヲ防止シ得タ實例ハ、今迄ノ歴史ニモ屢々アルガ、之ヲ行ハント欲スル者ハ、自己ノ目算ヲ打毀ス如キ動作ヲ、自分ノ方カラ決シテ仕掛クベキモノデナイ。

本來將帥ト政治家トハ、既ニ平時カラ密接ナル共同動作ヲ爲スベキデアアルノニ、千九百十四年ニ於テハ、兩者間ノ協調ガ少シモ保タレテ居ナカツタ事ガ前述ノ事實ニ依ツテモ良ク分ル。兩者ハ一ツノ

問題ニ就イテ互ニ精神的ニ討究シ合ツテ行き、將帥ハ政治家カラ、政治家ハ將帥カラ、互ニ相手ノ心ヲ自分ノ方ヘ汲ミ取ツテ居ラネバナラス。斯クシテコソ、始メテ政治的處置カラ、軍事的處置ヘ、一^{ヒト}直線ニ、切レ目ナク、移ツテ行ケルノデアル。

前ニモ述べタ如ク、開進ハ作戰計畫ノ一部ヲ占ムルモノデ、之レト共通シテ立案シ、且ツ其大方針ニ合致セシムベキモノデアル。我が參謀本部ノ編纂ノ普佛戰史ニモ示シテアル通り、軍ノ最初ノ集中ニ當ツテ犯シタ過失ハ、戰役ノ終リ迄匡救ニ苦シムホドデアルカラ、開進ハ餘程慎重ニセネバナラス。但シ此ノ主張ハ一寸無難作^{ムツクサ}ニ受ケ入レ惡イ所ガアル。ト云フノハ、不利ナ運動ヲ以テ開始シ、而カモ唯一回ノ有利ナ會戰ニ依ツテ、全然形勢ヲ挽回シ得タ戰役ノ實例ニ乏シクナイカラデアアル。フリードリッヒ大王ノ第一次シユレデア戰役ニ於ケル初期ノ形勢ヲ見テモ直チニ首肯サレル。即チナイベルグ元帥ハオーベルシユレヂエンニ留マレル大王ノ軍ヲ、千七百四十一年四月ニ全ク不意ニ襲フタ。元帥ハナイセラ渡ツテ前進シ、大王ノ後方連絡線ヲ悉ク遮斷シ、其倉庫及砲廠ヲ脅カシ、王ノ軍ヲシテ敵地ヲ背ニシテ戰フノ止ムナキニ至ラシメタ。王ハ若シ此ノ時ニ敗レタナラバ、生命ヲ全ウシ得ナカツタデアラウシ、墺國ノ形勢ガ有利トナリ、普國ノ前途ガ暗澹タルモノトナルノハ想像ニ難クナイ。然ルニモルウイツツノ一戰ニ、王ノ精銳ナル歩兵ガ勝利ヲ占メ、俄

然形勢ガ一變シ、王ヲシテ忽チ狀況ヲ支配セシムルニ至ツタ。之ニ依ツテ見レバ、戰略上ノ關係ハ、全然影響ガナイヤウニモ見エル。クツアスラウホーヘンフリーデルベルヒ及ロイタンノ會戰等ヲ其直前ノ形勢ト比較シテ考ヘテ見テモ、亦同様ノ感^{カン}ジガ起ル。

以上ハ古イ戰例デアアルガ、千九百十四年九月ノマルヌノ會戰ハ、今日ニ於テモ、英、佛軍ノ如キ不利ナ開戰ノ仕方ヲシタ戰役モ、唯一回ノ大成功ニ依ツテ、再ビ形勢ヲ挽回シ得ルコトヲ示スモノデアアル。然シ此ノ場合ニハ彼我兩軍ノ開進ヨリ生ジタ、情勢ノ外ニ、尙ホ多クノ特殊ノ事情ガ加ハツテ居ル。(夫ニ就テハ尙後述ベル)。

近年ニ於ケル諸戰役ニ於テハ、國軍ノ區分法、其占有スル地域ノ廣大及各部分ノ獨立性等ノ關係カラ、既ニ初期ノ運動ガ、常ニ軋轢ヤ故障ヲ起シ勝チデ、有利ナ戰鬪ヲ交フルニ至ツテ、始メテ希望ノ如ク運動ガ進捗シタノデアアル。即チ千八百六十六年ノ我が軍ノベーメンヘノ進入ハ、ナホード、スカリツツ、ゾール、シユワインシエーデル、ポードル、ミュンヘンダレツツ及ギツチンノ勝利ニ依リ、又千八百七十年ノ我が軍ノ前進ハ、ワイセンブルヒ、ウエルト及スピツヘルンノ成功ニ依ツテ、進捗シタノデアアル。又千九百十四年ニハ、獨軍右翼ノ白耳義及北佛蘭西ニ於ケル有利ナ前進ハ、サントロンラ^{スガタ}ンデン及チルモンノ戰鬪及ロンウイー、ニユーシャトー及マンズノ會戰ニ依ツテ之ヲ實行スルコトガ出來タ。此レ等ノ場合ニ於テハ、既ニ戰略上ノ有利ナ形勢ノ内ニ、勝者ノ戰術上ノ優越ガ姿ヲ現ハシ

テ居ル。敵ノ方デハ其兵力ノ配置ガ悪ルク、必要ナ場合、即チ計畫ヲ抑止シ且ツ自己ノ戰術上ノ成功ニ依ツテ、形勢ヲ改善スルニ必要ナ場所ニ兵力ヲ置イテナカッタノデアアル。之レガ爲メニ、開進ノ際ニ犯シタ過失ガ其後何時マデモ惡影響ヲ及ボスノデアアル。之レガ、一方ノ軍ノ退却ト對手ノ軍ノ前進トヲ決定スルコトニナル。

之ニ就テノ適例ハ、千八百五年ノ役デアアル。當時埃軍ハ最モ有爲ナ將帥タルカール太公ニ十萬ノ大軍ヲ授ケテ伊太利ニ出シタ。蓋シ千七百九十六年、千七百九十七年、及千八百年ノ役ノ如クト同様ニ伊太利ニ於テ主ナ決戰ヲ行ハントシタノデアアル。那翁ガ急行シテ南獨逸ニ現ハレタ時ニハ此ノ方面ニフエルチナンド太公及マツクノ率ヒル七萬ノ兵ガ居ルノミデアツタ。其結果ウルムノ大敗ヲ招キ、カールチエロニ於ケル埃軍ノ勝利ヲ以テモ、之ヲ埋メ合ハスコトガ出來ナカッタ。ソコデ埃國ハ自己ノ過失ヲ認メ、カール太公ヲ獨逸ノ方ニ呼ビ戻シタガ、最早頽勢挽回スルコトガ出來ズ太公ガ埃國ノ爲メニ、一戰ヲ試ムルニ先チ、アウステルリッツノ會戰ニ依ツテ此ノ役ヲ結ブニ至ツタ。

千八百七十年ノ佛軍ノ最初ノ集中ハ、メツツノ前方及エルザス州内ノ二ヶ所ニ分レテ居テ、獨逸ニ向ツテ迅速ニ攻勢ヲ取ル考ヲ以テ行ハレタモノデアアルガ、實ハ夫レダケノ兵力ヤ眞劍ノ意志ヲ持ツテ居ナカッタ。互ニ遠ク離レテ居タ爲メニ、最初ノ失敗ニ依ツテ兩軍ガ相合スル必要ヲ生シタ時ニハ、長距離ノ退却ヲ必要トシタ。其結果トシテ、マクマホンハシャーロンマデ退キバゼースハ忽チメツツ

要塞内ニ包圍サル、ニ至ツタ。後者ハ再ビセダンニ向ツテ前進ヲ起シ、而シテ九月一日ノ大敗ヲ招イタ。佛國ガ此戰役ノ第一期ノ中ニ受ケタ主ナ敗戰ハ、悉ク皆、最初ノ開進ノ不良ニ關連シテ居ルコトハ、之ヲ認ムルニ難クナイ。

之ニ反シテマルヌノ敗戰ハ單純ニ獨逸軍ノ最初ノ開進ノ結果トハ云ヘス。此ノ會戰ハ縱令最初ノ開進ヲ當時ノ如ク實行シテアツテモ、若シ開進直後ノ運動ガ、此ノ開進ノ特色ヲ顧慮シテ行ハレテアツタナラバ、勝利ヲ得ラレタノデアアル。其特色ノ一ツハアーヘンヨリストラーズブルヒマデノ全線ニ亘リ、殆ンド平等ニ兵力ヲ分配シテアツタコトデ、此開進ニハ重點ト云フモノガ一ツモ無カッタガ、而カモ克ク右翼ヲ以テ白耳義軍ヲ蹂躪シ、左翼ヲ以テロートリンゲンニ於ケル佛軍ノ突進ヲ抑ヘルニ適シ、結局有利ニ戰端ヲ開クコトガ出來タ。此ノ開進法ハ元々緒戰ニ於テ所々ニ成功ヲ收メ、且ツ敵ノ深ク獨逸國內ニ進入スルヲ防止スルト云フト考カラ割リ出サレタノデアアル。此ノ二ツノ目的ハ實際ニ達成サレ、北方ニ於テハリユツチヒノ攻陷後、前述ノ諸戰鬪ニ勝利ヲ得、南方ニ於テハ佛軍ノ強大ナル兵力ノ突進ヲザールブルグニ於テ擊退シ、敵ヲ其要塞陣地ノ後方ニ壓迫シタ。然シ、之レト共ニ、最初ノ開進ガ將來ノ見込ノ内ニ、秘匿シテアツタ所ヲ、其儘引キ出シテ了ツタ。即チ佛國ノ内部ニ於ケル一大決戰ヲ目的トスル所ノ運動ヲ、繼續スル爲ニハ、先ヅ此ノ時期ニ於テ、兵力ノ配列ヲ新ニスル必要ガアツタ。若シシユリーフェンノ作戰計畫(策動計畫)ヲ忠實ニ守ルノナラバ、此所デ至急

ニ右翼ノ兵力ヲ強大ニスルコトニ着手スベキデアツタ。然シ夫レヲ行フニハ獨逸軍ヲ佛、白國境ニ停止サセ、ロートリンゲン州ニアル第六、第七軍(新ニ作ツタ軍ヲ以テ之ニ代ヘル)ヲ鐵道ニ保ツテ西部自耳義ニ送ルノ外ナカツタ。即チ此所デ新タナ開進ヲ完了シ、第二期ノ作戰ニ取リカ、ルノデアアル。然シ之レガ爲メニ生ズル前進運動ノ中絶ガ敵ノ爲ニモ利益トナリ、打撃ヲ受ケタ敵ノ一部分ガ、再ビ元氣ヲ回復スルコトニモナルデアラウ。此ノ理由デ獨逸ノ統帥部ハ、一氣ニ其ノ企圖ヲ遂行スルニ決シタノデアアル。尙ホ其際從來ノ成功ヲ過大ニ評價シ、シユリーフエンノ策動目標(作戰目標)ヲ越エテ前進シ得ルモノト過信シ、一方ノ包翼ニ代フルニ、英佛軍ノ兩翼包圍ヲ企テタ。之レヲ行フニハ左翼ハツール、エビナル間ノ突破攻撃ノ爲ニ前進ヲ起コサセネバナラナカツタ。

此ノ企圖ハ元々失敗ヲ招ク危険ガアツタ。兩翼ヲ包圍スルニハ、全體ノ兵力ガ足ラズ、又要塞ヲ設ケアル佛國ノ國境ヲ突破スル爲メニハ、第六、第七軍ノ武器ノ準備ガ不十分デアツタ。殊ニ重大ナ關係ノアツタノハ、獨逸軍ガ勝利ヲ得ルダケノ兵力ヲ十分ニ持タヌ方面デ決戦ガ行ハレタコトデアアル。最初ノ計畫ヲ修正シ、再ビ元ノ計畫ニ立歸ラウトシタ際ニハ、時既ニ遅ク、其過失ヲ匡救スルコトガ出來ナカツタ。斯クシテマルヌノ會戰ハ、南方ノ二軍及四軍團(其内ノ二ツハ東方ニ送ラレ、二ツハアントウエルベン(アンベルス)及モーグーヂユノ前面ニ殘サレタ)ヲ用ヒズシテ、實行サレタ。ケーニヒグレッツツノ戰ニハ「總テノ隊ガ悉ク參加シテ、一人モ缺ケタモノハナカツタ」ノデアアルガ、マル

ヌ會戰ノ獨逸軍ハ、尙ホ三分一ニ近キ兵力ヲ増大シ得タノデアアル。統帥ノ巧拙ノ差ハ、此ノ二ツノ實例ニ就テ、明ラカニ認メル事ガ出來ル。

前ニモ述ベタ通り、獨軍ノ開進ハ、最初ノ戰爭開始ニハ適シタガ、戰略的大理想ヲ遂行スルニハ、用ヲ爲サヌモノデアツタ。モルトケハ之ニ多クノ仕事ヲ課シ過キタ。大將ガシユリーフエンノ案ヲ採用シタ以上ハ、寧ロ其施設及實行ノ上ニモ、忠實ニ夫レヲ守ツタ方ガ、確カニ良カツタデアラウ。假令一時獨逸ノ領土ノ一部ヲ敵ニ與ヘテモ、左翼ノ兵力ヲ爲シ得ル限リ少ナクシ、且ツ之ヲメツツ——ストラーズフルヒ——オーベルハイン要塞戰線ニ退ゲ、用ヒ得ルダケノ兵ヲ悉ク右翼ノ方ニ送ルコトモ亦其内ノ一ツデアツタ。斯クスレバ即チ、シユリーフエンノ方針ノ實行ニ必要ナル局部的優勢ガ得ラレタノデアアル。

以上ノ説明ニ依リ或ル一定ノ開進カラ、本來夫レニ含蓄サレテ居ナイ任務モ果サセヤウトスルノハ甚ダ宜シクナイコトヲ知り得タガ、夫レト同様ニ又、作戰計畫ヲ立テルニ當ツテモ、凡ラユル場合ニ應ジ得ルヤウナ處置ヲ講ジテハナラヌ。斯クスレバ其案ハ結局何レノ場合ニモ、特別ノ力ヲ發揮シ得ヌモノトナツテ了フ。

千八百六年ノ敗戰ハ例ニ依ツテ此ノ點ニ就テ大ニ參考トナル。其年ノ九月二十五日ニ普魯西軍ハ、

ザクセンニ於テミュールハウゼン、ナウムブルヒ及フライブルヒノ三ヶ所ニ居リ、佛軍ハ尙ホ南獨逸ニ、長イ地域ニ亘ツテ分散シテ宿營シテ居タ。此ノ時ブラウンシュワイヒノ太公ハ、佛軍ヲ急襲シ、其集中ニ先ツテ擊破スルノ案ヲ立テタ。然ルニ其決心ハ忽チ鈍ラセラレテ了ツタ。即チ外交家ハ此ノ時尙ホ平和的解決ノ見込ガアルト考ヘタノデ或期日マデハ、對敵行動ノ開始ヲ差控ヘネバナラナクナツタ。其内ニハ那翁ガ、普魯西軍ノ機先ヲ制シ、前進シ來ル太公ノ縱隊ヲ、左ヨリ包圍シテベームンニ擊退スルカ、若シクハエルベ河ヨリ離停シ得ルヤウナ形勢ニナリ得ルカラ、太公ハ時機ヲ逸セズ防禦ヲ爲シ得ルガ如キ姿勢ヲ取ツテ居ルノガ良イト考ヘタ。而カモ同一ノ場所デ、右ニ對シテモ亦、左ニ對シテモ、同様ニ防禦シ得ンコトヲ欲シタ。ソコデ先ツ兵力ヲチューリッゲル、ワルド(山地)ノ北脚ニ集結スル決心ヲ取ルニ至ツタ、實際之ニ依ツテ外交家ノ希望通りニ、對敵行動ヲ遷延スルコトガ出來、那翁ガ既ニ前進ヲ始メタ時ニモ、山地ノ前方ニ停止シテ居ルコトガ出來タ。而シテ此時若シ、那翁ガヘツセンノ軍用路ヲ利用スルカ、若シクハホーフヲ經ルカ、或ハフランク、ザクセンノ軍用路ヲ利用シテ前進スル場合ニハ、エルフルト及ゴータヨリ、容易ニアイゼナツハ及フルダヲ經テ、退去スルコトガ出來、又那翁ガ待ツテ居ルナラバ、山地ヲ通過シテ不意ニ之ニ迫ルコトモ出來タ。

實際ニ此ノ案ハ總テノ場合ニ適スルモノデアツタガ其所ニ又、此ノ案ノ弱點ガ存シタノデアアル。

其處置ハ何レノ場合ニモ、決勝的ノ成功ヲ收メ得ルホドノ威力モナケレバ、徹底的ノモノデモナカッタ。斯クシテ終ニ最モ有利ナ唯一ノ好機ヲ空シク經過サセテ了ツタ。

先ツ起リ得ベキ總テノ場合ヲ研究シタ後ニ、其内ノ最モ實ラシイモノヲ採用シ、之ニ基イテ自己ノ意圖ヲ定メ、ソコデ夫ヲ有力ニ實行スル爲メニ、總テノ處置ヲ講ズベキデアアル。此所ニ掲ゲタ例デハ、「南獨逸ニ向ツテ不意ニ攻勢ヲ取ル」ノガ大方針デアツタ。少シデモ時日ヲ費セバ其威力ガ減ズルカラ、如何ナル狀況ニ於テモ之ヲ避クベキデアツタ。故ニ作戰計畫(策動案)トシテハ、單ニバムベルグノ方向ニ進ンデ兵力ヲ神速ニ集結スレバ良イノデアツタ。之レガ爲メノ處置トシテハ、急速ヲ要スルコト、適當ノ搜索ヲ爲スコト、並ニ各縱隊ガ途中デ敵ノ一部ニ遭遇スルコトハアツテモ、其全兵力ニ衝突セヌヤウニ我が集結點ヲ選ブコトダケヲ示セバ足りタノデアアル。敵ノ要塞線ヲ突破スベキ任務ヲ持ツ場合ニハ、既ニ作戰計畫(策動計畫)中ニ、何レノ地點ニ於テ之ヲ實行スベキカラ示スヲ要スル。單獨ノ堡壘ヲ、單ニ砲擊ニ依ツテ陷ルベキ場合デサヘモ、野戰砲兵ノミデハ其成功ヲ確實ニ期待スルコトガ出來スカラ、重砲兵ヲ之ニ參加セシメネバナラヌ。依ツテ開進際、其重砲兵ニ方向ヲ示ス必要ガアル。後ニ之ヲ移動スルニハ、時ガ迫ツテ居ルノニ、各道路ガ皆一杯ニ使用サレアルカラ、非常ナ困難ニ遭遇スルデアラウ。尙ホ之ト同様ノ理由デ、要塞ヲ攻圍スル考カ、又其要塞ハ如何ナル規模ノモノカヲ示スベキデアアル。一等要塞ハ、非常ノ攻城用器材ヲ必

要トスルカラ、如何ナル國デモ同時ニ數ヶ所ヲ攻メルコトハ不可能デアラウ。此ノ攻城用器材ガ戰地ノ一定ノ場所ヘ搬致サレタナラバ、多クノ時日ヲ費ヤシナガラ、要塞ヲ一ツ宛途次ニ攻略スルノデア
ルガ、多クノ場合ニハ其成功ガ疑問トナルデアラウ。

一國ノ最高ノ統帥者ハ、全般ノ政治的關係カラ考ヘテ、起リサウナ總テノ戰爭ノ爲メニ、夫々作戰計畫(策動計畫)ヲ用意シ置クベキハ、言フ迄モナイ。

是レハモルトケ大將ノ書キ殘シタ所ニ依ツテ、始メテ、知レタコトデアルガ、實ハ千九百十四年ニハ、獨逸軍ノ東方正面ノ開進ガ準備シテ無カッタ。故ニ皇帝カラ八月一日ニ國軍ヲ佛國ニ用ヒズシテ露國ノ方ニ使用スベキコトヲ要求サレタ時ニ、大將ハ夫レヲ實行スル場合ニハ、獨逸ノ國境ノ防備ニ當ツベキモノハ、僅カニ「糧食ノ用意ノ無イ、不統一ナ武装兵ノ一團ガ存スルノミデアルト」答ヘタ。之ニ依ツテ見ルト、モルトケハ獨逸ガ戰爭ヲ爲ス場合ニハ、開戰ノ動機ノ如何ヲ問ハズ、先ヅ最モ危險ナ佛國カラ處分シテカ、ラネバナラヌモノト、確信シテ居タノデアアル。獨逸ノ參加スル戰ニ佛國ガ手ヲ出サヌト云フコトハ、甚ダ疑ハシク思ハレタニハ相違ナイガ、然シ最初カラ夫レヲ全ク否定シテ毫モ之ヲ顧ミヌト云フコトハ良シクナイ。此ノ事ハ唯ダ一ツノ開進カラ凡ラユル戰略上ノ課題ヲ解決セント欲スルカ、若シクハ考ヘ得ベキ種々ノ狀況ノ爲ニ、夫々之ニ應ズル別々ノ開進法ヲ準備スベキカト云フコトトハ、問題ガ違フノデアアル。

大國ノ軍備ニハ、陸軍ノ外ニ海軍モ有ル。作戰計畫ニハ之ヲモ包含スベキデアアル。陸軍ガ運命ヲ賭シテ敵國ニ進入シテ居ルノニ、艦隊ガ自國ノ港灣ニ立テ籠ツテ居ルノハ、甚ダ良シクナイ。千九百十四年ニモ強力且ツ有利ナ構造ト裝備トヲ有セル我が海洋艦隊ハ、更ニ大ニ活動スベキデアッタ。世界第一ヲ以テ誇リトセル英國艦隊ガ、其優勢ト平生ノ其精神トニモ似ズニ、戰ヲ避ケタモノトハ思ヘナイ。若シ一戰ヲ試ムレバ或ハ獨逸艦隊ノ全滅ヲ來シタデアラウ。然シ英國艦隊ガ勝利ヲ得テモ、其爲ニ世界第一ノ地位ヲ犠牲ニセネバナナルマイ。夫レガ爾後ノ發展ニ多大ノ價值ヲ持ツノデアアル。講和談判ノ際ニ、損傷セヌ艦隊ヲ擁スルコトガ、必要ダナドト云フ誤ツタ考ガ、世界大戰ノ初期ニ於ケル獨逸艦隊ノ適切ナル使用ヲ妨ゲタ。對敵行動ノ初ニ當ツテ、戰後ノ事ナドヲ考ヘズニ、先ヅ第一ニ勝利ヲ得ルコトヲ念トシ、之ヲ獲得スル爲ニ、凡ラユル手段ヲ盡クスベキデアアル。

若シ作戰計畫中ニ、啻ニ自國ノ軍備ノミナラズ、同盟國ノ夫レヲモ包括スベキ場合ニハ、最モ面倒デアアル。全體ノ兵力ヲ恰カモ一ツノ國民ヨリ成ル如ク、夫レヲ使用スルノガ理想デアアル。戰爭目的ノ一致ハ、全權能ヲ有スル統帥トガ、最モ大切デアアル。

戰勝ノ爲メニ必要ナ此ノ條件ガ、遺憾ナガラ、我が四國同盟側ニ備ツテ居ナカッタ。

此ノ如キ場合ニ於テハ、外交政策ガ最モ活躍セネバナラヌ。大戰ニ於テ我が敵國側ノ政策ハ、獨逸

ノ殲滅ト「ハーブスブルグ」王家ノ顛覆ヲ以テ、最大ノ共同目標ト指定シタ。各參加國ハ、之レガ爲メニハ何レモ皆最大ノ努力ト犠牲トヲ必要トスルコトヲ、承知シテ居タ。ソ、コ、デ行動ノ統一ガ自然ニ行ハレタ。然ルニ我が同盟國ノ方デハ、單ニ一波蘭土ノ問題デモ、獨逸ト埃匈國トノ間ニ意見ノ扞格ヲ來タシ、其爲メニ、獨逸側ニ於テハ不安ヲ感ジ、埃匈國ノ背信ヲ心配シテ、共同ノ作戰計畫ヲ立テルコトヲ止メネバナラヌト考ヘタホドデア。普通ノ協議位デハ、信賴スベキ共同動作ナドガ保證サレルモノデハナイ。

總テ作戰計畫ハ愈々夫レヲ使用スル見込ノ立ツ迄ハ、嚴ニ秘密トスベキハ、言フ迄モナイ。夫レヲ作製スル參謀本部デモ、特ニ選バレタ少數ノ將校ノミ之ニ關與スル。戰時ニハ少ナクモ軍司令部ハ作戰計畫ヲ承知シテ居ルベキハ勿論デア。故ニ一定數ヲ筆寫シテ置クノガ良シカラウ。夫レニハ、各軍ノ編成ノ一覽表、占領スベキ地域ノ記述、並ニ所謂輸送及行軍表（各部隊ガ其所在地カラ戰地ノ最初ノ宿營地ニ到ルベキ方法ヲ示シアルモノ）ヲ添附スル。尙ホ敵ニ關スル判斷、即チ豫想スル敵ノ行動、其兵力及開進地域ニ就テノ通報ヲモ必ズ示スベキデア。

作戰計畫ハ決シテ一日ノ作業デハナク、段々ニ完全サレルモノデア。通常二三年毎ニ、其間ニ必ズ起ル所ノ政治上ノ變化ニ適應サセネバナラヌ。此ノ如キ案ガ、シユリーフエン伯ノ如キ、卓越シタ人物ノ立案シタモノデアルト、恰カモ護符ノ如ク尊重シテ夫レニ手ヲ着ケルノガ罪惡デモアルヤウ。

ニ考ヘラレ、長ク其儘ニ保存サル、弊ニ陥リ易イ。爲ニ案ノ基礎トナツテ居ル條件ガ、人ノ氣ノ着カヌ間ニ次第ニ消滅シテ了フコトガアル。ソ、コ、デ愈々其案ヲ實行スベキ場合ニハ、現下ノ狀況ニ適合セヌコトニナル。其様ナ譯テ大人物ノ遺訓ガ其子孫ノ爲ニ、却ツテ害ヲ爲シタコトガ往々アツタノデア。

作戰計畫ノ考案者ハ、軍事上及政治上ノ深キ理解ト、自國ノ戰爭機關ニ就テノ知識ト、豫想戰場ノ地理ノ精通トガ、必要デア。危險、考慮、副次的事項等ヲモ看過シテハナラヌガ、然シ之ヲ餘リ顧慮スル結果、自己ノ企圖遂行ノ爲メノ處置ヲ、鈍ブラセテハナラヌ。此ノ場合ニモ亦、例ニ依ツテ熟慮斷行ノ箴言ヲ遵奉スベキデア。

作戰計畫ヲ立テルニ當ツテハ、戰爭ニ於ケル總テノ大決心ト同ジク、左顧右眴ヲ戒ムベキデア。然ラザレバ如何ニモ尤ト思ハル、幾多ノ顧慮ノ爲メニ、大目的ヲ明ラカニ頭ノ中ニ置イテカ、ルコトガ出來ナクナル。此ノ如キ人ハ明敏ナル穿鑿家ニハナレルガ、到底名將タルノ資格ヲ備ヘタ者ト云ヘヌ。

第五節 情報勤務及搜索勤務

クラウゼウイツツモ言ヘル如ク、敵情ハ戰爭ニ於ケル凡ラユル思考ト、行動ノ基礎ヲ爲スモノデア

ルカラ、此ノ事柄ニ就テハ、大ニ研究ノ價值ガアル。先ヅ敵ノ取ルベキ處置ニ就テ判斷シ、之ヲ基礎トシテ我が決心ヲ定メルノガ、一番合理的デアアル。サレバト云フテ、全然敵ノ行動ニ引キ着ケラレテハナラス。不確實ナル決心ヲ以テ、自己ノ任務ニ臨ム者ハ、唯ダ防衛的手段ニノミ出ルコトニナル。確乎タル決心ヲ有スル者ハ、更ニ一步ヲ進メテ、敵ヲシテ、而カモ敵ノ最モ苦痛トスル所ニ於テ、我が處置ニ追隨セシメル。然シ此ノ如クスルニハ、敵ノ意圖ヲ洞察スルコトガ必要デアアル。

良ク敵情ヲ知ルコトハ吾ニ取ツテ非常ナ強ミデアアル。フリードリッツ大王モ「若シ常ニ敵ノ企圖ヲ豫知シ居レバ、劣勢ノ軍ヲ以テモ、毎回優越ノ地位ニ立チ得ル」ト、「戰爭要訣」中ニ述ベテアル。

今日デハ、平時カラ、其國ノ軍狀ヲ注意シテ調査シテアルカラ、最初ヨリ敵ニ就テ多大ノ知識ヲ持ツテ居ル。此ノ調査ハ參謀本部ノ重要ナ仕事デアアル。開戦前ノ敵ニ關スル正シイ觀察ガ、全般ノ情報勤務ノ基礎トナル。前ニモ述ベタ通り、敵軍ノ最初ノ集中ニ就テハ、可成確實ニ知ルコトガ出來ルデアラウ。最初國境ニ向ツテ軍隊ヲ輸送スル時分ニハ、敵ノ國境ガ未ダ完全ニ封鎖サレナイカラ、敵地ヨリノ報告ヲモ得ラレル。然シ愈々運動ヲ起シテカラハ、左様ハユカス。最初トハ狀況ガ著シク變ハリ、而カモ明瞭ヲ缺クヤウニナル。此ノ時カラハ毎日新シイ情報ヲ得ル必要ガ生ズル。

之レガ爲ニ用フベキ諸種ノ方法ノ中デ、軍隊自ラ行フ手段ガ最モ有効デアアル。

其ノ中デモ指揮官ガ、自ラ必要トスル敵情ヲ得ル爲メニ使用スル所ノ飛行機及騎兵ガ、殊ニ有効デ

アル。以前ニハ軍ノ耳目タルモノハ騎兵ノミデアツタガ、今ハ飛行機ガアルカラ、軍ハ從來ヨリモ遙カニ遠方ヲ精確ニ見得ル所ノ、精良ナ眼鏡ヲ手ニ入レタ譯デアアル。此所ニ注意ヲ要スルハ、此ノ二ツノ搜索機關ノ何レノ一ツモ、完全ニ他ノ代理ヲ勤メ得ヌ事デアアル。即チ兩者ハ戰場ニ於テ、各々他ノ者デハ果スコトノ出來ヌ任務ニ服スルノデアアル。從ツテ互ニ相協力シ相補ツテ行カネバナラス。

先ヅ遠距離搜索ニ於テ之ヲ實行スル。遠距離搜索トハ、高級指揮官ノ決心ノ基礎ヲ得ル爲メニ、行フ所ノ凡ユル偵察ヲ總稱スルノデアアル。而シテ飛行機ハ深く敵地ノ中ノ敵情ヲ偵察スル任務ニ服スル之レハ騎兵ニハ容易ニ出來ヌ事デ、而カモ多大ノ時日ヲ要スル。飛行機ハ敵ノ警戒線ヲ越エテ進入スルガ、騎兵ハ多クハ敵前ニ至ツテ遮ギラレル其代リニ、騎兵ハ住民地内及森林内ノ守兵ヤ、地形等ノ如キ、飛行機ノ見逃シ易キモノヲ、確認スルコトガ出來ル。ソコデ先ヅ飛行機ノ偵察ニ依ツテ何レノ方向ニ騎兵ヲ使用スベキカヲ決シ得ル場合ガ往々アル。而シテ騎兵ハ敵ノ騎兵ヲ兩軍ノ間ノ土地ヨリ驅逐シテ、神速ニ其行軍縱隊ヲ敵ノ占領シアル村落アドニ近ヅキ、敵ノ前進スル場合ニハ、之ヲ窺ヒ、之ト併進シ、又タ退却スルニ場合ハ之ニ追尾スル等、總テ敵ヲ見逃サヌヤウニ絶エズ監視スル。飛行機ハ遠隔セル目標ヲ偵察シ、廣大ナル地域ヲ迅速ニ觀察スルコトニ於テハ、大ニ騎兵ニ優サルガ、一度得タル敵トノ觸接ヲ、絶エズ維持スルニハ、騎兵ノ方ガ適シテ居ル。

近距離搜索ハ戰術上ノ目的ニ用ヒル。之ニ依ツテ指揮官ガ、戰鬥ニ於ケル其軍隊ノ使用法ヲ、適切

ニ決定シ得ルノデアアル。例へば或時刻ニ、敵ノ行軍縱隊ノ先頭ガ何レノ地點ニアツタカ、其兵力ハ幾何ニシテ、如何ナル編組カ、又ハ如何ナル地域ヲ占領シアルカ、豫備隊ガ有ルカ、又其位置ハ何レノ翼後カ等ヲ確カメル。近距離搜索ニハ飛行機及騎兵ノ外、種々ノ兵種ガ之ニ當ルガ、別シテ自轉車兵ガ多ク用ヒラレル。戰鬥搜索ハ戰鬥間敵ノ處置ヲ監視スルノデアアル。總テノ指揮官ハ自己ノ用ヒ得ル手段ヲ盡クシテ、之ヲ實行スベキモノデアアル。

各種ノ搜索ニ於テハ、何レモ兵力ノ節約ニ注意スベキデアアル。指揮官ハ之レガ爲メニ過早ニ兵力ヲ使ヒ盡クシテハナラス。何ニモ多クノ搜索機關ヲ出シテアルト云フコトガ、必要ナ譯デハナク、夫レガ適切ニ使用サレ、且ツ何ヲ知ルノガ指揮官ノ爲メニ一番價值ガアルノカト云フコトヲ、明確ニ知ラセテ置クノガ大切ナノデアアル。

以下各種ノ搜索ニ就キテ詳説スルコトニシ、先ツ飛行機カラ始メル。

深ク敵地ニ向ツテ行フ所ノ戰略搜索ハ、總司令部及大兵團ノ偵察飛行隊ノ仕事デアアル。各軍司令部ハ自己ノ偵察飛行隊ヲ以テ、正面及暴露セル側面ノ戰略的搜索ヲ行ヒ、各軍團司令部ノ飛行隊ハ、正面前約六十軒マデ(要スレバ又側面ヲモ)ノ戰術的搜索ヲ行フ。但シ無益ノ勞力ヲ費ヤサザル爲メ、搜索地域ノ境界ヲ精密ニ決定スベキデアアル。

宣戰布告ト共ニ、敵ノ開進ニツキ成ルベク正確ニ偵知スルコトヲ努ムベキデアアル。之レガ最良ノ手

段ハ、飛行機ヲ出シテ敵ノ鐵道ヲ晝夜偵察スルニアル。長イ列車ノ頻繁ナル往復、荷物ノ卸下、乘車臺ノ設備、停車場ノ倉庫等ハ、重要ナル判斷ノ資料トナル。指揮官ハ此ノ方法ニ依ツテ、敵トノ觸接ヲ得タナラバ、次ニハ何レノ場所ニ集合スルカ、何レノ方向ニ向ツテ前進ヲ起スカヲ確カメル必要ガアル。夫レニハ、道路及住民地ヲ絶エズ偵察サセル。野戰築城ノ設備、橋梁ノ架設及破壞、野戰鐵道ノ建設各種ノ集積所等ガ參考トナル。又前後數回ニ撮ツタ空中寫眞ニ依ツテ、其構築及設備ノ進捗ヲ殊ニ明瞭ニ知り得ル。此レ等ノ報告ヲ綜合スルトキハ、遠距離搜索ニ騎兵ノミヲ使用シタ時代ニ比シ著シク敵情ガ明瞭トナル。

飛行機ノ大ニ用ヲ爲スノハ單ニ搜索ノミデハナク、尙ホ敵ノ開進ヲ大ニ妨害シ、且ツ滯留セシメ、一般ニ敵軍ノ不安ト混亂ヲ惹起セシメルコトガ出來ル。夫レニハ、編隊ヲ以テ、鐵道交叉點、彈藥集積所、宿營地、行軍縱隊等ニ爆彈攻撃ヲ行フ。之レハ所謂 Raids (亞米利加ノ南北戰爭ニ於テ之ニ似タ目的ヲ以テ行ツタ騎兵ノ企圖)ノ新シイ形式デアアル。

飛行機ハ會戰中戰場ヲ監視スル。而シテ成ルベク早く敵トノ觸接ヲ得、且ツ敵方ノ特殊ナ出來事ヲ悉ク確實ニ認知シ、敵ガ何レノ地點ニ兵力ヲ増加スルカ、何レノ方向ノ兵ヲ退ルカ、豫備隊ガ何レニ位置スルカ、増援隊ガ近接シツ、アルカ、敵ノ翼端ガ何レニアルカ、等ノ報告ハ、最モ重要ナモノデアアル。砲兵用飛行機ハ砲兵ノ試射、彼我ノ射彈、位置等ヲ觀測シ、敵ノ砲兵中我が砲火ヲ被ムラヌモ

ノナキカヲ點檢シ、且ツ新ニ出現スル砲兵ニ射撃ヲ向ケサセル。又歩兵用飛行機ハ最前ノ戰闘線ノ狀況ヲ指揮官(往々指揮官ト最前線トノ連絡ガ失ハレルノデアアル)ニ報告スル。

勿論空中ヨリノ偵察ハ、地上ヨリノ敵ノ對抗手段ニ遭遇スル。即チ、敵ハ飛行機ヲ以テスル攻撃、飛行機射撃砲及機關銃ノ射撃、及全地域ニ亘ル煙幕等ヲ以テ對抗スル。又軍隊モ飛行機ノ偵察ヲ成ルベク困難ニスルコトヲ努メ、從ツテ主ニ夜間ニ行軍ヲ爲シ、晝間ニハ上方ヨリ見エヌヤウナ遮蔽物ヲ求メ、火炮、飛行機及格納庫等ニ擬裝スル(即チ、不規則ニ着色シ、樹枝、ワラダス藁束等ヲ以テ掩ヒ、以テ空中ヨリノ觀察ヲ避ケル)。

飛行機ニ課スル搜索任務ノ遂行法ヲ左右スルモノハ、空中ニ於ケル戰況デアアル。空中ノ霸權ヲ握ル者ハ、多クノ有益ナ報告ヲ得ル見込ガアル。此ノ霸權ヲ得ルニハ、決戰ヲ求ムル所ニ、驅逐隊ヤイトゲンニューレヲ纏メテ使用スルノガ最良ノ手段デアアル。總テ飛行隊ハ旺盛ナル攻撃精神ヲ持タネバナラス。空中ヨリ敵機ヲ驅逐スルコト益々多キニ從ツテ、偵察ノ行動ガ益々自由トナル。砲兵用飛行機ハ長時間同一ノ場所ニ居リ、且ツ地上ニ注意ヲ向ケテ居ルベキモノデアアルカラ、戰闘機ヲ以テ之ヲ掩護スル必要ガアル。

次ニ騎兵ニ就テ研究スル。

「戰爭ニ於テハ優秀ナ騎兵ヲ有スルモノガ勝ヲ占メル」トノフリードリッヒ大王ノ言ハ、今日デハ最早當ツテ居ラズ、又兵器ノ進歩ノ結果、戰闘兵種トシテノ價值ヲ減ジタルノミナラズ、尙ホ飛行機ノ採用ニ依ツテ、搜索機關トシテノ聲價ヲモ損スルニ至ツタガ、然シ今後ト雖モ亦、何レノ國軍ニモ之ヲ缺クコトノ出來ヌモノデアアル。世界大戰中ノ東方戰場ノ如ク、宏大ナル森林ノ存スル廣漠タル平地ニ於テハ、統帥上騎兵ノ搜索行爲ヲ閑却スルコトガ出來ス。

戰略的遠距離搜索ハ軍騎兵、即チ騎兵軍團及騎兵師團ノ任ズル所デアアル。此ノ任務ハ軍騎兵ガ其全搜索範圍ニ於テ、戰術上ノ優勢ヲ獲得セネバ達成スルコトガ出來ヌ。從來ハ之レヲ、大騎兵團ヲ以テスル襲撃ニ依ツテ獲得スベキモノト考ヘタガ、大戰ニ依ツテ、他ノ方法ヲ教ヘラレタ。即チ此ノ種ノ攻撃ハ大規模デハ全ク行ハレズ、又小部隊デモ稀ニ行ハレタニ過ギヌ。而カモ尙ホ、搜索勤務ニ從事スル騎兵部隊ハ、其兵力ノ大小ヲ問ハズ、何レモ皆敵ノ騎兵ニ對スル戰闘ヲ(敵ガ夫レヲ挑ムカ、若シクハ之ヲ必要トスル場合ニハ)實行セネバナラヌノデアアルガ、唯ダ今日ノ騎兵ハ夫レヲ行フノニ、從來ヨリモ多ク火器ヲ使用スルコトニナツタ。

斥候ノ後カラ、騎兵師團ノ搜索隊ガ續行スル。其兵力ハ其場合ニ受クベキ抵抗ノ如何ニ依ツテ一中隊ヨリ一聯隊ノ間ヲ上下スル。何レノ場合ニモ、戰闘ノ場合ニ備ヘル爲ニ自轉車兵、二、三門ノ砲(砲手ハ乘馬トシ、彈藥車ヲモ附ス)及重機關銃ヲ與ヘ、又通信連絡ノ爲メニ、輕便携帶無線電信機ヲ附ケル。

此ノ裝備ニ依ツテ見テモ、騎兵ノ任務遂行法ガ從來並ニ大戰中ト如何ニ異ナツテ來タカガ分ル。搜索隊ハ地上ニ於ケル遠距離搜索ノ主ナル擔任者デアアル。其指揮官ハ斥候ヲ派遣シ、又戰鬥ヲ交フルカ、若シクハ之ヲ避クルカヲ決スル。指揮官ハ騎兵師團ヨリ、自己ノ行動スベキ地帯（騎兵二中隊ヨリ成ル一隊デ十五乃至二十軒ノ幅ヲ有スル）ト、其地帯ノ大體ノ行進方向ト、日々其斥候ヲ以テ到着スベキ線トヲ指定サレル。

此ノ斥候ノ爲ニハ、餘リ過大デナイ地區毎ノ計畫的躍進ヲ以テスルノガ良イ。數日行程ノ距離ニ前遣スル遠距離斥候ハ、例外ニ屬スル。此ノ種ノ斥候ハ後方ノ支援ガ無ク、又其報告ガ敵地デハ搜索隊ノ許マデ容易ニ到着シ難イノデアアル。

騎兵師團ハ搜索隊ヲ支援スル。其搜索地帯ハ四十乃至五十軒ノ幅ヲ超ユルコトガ出來ヌ。騎兵師團ガ出ス搜索隊ノ數ハ、狀況及地形ニ依ツテ決スル。搜索隊ガ自己ノ打破シ得サル抵抗ニ遭ヘバ、夫レガ甚ダシク優勢ナラザル限り、師團ハ兵力ヲ使用シテ、進路ノ打開ヲ謀ル。

斥候ト搜索隊トノ連絡ハ、傳騎ニ依リ、搜索隊ト騎兵師團トノ間、騎兵師團ト軍トノ間ノ連絡ハ、技術的通信法、就中無線電信及無線電話ニ依ツテ、之ヲ維持スル。又少數ノ偵察機隊ヲモ騎兵師團ニ配屬スル。

遠距離搜索ノ爲メニ、急行スル騎兵ガ、上述ノ如キ區分法ヲ取ルノハ、彼我ノ正面ガ尙ホ數日行程

ヲ隔テ、居ル場合ニノミ實行スベキコトハ、言フ迄モナイ。千九百十四年ノ西方戰場ノ如キ開進デハ敵ノ正面ヲ或一地點ニ於テ突破シ、若シクハ二、三ノ會戰ニ依ツテ之ヲ打破ツタ後ニ於テ、始メテ騎兵師團ヲ出スコトガ出來ルデアラウ。而シテ其後ノ經過中ニモ、騎兵ノ爲メニ、屢々之ニ似タ運動ノ自由ヲ得ルコトガアルデアラウ。然シ夫レガ得ラレヌ内ハ、遠距離搜索ハ飛行機ニ一任スルノ外如何トモ致シ方ガナイ。

軍隊騎兵即チ諸兵種ヨリ成ル部隊ニ屬スル騎兵ハ、近距離搜索ニ任ズル。此ノ種ノ搜索ハ、其前方ニ大ナル騎兵隊ガ遠距離搜索ニ從事シツ、アル所デモ、尙ホ之ヲ實行スベキモノデアアル。之ト共ニ地形ノ状態及通過ノ能否、道路及橋梁ノ現況並ニ適當ナル展望點等ノ報告ヲモ爲ス。

騎兵ハ戰鬥搜索ニモ參與スル。火戰ガ開始サレル迄ハ、正面前ニ活動シ、戰鬥間ハ依托セザル翼ヲ警戒スル。

尙ホ報告ニ就テ、二、三ノ注意ヲ述ベテ置ク。

報告ハ明瞭ト云フコトガ主眼デアアル。然シ「何ヲ」「如何ニ」報告スベキカノ規定ハスコトガ出來ヌ。大ナル戰爭ノ爲ニハ、特別ノ例外ノ外ハ將校ノ報告ノミガ、問題トサレル。

個々ノ事實ニ就テハ、常ニ目撃者ヨリ其都度直チニ報告ヲ爲ス如クスル。敵ヲ始メテ認メタトキ、今迄認メテ居タ騎兵ノ後方ニ歩兵及砲兵ガ續行スルトキ、敵ガ占領シテ居ルト信ジタ陣地ニ敵兵ノ居

ラストキ、重要ナ渡河點ノ開放サレアルトキ、又敵ノ前進方向ニ何カ目立ツタ變化ガ起ツタトキ、砲聲ニ依ツテ衝突ヲ察知シタルトキ等ニハ、後方ノ縱隊指揮官ニ速カニ知ラス爲メニ、報告ヲ出ス。又指揮官ニ取ツテハ、自己ノ騎兵ガ何等報告スベキモノナキコト、一定ノ地方ニ敵兵ヲ認めザルコト等ノ報告ガ、他ノ方面デ敵ト遭遇シタト云フ報告ト、同等ノ價值ノアルコトガ屢々アル。斯クノ如キ消極的、否定的ノ報告ニ依ツテ、肯定的ノ報告ヲ補足スルコトガ指揮ノ確實性ヲ大ニ高メルモノデア。此ノ一事ヲ以テモ、別ニ新奇ノ事ヲ認めヌ場合デモ、數々報告ヲ出スベキ必要ガ分ル。

尋問及傳聞ガ騎兵ノ爲ニ、自ラ目撃セシ所ヲ擴充スルノ効アルハ言ヲ俟タス。

周密ナル注意ヲ以テ住民ヨリ情報ヲ探知スルコトガ緊要デア。近代ノ交通機關ハ一般人ノ好奇心ト事件ニ關スル知識トヲ、著シク高上サセタ。大規模ノ軍隊ノ行動ニ就テハ、必ず風説ガ傳ハル。而シテ戰時ニ於ケル普通ノ通信經路ニ依ルニ拘ハテズ、根據アル風説ガ、如何ニシテ其様ニ早ク傳ハルモノカト、不思議ニ思フコトガ屢々アル。

然シ此ノ場合ニハ、住民ノ言フ所ガ甚ダシク區々デア。無口ナ露國人ヤ英國人カラ聞キ出スノハ氣輕ナ佛蘭西人ヤ伊太利人ヨリハ骨ガ折レルガ、何レノ場合ニモ、何物カラ捉ムコトガ出來ル。而シテ忙ハシク走り廻ル斥候ガ、重要ナ事ヲ告ゲル適好ノ密告者ヲ探シテ居ル必要ハナイ。尋問ヲ受ケタ者ハ執拗ニ聞カレルノヲ避ケル爲メニ、故ラニ、自ラ餘リ重要デナイト思フコトヲ告ゲルモノデア。

ガ其數百ノ輕易ノ事ノ中カラ、何ニカ重要ナ事ヲ綜合シ得ルノデア。

何等耳目ニ入ルモノ、ナキ地方ニハ、亦實際ニ軍事的行動ノ行ハレヌモノト判斷シテ良イ。此ノ斷定モ亦輕視スベキモノデナク、之ニ依ツテ、著シク情況判斷ノ確實性ヲ増大スルノデア。到ル所デ一々敵ヲ探索シテ歩ルク必要ハナイ。敵ノ居ル所ニハ何ニカ目ニ留マルコトガアルモノト思ツテ差支ナイノデア。

報告ニハ報告者ノ意見ヲ附スル必要ハナイ。事實ヲ正確ニ現ハセバ良イ。其意義ヲ判斷スルノハ個個ノ徵候ヲ全般ノ狀況ト對照トシテ理解シ得ル所ノ高級指揮官ノ仕事デア。

今迄モ報告者カラ提案シタ企圖ハ、自己ノ立場カラハ有効ノ如ク思フテモ、軍ノ利益ニハ反スル場合ガ多カッタ。

ブラウンシユワイヒ太公ガ千八百六年ニ、周密ナ計畫ヲ以テチューリングル、ワルドノ山地ヲ通過シテ攻撃ヲ企テタ時ニ、ミユツフリング大尉ヲ山地ノ前方ヲ偵察サセタ。大尉ハ佛軍ガ既ニザクセンニ向ツテ運動ヲ起シタコトヲ知り、且ツ敵ガ堅固ナ陣地ヲ占領シテ居ルモノト豫期シタフランケンノザール河ハ、全ク放棄サレアルコトヲ知ツタ。大尉ハ之レハ甚ダ不合理ナ事ト考ヘタ。何トナレバ、那翁ハ之ニ依ツテライン河ノ方ヘノ自己ノ連絡線ヲ全ク開放シテ了ツタカラデア。ソコデ大尉ハ敵ノ後方連絡線ニ對スル企圖ヲ敢行スベキ意見ヲ具申シタ。大尉ハ無論騎兵

ヲ以テ之ヲ實行スルモノト考ヘテ居タガ、用心深イ太公ハ、如何ニモ有利ラシイ機會ヲ逸スルノハ惜シイト思ヒナガラモ、軍隊ヲ危險ニ陥ル、コトヲ欲シナイノデ、騎兵ニ歩砲ヲモ附屬スルニ決シタ。是レガ爲メ、十月十四日ノ決戦ノ時ニ、元々敵ヨリモ兵數ノ少ナカツタ普魯西軍ガ、一萬一千ノ兵ヲシテ佛軍ノ兵站線ニ向ツテ、全然無効力ナ企圖ヲ行ハシメテ居タト云フ結果ニ陥ツタ。ミユツフリングガ其報告ニ餘計ナ事ヲ附ケ加ヘタ爲ニ、斯カル失態ヲ惹キ起ス動機ヲ作ツタノデアアル。之レガ普魯西軍ガ此ノ不幸ナ戰役中ニ犯シタ最大ノ過失デアツタ。

總テ報告ニハ自ラ見タ事ト、他ヨリ聞知シタコトヲ、判然區別スベキハ、當然デアアル。報告ヲ書キ上ゲタ時ニハ、自ラ受報者ノ地位ニ立ツテ、果シテ夫レヲ完全ニ理解シ得ルカ否カラ點檢スベキデアアル。

騎兵ハ獲得シタ書類ニ依ツテ、自己ノ報告ヲ補足スルコトガ出來ル。即チ今迄味方ノ來ナイ敵地ニ侵入スルカラ、郵便局ヤ電報局ニハ、尙ホ信書ヤ電報ガアリ、民衆ヤ旅亭ニハ新聞ナドガアル。之レガ敵情ヲ知ルノニ重要ナ材料トナル。騎兵ハ發見ノ才ヲ鋭ク働カセ、目立タヌ事デモ見逃ガシテハナラヌ。其指揮官ハ搜索勤務ヲ督勵スルニ左程困難ヲ感ゼヌモノデアアル。各人ガ皆或程度マデハ、發見ニ就テ競争心ヲ持ツテ居ルカラ、唯ダ之ヲ獎勵スレバ良イノデアアル。

騎兵自身ガ有爲デアアルコトヲ必要トスルト同様ニ、高級ノ指揮官モ亦、良ク之ヲ使用スルノ道ヲ解

シテ居ラネバナラス。騎兵ハ往々誤ツタ用法ノ爲ニ苦メラレ、而カモ其罪ヲ自己ノ無能ニ歸セラレル。騎兵師團ニハ適度ノ自由ヲ與ヘネバナラスガ、然シ又指揮官ノ手裡カラ脱逸シテハナラス。之ヲ原則的ニ豫備又ハ追撃用トシテ控置スルノモ毎回最初カラ遠ク前遣スルノモ、共ニ誤リデアアル。之ヲ前遣スル場合ニハ、確定シタ目的ヲ示スベキデアアル。何レノ場合ニモ是非達成センコトヲ欲スル事項ハ高級ノ指揮官ノ胸ニミ納メテ置カズニ、騎兵ニモ明瞭ニ之ヲ告ゲネバナラス。

搜索勤務ノ成否ハ、之ニ與ヘタ任務ノ如何ニ關係スル所ガ多イ。飛行機若シクハ騎兵ハ敵ノ兵力及位置ヲ偵察スベシナドト云フ筆記命令ヲ往々見受ケルノデアアルガ、之ハ無益デアアル。之レデハ唯ダ兩兵種當然ノ任務ヲ書キ現ハシタニ過ギヌ。又敵ノ意圖ヲ探知スベキ任務ヲ課スルコトガヨクアルガ、是レハ本來下命者ノ自ラ爲スベキ任務ヲ、他人ニ命ズルコトニナル。此兩者ハ何レモ指揮官ノ無策ヲ示スモノデ、其結果ハ搜索ノ不確實トナツテ現ハレル。指揮官ガ目下最モ知リタイト思フ問題ヲ端的ニ示スノガ一番良イ。例ヘバ某々地點ニハ敵ガ宿營シアルカ、某々村落ハ既ニ占領サレアルカ、敵ノ先頭若シクハ本部ガ其線ニ到着セルカ、敵ノ翼端ハ何所ニアルカ、某鐵道若シクハ道路ニハ軍隊ガ動キツ、アルカ、等ヲ偵察サセルノデアアル。此ノ如キ謬解スベカラザル任務ニハ、復タ明確ナ報告ガ得ラレ、夫レニ依ツテ指揮官自ラ敵ノ兵力及位置ヲ知り、且ツ敵ノ意圖ヲ判斷スルコトガ出來ル。

騎兵及飛行機ノ外自轉車兵モ亦、搜索ノ爲メニ大ニ用ヲ爲ス。輕快デ長距離ヲ走り得ル點ガ、其長

所デアル。而シテ其短所ハ道路及天候ノ制限ヲ受ケル點ニアル。自轉車兵ノ適切ナ用所ハ騎兵ヲ用ヒレバ餘リ兵力ノ分散ヲ來シ、若シクハ主方向カラ甚ダシク離隔スル爲ニ騎兵ヲ出シ得ヌ場所デアル。敵ノ側面カラ、(場合ニ依ツテハ其背面カラモ)觀察スル爲ニ、迂路ヲ取ルコトハ少シモ嫌フ所デナイ。又騎兵ヨリモ其退路ニ就テ、束縛ヲ受ケヌ。指揮官ガ多大ノ自由ト獨立トヲ與ヘテ、之ヲ使用スルトキハ、相當ノ効果ヲ擧ゲルデアラウ。之ヲ行軍部隊ト一所ニ前進サセルコトガ出來ヌ。緩慢ナ車行ヤ下車シテ車曳キ行ク場合ニハ、非常ナ疲勞ヲ來ス。

歩兵ノ有スル自轉車隊ハ、騎兵ノ搜索ヲ極メテ有効ニ支援シ、補足シ、且ツ其代用ヲモ爲シ得ル。此ノ隊ハ重要ナル渡河點、橋梁、其他山地、森林、凹地等ノ隘路、迂迴シ得ザル住民地等ニ、敵ノ騎兵ニ先ンジテ迅速且ツ遠距離カラ其所ニ到達シ得ル。又騎兵ノ後方ニ於テ、其支援ノ爲ニ、此ノ如キ地點ヲ警戒スルコトガ出來ル。道路多キ地方ニ於テハ、奇襲及掩撃モ亦、其任務ノ一ツトスルニ足リル。装甲自動車及隨伴機關銃小隊ヲ配屬スレバ、大ニ其能率ヲ高メル。

敵トノ戰鬪觸接ガ存スル場合ニハ、戰線ニ於ケル搜索ガ大ニ重要デアアル。夫レニハ單ニ敵陣地ノ弱點及我が攻撃ノ爲メニ有利ナ條件ヲ偵察スルノミニ止メズ、尙ホ敵トシテハ我が線ヲ何レノ點デ突破スルノガ最も成功ノ見込多キカヲモ確メテ置ク必要ガアル。搜索ノ任務ハ歩兵ニ依ツテ行ハレ、其歩兵ハ、偵察部隊ヲ出ス。此ノ隊ハ目標ニ達スル爲メ往々戰鬪ヲ行フヲ要スルヲ以テ、(機關銃、迫撃砲、

歩兵砲等ノ)補助兵器ヲ十分ニ與フベキデアル。

技術ニ屬スル特別ノ偵察、例ヘバ天然ノ障碍物ノ性質ニ關スル調査、若シクハ架橋ニ適スル地點ノ選定等ニハ、工兵ヲ招致スル。若シ夜間ノ外偵察シ得ヌ場合ニハ、晝間ノ内ニ地形ヲ見テ置クコトノ出來ルヤウニ之ヲ派遣セネバナラヌ。

砲兵ノ行フ偵察ハ第一ニ、敵ト我が觀測所並ニ射擊陣地トノ偵察デアアル。之レガ爲メ、自己ノ飛行機ヲ用ヒル外ニ、尙ホ目標偵察ノ爲メニ、繫留氣球、火光測定班、音響測定班及方向聽取機ヲ使用スル。往々偵察ノ爲ニ將校斥候ヲモ出ス。但シ此ノ斥候ハ前遣サレル騎兵ニ、豫メ伴隨サセテ置クノガ有利デアアル。

繫留氣球ハ大戰中彼我兩軍共、近距離搜索及戰鬪搜索ニ多大ノ用ヲ爲シタ。其短所ハ晴天デ風ノ餘リ強クナイ日デナクバ、用ヒラレヌ點デアアル。其代リニ、地上カラハ窺フコトガ出來ズ、又飛行機デモ唯一瞬間視界ニ收メ得ルニ過ギヌ地區ヲ、繼續シテ監視スルコトガ出來ル。氣球ト軍隊指揮及氣球ト射擊中ノ砲兵トノ間ニ、電話ノ連絡ヲ設ケテ、直接ニ意志ヲ通ジ得ルノデ、偵察機關ノ價値ガ一層高マル。通信隊ハ計畫的ニ敵ノ地上及空中ノ通信連絡ヲ監視スル。受話機ヲ敵ノ導線ニ繫クコトハ以前カラ實施サレタ方法デアアル。同波長ニ調節シタ受話機ヲ以テ、無線ノ通信ヲ盜聽スルコト、並ニ我が運動ニ就テ誤ツタ報告ヲ敵中ニ傳播サセルコトハ、大ニ必要デアアル。策動地域内ニ在ル敵ノ間諜ノ

用ヒル導線及無線ノ設備(無線電信器及無線電話器)ニハ、特別ノ注意ヲ拂フベキデアル。陣地ニ於ケル無線電話ノ盜聴ハ、大戰ノ末期ニ地中線ニ依ツテ實行ガ出來ルヤウニナツテカラ、好結果ヲ收メタ。之ニ依ツテ往々攻撃ノ豫定、敵ノ配備ノ變更及交代、砲兵ノ射撃命令等ヲ知り得タ。從ツテ又最前線ニ於ケル我が無線電話ノ使用上ニモ、深甚ノ注意ヲ拂フ必要ヲ感ジ、特別ノ場合ニ限リ、而カモ符牒ヲ以テ通話スルコトニシタ。

火光通信機、傳書鳩、傳令犬其他氣球ヤ壕ヲ用フル通信等ハ、元來要塞戰ニ用ヒルモノデアツタガ野戰ガ運動性ヲ失ツテカラハ、此レ等ノ方法モ廣ク用ヒラル、ニ至ツタ。傳令犬、傳書鳩及火光通信機ハ目下野戰軍ノ正規ノ裝備トナツテ居ル。

捕虜及逃亡兵ノ言ハ大ニ參考トナル。總テ高級ノ本部ニハ、敵國ノ言葉ニ通ジタ將校ヲシテ、訊問ヲ行ハシムル準備ヲ必要トスル。大戰ノ時ニハ捕虜(就中將校)ノ相互ノ間ノ談話ヲ、其屋至内ニ隠シテ備付ケタ聲音擴大機ニ依ツテ聽キ取ツタ。

敵情ヲ知ル他ノ手段ハ、戰鬪及會戰デアアル。其間、兩者ハ長ク相接シテ、互ニ對手ノ情況ガ知レル。唯ダ敵情ヲ知ル爲メニ戰鬪ヲ行フコトガ往々アル。其場合ニ勝者ハ戰場ヲ支配シ、自己ノ認識ヲ補フベキ多數ノ資料ヲ手ニ入レルカラ、大ニ利益ヲ得ルノハ當然デアアル。死傷者ノ軍服ニ依リ、其所屬部隊ガ分リ、報告、手帳、各種ノ書類等ガ屍體カラ獲ラレ、時ニハ敵ノ司令部ノ意圖ヲ察知スルニ足ル

所ノ命令マデモ、發見スルコトガアル。又追撃ノ際ハ、事務用ノ書類ガ悉ク我が手ニ歸スル等、要スルニ其戰鬪ニ依ツテ、敵軍中自己ノ直接相對時シテ來タ部分ニ就テ、廣ク知ルコトガ出來ル。

新聞紙モ亦、注意ヲ拂フ必要ガアル。無論第一ニ敵國ノ新聞紙ニ注目スベキデアアルガ、其中デモ大新聞ヤ電報通信ヨリモ、寧ロ地方ノ小新聞ニ有益ナ事ガ得ラレルモノデアアル。良ク事情ニ通ジタ新聞社デモ、味方ノ軍ノ狀況ヲ完全ニ報道スルコトハ許サレマイシ、又希望モセヌデアラウガ、然シ其中ノ瑣細ナ記事ヲ綜合スルト、往々意外ノ判斷ヲ下シ得ルノデアアル。既ニ他ノ方面カラ、敵ノ事情ガ略ボ判明シ、唯ダ最後ノ薄イ霞ヲ吹キ拂ヘバ良イ迄ニナツテ居ルコトガ、往々アル。其時ニ高級ノ指揮官ノ來着トカ、隊號ヤ位置ヲ示シタ一遍ノ信書トカ、聯隊長若シクハ師團長ノ話シタ詳細ノ戰談ナドガ掲載シテアルトスルト、其一ツ宛デハ、何等捕捉スルコトガ出來ナクトモ、夫レヲ迎ツテ行ク内ニ終ニ目標ニ達スル。更ニ信書ノ押收ト住民及旅行者ノ言ヲモ參考トスレバ、重要ナ判決ヲ確實ニ下シ得ルノデアアル。

尙ホ夫レト共ニ、中立國ノ新聞ニ目ヲ通ホス必要ガアル。多數ノ新聞中戰爭ノ記事ニ力ヲ入レルモノ一、二宛ニ、絶エズ特別ノ注意ヲ拂フノガ良イ。

從來カラノ國際的親交ヲ、戰時ニモ繼續スルノ道ヲ講ズベキデアアル。貿易關係ノ勢力ハ輕視スベキデナイ。利得ノ見込ハ他ノ方法デハ無効ノヤウナ困難ヲモ、排除スルコトガ出來ル。故ニ商人社會デ

ハ戰時ニモ亦、優秀ナ私的通信手段ヲ採ツテ居ル。戰地カラ遠ク離レテ他ノ諸國民ノ中ニ交ツテ居ル在外代表者及個人デ、此ノ道ニ通ジテ居ル者ハ、情報通信ニ依ツテ、克ク母國ノ爲ニ盡クスコトガ出來ルデアラウ。

戰時ニハ國內ノ新聞ニ對シテ、飽クマデ嚴密ナ注意ヲ拂ハネバナラス。一面ニ於テハ國民ノ志氣ニ就テ顧慮スル必要モアルガ、徒ラニ新ヲ競フテ我が不利ヲ招クコトニ對シテハ、嚴ニ之ヲ禁壓スベキデアル。世界大戰中ニモ實行セシ如ク、總司令部ガ、作戰ノ遂行上差支ナキ範圍ノ事ヲ國民ニ告ゲル爲ニ、日々戰爭ノ公報ヲ發表スルガ良イ。而シテ其報道ニハ、單ニ我が軍ノ成功ヲ數ヘ舉ゲルノミニ止メズ、必要ノ場合ニハ、現下ノ真相ヲモ國民ニ示スコトヲ辭スベキデナイ。若シ一面ニ於テ局外者ヲシテ勝手ニ戰報ヲ流布セシムルコトヲ防止セント欲スルナラバ、此公報ハ、自己ノ方ニ有利ナヤウニ潤色シテアルト云フ疑ヲ招イテハナラス。政府ハ一般ニ新聞ヲ適切ニ指導スル爲ニ、所要ノ手段ヲ講ズベキデアル。政府ハ國民ヲ確實ニ制御シ、以テ統一的ノ協力ヲ維持シ、且ツ戰勝ニ對スル信頼ヲ損セザルコトヲ努メネバナラス。此ノ目的ヲ達スルニハ、新聞ガ大ニ役ニ立ツ。唯ダ其報道及論調ガ、良ク政治及軍事上ノ目標ト一致スルコトガ必要デアツテ、兩者ハ此ノ點ニ於テ互ニ密接ナ關係ヲ保ツベキデアル。フリードリッヒ大王ノ時ハ、克ク此ノ如クナルヲ得タ。大王ハ國民ノ政治及軍事上ノ指導者タルト共ニ、大本營ニ於ケル戰報ノ立案者デアツタ。(但シ特別ノ戰時新聞ヲ發行スル提案ヲ爲シ

タノハシヤルンホルストデアル)。

公ノ所カラ戰況ヲ如何ナル程度マデ發表スベキカハ、常ニ其時ノ狀況ニ依ル。國民ノ性情及政治的能率ノ高下ガ、之ニ多大ノ關係ヲ持ツテ居ル。國民ヲ大ニ喜バスヤウニ努ムル結果、公報ガ事實ニ遠ザカツテハナラス。一般的ニ云ヘバ國民ニ戰況ノ真相ヲ傳ヘルノガ、誇張ノ表現法ヲ用ヒルヨリモ良イノデアル。世界大戰ニ於テ、殊ニロイドデョーデハ屢々英吉利國民ニ向ツテ、其果スベキ任務ノ重大ナルコトヲ切言シ、而カモ之ニ必要ナル犠牲ヲ拂フコトヲ警告シタガ、之レガ爲メニ、國民ヲシテ各人ノ最大ノ努力ニ依ツテ、始メテ國家ノ此ノ大危機ヲ救ヒ得ルノダト云フ主旨ヲ少シモ誤解サセルコトガナカッタ。獨逸デハ之レト全ク反對ニ、國民ノ氣勢ヲ煽ルコトニ過度ニ意ヲ用ヒタノハ、蓋シ軍隊ノ後方ニ、完全ナル奉公心ヲ以テ團結シタ國民ヲ有セズ、其一部ハ超國家的思想ヲ懷イタ國民ヤ、黨派的根性ノ強イ國民ガ居ツテ、其間ニ平和主義、社會主義、過激主義ナドヲ傳播スルコトガ出來、又斯カル惡思想ヲ撲滅シ得ルダケノ有力ナ政府ガ、其上ニ立ツテ居ナカッタカラデアル。此ノ如キ次第デ、戰況ノ真相ヲ傳ヘラレナカッタ結果トシテ、最後ニ突然休戰ヲ申出タノヲ聞イタ時ハ愛國ノ士ト雖モ自失、奮慨、失望ヲ禁ジ得ナカッタ。夫レガ、却ツテ帝政ノ覆滅ニ努メタ人々ノ爲メニ幸トナツタノデアル。

然シ國民ガ國難ニ直面シテ愛國ノ至誠ニ一致團結シテ居ル場合ハ、事態ガ變ツテ來ル。此ノ場合ニ

ハ率直ニ事實ヲ告グベキハ勿論デアル。國民ガ之ヲ聞クハ嬉シイ事デハナイガ、其爲ニ元氣ノ消沈スルコトハナク、危險ノ増スト共ニ、意氣益々揚リ覺悟ハ益々固クナツテ、其能率ガ愈々高マルデアラウ。

尙ホ牒報勤務ニ就テ一言シテ置キタイ。

豫想敵國ノ武力ト其意圖トニ就テ、確カナ概念ヲ得ルニハ、其公ノ活動ノミノ觀察デハ不十分ナノハ、言フ迄モナイ。少ナクトモ或程度マデ軍事ノ發達セル國ハ、其重要事項ヲ門外者ニ知ラセヌヤウニ努メ、是レニ依ツテ敵ノ意表外ニ出デル考ヲ持ツテ居ルデアラウ。夫レガ多大ノ成功ヲ收メル原トナルカラデアアル。故ニ牒報勤務ハ從來カラ作戰ニ缺クベカラザル補助手段トサレタ。

一等國デ始メテ牒報勤務ヲ整然ト組織シタノハ、佛國デアツテ、最近マデ獨リ頭角ヲ表ハシテ居タ。然シ他ノ列強モ皆以前カラ、大、公使館及領事館ノ普通ノ報告ト共ニ、秘密ノ報告勤務ヲモ行ツテ居タ。唯ダ其規模ガ國ニ依ツテ一様デナカッタ。獨逸側デハ大戰前極メテ小規模デアツテ、唯ダ參謀本部ガ少額ノ經費(年額三十萬乃至四十五萬麻克)ヲ以テ、純軍事的機關ヲ用ヒタノミデアツタ。從ツテ餘リ多クノ軍事探偵ヲ使用スルコトガ出來ナカッタ、夫レニモ拘ハラズ獨逸ガ尙ホ佛、露兩國ノ軍狀ヲ或程度マデ明ラカニシ得タノハ、一ニ之ニ從事セル將校ノ精勵ト賢明トニ歸スベキデアアル。然シ秘

密ノ調査ガ、單ニ東西ノ接壤國、而カモ其軍事上ノ問題ニノミ限定サレテアツタノハ、大ナル缺陷デアツタ。

佛、英、露ノ三國ノ方デハ、千九百十四年ヨリモ餘程以前カラ、獨逸ノ國狀及獨逸ニ關連シタ國際的關係ノ偵察ノ爲メニ、全世界ニ亘ル機關ヲ備ヘテアツタ。而シテ其秘密調査ハ常ニ軍事上ノ目的ニノミ限定セズシテ、獨逸ノ內政的情勢、社會狀態、並ニ貿易、工業及交通ノ發展ニ注意ヲ拂ツタ。協商國ノ政治提携ガ益々緊密トナルニ從ツテ、其牒報機關モ益々相協力シテ活躍スルニ至ツタ。終ニハ其仕事ノ分擔ヲモ協定シ、英國ハ獨逸ノ海軍及海岸ノ調査及貿易ノ偵察ヲ引キ受ケ、佛、露ノ兩國ハ軍事及政治上ノ問題ノ研究ヲ擔當スルコトニナツタ。

各牒報事務ノ本部ハ、好ンデ中立國ニ設ケタ。中立國民モ亦其偵察任務ニ服シタ。加之戰爭ガ進捗シテ獨逸國內ガ堪ヘ難キ窮乏ニ襲ハレ且ツ金錢ヲ以テ釣ラレタ(必ズシモ多額ノ報酬ヲ與ヘラレタノデハナイガ)爲ニ、終ニ我國民中ニモ賣國奴ヲ出スニ至ツタノハ、殘念千萬デアツタ。協商國ハ間牒ノ適任者ニ乏シクナカッタ。其外ニ尙ホ官衙(警察及大公使館)ガ力ヲ盡クシテ、牒報勤務ヲ援助シタノデ、夫レガ、我が獨逸(其在外代表者ハ總テ之ニ從事スルコトヲ拒ミ又其大公使館附武官ハ開戰前ニ、正規ノ手續以外ノ方法ヲ以テ情報ヲ蒐集スルコトヲ禁ジラレテアツタ)ノ牒報勤務ニ比ベテ、如何ニ優ツテ居タカハ、説明ヲ待タズシテ自ら明ラカデアアル。

獨逸ニ於テ間諜ニ對シテ餘リ警戒ヲ嚴ニシナカツタノハ、全ク軍事上ノ見地カラ之ヲ考察シタカラ
デアル。現ニ吾々ガ經驗シタ如ク、目マグルシク經過シテ行ク戰鬪行爲ヲ頭ニ置イテ居タノデ、間諜
ノ通信ハ左程役ニ立ツモノデナイト認メテ居タ。彼ノ千八百七十年ニマクマオン元帥ガ、シャール
ノ陣營ヲ出發スベキコト、並ニ元帥ガ獨逸軍ノ右翼ヲ包圍シテメツツヲ救援スル意圖ヲ有スルコトヲ
巴里ヨリ内報シ、モルトケガ夫レニ基ツイテ、獨逸軍ニ右方ヘノ轉進ヲ命ジ、以テセダンノ會戰ヲ見
ルニ至ツタ特例モ、前述ノ見解ヲ覆ヘスニ至ラナカツタ。實際軍ノ運動、戰鬪及會戰等ノ爲ニ、價值
ノアルノハ最新ノ狀況ニ限ルノデアル。然ルニ通常ノ狀況ニ於テ敵軍ノ背後ニ位置スル間諜ハ、自己
ノ偵察シタ結果ヲ、其下命者ニ如何ニシテ速カニ傳達シ得ルカ。夫レニハ多クノ場合、中立國ヲ廻ハ
ツテ行カネバナラヌガ、斯カル報告ガ到着スル時分ニハ、既ニ形勢ガ變ツテ居テ、單ニ過去ノ事實ト
シテノ參考資料タルニ過ギナイ。但シ間諜ガ、無線電信機ヲ秘匿シアルカ、地中線ヲ有スルカ、若シ
クハ傳書鳩ヲ放チ得ル場合ニハ、別問題デアル。大戰ノ際ニモ英人ヤ佛人ニ就テ之ヲ發見シタコトモ
往々アツタガ、然シ其外ノ場合デハ、最モ有益ナ報告ヲ持ツテ來タノハヤハリ飛行機デアツタラウ。
將來ハ無線電話ガ此ノ事態ニ一大革新ヲ齎ラスベキハ勿論デアツテ、此ノ發明ガ凡ラユル文明國ニ非
常ニ用ヒラレテ居ルノデ、通信ノ傳播ヲ如何ニシテ防止スベキカハ、今ノ所未ダ見込ガ立タヌ。何レ
ニシテモ自國ニ存在スル諸ノ設備ガ此ノ件ニ就テ多大ノ利益ヲ與ヘルデアラウ。之ニ依ツテ將來ハ

報ガ運動戰ニ於テモ亦大ニ用ヲ爲スコトニナツタ。

既ニ從來ニモ戰爭ノ經驗ガ停止狀態ニナツタ場合ニハ、牒報ガ用ヲ爲シタノデアル。現ニ大戰ノ時
ニモ陣地戰トナツテ戰線ガ動カナクナツテカラハ協商國ハ獨逸軍ノ背後ニ於テ牒報ヲ得テ、之ヲ統帥
ニ利用スル爲ニ、凡ラユル手段ヲ盡クシテ多大ノ成功ヲ收メタ。陣地ノ後方デハ軍隊及戰用器材ノ移
動ヤ其集積ガ攻撃豫定地點ニ向ツテ行ハレ、各種ノ軍事上ノ施設ヲモ實行シ、夫レヲ目撃シテ居ル住
民ハ重要ナ判斷ヲモ下シ得タノデアル。而カモ其中ニハ、如何ナル危險ガアツテモ、身命ヲ賭シテ御
國ノ爲ニ之ヲ報告シヨウ、ト云フ決心ノ者ガ居ルカラ、此レ等ノ住民ト連絡サヘ取レバ良カツタノデ
アル。夫レニハ飛行機ガ最良ノ手段デアツテ、敵ノ飛行機ハ我が戰線ノ後方ニ書物ヲ投下シテ、偵察
ノ方法及報告傳達ノ方法等ヲ教ヘタノミナラズ、夜間潛カニ着陸シテ間諜ヲ送り出シ、若干時間ノ後
約束ノ地點デ、再ビ夫レヲ收容スル方法ヲモ取ツタ。尙ホ又戰爭ノ長引クニ從ツテ、我が戰線ノ後方
ニ活動スル牒報機關ヨリ佛國內ヘノ確實ナ連絡ガ、戰線ノ翼ヲ廻ハツテ、和蘭及瑞西ヲ經テ設定サレ
タ。飛脚ノ任務ニハ中立國民ノ中デ、自分ノ味方ニ着ケタ凡ラユル社會階級ノ者(其中ニハ女モ居タ)
ヲ使用スルノガ一番容易デアツタ。報告ヲ傳達スル姦策ノ如キハ、一々此所ニ舉ゲル違ガナイホドデ
アル。絶エズ新シイ手段ガ暴露サレ、工夫力ニ富ムノニ驚カサレタ。特ニ興味ノアツタノハ、無色ノ
「インキ」ト夫レヲ發見スル手段トノ競争デアツテ、化學ハ牒報勤務ニモ大ニ利用サレタ。

世界大戰ノ經驗ニ徴スレバ、牒報勤務ハ此ノ道ニ熟達シタ信頼シ得ル人物ノミヲ以テ緊縮シタ組織ヲ以テ實行スル方ガ露國デ行ツタヤウナ膨大ナ規模ノモノヨリ結果ガ良イノデアアル。然シ平生カラ此ノ如キ組織ヲ持ツテ居ラネバナラス。卽席ニ作ツタモノデハ、獨逸ノ如キ不結果ヲ來ス。愈々開戦トナツテ經費ノ事ヲ顧慮スル必要ガ無クナリ、且ツ、多數ノ男女ガ身命ヲ抛ツテ國家ノ爲メニ牒報勤務ニ服センコトヲ由出テモ、彼等ハ軍學ニ關スル必要ナ理解ガ無ク、又此ノ重大ニシテ且ツ危險ナ任務ヲ果ス爲メノ知識ニモ乏シイカラ、到底十分ノ用ヲ爲サヌ。一般ニ間諜ノ選定ニハ、深甚ノ警戒ヲ要スルモノデ、愛國ノ至誠カラ出タ人物ハ實際ニ信用ガ出來、眞ニ尊重スベキモノデアアルガ、報酬ヲ目的ニ勤ク者ハ、多クハ避ケタ方ガ良イ。斯カル輩ハ往々兩軍ノ爲ニ働キ、從ツテ頗ル危險デアアル。殊ニ猶太人ガ之レヲ遣ツタモノデアアル。

尙ホ本來ノ情報勤務ノ外ニ、協商國側デハ、獨逸ノ統一ト戰意トヲ打チ破ル目的デ、宣傳ヲ行ツタ（宣傳ハ通信機關ト密接ナ關係ガアルカラ、獨逸ノ方デハ其實行ガ思フヤウニ出來ナカッタ）。戰況ニ關スル僞ノ通信ヲ傳播シ、且ツ獨逸ノ志氣ヲ阻喪セシムルコトニ力ヲ注ギ、之レガ四年間ノ奮戰後ニ於ケル獨逸ノ倒壊ヲ助成シタコトガ鮮ナクナカッタ。肉體的ニモ精神的ニモ、疲レ果テタ獨逸國民ヲシテ、ウイールソン大統領ヲ以テ救ノ神ノ如ク思ハセルヤウナ誤ツタ考ガ傳播サレタ實例ニ依ツテモ、其一斑ヲ窺フニ足リル。

敵ノ間諜及宣傳ガ交戰軍隊及内地ノ人民ニ對シテ與ヘル害ヲ防グ爲ニハ、止ムヲ得ズ嚴重ナ處置ヲ取ラネバナラス。固ヨリ單ニ其意志ヲ示スノミデナク、其防衛手段ヲ講ジ、之ニ任ズベキ機關ヲシテ其道ニ熟達サセネバナラス。殊ニ統一シタ方針ノ下ニ陸軍ノ官衛ト警察トヲ協力セシムベキデアアル。

自己ノ軍ノ内部ニ於ケル通信ノ組織モ輕視スベキモノデナイ。軍隊ノ方デハ、統帥部ヲシテ十分敵情ヲ知ラシムルニ足ルダケノ事ヲ承知シテ居ルノニ、統帥部ノ方デハ大事ナ報告ガ十分ニ得ラレヌト云フヤウナ場合モ、起リ得ル。

敵ニ近ク位置スル下級指揮官ハ、何時モ、自己ノ認メタ事ガ、果シテ上官ノ爲メニ、緊要ナモノデアアルカ否カノ判斷ニ迷フ。而シテ下級將校ハ、上級ノ指揮官ハ何事モ良ク承知シアルモノト誤解シ、自己ガ報告シ得ベキコトモ、既ニ他ノ方面カラ早ク聞イテ居ルモノト斷定シテ了フ。直接報告ノ責任ナキ者ニ至ツテハ、功名心ニ驅ラレルモノト誤解サレルノヲ恐レテ、報告ヲ差控ヘルコトモ往々アル。加之各人ハ皆自分ノ事、自分ノ職分ニ追ハレテ居テ、自己ノ受ケタ報告ヲモ先ヅ己レノ職務ノ爲ニ、利用シ、上官ノ方ニ報告スルコトヲバ、ツヒ忘レテ了フ。又狀況ガ危急ヲ告グルニ從ツテ、主要ナ地位ニ在ル人ガ、報告ヲ綴ル暇ガナイ爲メニ、上ノ方デハ益々報告ヲ得ラレヌト云フ結果ヲ生ズル。高級ノ司令官ガ部下ノ將官カラノ報告ヲ類リニ待ツテ居リ、其將官モ亦上官ノ希望スル事柄ヲ知ツテハ

居タガ、遂ニ夫レヲ報告シナカツタト云フ實例ハ戰史ニモ少ナクハナイ。ソ、コ、デ軍司令官等ハ自己ノ必要トスル報告ニ就テ、自ら配慮スルノヲ立前トスルノガ良イト云フコトニナル。是レハ各自ガ自己ノ考デ斥候ヤ將校ヲ敵前ニ出セト云フノデハ勿論ナイ。寧ロ他ノ者ガ得タ所ヲ利用スルノヲ立前トスルノデハアルガ、各部間ノ連絡ヲ周到ニ整備シ、且ツ之レヲ十分ニ使用スルニアル。之レガ爲メ司令部及隣接部隊ノ間ニ、通報將校ヲ交換スル。此ノ將校ハ決シテ自ら其司令部ノ仕事ニ關係セズシテ、専心報告ニ從事セシムルコトガ緊要デアアル。

唯ダーツノ重要ナ報告ニ依ツテ好結果ヲ收メル場合ハ稀デアツテ多クハ多數ノ報告ヲ周到ニ利用スルコトニ依ツテ目的ヲ達シ得ルノデアアル。

受領シタ報告ノ判斷、閱讀及綜合ニハ、勿論多大ノ勞力ヲ要スル。多クハ砂ノ中ニ寶玉ガ入ツテ居ルカラ、報告勤務ニハ異情ナ勤勉ヲ必要トスルモノデアアル。

實際事實ノ正否ヲ判斷スルト共ニ、其ノ報告ヲ適當ノ所ニ資料トシテ利用セネバナラス。平時カラ持ツテ居ル知識ハ、最初ハ、大公使館ヨリノ報告ニ依ツテ補足スル。次デ夫レガ絶タレテ了フト、新聞紙ヤ、各種ノ記録ヲ代用トスル。視察者及外國ヨリノ歸還者カラハ、一般ノ情勢ヲ聞キ、爾後ノ判斷ノ資料トスル。夫レニハ實際ニ見聞シタ事ト、想像トガ混亂シテ判別ニ苦ムモノデアアルガ、兎ニ角、其中カラ敵ノ意圖ヲ探知シ得ルデアラウ。

大體カラ云ヘバ今日ノ統帥部デハ、從來ヨリモ遙カニ多クノ報告ガ集マツテ來ル。將來ハ從來ニ比シ敵ニ就テ一層詳シク聞知スルコトガ出來ルデアラウ。

而カモ尙ホ至大ノ困難ガアル。夫レハ報告ノ判斷デアアル。戰史ニハ後ニ重大ナ關係ノアツタ事ノミヲ掲ゲテアツテ、研究者ハ行動ノ最中ニ在ツタ混雜シタ事情ナドヲ知ラズニ、夫レヲ讀ムコトガ出來ルノデアアルガ、夫レデハ如何ニシテ錯誤ガ起ルモノカト云フコトヲ理解スルコトガ出來ヌ。唯ダ誤報、錯雜、混亂セル報告、不確實ナル報告ノ山積セル状態ヲ、眼前ニ想ヒ出ストキ、始メテ其中カラ正當ナモノヲ抽キ出スコトノ困難ヲ推察シ得ル。

高級指揮官ガ錯雜シタ報告ヲ基トシテ自己ノ決心ヲ定ムルニハ、例ニ依ツテ「最モ確實ラシイモノヲ取ル」ト云フ主義ヲ守ルノ外ハナイ。敵ニ就テモ適切ナ行動ヲ取ルモノト豫想スベキデアアル。然シ如何ニ合理的判斷デアルカラト云フテ、夫レヲ何所迄モ頑強ニ信ジ、反對ノ徵候、報告等ニハ少シモ耳ヲ藉サヌトキハ、早計ノ判斷ニ陥リ、不幸ナ錯誤ヲ招クコトニナル。實戰ニハ不合理ナ事、豫想スベカラザルコトガ、イ、ク、ラ、モ行ハレテ居ル。故ニ此ノ點ニモ注意ヲ拂ヒ、若シ、判然タル徵候ガ屢々現ハル、場合ニハ、夫レヲモ信ズルダケノ用意ガナクテハナラス。即チ一面ニ於テハ自己ノ信ジタ所ヲ確守スルコトガ大切デアアルガ、同時ニ又タ時ニ臨ンデ融通ノ利ク判斷ヲモ下シ得ルコトモ必要デアアル。但シ其程度ニ至ツテハ固ヨリ確タル標準ヲ示スコトガ出來ヌ。

要スルニ、指揮官ハ自己ノ信念ヲ有シ、一定ノ反對ノ徵候ニ基ツク所ノ疑念ガ勝ヲ占ムル迄、換言スレバ、更ニ一層確カナ信念ガ得ラレルマデハ、之ヲ忠實ニ守ルベキデアアル。敵ノ國民性、其指揮官ノ人物、及現下ノ志氣ニ關スル判斷ガ、吾人ノ顧慮スベキ總テアル。種々ノ事ヲ考慮スルモ良イガ、之レガ爲ニ徒ラニ多クノ時日ヲ費スヲ許サス。又輕信ト頑迷トハ共ニ戒シムベキデアアル。指揮官タル者ハ専門ノ知識及經驗ノ外ニ、一斑ヲ窺フテ全豹ヲ判斷スルノ想像ト力、人ノ特色、癖ヲ看破スル炯眼トヲ、併セ備フベキデアアル。

醫師ガ診察ニ當ツテ患者ノ個々ノ徵候ニ依ラズシテ、全般ノ心身ノ状態ニ依ツテ、斷定ヲ下ス如ク、指揮官モ亦凡ラユル徵候ノ全體カラ、敵ニ就テノ判斷ヲ下シ得ネバナラス。夫レニ就テノ卓越シタ能力ハ天賦ノ資質ヨリ來ルモノデアツテ、練習ニ依ツテ之レヲ磨クコトガ出來ルガ、新ニ之ヲ賦與シ得ベキモノデハナイ。

第六節 行軍、軍隊輸送、及宿營

クラウゼウイツツハ若イ時ニ景色ノ良イ山ヤ美シイ森ヲ橫斷シテ進ム行軍ノ有様ヲ、如何ニモ詩的ニ叙述シテ居ル。吾々モ勇マシイ軍樂ノ音ニ、運ブ歩並モ輕ロク、老幼歡呼ノ中ニ、町ヤ村ヲ行進スル場合ナドニハ、多少詩的情調ノ起ラヌコトハナイ。

然シ、心ノ躍ルヤウナ時ハ、一日ノ行程ノ内ニ何回モアルモノデハナイ。斯カル情調ヲ思フ存分ニ味ヘルノハ、縦隊ノ真中ヲ徒步デ進ム者デハナク、其傍ヲ馬上豐カニ打タセテ行ク者ノ事デアアル。

緩慢ト勞苦トガ大兵團ノ前進運動ノ特色デアアル。

夫レハ、軍樂ノ音ノ止ンダ時ニ、列中ノ各個人ニ目ヲ注ゲバ分ル。或者ハ背囊重ゲニ、銃ヲ斜ニ擔ツテ、最後ノ力ヲ傷ヅイタ兩足ニ集メ、覺束ナクモ跛行ヲ續ケテ居ル。又額カラ冷汗ガ流レ、顔ハ青ザメテ、愈々氣モ遠クナツテ居ル者モ見受ケラレル。聽テ踉蹌トシテ列ヲ離レテ、道端ニクズラレ倒レテ了フ者モアル。刻々行進ノ速度ガ減ジテ來ルノガ目ニ着ク。人モ馬モ車モ皆砂塵ニ塗レテ、目モ口モ開ケラレヌ。太陽ハ容捨ナク行手ノ坂ニ照リツケテ、全身ガ蒸ルヤウニ熱シテ來ル。先頭ダケハ多少元氣ニ進ムガ、後ノ方ニ行クニ從ツテ益々骨ノ折レル様子ガ目立ツ。歌ナドハ無論聞カレナイ。縦隊ガ長ク、砲ヤ重イ車ノ多イモノホド、運動ガ益々鈍ブリ、度々故障ガ起ツテ、自然ニ行進ガ止マル。隊ガ小サイモノホド、輕快ニ、樂ニ行進シ其速度モ早イ。

机上デノミ研究スル軍隊指揮官ハ、大縦隊ノ運動ノ緩慢ナ點ニ就テ想像セヌ。容易ク決心ヲ定メテ、縦隊ノ圖上デ彼方此方ニ意ノ如ク動カシ、重要地點ヲ敵ニ先ツテ占領シ、展開シ、且ツ攻撃シ、其間ニ毫モ死節時ガ無イ。然シ一度此ノ理想的考案ヲ實地ニ移スト、行動ハ心ノ儘ニハ從ハズ、何時時刻ニ遅レテ居リ、行軍縦隊ハ、到底我慢ノ出來ヌホドノ時間ヲ費ヤシテ、緩慢ニ進ンデ行ク。希望ノ地

點ニ敵ノ方ガ先ニ着ク心配ガ、刻々ト増シテ來ル。自分ノ隊ホドニ注意シテ見ナイ他ノ隊ガ、如何ニモ早く飛ンデ來ルヤウニ想像サレ、吾ヨリモ餘程多ク進ンデ居ルモノト豫想スル。

命令ガ遅ク與ヘラレ、夫レニ要スル行軍時間ガ、不足スル譯モ、大方想像ニ難クナイ。然シ無經驗者ノ胸中ニ燃ユル心ヲ、大縱隊ニ移スベキ手段ガナイ。重荷ヲ負フタ步兵ハ、馬ヲ留メテ叱咤スル指揮官ヲ見テ、餘リ感動シタ様子モナク、高々其視界内ダケ歩度ヲ伸バス位ノモノデ、直グニ元ノ速度ニ復シテ了フ。蓋シ彼等ハ自己ノ經驗上、叱咤サレル度ニ異常ノ努力ヲ以テ之ニ報キレバ、忽チ精力ノ盡キルコトヲ、良ク承知シテ居ルカラデアアル。全隊トシテハ相モ變ラズ、蝸牛ノ歩ヲ運ブニ過ギヌ。唯ダ一度砲聲ヲ耳ニスル時、(若シ夫レガ、勇敢ナル軍隊ナラバ)忽チ勇躍シテ進ムニ至ル。

行軍力ニ非常ノ差異ノアルノハ、大ニ興味ノアル事デアアル。而カモ夫レガ特殊ノ國民性ヤ、兵卒ノ特性デ、説明ノ付カヌ場合ガアル。圖上デサホド、面倒ト思ハヌ十五乃至二十斤位ノ行軍ガ、時ニハ軍隊ヲ困憊ニ陥ラスコトガアルカト思フト、其次ニハ二倍ノ行程ヲ進ンデ大ナル苦痛ヲ感セヌ場合モアル。蓋シ、風、天候、道路、軍隊ノ心理状態、其以前ノ狀況ヨリ受クル影響、演練(他ノ戰鬪行爲ニ比シ、練習ノ効ハ甚大デアアル)、及行軍ヲ命ズル指揮官ノ部下ニ對スル勢力等ガ、斯カル差異ヲ生ゼシメルノデアアル。

我が邦デハ一日ノ行程ヲ二十斤乃至二十五斤トシ、之ニ通常ノ場合デ、六時間、困難ナ場合ニハ

時間(時ニハ十時間)ノ實動時間ヲ要スルノデアアルガ、那翁ハ麾下ノ軍ヲ率キテサン、ベルナルノ嶮ヲ越ユルニ當リ、斯カル高山ニ於テ、而カモ連續七日間、此ノ行軍力ヲ出スコトガ出來タ。那翁ハ全軍團ノ兵ヲ以テ、普通ノ地形デ、四十乃至五十斤ヲ行軍シテモ、過大トハ思ハナカッタ。スワローフ將軍ハ、千七百九十九年六月アレキサンドリア地方カラチドネ河畔迄、即チ八十斤以上ヲ、三十六時間ニ踏破シタ。ヂュノーハ千八百七十七年十一月ニリサボンヲ攻撃セントシテ、サラマンカヨリ Ciudad Radregio ヲ經テ、アルカントラニ至ル二百斤ヲ、物資ノ少ナイ地方デ、而カモ激シイ吹雪ヲ冒シテ、僅々五日間ニ行軍シ得タ。然ルニ其後モ同様ノ方法デリサボンニ向ツテ前進ヲ續行シタガ、軍ハ絶エズ、落伍者ヲ出シテ殆ンド崩潰シテ了ツタ。

近代ノ戰役デモ、此ノ如キ行軍力、若シクハ夫レ以上ノ行軍力ヲ、出シタ時モ往々アツタ。千八百七十年十二月十六日獨逸ノ第九軍團ハ、プロア、ヴェンドーム間ノネ、カベル、ヴェンドムア附近ニ、待機ノ姿勢ニアツタ。獨軍陣地ガ脅威ヲ受ケタトノ報ニ接シ、フリードリッヒ、カール親王ハ日暮方ニ軍團ヲ、六十斤ヲ隔テタオルレアンニ向ツテ進發サセタ。而カモ諸隊ガラ、カベル附近ニ達シタ時ニハ、其一部ハ既ニ二十斤モ行軍ヲシテ居タ。其所デ雨ニ濕レタ野原ニ一時間モ費ヤシタ。オルレアンニ通ズル道路ハ甚ダ不良デ、數石モ剝ガレテ居リ、又第二軍ニ續行シタ。車輛縱列ガ、反對方向カラ來ルノデ、前進ヲ妨害サレタ。夫レニモ拘ハラズ軍團ハ翌日ノ午

後ニハ、大ナル落伍者ヲモ出サズニ、オルレアンニ達シタ。此ノ行ニ加ハツタ某大隊ノ如キハ、一名ノ落伍者ヲモ出サナカツタ。又總數四千ノ馬ノ中デ十三頭ヲ失ツタノミデアツタ。

千八百八十五年ノセルビア戰爭ノ時ノ、ブルガリア軍ノ集中行軍ハ、注目ニ値スル。又千八百九十七年ノテッサラビアノ遠征ニ於テ、ハイダル、バシヤノ後備兵旅團ガ五月五日ラリツサノ陣營ヲ發シ、其夜ノ内ニ、フアルサラノ戰場ニ達シ、更ニフエレスチノン城下ニアルハツキ、バシヤノ師團ノ増援ノ爲メニ、翌六日再ビラリツサヲ發シタ。此ノ行軍ハバクラツサヲ經テ、カラダ¹グ山ノ北斜面ヲ進ミ、七日ノ午後指定ノ地ニ到着シタ。此ノ日ハ灼熱ノ下ニ若干ノ重燒麵麩ヲ噬リナガラ、四十四時間ニ八十糎以上ヲ踏破シタノデアルガ、而カモ非常ナ元氣デ、直チニ前哨勤務ヲ引キ受ケタホドデアツタ。此ノ旅團ガ後備兵大隊ノミカラ成ツテ居タコトハ、一層注目ニ値スル。

千九百十四年獨軍右翼ノ、白耳義及北部佛蘭西ノ行軍力モ亦後世ニ語り繼クベヤモノデアアル。第一軍ハ八月十七日ノ前進開始以來、マルヌ會戰マデ、逃レル敵ヲ追フテ、全ク一日ノ休憩モ與ヘラレナカツタ。其第九軍團ノ如キハ九月七日ノ蒼明ニ出發シ、夜半マデニ六十糎ヲ前進シ、夫レヨリ僅々二時間ノ休憩後並ビ緊急集合ヲ行ヒ、九月八日ニハ夜晚クマデニ、短イ午食ノ休憩ヲ爲シタノミデ、終日前進ヲ續行シ、此ノ日ノ行程モ復タ殆ンド六十糎ニ達シタ。而カモ九月九日

ニハ相變ラズノ元氣デ攻撃ヲ實行シタノデアアル。

昔ノ實例ハ嚴密テ近代ノ歴史の批評ヲ經テナイカラ、多少ノ誤ヲ免レヌ。殊ニ其平均行程ノミヲ以テ計算スルト、大ナル錯誤ヲ生ズル。之レハ其行動範圍ガ非常ニ廣カッタカラデアアル。

行軍力ノ大ナル軍ガ、如何ニ有利デアルカハ、指揮官ガ敵ニ優ル兵力ヲ以テ攻撃ヲ行フ爲メ、敵ヨリモ早ク兵力ヲ集結シ得ル一事ダケデモ、良ク夫レガ分ル。靴ヲ以テ敵ヲ擊破スルコトガ出來ルト云フ言葉ハ、ツマリ是レカラ出テ來タノデアアル。戰鬥間ニハ其時ノ元氣次第デ、大抵ハ推シ通ホセルガ、長イ困難ナ行軍ハ左様ハユカス。疲レタ軍隊ハ嚴重テ督勵デ前進サセ難イ。二、三百ノ兵ガ道端ニ臥テシ了ヘバ、最早所罰ガ出來ナクナル。困難ナ行軍ノ際、落伍兵ノ數ニ依ツテ、其隊ノ價値ヲ判斷スルノハ、蓋シ當ヲ得タモノト云フベキデアアル。精神的訓練ガ行軍力ニ明ラカニ現ハレル。而シテ各個人ノ共力ガ行軍ニ如何ナル影響ヲ及ボスカト云フコトハ、今迄無能デアツタ軍隊ガ、大敗ノ後ニ忽然トシテ、其行軍ニ驚クベキ持久力ト速力トヲ發揮セル幾多ノ實例ニ依ツテ之ヲ知ルコトガ出來ル。斯カル場合ニハ、後方カラ追フテ來ル敵ニ對スル恐怖、即チ自己保存ノ衝動ガ各人ヲ勵マシ、夫レニ依ツテ全般ノ持久力ヲ大ニ高メルノデアアル。

行軍力ヲ平時ニ於テ適切ニ養成スル必要ガアル。勤勉ナル軍隊デハ、野外演習、其他練兵場及射擊場ヘノ往復等ニ依ツテ苦モナク之レガ實行サレル。然シ行軍ノ練習ノ爲ニ、長距離ノ特別ノ行軍演習

ヲモ行ハネバナラス。但シ、軍隊ニ活氣ヲ添ヘル爲ニ、多クハ短時間ノ戰鬥ヲ併セ行フ。競技ニ依ツテモ亦此ノ方面ニ多大ノ利益ヲ收メルコトガ出來ル。行軍ノ特別ノ競争ニ、各隊ヲ參加サセテ、其優勝者ニ立派ナ記念品ヲ與ヘルノハ、行軍力ニ就テノ兵卒ノ興味ヲ喚起スルニ適スル。

全國皆兵ノ組織ニナツテ居ル軍隊デハ、戰時ニハ、今迄居ナカッタ多數ノ兵ガ、隊伍ニ加ハルコトニナル。然シ之レガ爲メニ、「軍隊ヲシテ行軍ノ勞苦ニ慣レシメテモ、夫レホドノ効能ガナイ」ト云フ說ヲ、屢々聞クガ、之ハ誤デアアル。固ヨリ身體ノ訓練ハ頗ル早ク減退シ、又兵卒ハ歸郷シテ、再ビ普通ノ生活ニ入ルノデハアルガ、然シ立派ナ記録ヲ殘シテ置クコトガ、更ニ一層重要ナノデアアル。一度過去ノ經驗ニ依ツテ、別ニ異常ノ事デナイト知ツタコトハ、未ダ之ヲ知ラヌ者ヨリハ、一般ニ容易ニ之ニ堪ヘ得ルノデアアル。若シ平時ニ長距離ノ行軍ヲ止メルト、其國軍ハ無理ヲセズニ堪ヘ得ベキ標準ヲ、漸次失ツテ、其要求ガ年々低下シ、稍々大ナル行軍力ヲ出セバ、夫レヲ偉大ナ成績ノ如ク思フヤウニナル。是レハ全ク實行者ノ感カラ來ルノデアアル。

昔ハ長距離ノ集中行軍ノ期間ガ、召集兵卒ノ失ハレタ慣習ノ回復ニ、絶好ノ機會デアッタガ、今日ハ夫レガ得ラレナクナツテ、多クハ鐵道デ直路敵前ニ送ラレ、十分ニ行軍力ヲ養成スル暇ガナイ。從ツテ最初ニハ大ナル要求ガ出來ス。

千八百七十年ノ第九軍團ガ前述ベタ十二月ノ大行軍ヲ、開戰當時ノ八月ニフアルツデ實行シタナラ

バ、恐ラクハ總人員ノ三分ノ一、若シクハ二分ノ一ヲ失タデアラウ。戰爭ガ多少進捗シテ十分ナ給養ト訓練トニ依ツテ、體力ガ増進シ、又弱兵ガ隊カラ除カレタ後ニハ、異常ナ能率ヲ發揮スルコトガ出來ル。

行軍ノ適切ナル區處モ亦、大ニ必要デアアル。此ノ點ニ就テ指揮官ノ方デ第一ニ着目スベキハ、(殊ニ運動戰ニ於テ)自己ノ取ツタ決心ヲ迅速ニ實行スルコトデアアルガ、又他ノ一面ニ於テハ過度ノ行軍ニ依ツテ、兵力ヲ損セザル新銳ナ軍隊ガ、戰鬥ノ爲ニ必要デアアル。此ノ相容レザル二ツノ要求ヲ適當ニ叶ヘルコトハ、容易ノ事デハナイ。

加之行軍ノ實施ニ就テ從來認メラレテ居タ意見ヲ、全然覆ヘシテ了フヤウナ事態ガ生ジタノデ、問題ガ一層面倒ニナル。夫レハ即チ行軍部隊ニ對スル空中ヨリノ脅威デアアル。

將來飛行機ハ動員及開進ニ對スルト同様ニ、軍ノ運動ニ對シテモ、多大ノ活動ヲ爲シ、爆彈、機關銃及砲(砲ヲ備ヘルモノヲ作ルコトハ決シテ出來ナイコトデハナイ)ヲ以テ、直接ニ地上ノ行動ニ、攻撃ヲ加ヘルデアラウ。

マルヌ會戰ノ終マデノ西方戰場ニ於ケル數百萬ノ大軍ノ前進ハ、前代未聞ノ大運動デアッタ。彼我ノ兩軍共數百軒ニ亘リ、人馬火砲及車輛ヲ以テ蔽ヒ、敵方ニ通ズル道路ハ、一ツトシテ利用セナイモノハ無カツタノデアアル。獨逸ノ軍團ハ各三十軒ノ縱長ヲ以テ、相併列シテ前進シ、其後方ニハ復タ、同ジ縱長ヲ有スル彈藥縱列及輜重ガ前進シタ。行軍ハ晝間ニ行ツタ軍隊ノ前進スル所ニハ、盛ニ砂煙

ガ立ツノガ見エタ。

之ニ反シテ、大戰ノ末期ニハ、戰線ヨリ遠ク後方ニ離レタ所デモ、太陽ノアル間ハ、長大ナ纏マツタ行軍縱隊ハ、一ツモ見ラレナカッタ。此ノ種ノ行軍ハ夜間ニノミ行ツタ。殊ニ砲兵及車輛ハ夜暗ヲ利用シテ移動ヲ實行シタ。歩兵ガ晝間戰場ニ向フ場合ニハ、小部隊ニ分チ、大道路ヲ避ケ、小道路ニ依ルカ、若シクハ原野ヲ横斷シタ。今日ハ行軍前ノ大部隊ノ集合、豫備隊ヲ戰線ノ後方ニ密集隊形ヲ取ラスコト（從來ハ凹地等ニテ行ヘバ敵ニ眼ヲ避ケ得タガ）等ハ、敵ノ飛行機ニ對スル顧慮上實行ガ出來ヌ。之レガ爲メ休止間ニモ、運動間ニモ小群ニ分割シ、且ツ飛行機ノ目ニ留マル如キ規則正シイ隊形ヲ避ケ、地形ニ順應シ上方ヨリノ觀察ヲ遮ヘギル地物ヲ利用シ、尙ホ擬裝ヲモ施スコトガ、指揮上ノ第一ノ原則デアアル。

戰鬪法ノ此ノ如キ外形上ノ大變化ハ、全ク飛行機發達ノ結果デアアル。

未ダ千九百十四年ニハ飛行機ハ偵察ニ用ヒルノミデ、武器ヲ持タナカッタカラ、彼我ノ飛行機ガ空中テ遭遇シテモ、互ニ指シ示スニ止マツテ居タ。行軍縱隊モ平然トシテ、前進ヲ續行シタ。開戦後ノ數週間ハ、敵ノ飛行機ガ餘リ大膽ニ近ヅイタ時分ニハ、之ニ向ツテ殆ンド無効ニ近イ亂暴ナ小銃射撃ヲ浴ビセタ。之レガ爲メニ生ズル多少ノ混亂ト一時ノ停止トガ、行軍ノ進捗ニ與ヘル飛行機ノ唯一ノ効力デアッタ。

飛行機ガ地上ノ戰鬪ニ直接參加スル爲メノ火器ヲ備フルニ及ンデ、事態ガ一變シテ來タ。此ノ時カラ飛行機ハ行軍縱隊ヲ襲フコトガ出來タ。之レガ概ネソノムノ會戰ノ頃カラ急速ノ進歩ヲ以テ實行サレ、千九百十四年ノ如キ軍ノ運動ハ、少ナクトモ西方戰場デハ不可能ニナツタ。

今日ニ於テハ行軍スル縱隊ニ對スル飛行機ノ處置トシテハ、先ヅ偵察機ヲ以テ長大ナ行軍縱隊ヲ發見シ、之ヲ無線電話ニテ報告スレバ、戰鬪機隊ガ出カケテ來テ、之ヲ攻撃スルト云フ順序ニナルデアラウ。縱隊ガ何回モ繰返ヘシ爆彈ヲ投下サレ、且ツ裝甲セル飛行機ノ一隊ガ低ク迫ツテ機關銃攻撃ヲ行ツタナラバ、縱隊ノ混亂ハ益々擴大シ、到底整然タル行軍ヲ繼續シ得ヌデアラウ。ソコデ此ノ如キ恐レアル場合ニハ、歩兵ハ道路ヲ捨テ、其側方ヲ小群トナツテ進ミ、且ツ遮蔽ヲ求メルデアラウ。然シ運動性ニ乏シイ車輛ハ、殊ニ飛行機ノ攻撃ニ苦マサレル。若シ距離ヲ大ニシ、擬裝ヲ爲シ、且ツ遮蔽ヲ求メ、以テ飛行機ニ餘リ大ナル目標ヲ示サヌコトニ意ヲ用ヒナクバ、死傷セル馬、破壊サレタル砲及車輛ヲ以テ道路ヲ覆ヒ、爲メニ一時間以上モ進路ヲ塞ガレルコトニナルデアラウ。而シテ指揮官ノ手裡ニ軍隊ヲ再ビ掌握シ得ル時間ノ長短ハ、軍隊内部ノ状態ト、其時ニ被ムツタ損害、混亂ノ程度ニ依ツテ左右サル、デアラウ。

飛行機射撃砲及機關銃ノ射撃ノ如キハ、今日ノ技術ノ程度、殊ニ運動戰デハ、飛行機ニ取ツテ左程恐ル、ニ足ラヌ。此ノ射撃ノ爲メニ、飛行機ガ目標ニ甚ダシク近ヅカズ、從ツテ飛行機カラノ射撃モ

不確實トハナルガ（此ノ點ダケデモ飛行機防衛ノ手段ヲ講ズル十分ノ理由トナル）、然シ、世界大戰中ニハ一飛行機ヲ打落ス爲メニ、平均七千七百發ノ砲彈ヲ費ヤシテ居ル。

最良ノ手段ハ空中ニ於ケル迎撃デアアル。之ニ依ツテ敵ノ飛行機ヲ殆ンド近ヅケシメヌコトガ出來レバ、從來ノ如キ方法ヲ以テ、晝間ニ行軍ヲ實行シ得、強イテ多大ノ勞力ヲ要スル夜間ノ行軍ヲ行フ必要ガ無クナル。空中ニ於テ劣勢ナル敵ニ比シ我が軍ハ遙カニ大ナル活動力ト能率トヲ保有スルコトニナリ、從ツテ戰術上有利ナ決心ヲ爲スニモ都合ガ良クナルデアラウ。空中ニ優勢ヲ占メ、地上ノ戰闘ニ有爲ナル軍隊ヲ有スレバ、成功ハ期シテ待ツベキデアアル。

空中ノ勢力ノ劣ツテ居ル軍ハ、其行軍ヲ夜間ニ行ヒ、晝間ニ休憩スルノ處置ヲ取ラネバナラス。但シ加工シタ道路ハ月明ノ夜ニハ、飛行機上カラ判然ト識別サレルカラ、其道路上ニ行軍シアルカ否カヲモ知リ得ル譯デアアル。而カモ翌朝敵ト衝突スベキ場合ニハ、縦隊ヲ小群ニ分割スルヲ許サヌ。小行李ヲ伴フ一師團（自動車隊ヲ除キ）ノ戰闘部隊ノ行軍長徑ハ二十三軒ニ達スル。此ノ長サハ普通ノ狀況ニ於テ師團ガ其日ノ内ニ、先頭ノ方ニ展開スル爲ニ勢一杯ノ距離デアアル。縦隊ヲ多數ニ分割シ且ツ其間ノ隔離ヲ増大スレバ、全長徑ハ著シク増大シ、敵ガ激シク攻撃シ來ル時ハ、先頭部隊ハ早ク後方部隊ノ援助ヲ受ケ得ヌ爲ニ、必ズ危險ニ陥ルデアラウ。又夜ノ内ニ（殊ニ夏季ニ於テ）此ノ如キ長大ノ縦隊ヲ有スル師團ヲシテ、二十乃至二十五軒ノ距離ヲ前進サセルコトガ出來ズ、後尾ノ部隊ハ夜ノ

明ケタ後ニモ行軍スルコトニナリ、爲ニ大行李ハ晝間ニ行動スルヲ要シ、從ツテ夜行軍ノ目的（即チ秘密ト飛行機ニ對スル保護）ハ、大部分失ハル、デアラウ。

右ノ考慮カラ、師團ヲ數縦隊ニ分ツテ行軍サセルコトニナル。然シ一師團ニ數條ノ良道ヲ得ルコトハ、多クノ場合ニ（殊ニ大兵團ノ内デハ）困難デアラウ。ソコデ若干縦隊ハ小ナル道路若シクハ道路外ヲ前進セシメネバナラス。其前進路ヲ晝間ニ豫メ偵察シテ置ク必要モ往々起ル。而シテ此ノ場合ニハ勿論、各縦隊ノ編組ハ通常ノ行軍序列ヲ守ル譯ニハユカヌ。即チ砲兵ノ前方ヲ進ムベキ隊ヲ第一道路、砲兵ヲ第二道路、砲兵ニ續行スベキ隊ヲ第三道路ニ割り當テルト云フヤウナコトヲセズニ、各縦隊ニ諸兵種ヲ混合セネバナラス。此ノ如キ方法ヲ以テ前進スル師團ハ、一條ノ良道ヲ前進スル師團ヨリモ其行軍ノ能率ガ著シク劣リ、從來重キヲ置イタ、軍ノ行動ノ敏速ガ期待サレナクナルデアラウ。然シ空中ノ勢力ノ劣ツタ方デモ、晝間ニ前進スベキ場合ガ往々起ルデアラウ。此ノ場合ニハ敵ノ不意ヲ撃ツコトハ出來ズ、敵ハ毎回戰備ヲ整ヘテ居ルデアラウ。又行軍縦隊ヨリノ戰闘展開モ敵ノ飛行機ノ妨害ヲ受ケテ之ヲ行フコトガ出來ヌデアラウ。其際師團ノ行軍縦隊ヲ數個ニ分割シテモ、夫レデ十分ダトハ云ヘヌ。何トナレバ其各縦隊ガ、尙ホ敵機ニ對シテ過大ノ目標ヲ呈スルカラデアアル。ソコデ空中ノ勢力ノ劣ツタ方ハ、戰闘ノ爲メノ分進ノ姿勢デ、前進シテ行ク外ニ方法ガ無クナル。將來ノ戰爭ニハ、萬一、全ク新シイ發明ニ依ツテ作戰法ガ一變セヌ以上ハ、前述ノ如キ光景ヲ屢々

呈スルデアラウ。ソコ恰カモ昔常用サレタ方法ヲ復タ繰リ返ヘスコトニナル。例ヘバ七年戦争ノ時ノ軍ハ、戦闘序列ヲ以テ、長距離ヲ前進シタノデアアル。フリードリツヒ大王ハ其前進ニ道路ヲ利用シタコトハ稀デアツタ。ツマリ他ノ理由カラ當時實行シタ所ヲ、今日ハ敵ノ空中攻撃ノ破壊的威力ヲ滅殺スル目的デ、應用スルコトニナツタ譯デアアル。

以上ノ説明ニ依リ、對抗兩軍ノ内、空中ニ於テ著シク劣勢ナル方ハ、敵機ノ爲ニ種々惱マサル、ガ優勢ノ方ハ其煩ガ無イト云フコトガ知レル。即チ後者ハ行軍縦隊ニ對シテ空中攻撃ヲ受クル虞ガ少ナク從ツテ飛行機防衛ノ手段ヲ適當ニ取ツテ、從來ノ如キ方法ノ行軍ヲ實行シ得ルノデアアル。

指揮官ハ其區處ヲ爲スニ當リ、爲シ得ル限リ軍隊ヲ愛惜スベキデアアル。之レガ爲メ鐵道、自動車縦列及車輛ヲ利用シテ兵卒(少ナクトモ其携帶品)ヲ運搬シ、又日中炎天下ノ行軍、集合場ニ於ケル無益ノ佇立及迂路ヲ避ケシムベキデアアル。行軍路ノ偵察ニ依ツテハ不快ナル故障ヲ防止シ得ル。帽ヲ脱シ、襟ヲ開カシムル等ノ處置ヲ適切ノ時機ニ實行スレバ、大ニ兵卒ノ氣分ヲ爽快ニスル効ガアル。又行軍中ニ縦隊ヲ分進セシムルトキハ行進ヲ容易ナラシメ、戦闘準備モ亦之ニ依ツテ高マル。高級ノ司令部(本部)ノ宿舍ヲ早ク定メ、其通信設備ヲ整ヘルコトハ、全般ノ内務ノ爲メニ頗ル緊要デアアル。

總テ行軍ノ區處ハ主トシテ、敵トノ觸接ヲ有スルカ否カニ依ツテ、左右サセル。敵ト觸接ナキ場合

ニハ、旅次行軍ヲ行フ。此ノ場合ニハ軍隊ハ各兵種毎ニ小部隊ニ分チ、大行李ト共ニ前進シ、且ツ適宜ノ時刻ニ出發スル。

敵トノ衝突ヲ豫期スルトキハ、戦闘準備ニ重キヲ置キ。戰備行軍ヲ行フ。從ツテ警戒ノ處置ヲ取り大行李ヲ纏メテ後方ヨリ續行サレル。

軍隊ハ規定ノ行軍縦隊(歩兵ハ四列、騎兵ハ二列、砲及車輛ハ單車ノ縦隊)ヲ以テ前進スル。各部隊ノ間ニハ行進上ノ故障ヲ緩和スル爲メ若干ノ距離ヲ置ク自動車ハ速度ヲ調節シ得ザル爲メ行軍縦隊中ニ編入セズシテ、良好ナル道路上ヲ躍進的ニ續行サセル。戰車ハ長距離ニハ鐵道ヲ以テ、又短距離ニハ特殊ノ自動車ニテ運搬シ、飛行機隊ハ日々其着陸場ヲ換ヘズニ、數日行程毎ニ躍進的ニ之ヲ移ス。總テノ行軍ニハ嚴ニ行軍々紀ヲ守ラシメ、行軍長徑ノ延伸ヲ防グ。常ニ有利ノ道路ヲ歩兵ニ與ヘル又縦隊ヲ二ツニ割イテ、道路ノ兩側ヲ行進サセルコトモ出來ル。此ノ方法ハ樹木ヲ利用シテ飛行機ノ目ヲ避ケ得ル場合ニハ殊ニ有利デアアル。

行軍縦隊ノ各部間ノ連絡ヲ維持スルコトガ、殊ニ大切デアアル。就中前衛ノ後尾ト本隊ノ先頭トノ間若シクハ砲兵ヲ縦隊中ヨリ抜き出シタ場合ニ生ジタ空隙等ニ於テハ、蔭蔽地及夜間ニ於テハ、動々モスレバ連絡ガ斷タレル。連絡兵、自動車兵、若シクハ乘馬將校ヲシテ之ガ防止ニ任ゼシムベキデアアル。前進ノ圓滑ヲ期スルニハ歩度ノ齊一ガ最モ必要デアアル。惡路若シクハ雪道ニハ、時々先頭部隊ヲ交

代サセルガ良イ。炎暑、極寒、強風ニハ、指揮官ニ於テ特別ノ處置ヲ講ズベキデアアル。強風ノ場合ニ風ノ當ル方ノ列ハ時々交代サセルガ如キ其一例デアアル。

強行軍ヲ行フ場合ニハ、凡ラユル手段ヲ盡クシテ軍隊ノ便宜ヲ謀ラネバナラス。但シ如何ニ重大ナル目的ノ爲ニ夫レヲ行フカヲ、軍隊ニ知ラセルコトガ、最モ必要デアアル。

軍隊ヲ前進セシムルニハ、行軍命令ヲ下ス。夫レヲ作ルニ當ツテハ、兵卒ガ銃及裝具ヲ擔ツテ居ル時間ノ長短ノ方ガ、行軍距離ノ長短ヨリモ、疲勞ノ程度ニ關係ノアルコトヲ、考慮スベキデアアル。二十軒ヤ三十軒、否ナ四十軒デモ、元氣ナ徒步旅行者ノ一日行程トシテ、決シテ大ナルモノトハ云ヘス。一日ニ七十軒ヲ行クコトハ、競争者、アルバニア人、西班牙人バカリデナク、獨逸ノ職工ヤ歸休兵デモ、歸國ノ家路ヲ急グ時ナドニハ、十分ニ遣ツテ退ケルノデアアル。然シ軍服ヲ着ケ、完全ニ武装シテ隊伍ヲ組ミツ、行進スルノト、輕裝シテ自由ニ歩クノトハ、全ク勝手ガ違フ。兎ニ角兵卒ガ之ニ費ヤス時間ハ、其距離ヲ行クノニ、是非共必要ナ時間ニ限定スベキデアアル。

行軍命令ニハ、出發ガ圓滑ニ實行サル、如ク、意ヲ用ヒネバナラス。大部隊ヲ一地點ニ早ク集合サセルコトハ、無益デアツテ、一群毎ニ、行軍縱隊ニ繰リ込ム如クスベキデアアル。行程ヲ定ムルニハ各隊ノ宿營地ヨリ其日ニ宿營スベキ場所ヘノ距離ヲ以テ、計算セネバナラス。時間ノ計算ニハ、諸兵種連合ノ縱隊ハ、小休止ヲ加算シテ、一軒毎ニ十五分ヲ標準トスル。月明ノ夜デ、良好ノ道路ヲ行クニ

ハ、殆ンド同一ノ速度ガ出ル。然シ夜及不良ノ道路デハ、著シク速度ガ減ズル。

從來ハ夜行軍ヲ軍隊ノ爲メニ大ニ忌ムベキモノト考ヘタガ、今日ハ全ク事情ガ違ツテ來タ。世界大戰デハ、敵ノ不意ニ出ヅル爲メ、屢々之ヲ實行シタ。陣地戰ニ於ケル交代ハ、夜間ニ行フヲ常則トシタ。熱帶地デハ、日中ノ炎暑ヲ防グ爲メ、殆ンド皆夜行軍ヲ實施シタ。我が軍ノ兵卒ハ忽チ夜行軍ニ慣レテ、好成績ヲ擧ゲタ。然シ連續夜間ノ休息ヲ奪フトキハ、將校ノ神經及體力ヲ著シク害スル故、輕々シク之ヲ實行シテハナラス。

更ニ夫レヨリモ不良ノ結果ヲ來スモノハ、不適切ナル命令下達ニ依ツテ、夜晩クマデ將卒ヲ眠ラセヌコトデアアル。前ニモ述べタ如ク、翌日ノ行軍ニ就キ、準備命令(出發命令)ヲ以テ出發ノ時間及場所並ニ豫定ノ行程ヲ示セバ足リル。此ノ命令ナラバ、適當ノ時刻ニ將卒ヲ休息サセルヤウニ、早く下ヌコトガ出來ル。他ノ事ハ總テ翌朝示セバ良イ。

出發時刻ハ狀況、天候、季節及其日ノ行程ニ依ツテ定マル。

行軍部隊ハ敵ニ對シテ警戒セネバナラス。警戒ハ搜索ト軍隊區分トニ依ツテ行ハレル。前進ノ際ハ諸兵種ヨリ成ル所ノ小部隊即チ前衛ヲ前方ニ出シ、以テ本隊ガ不意ニ敵ト衝突スルコトヲ豫防スル。退却ニハ、後衛ヲ設ケテ本隊ノ掩護ニ當ラセル。後衛ハ大體ニ於テ前衛ト同一主旨ヲ適用スルガ、唯

ダ速度ノ早イ重火器ヲ多ク付ケル。

行軍部隊ノ搜索及直接警戒ニハ、軍隊騎兵ヲ用フル。故ニ此ノ騎兵ハ、特別ノ狀況（高山地及山地ノ森林、其他白耳義ノ如ク敷石道デ、住民地ノ密集セル開ケタ地方等）ノ爲メニ、騎兵ノ使用ヲ一般ニ許サヌ場合ノ外ハ、常ニ前方ニ出ス。前衛ノ前方ニ騎兵師團ノ居ル場合ニモ亦、之ヲ出ス。是レハ騎兵師團ガ後續部隊ノ爲ニ心配シタリ、警戒シタリシテ其活動ノ自由ヲ制限サレテハナラヌカラデア

ル。
軍隊騎兵ハ軍隊指揮官ヨリ、之ニ特別ノ任務ヲ與ヘテ前遣スルカ、若シクハ前衛ニ隸屬サセル。前ノ場合ニモ、騎兵ノ小部分ヲ必ず前衛ニ殘ス。本隊ノ指揮官モ亦特別ノ目的ノ爲ニ、若干騎ヲ使用スル。更ニ軍隊指揮官モ騎兵ノ小部分ヲ手許ニ置キ、以テ自ラ搜索兵ヲ出シ、若シクハ縱隊ノ一部隊ヲ他ニ轉向セシムル場合ニ、夫レニ附屬スルノ用ニ備ヘル。

前遣スル騎兵ニハ、砲兵、車輛（自動車）ニ乗セタ步兵及工兵、隨伴機關銃小隊、貨物自動車ニ乗セタ機關銃小隊、自動車兵ヲ附スルノガ良イ。此ノ騎兵ハ前方ニアル沿道ノ重要地點、鐵道交叉點及特殊建設物等ヲ、前衛ノ來着迄占領サセルコトガ出來ル。又後ニ縱隊ノ通過スベキ森林内ノ搜索、隘路及地區等ニ用ヒテ、往々効果ガアル。

軍隊騎兵ガ前衛ニ屬スル場合ニハ、前衛司令官ハ自己ガ軍隊指揮官ヨリ受ケタ命令ニ基ヅイテ、命

令ヲ與ヘル。

前衛ハ前進ヲ澁滞ナク繼續サセ、微弱ナル敵ヲ排除シ且ツ敵ト衝突ノ際ニ、本隊ニ戰鬪展開ノ時ト場所トヲ得サスベキモノデア。但シ前衛司令官ハ、其任務ヲ達成スルニ當リ、全般ノ埒外ニ出ヌコトニ絶エズ意ヲ用フベキデア。

前衛ノ兵力及編組ハ全體ノ兵力、狀況、意圖、及地形ニ依ツテ定メル。

歩兵ハ全體ノ七分ノ一乃至三分ノ一ヲ前衛ニ附ケル。前衛ニハ何レノ場合ニ於テモ輕砲兵、輕彈藥縱列共）ヲ必ず與ヘル。之ニ依ツテ我が前進ヲ妨害スル敵ノ意圖ガ、果シテ眞面目ノモノカ否カラ最モ早ク察知スルコトガ出來ル。

徒歩戰ヲ以テ進路ヲ開カントスル我が騎兵ハ、一挺ノ機關銃ヲ有スル勇敢ナル少數ノ敵ノ爲ニ容易ニ阻止サレルガ、若シ此ノ敵ニ二、三發ノ正確ナ射彈ヲ送レバ、忽チ之ヲ驅逐スルコトガ出來ル。又我ニ向ツテ來ル敵ヲモ、砲火ニ依ツテ之ヲ阻止シ、且ツ其兵力ヲ展開サセルノガ、最モ適當デア。又射程ノ大ナル平射砲（中隊縱列共）ヲ前衛ニ屬サセルノモ有利デア。之ニ依ツテ敵ノ通過スベキ橋梁、道路、隘路等ヲ射擊シテ、敵ノ前進ヲ早ク妨害シ得ル。

前衛ハ其火力ト運動性トヲ増スニ從ツテ、其任務ハ容易トナル。此ノ見地カラ、自轉車兵、機關銃隊及迫撃砲隊ガ配屬サレル。通信隊、衛生隊（一又ハ二分ノ一）、及工兵隊（迅速ニ障礙物ヲ除外スル

爲メ)ヲモ之ニ屬シ、又河ヲ渡ルベキ場合ニハ、架橋縱列(一縱列又ハ其一部)ヲモ附ケル。

前衛ノ前進ノ爲メノ區分ハ、前衛司令官ガ之ヲ定メル。多クノ場合ニハ前兵ヲ出シ、前衛本隊ノ戰鬥展開ニ十分ノ時ヲ與ヘ得ルダケノ距離ヲ取ラセル。前兵ニ一、二門ノ砲ヲ附ケルノガ有利ナ場合ガ往往アル。前兵ノ前方四、五百呎ノ距離ニ前兵支部(中隊)ヲ置キ其内カラ更ニ前兵尖兵ヲ出ス。之ニハ一人ノ將校ノ下ニ一乃至二ノ小銃分隊若シクハ輕機關銃分隊及裝甲自動車ヲ屬スル。又其前方ニハ騎兵尖兵ガ進ム。軍隊騎兵ノ殘部ハ行軍縱隊ノ警戒ノ爲メ前方及側方ニ用ヒル。

獨立ノ騎兵ハ躍進的ニ前進シ、是レ又縱長ノ區分ヲ爲シ、前兵ノ前方數軒ノ所ヲ前進スル。

前衛ト本隊トノ間ニハ前衛ガ戰鬥ヲ交ヘル度ニ、其渦中ニ卷キ込マレヌダケノ距離ヲ設ケネバナラヌ。軍隊指揮官ハ自己ノ意志ニ從ツテ、本隊ノ使用兵力ヲ決シ得ルノ自由ヲ保有セネバナラヌ。然シ又一面ニ於テハ前衛ヲ適時ニ援助シ得ル程度ノ距離ニ、本隊ヲ置ク必要ガアル。前衛ノ兵力少ナキトキ、夜間及蔭蔽地等ニハ、此ノ距離ヲ短縮スル。

行軍縱隊ヨリ戰鬥ニ移ル際ノ指揮ノ要訣ハ、全兵力ヲ狀況ニ適應シテ計畫的ニ使用スルニアル。此ノ原則ノ實現ヲ破壞サレル危險ハ、前衛司令官ガ、軍隊指揮官ノ意圖ヲ汲マズニ、早マツテ決心ヲ爲シ、爲メニ、止ムナク本隊ヲ本來希望セヌ方向ニ使用スルコトデアアル。之ヲ豫防スル最良ノ手段ハ、敵ト衝突スル際、軍隊指揮官ガ前衛ノ許ニ居ルコトデアアル。之ニ依ツテ戰鬥動作ノ統一ヲ期待シ得、

又戰場ノ地形ヲモ早ク知ルコトガ出來ル。

側面ノ警戒ハ前衛及本隊ガ各々獨立シテ擔任スル。夫レニハ活潑ナ近距離搜索ヲ行フノガ一番良イ時ニハ微弱ナ側衛ヲ以テ行軍縱隊ノ側面警戒ニ當ラセル必要モアル。此ノ種ノ側衛ハ前衛ノ兵力及編組ヲ適用シ、且ツ夫レト同様ノ區分ヲ以テ前進スル。但シ此ノ種ノ側衛ノ進路ハ、多クハ不良ナルモノデアルカラ、出發時刻ヲモ夫レヲ顧慮シテ決定スベキデアアル。又本縱隊ト側衛トノ連絡ヲ確實ニ維持スル必要ガアル。之レガ爲メ、飛行機、騎兵、自轉車兵若シクハ裝甲自動車ヲ使用シ得ル。時ニハ裝甲自動車ノ一隊ニ自轉車兵ヲ附シテ側衛ノ役目ヲ果タセルコトモ出來ル。

側衛ハ終始本隊ト同高ニ於テ前進スルカ、若シクハ側面ニアル高地、橋梁若シクハ隘路等ヲ本隊ノ通過シ終ルマデ占領シ、然ル後之ニ合スル。

退却ニハ後衛ヲ設ケネバナラヌ。後衛ハ通常前衛ヨリモ有力ニスル。之レハ本隊ノ援助ヲ期待シ得ヌカラデアアル。後衛ガ適當ノ地點デ敵ノ近迫ヲ支ヘテ居ル内ニモ、本隊ハ前進ヲ繼續スルノデアアル。然シ後衛ノ爲ニモ步兵ノ頑強ナ戰鬥ハ望マレナイカラ、戰鬥ハ主トシテ砲兵、機關銃、裝甲自動車及自轉車兵ヲシテ、實行サセル。從ツテ又此ノ種ノモノハ多ク後衛ニ配屬スベキデアアル。工兵モ亦道路ノ阻絶及爆破ノ爲ニ、後衛ニ有用デアアル。騎兵ヲ爲シ得ル限り多クシ、且ツ飛行機ヲモ必ズ附ケル。是レハ如何ナル場合ニ於テモ、敵トノ觸接ヲ確實ニ維持スル必要ガアルカラデアアル。後衛ハ常ニ敵ヲ

シテ屢々停止セシムル目的デ、地區毎ニ退却シツ、廣正面ヲ以テ戰鬪スル。眞面目ノ戰鬪ハ日暮方デ無クバ、良シクナイ。此ノ時刻ナラバ敵ガ其優勢ナル兵力ヲ用フル時間ガ得ラレナイカラデアル。後衛ガ敵ト離脱タシル後ハ、行軍縱隊ニ移リ、後衛本隊後衛及配屬サレタル騎兵トニ區分スル。

然シ以上ノ處置ヲ取ツタノミデハ、行軍縱隊ガ突然敵ノ砲火ヲ被ムリ、而カモ自ラ應射スルコトノ出來ヌ状態ニ陥ルコトヲ防止スルニ足ラヌ。斯カル場合ニナツテ始メテ、砲兵及機關銃隊ヲ縱隊ノ中カラ引キ出シ、陣地ニ着カセテ射擊準備ヲ整ヘル迄ニハ、敵ハ我が隊ニ多大ノ損害ヲ與ヘルコトガ出來ル。之レガ爲ニハ敵トノ衝突ガ起リサウニナツタナラバ各行軍縱隊ニハ、一種ノ射擊掩護法ヲ設ケル夫レニハ一乃至數中隊ノ砲兵及重機關銃ヲシテ、道路ノ側方ニ陣地ヲ占メサセ、且ツ交互ニ躍進的ニ先方ニ追ヒ越シツ、縱隊ニ隨伴シ、何時デモ射擊ヲ開始シ得ル如クスル。而シテ軍隊ガ極メテ不利ナル状態ニ於テ戰鬪（交ユベキ地區ヲ通過スル際、例ヘバ前進路ガ兩岸ノ急峻ナ而カモ路外ノ通過ノ困難ナ谷地ヲ横斷スル場合）ニハ、砲兵ヲシテ、後岸ニ陣地ヲ占メサセ、縱隊ノ先頭ガ前岸ニ達スルニ至ツテ、始メテ陣地ヲ撤シサセル。步兵ヲシテ砲兵ノ援護射擊ナシニ、敵ノ砲火ヲ被ラスコトハ上級指揮官ノ過失デアアル。

前衛及後衛ノ研究ニ當ツテ採用サレタ着眼點ハ、又各縱隊内ノ軍隊ノ序列ニモ適用サレル。騎兵ノ後方ニハ本來直チニ砲兵ノ一部、即チ戰鬪開始ニ必要ナル兵種ヲ置クベキデアラウ、然シ敵ガ騎兵ヲ

擊退シテ直チニ、抵抗力ナキ前進中ノ砲兵ニ迫ル虞レガアルカラ、少ナクトモ若干ノ步兵ヲ砲兵ノ前方ニ進マス。此處置ハ尙ホ騎兵ヲシテ前衛ヲ離レテ獨立シテ前進サセル爲メニモ、必要デアアル。又砲兵ノ全部ヲ、上述ノ步兵ノ直後ニ出ス譯ニ行カス。斯クスレバ、其後方ニ置カレタ步兵ハ戰場ニ出ルノガ、甚ダシク遅レル。通常本隊ノ先頭ニハ、少數ノ騎兵ノ後方ニ、步兵部隊、工兵（前衛ニ配屬サレタモノ、殘餘ガアラバ）及通信隊ガ進ミ、砲兵ノ主力ハ警戒上ノ顧慮ノ許ス限り前方ニ出ス。長大ナ砲兵ノ縱隊中ニハ、好ンデー、二中隊ノ步兵ヲ挿入スル。此ノ處置ハ蔭蔽地、就中側方カラノ危険ヲ感ズル場合ニハ、極メテ必要デアアル、又道路ノ不良ナル場合ニハ、膠着セル砲ヲ動カス爲メニ、步兵ガ手許ニ居ルノガ便利デアアル。步兵砲ハ勿論其所屬隊ノ許ニ居リ、又步兵ニ一時配屬若シクハ隸屬サレタ砲兵モ、之ト同行スル。砲兵ノ後方ニハ、步兵ノ殘部ガ進ム。縱隊ニ屬スル其他ノ部隊ハ、總テ戰鬪ニ使用スル順序ニ置ク。即チ衛生隊ハ輕彈藥縱列及砲兵段列ノ前ニ置キ、架橋縱列ハ一部ヲ前衛ニ置タカ（其日ニ使用スベキ場合）、或ハ全部最後尾（其日ニ使用セヌ場合）ニ置ク。

以上ハ敵ニ向ツテ直進スル場合ヲ頭ニ置イテ述べタノデアアルガ、敵ノ陣地ノ附近若シクハ敵ノ前進スル縱隊ノ先頭ノ前ヲ通過スル場合ニ就テモ、一言スル必要ガアル。此ノ如キ場合ヲ側敵行軍ト云フ此ノ行軍ハ特ニ危險ト困難ノ伴フモノ、様ニ思ハレル。然シ戰史ハ吾々ニ側敵行軍ガ學理上危ブマル、ヨリモ、案外容易ニ斷行シ得ルコトヲ吾々ニ教ヘル。フリードリッヒ大王ハブラーグデ、埃軍ノ右

翼ヲ廻ハリ、又コリン及ロイテンデハ其全正面ニ沿フテ、側敵運動ヲ敢行シタ。當時ノ軍隊ハ會戰ノ配備ヲ爲シタ場合ニハ、其運動ガ輕快デナカッタ。夫レハ戰鬪序列ヲ亂スコトヲ許サナカッタカラデア。故ニ敵カラ側面運動ヲ認メラレテモ、其逆襲ヲ甚ダシク恐レルニ及バナカッタ。現ニ大王ハ實際ニ何時デモ、之ヲ心配シナカッタ。然シ此ノ事態ハ既ニ餘程カラ變ツテ來テ居ル。近頃ノ砲兵ノ射程ハ前述ノ如キ方法ノ側敵運動ヲ許サヌ。加之各軍ノ一部分宛ガ、獨立性ヲ持ツテ居ツテ、傍ヲ通過スル敵ノ縱隊内ニ、早ク逆襲ヲ行ヒ得ル。然シ今日ニ於テモ一旦展開シタ、大兵團ガ前以テ豫定シテ置カナカッタ方向ニ運動ヲ起スニハ、相當ノ困難ヲ感ズル。其爲ニ好機ヲ逸スルコトガ屢々起リ然ラザレバ指揮官ガ擊退サル、コトヲ恐レテ、遂ニ其企圖ヲ斷行セヌ場合モアル。敵ノ全部ガ側面運動ヲ行ハズニ、其一部ノミガ行フ場合、例ヘバ包圍攻撃ノ初メノ時期等ニハ、出撃ニ依ツテ敵ノ兩部即チ前進中ノ部分ト、停止シアル部分トノ間ニ進入シテ、不利ノ形勢ニ陥ル心配ガ強クナル。

側敵行軍ヲ行ツテ居ル間ニ、敵ガ既ニ運動ヲ起シテ居ル場合ニハ、危險ハ一層増大スル。此ノ場合ニハ、警戒ヲ加ヘ、敵トノ距離ヲ大ニスルカ、若シクハ側敵行軍ヲ行フ部隊以外ノモノヲ以テ同時ニ戰鬪ヲ行ツテ、其注意ヲ他ニ引キ着ケネバナラス。

單純ニ前方ヘ進ム場合ニハ、敵トノ衝突地一籽位前後何レニナツテモ、又戰鬪展開ヲ爲スベキ位置ガ多少移動シテモ、通常大シタ問題ニハナラヌガ、側敵行軍ニ於テハ、爲シ得ル限リ戰鬪ヲ交ヘズ、

停止モセズニ到着シタイト云フ考ヲ持ツテ居ル。故ニ敵ガ少シデモ手ヲ出セバ、我が妨害ニナル。ソコデ一層緊張シテ注意ヲ拂ヒ、從ツテ困難ナ事ヲ實行スル如ク自ら感ズルノデア。且又人ノ情トシテ背面若シクハ側面カラ迫ル危險ハ、自己ガ直進シテ行ク方ニアル危險ヨリモ、重大視スル。然シ側敵行軍ハ覺悟ヲシテ斷行スレバ、案外苦モナク遂行シ得ルコトハ經驗ノ教ヘル所デア。又側面ニ對スル展開ハ、先頭ノ方ヘ展開スル場合ヨリモ各部隊ノ通過スベキ距離ガ短イカラ、早ク實行ガ出來ル故ニ狀況上必要ナ場合ニハ、側敵行軍ヲ恐ルベキ理由ハ毫モ存シナイノデア。

尙ホ行李ニ就テ少シク述ブベキコトガアル。開戰前ノ行李ノ編制ニ就テハ、讀者ノ既ニ知ル所デア。ルガ、餘リ型ニ嵌マツタモノデアツテ現代ノ交通ノ状態ヲ、十分ニ顧慮シテ無カッタ。而シテ軍團モ亦自己ニ配屬サレタ縱列ノ爲メニ、餘リ煩ハサレタカラ、既ニ戰役中ニ全般ノ輸送機關ヲ大ニ改善シタ。

之レガ爲メ、軍ノ補給ノ要領ハ、從來ノ學理トハ、頗ル趣ヲ異ニスルニ至ツタ。而シテ之ニ最モ重大ナ影響ヲ及ボシタノハ、鐵道デア。鐵道ハ平時カラ在ツタ鐵道網ヲ補フニ、廣軌、野戰及輕便等ノ軌道ヲ以テシタ。鐵道ハ（殊ニ陣地戰ニ於テハ）爲シ得ル限リ戰線ニ近ク、戰用器材及糧食ヲ輸送シタ。運動戰ニ在テモ、此ノ目的ヲ達スル爲メ、鐵道ヲ極限マデ利用シタ。故ニ軍隊トシテハ卸下停車

場カラノ必需品ノ運搬ニ、緊要縦列及自動車縦列ヲ使用シタ。水路モ亦鐵道ニ似タ役目ヲ果シタ。而シテ西方戰場ニ於テハ、殊ニ輸送能力ハ甚大デアツテ、大兵團ガ蟻集シタ場合ニモ、克ク之レガ補給ヲ完ウシ得タ。東方戰場デハ比較的困難ナ事情ニアツテ、鐵道及良道ノ乏シカツタ爲メ、主トシテ緊要ノ縦列ノ力ニ依ツタ。此ノ方面ニ於テハ戰前ニ豫想シタ所ニ多少似寄ツタ光景ヲ呈シタ。

大戦ノ經驗ニ基ツキ、行李ヲ戰鬪行李ゲフエヒト、トッス、フエルブレグレス、トッス、糧食ゲスツク、トッス、行李トニ區分スル及荷物行李トニ區分スルハ大隊毎ニ纏メテ部隊ト共ニ行軍シ。部隊ハ何時ニテモ之ヲ使用スルコトガ出來ル。糧食行李及荷物行李ハ部隊ノ出發後ニ、數團トナツテ集合スル。此レ等ノモノヲ前方ノ定マツタ集合場ニ纏メル。糧食縦列ハ本隊若シクハ戰鬪梯團(若シ之レアラバ)ヨリ數軒ヲ隔テ、續行スル。此ノ戰鬪梯團(第一梯團)ハ戰鬪ヲ豫期スル時ニ、輻重縦列中ヨリ編組スルモノデ、歩砲兵ノ彈藥及爆破藥、及器材ト一、二ノ野戰病院トヨリ成リ、戰鬪部隊ノ後尾ヲ前進サセルノガ有利デアル。

通常糧食行李ハ、野戰炊具ノ需要ヲ充タス爲メニ、日々軍隊ニ招致スベキモノデアル。其後方(即チ全體ノ最後尾)ニハ、荷物行李ガ從フ。退却ノ場合ニハ行李ヲ先行サセ、側敵行軍ニハ敵ト反對側ニ置ク。

卸下停車場、分配所及行李間ノ連絡ハ、輸送ナシネ、トッコン縦列ノ任ズル所デアル。輸送縦列ハ軍隊ノ運動ノ自由ヲ阻害スルコトナク、其戰鬪準備ヲ完ウセシムベキデアル。其用法ノ詳細ニ就テハ後節ニ説明スル。

クラウゼウイツツハ行軍ニ依ル兵力ノ損失ハ實ニ少ナクナイモノデアルカラ、行軍モ亦戰鬪ト同様ニ特別ノ研究ヲ必要トスルト云フタガ、誠ニ理由ノアルコトト思フ。周到ナ注意ヲ拂ツテモ、數千ノ兵ヲ其ノ爲ニ失フノデアル。那翁ハ千八百十二年露國ヲ撃ツニ當リ、直距離五百二十軒ヲ行軍スル間ニ、病者及落伍兵ノ爲メニ、十萬ニ近キ兵數ヲ減ジタ。軍紀ノ弛廢モ與ツテハ居ルガ、夫レデナクモ眞ニ行軍ノ爲メニ生ジタ損失モ多大デアツタラウ。行軍縦隊ヲ離ル、者ハ死ニハセヌガ、多クハ戰鬪ニ加ハラズ、病院ヤ軍ノ後方連絡線ニ溢レテ、徒ラニ其負擔ヲ増スコトニナル。故ニ後方ニ居ル幹部ヲシテ、此ノ種ノ兵ヲ糾合サセ、其戰鬪ニ堪ヘル者ハ所屬隊ニ送り、然ラザル者ハ守備ノ任務ニ就カセル必要ガアル。

特別ノ場合ニ、普通ノ一日行程即チ二十乃至二十五軒ヲ甚ダシク超過サセルコトモ出來ルガ、其際ニハ必ズ、夫レニ依ツテ生ズベキ損失ガ、其成効ニ依ツテ購ハル、カ否カラ、一應考慮スル要ガアル。強行軍ヲ行ツテモ、敵ガ吾ヲ避ケタ場合、自ラ敗北ヲ招イタホドノ影響ヲ受クルコトガアル、無益ニ非常ナ勞苦ヲ嘗メサセラレタト云フ意識ハ、頗ル不利ナ精神的惡影響ヲ胎スコトニナル。

行軍ノ外ニ尙ホ戰鬪的軍隊輸送モ亦、重要ノ位置ヲ占メル。昔ハ海上ニノミ之ヲ行ツタノデアアル。何事ヲモ遣ツテ退ケタ那翁ハ、千八百五年及千八百六年ニ、其近衛隊ヲ、又千八百十四年ニハ西班牙

ヨリ來ル軍隊ヲ、輸送シタ。其際ハ毎日七十軒乃至八十軒位進メルコトガ出來タ。千八百六十六年以降ハ、戰爭ハ國境ヘノ軍ノ鐵道輸送ヲ以テ開始スルニ至ツタ。千九百十四年ニハ非常ナ大規模ヲ以テ之ヲ實行シタ。其輸送人員ガ莫大デアツタノミナラズ、其輸送距離モ非常ニ長カツタ。前ニモ述ベタ通り彼我兩軍ノ鐵道開進ニハ、八百萬ノ兵ガ參加シ、戰爭ノ始メニ逸早ク獨逸國境ニ出現セル西比利亞軍團ノ如キハ、數千軒ノ鐵道輸送ヲ受ケタノデアアル。英軍ハ鐵道輸送ト共ニ、英佛海峽ノ船舶輸送ヲモ行ヒ、又其補助軍隊ハオーストラリア、南亞弗利加及カナダヨリ數週ニ亘ル航海ヲ經テ、佛國ニ上陸シ、又米國軍ハ大西洋ヲ橫斷シタ。

此ノ如キ軍隊輸送ニ依ツテ始メテ連合軍ガ其非常ニ優勢ナ兵力ヲ同盟軍ニ對シテ使用シ得タノデアアル。然シ又他ノ一面ニ於テハ、防禦手段トシテモ同様ノ效果ヲ舉ゲルコトガ出來タ。殊ニ獨逸ノ作戰ハ若シ大兵團ヲ自由ニ東西ニ輸送シ、決戰ノ行ハル、方面ニ之ヲ使用シ得ナカツタナラバ、其實現ガ到底不可能トナツタデアラウ。而シテ此レ等ハ概ネ獨逸ノ鐵道材料ヲ以テ實行シタモノデ、戰後ニモシリアノボサンチ隧道ノ入口ニ至ルマデノ鐵道ノ車輛ニハ、皆「獨逸野戰鐵道長官」ノ標識ヲ掲ゲテアツタ。鐵道ノ器材ヲ極度ニ酷使シ、且ツ其從業員ノ多クハ軍隊ニ召集サレテ人ノ數ト質トヲ低下シタ爲ニ、鐵道ノ能率ガ減退シタコトガ、獨逸ノ最後ノ屈服ノ一因ヲ爲シタノデアアル。

連合軍ノ方デモ戰略輸送ヲ巧ニ實行シタ。現ニデヨツフル將軍ガ若シ千九百十四年八月ノ末ニ、此

ノ手段ヲ借リナカツタナラバ、ロートリンゲンノ戰線カラ巴里方面ニ強大ナ兵力ヲ移シ、以テ戰線ノ挽回ヲ謀ルコトガ出來ナカツタノデアラウ。

固ヨリ自國內デノ鐵道ノ利用ハ、敵地ニ於ケルヨリモ、遙カニ容易デアアル。敵ノモノハ軌道ヤ停車場ガ非常ニ破壞サレ、汽關車ヤ車輛ハ持去ラレテアル。而カモ尙ホ今後軍ヲ進ムルニ就テハ、軍ノ後方ニアル鐵道ハ、爲シ得ル限り利用ノ道ヲ講ゼネバナラス。此ノ點ニ就テハ獨逸ノ鐵道建設隊及運行列ハ、多大ノ功績ヲ舉ゲタ。又廣軌、狹軌、野隊及輕便等ノ無數ノ鐵道ヲ新設シ、多數ノ停車場ヲ新設シ若シタハ軍事輸送ニ適スル如ク改造シタ。自耳義ノ多クノ停車場ハ獨逸ノ長イ軍用列車ニ適スル如ク増築シタ。

今日鐵道ガ極メテ重要ナ戰爭用機關デアルコトハ世界大戰ニ依ツテ遺憾ナク證明サレタ。百萬ノ大軍ヲ必要ニ應ジテ各所ニ移動シ得ル鐵道ヲ有スルコトハ、近代強國ノ存立上ノ必要デアアル。

水上及陸上ニ於ケル戰略的輸送ノ外ニ、尙ホ戰術的輸送ガアル。之ニ依ツテ豫備隊ヲ神速ニ移動スル。就中陣地戰ニ於テハ非常ニ之ヲ重用シタ。之ニ要スル輸送材料（鐵道ノ外ニ自動車縱列ヲモ用ヒタ）ノ準備ガ統帥部ノ主ナル仕事デアツタ。敵ガ不意ニ陣地ニ侵入シ得タ場合ニハ、十分ノ兵ヲ之ニ對抗セシメ得ル手段ハ、此方法以外ニ無カツタノデアアル。

然シ何レノ場合ニモ、徒步行軍ト鐵道輸送トノ何レガ早ク目的地ニ到着スルカ否カハ精確ニ計算ス

ル必要ガアル。普通ノ能率デハ一師團ノ兵ヲ其附屬物ト共ニ發送スルノニ、單線デ、四乃至五日、複線デ二乃至三日ヲ要スル。徒歩ナラバ、其間ニ八十乃至百軒（又ハ四十乃至六十軒）ヲ前進シ得、猶ホ其上ニ輸送時間ノ中ニモ前進シ得ル。輸送ニ利用スル距離ガ長クナレバ、全師團ノ鐵道輸送ガ時日節約ノ價值ヲ生ジテ來ル。取り敢エズ兵力ノ一部ヲ至急ニ必要トスル場合ガ屢々生ズルモノデアルガ此ノ場合ニハ、先ヅ鐵道ニテ夫レヲ送り、爾餘ノ部隊ハ徒歩ニテ續行サセル。歩兵ヲ鐵道ニテ輸送シ車輛隊及乘馬隊ヲ徒歩ニテ送ル方法ヲ併用スルノガ有利ナ場合ガ屢々アル。若シ目的地ニ於ケル使用上ノ顧慮ヲ要スル場合ニハ、若干ノ騎兵及砲兵ヲモ歩兵ニ同行サセル。尙ホ萬全ヲ期スル爲メ、行軍スル車輛隊ニモ、若干ノ歩兵ヲ隨伴サセル方ガ良イ時モアルデアラウ。

時ノ節約ノ上カラハ何レノ方法ガ有利カ疑ハシイ場合ニハ、鐵道輸送ノ方ヲ採ルノガ良イ。是レハ勞力ヲ節シ、且ツ行軍ヨリ生ズル損失ヲ避ケ得ルカラデアアル。

尙ホ本來ノ軍隊輸送ノ外ニ、作戰上ニハ其重要ナル點ニ於テ、之ニモ讓ラヌモノガアル。夫レハ軍隊ノ補給上ノ輸送、一般ノ輸送及戰時ノ産業並ニ民間産業ノ維持上必要ナル輸送デアアル。

總テ軍事上ノ目的ニ鐵道ヲ利用スルニ就テハ、統帥部ガ要求ヲ提供シ、鐵道管理者ガ夫レヲ實行スルト云フ原則ニ從フ。其際鐵道技術ノ修養アル將校ガ、司令部ニ在ツテ補佐ノ任ニ當リ、所謂管區委員（將校及鐵道官吏各一人）ガ、鐵道ノ管理部ト協力シテ、軍事上ノ要求ヲ處理シ、且ツ監督スル。

總テ主要停車場ニハ停車場司令官ヲ置キ、軍隊ノ爲メ乗車、下車、及休憩ノ世話ヤ所要ノ軍事警察上ノ區處ヲ爲ス。鐵道輸送ニハ、嚴正ナル軍紀ト秩序トヲ必要トスル。運行ニ對スル局外者ノ干涉ハ不測ノ災厄ヲ來ス。

行軍縱隊ト同様ニ、鐵道輸送モ亦、飛行機ノ脅威ヲ覺悟スベキデアアル。停車場及重要ノ路線ハ非常ニ敵ノ爆撃隊ノ攻撃ヲ受ケ易イ。固定ノ防衛設備ノ外ニ尙ホ、軍隊自身モ亦、自己ノ飛行機射撃砲及機關銃ノ使用ト、擬裝其他ノ方法トニ依ツテ、空中攻撃ニ對スル保護ヲ謀ルベキデアアル。又乗車及下車停車場ニ大部隊ノ集合スルコトヲ避ケネバナラス。尙ホ停車場、路線及列車ノ燈火ノ外部ニ漏レルヲ防グコト、若シクハ煙幕ヲ設クルコト等ノ手段ヲ講ズル必要ガ起ルデアラウ。進行中ノ列車ハ無蓋車ニ据エ着ケタ機關銃及飛行機射撃砲ヲ以テ、警戒スルコトガ出來ル。尙ホ速度ヲ不意ニ變ジ若シクハ一瞬間ノ停止ニ依ツテ、列車上ノ低空ヲ通過スル飛行機ノ攻撃ヲ免ル、コトガ出來ル。又停車場ニハ爆彈ヲ避ケ得ル掩蔽部ヲ設ケル必要ガアル。

鐵道ノ軍隊輸送ニハ、一定ノ準備時日ヲ要スル。即チ所要ノ車輛等ヲ取り寄せ、載スベキ部隊、器材ニ應ジテ列車ヲ編成シ、汽關車及乗務員ヲ適當ニ配置スル等ノ處置ヲ必要トスル。故ニ稍々大ナル輸送ハ、命令到着後直チニ開始スル譯ニユカス。夫レニハ有利ナ狀況ニ於テ、少ナクトモ十二時間ヲ要スル。總テノ準備ヲ完了スルノニ數日ヲ要スルコトガアル。鐵道輸送ニ依ルカ、徒步行軍ヲ行フカ

ヲ決スルニ當ツテハ、此ノ點ヲモ計算ニ入レル必要ガアル。故ニ危急ノ場合ニハ、準備用(非常用)列車ヲ編成シテ置クノガ良イ。夫レハ豫メ各種ノ車輛ヲ以テ一定ノ組合^{クムアヘ}ヲ作り、以テ普通ノ人員ヲ有スル歩兵大隊、騎兵中隊、砲兵中隊等ヲ輸送シ得ル如ク、用意シテ置クモノデアル。然シ此ノ如キ列車ハ交通ニ使用スル車輛等ヲ其方ニ取ラレ、且ツ停車場ノ邪魔ニモナルカラ、爲シ得ル限り早く、再び開放スベキデアル。

軍隊ノ海上輸送ハ何レノ國モ大作戦ニ要スル軍隊ヲ送ルニ足ル丈ケノ運送船ヲ、平時カラ準備シテハ無イカラ、民間ノ船舶ヲ使用セネバナラヌノデ、夫レガ一層面倒デアル。此レ等ノ船ハ軍隊ヲ載セ^ルル前ニ、内部ノ設備ノ改造ニ時日ヲ要スル。即チ上下ノ數段ニ臥床ヲ設ケ、机、腰掛、銃架等ヲ設備シ、休養室、炊事場、便所等ノ施設ヲモ必要トスル。而シテ船ノ塔載力ヲ十分ニ利用スル爲メ、更ニ船ノ全體ニ亘ツテ甲板ヲ新設スル必要ヲ生ズル場合モ往々アル。乗船及下船ハ困難デアル。海洋船ハ甲板ガ高イカラ、馬、砲及車ハ起重機ヲ以テ積卸^{ツキオコシ}ヲセネバナラヌ。

港以外ニ於テ上陸スル場合ニハ、大型ノ船ニハ一隻毎ニ、適當ナ海岸ノ數百米ノ幅ヲ必要トスル。而シテ此ノ如キ上陸點ハ稀デアルカラ、逐次ニ上陸ヲ行ハネバナラヌ。而シテ渡渉シ得ル所デハ、小蒸汽船、傳馬船等デ渡スノデアル。而シテ天候ノ變化ニ依ツテ總テノ豫定計畫ガ破ラレ、全般ノ上陸ヲ妨害サレ、暴風ニ遭ヘバ大災害ヲ來タス。

潜水艇及飛行機ノ時代ニハ、大ナル運送船隊ガ、如何ニ敵ノ攻撃ヲ受ケ易キカハ、説明ヲ待タズシテ明ラカデアル。海上輸送ヲ行フニハ、確實ニ制海權ヲ握リ、且ツ海軍ノ大飛行隊ヲ使用スル必要ガアル。世界大戰デハ英佛海峡ニ於テ、特別ノ困難ニ遭遇シタガ、大西洋上デハ、少數ノ獨逸潜水艇ヲ以テ、其根據地ヨリ遠大ノ距離ニ於テ、米國軍隊ノ海上輸送ニ對シテ、多大ノ効果ヲ收メルコトガ出來タ。

運河等ノ渡航モ亦、軍ノ運動及戰術上ニ多大ノ關係ヲ持ツコトガアル。此ノ輸送ハ鐵道ヨリモ時日ヲ要スル。水閘ヲ通過スル場合ニハ、一層緩慢トナル。氷結、増水及減水等ノ爲ニ一時其渡航ヲ阻害サル、場合モアル。後ニ之ヲ促進スルコトガ多クノ場合ニ不可能デアル。故ニ急速ヲ要スル軍隊輸送ニハ、鐵道ノ無イ場所ニ限り、河川及運河ノ航行ヲ爲スベキデアル。

以上ノ外更ニ、自動車ガアル。自動車ニ依ル輸送ハ既ニ世界大戰中ニモ、就中豫備隊ヲ危險ノ場所ニ送ル爲ニ、大ニ利用サレタモノデアル。自動車設備ノ益々發達シツ、アル情勢ニ徴スレバ、將來ノ戰爭ニハ一層之ヲ利用スルデアラウ。

自動車ヲ以テ輸送セル軍隊ハ、馬ヤ車輛ヲ殘シテ行クカラ、此レガ徒步行軍デ到着スルマデハ、十分ナ活動ノ出來ヌコトヲ考慮ニ置カネバナラヌ。且ツ又大部隊ノ自動車輸送ハ、適當ナ道路ノ存スル所デナクバ、應用シ得ヌ。ソコデ路面、橋梁、住民地、斜坡等ニ就キ、豫メ偵察シテ置ク必要ガアル

爲シ得レバ、自動車ノ使用スル道路ハ、他ノ部隊ヲシテ使用セシメヌガ良イ。其行軍序列ハ大抵普通ノ順序ニ從フ。其速度ハ一時間十乃至十二軒デアル。各車ノ間ニ大ナル距離ヲ置ク必要ガアルカラ、歩兵一聯隊ヲ基幹トスルモノガ一ツノ道路ニ送ルベキ最大部隊デアラウ。自動車ヲ輸送スル縦隊ノ警戒ハ、其長徑ガ長ク、速度ガ早ク、且ツ行進中ノ自動車カラハ觀察ガ十分ニ行キ届カヌ關係上、甚ダ困難デアアル。故ニ此ノ種ノ輸送ハ他ノ部隊ニ依ツテ警戒ガ保タレアル地方ニノミ之ヲ應用スルコトニナルデアラウ。

行軍及輸送ト關連シテ、宿營ノ事ヲ研究スル必要ガアル。終日ノ行軍ニ疲レタ兵卒モ、好適ノ宿舍ヲ得レバ大ニ元氣ヲ回復シテ、勇^インデ翌日ノ集合場ニ集マルガ、野原デ、風雨ニ暴サレテハ、恐ラク行軍ヲ續行スル氣力ヲ失フデアラウ。軍隊ノ宿營ニ對シテ良ク意ヲ用フルコトハ、ヤガテ行軍ヨリ生ズル損失ヲ豫防シ、戰鬥力ヲ維持スベキ最良ノ手段デアアル。

獨逸ノ規定デハ舍營、村落露營、及露營ノ三ツニ區別シテアル。

舍營ハ最モ便利デ、且ツ最良ノ宿營法デアアル。然シ多クノ地域ヲ要スルカラ、軍隊ヲ一地ニ集結スル必要ノ無イ場合ニノミ應用シ得ル。此ノ如キ事ハ大ナル戰爭デハ稀ナモノデ、休養ノ爲メ戰線ノ後方ニ退^タグタ部隊ニノミ問題トナルニ過ギヌ。

舍營ノ場合ニハ各人ガ寢ル場所ヲ與ヘラレ、馬ハ厩舎ニ繋グ。ソコデ中等ノ人口ヲ有スル地方デハ此ノ如キ方法ニ依ツテ先ヅ其隊ノ行軍長徑ニ相應スル位ノ地域ニ宿營スルコトニナル。

戰爭デ一層普通ニ實行スルノハ村落露營デアアル。軍隊ハ、(狀況ト到着セル場所デ銃ヲ手ニシテ夜ヲ徹スル必要ノ無イ限りハ)、各單位ガ一定ノ道路若シクハ一區劃内ノ家屋ヲ得ラル、如ク、其附近ノ村落ニ分配サレル。其所ニ各隊ガ相應ノ設備ヲ施シ、屋下ニ入ル餘地無キ者ハ、庭園、廣場、樹下、横道等ニ戰友ト共ニ天幕ヲ張り、サモナクバ少ナクトモ塀ヤ生籬ヤ屋壁ナドニ依托シテ、風ヲ避ケル。同一ノ村落等ニ多數ノ部隊ガ宿營スル場合ニハ、最高級ノ將校ガ分配ヲスル。

此ノ如キ狹隘デ、不便ナ宿營ニテハ、晝間ハ十分ノ休息ガ出來ズ、夜間モ良ク眠ムレヌノデハアルガ夫レデモ尙ホ露天ノ露營ニハ優ル。攜帶天幕ヲ用ヒテモ、吾邦ノ大多數ノ兵ニハ、一年ノ大部分ヲ通ジテ有害デアアルカラ、成ルベク之ヲ避クベキデアアル。吾々ノ生活ノ程度ガ高マツテ、森ニ寢テ月ヲ友トシタ昔ノ習慣ヲ失ツテ居ル。露營ノ利益即チ纏ツテ休憩シテ居テ、村落露營ヨリモ、容易ニ且ツ迅速ニ、活動ヲ始メ得ル利益ハ、其不利ヲ償ヒ得ヌノデアアル。

露營ノ缺點ハ衛生上及休息上ノ不利ノ外、尙ホ露天ニ居ル軍隊ハ、敵ノ空中偵察ニ對シテ、餘リ暴露サレルト云フ點ニアアル。之レガ爲メ火ヲ燃クコトガ全ク出來ヌカラ、冬季ニハ非常ナ苦痛トナル。故ニ他ニ全ク方法ノ無イ場合ノ外ハ、之ヲ用フベキデナイ。萬止ムヲ得ズシテ之ヲ實行スル場合ニモ

森林若シクハ樹木ノ豊富ナ土地ヲ選ビ、且ツ總テ規則正シイ形ヲ取ルコトヲ避ケ、廣ク擬裝ヲ施スベキデアル。

總テ休憩中ノ部隊ハ、其野外ニアルト村落内ニ居ルトヲ問ハズ、敵ノ空中偵察ヲ困難ナラシムルコトヲ努ムベキデアル。夫レニハ、注意シテ地形ヲ十分ニ利用スルコト、砲及車輛ハ木ノ下デ、上方カラ見え位置ニ在ルモノ、外ハ、總テ擬裝ヲ施シ、且ツ家屋ニ密接セシムルコトガ必要デアル。尙ホ飛行機警戒ノ歩哨ヲ設ケルノモ有益デアル。之レハ寺ノ塔其他展望ノ利ク所ニ置キ、敵機ノ近ヅイタ場合ニハ信號ニ依ツテ之ヲ知ラセル。此ニ於テ兵卒ハ家屋内ニ入ルカ、少ナクトモ其陰ニ隠レ、決シテ動カヌヤウニスル。過大ノ距離ニ於テ無益ノ防衛射撃ヲ行フトキハ、却ツテ敵機ノ注意ヲ惹クコトニナル。敵機ガ其所ヲ攻撃セントスル態度ヲ示シタ時、若シクハ低ク降りテ來テ、軍隊ノ存在ガ決シテ知レズニハ濟マスト認メタ時ニ、始メテ射撃ヲ開始スル。

以上ノ宿營法ノ外ニ、陣地戰ニ於テハ、掩蔽部ノ宿營ガアル。之レハ元來壕ノ守兵ヲ敵彈ノ破片ニ對シテ保護スル目的デ出來タノデアルガ、漸次發達シテ終ニ本式ノ地下兵營ニナツタノデアル。即チ床、腰掛、机、銃架、煖爐、炊事竈等ヲ有シ、中ニハ電燈、水道ヨリ通風裝置マデ施シタモノモアツタ。地面カラ十呎モ下ニアツテ。激シイ砲撃ヲ受ケタ際ニモ、守兵ニ安心ヲ與ヘタ。命令傳達及報告ノ收集等ヲ行フベキ場所ハ「ベトン」及鐵ヲ使用シテ設備シ、永久築城ノモノト毫モ選ブ所ガナカツタ。

フランダーノ如ク、地水ノ爲メニ深く掘リ下ゲ得ヌ場所ニハ、地下ノ掩蔽部ノ代リニ、「ベトン」ノ砲塔様ノモノヲ造リ、其中ノ小サナ穹窿ノ中ニ、少數ノ人員ヲ收容シテ、重砲火ヲ免レシメタ。

地下ノ宿泊所ハ、其入口（各掩蔽部毎ニ二ツノ入口ヲ必要トシタ）ニ彈丸ヲ撃チ込マル、ト、早ク胸壁ニ就クコトガ出來ズ、爲メニ敵ニ捕ヘラル、不利ガ生ジタ。又餘リ簡易ニ作ツタ掩蔽部ハ、全彈ノ命中ニ依ツテ、其中ニ居ル守兵ガ埋メラレル危險ガアツタ。此ノ如キ戰術上ノ不利ノ外ニ、尙ホ不潔ニ陥リ、爲ニ鼠ト蚤ノ爲メニ苦メラレテ、掩蔽部ノ生活ヲ頗ル不快ナラシメタ。保健上ニモ有利デナク、壕ノ守兵ニハ腸及肺ノ疾患、水蟲等ヲ多ク見受ケタ。

故ニ軍隊ヲシテ餘リ長ク掩蔽部ニ留マラシメバ（殊ニ不良ノ季節ニ）、適時ニ交代サセテ、休養舍營地ニ退ゲル必要ガアツタ。然シ敵ガ甚ダシタ優勢デアツタカラ、獨逸側デハ遺憾ナガラ十分ニ之ヲ實行シ得ナカツタ。

休養舍營地ハ兵卒ニ十分愉快ナ宿營ヲサスベキモノデアツタ。戰線直後ノ敵火ヲ被ムル住民地デハ夫レガ得ラレヌカラ、掩蔽部デ満足セネバナラナカツタ。然シ遙カ後方ノ森林ノ中ニハ廠舎ヲ設ケ、戰時ノ宿營トシテノ簡便ニ出來ル限リハ、總テノ設備ヲ施シアツタ。而シテ其位置ガ敵ニ知レズ、從ツテ飛行機ノ攻撃ヲ受ケヌ限リハ、此所デ兵卒ガ十分ノ休養ヲ爲スコトガ出來タ。兵站地デハ一般ノ住民ガ村落等ニ居ルコトヲ許サレタカラ、敵ニ知ラレル虞ガアツタガ、夫レ以外ハ先ヅ安全デアツ

タ。其所デハ難戰苦闘カラ脱シテ歸ツテ來タ部隊ニ、英氣恢復ノ爲メノ種々ノ施設ヲ施シ、且ツ爲シ得ル限り豊富ノ給養ヲ爲スコトヲ兵站部ガ努メタ。入浴及驅風ノ設備其他休養ノ外、兵卒ヲシテ戰場ノ激シイ印象ヲ忘レサセルコトニ重キヲ置イタ。夫レニハ、演劇、活動寫眞、讀物、奏樂、競技會等ヲ催シタ。此ノ種ノ娛樂ノ爲メニ費ヤサレタ勞力ト資材トハ次ノ戰闘ノ際ニ十分ニ償ハレタノデアアル戰爭ガ永續スルニ從ツテ益々此ノ種ノ仕事ニ特別ノ注意ヲ拂フ必要ヲ感ジタ。他ノ方法デ國家ニ盡クスコトノ出來ヌ人々ガ、内地カラ來テ此レニ多大ノ援助ヲ與ヘ、非常ノ貢獻ヲ爲シタ。總テ此種ノ自發的援助ハ陸軍當局ノ常ニ歡迎スル所デアラウ。

尙ホ茲ニ一般ノ注意ヲ述ベテ置ク必要ガアル。

軍隊ニ宿營地ノ保護ト其能力ノ増進ノ事ヲ、教育ヲ施スベキデアアル。宿營地愛護ノ必要ガアル戰地ヲ觀察シタ者ハ、軍隊ノ盛ニ宿營スル場所ガ速カニ衰微シテ行クノミデナク、全然潰滅シテ行クノヲ認メタデアラウ。夫レガ敵ノ射程内デハ殊ニ甚ダシイノデアアルガ、又陣地戰若シクハ兵站沿線デ、軍隊ノ絶エズ宿泊スル所デモ此ノ現象ガ認めラレル。就中冬季ニハ、設備品ガ段々煖爐ヤ竈ノ中ニ消エテ行ク。戸、窓、格子、階段ノ手摺、屋根裏ノ梁等ガ燒カレ、或部隊ガ頗ル愉快ニ舍營シ得タ場所デモ、其後デハ、荒レ果テタ家屋ノ中ハ、四壁空シク立ち、寒風ノ吹キ通ホスニ任カセルト云フ有様デ疲レタ兵ハ五體ヲ休メル所カ、先ヅ其損所ヲ修繕シテカ、ラネバナラス。住民ガ國際公法ニ反イテ、

戰闘ニ參與シタ場合ナドニ、往々命令ニ依ツテ全村落ヲ破壊シタコトモアルガ、之レハ寧ロ自己ノ軍隊ノ爲メニ、避クベキコトデアアル。然ラザレバ宿營地ノ不足ヲ來シテ、遂ニ非常ナ時日ト材料ヲ費ヤシテ、再ビ修築スル必要ガ起ル。

敵トノ接觸ガ無イ場合ニ宿營ニ就クニハ、便益ヲ主トスル。其日ノ宿營地ハ出發ノ際ニ示シ、先發ノ設營隊ヲシテ、準備ヲ整ヘサセル。而シテ諸兵種ヨリ成ル行軍縱隊ガ、如何ナル程度マデ分散シテ宿營スベキカハ、住民地ノ數ト大小、縱隊ノ行軍長徑、當日及今後ノ行程、並ニ宿營ニ就ク時刻ヨリ次ノ出發マデノ時日ノ長短ニ依ツテ決スル。其所カラ翌日出發スベキ場合ニハ、餘リ廣ク分散シテ宿營サセルヨリモ、寧ロ稍々狭ク纏メテ置ク方が利益デアラウ。之ニ反シ長ク滞在スベキ場合ニ、廣ク宿營地ヲ取ル。諸隊ハ行軍序列若シクハ、翌日ノ豫定ノ軍隊區分ニ應ジテ、各住民地ニ配當スル。其際厩舎利用ノ爲メ、兵種ヲ混合スル。砲兵ハ如何ナル場合ニモ、孤立シテ宿營サセテハナラス。糧食行李及荷物行李ハ、特別ノ理由ナキ限りハ、常ニ軍隊ノ許ニ置ク。

飛行隊ノ宿營ハ適當ナ着陸場ノ有無ニ關係スル。其驅逐隊ハ成ルベク前方ニ置キ、戰闘隊ハ其後ニ置キ、偵察隊ハ高等司令部ノ附近ニ置ク。爆撃隊ハ遙カ後方ニ殘スコトガ出來ル。輸送縱列ノ宿營地ハ敵ニ最モ遠キ所ヲ選ブ。

敵ト衝突ノ虞アル場合ニハ、戰術上ノ顧慮ガ主トナル。宿營ノ地域ヲ縮小シ、前方ノ宿營地ニハ、

歩兵及機關銃隊ヲ濃密ニ置ク。諸隊ハ緊急ノ姿勢ヲ取り、何時ニテモ、應戦シ得ル準備ヲ整ヘテ居ル住民地防禦ノ方法ニ就テハ、一定ノ命令ヲ與ヘ、各人ハ其際ニ於ケル任務ヲ正確ニ承知シテ居ラネバナラス。此ノ如キ場合ニハ荷物行李ヲ召致スベキデナイ。

本部ハ良好ナ道路及通信設備ヲ有スル住民地ニ置ク。然シ特ニ目立ツ場所ハ、敵ノ飛行機攻撃ニ對スル願慮カラ、之ヲ避クベキデアアル。本部ニ一發ノ爆彈ガ命中スレバ指揮ハ數日時阻害サレル。

一旦下シタ宿營命令ノ變更ハ、軍隊ニ多大ノ不便ヲ與ヘ、從ツテ不快ヲ招ク。若シ、狀況ガ不明デ軍隊指揮官ガ、確乎タル決心ヲ爲シ難キ場合ニハ、宿營ヲ命ジ得ル迄、軍隊ヲ野外ニ休憩セシムル方が良イ。其間ヲ利用シテ、野戰炊具ヲ用フル所ノ給養ヲ實施スル。又宿營地ニ入ル爲メニ、後退スルコトハ避クベキデアアル。

本部ノ宿舎及報告^{ナリヒテツツセントラール}收集所ハ、晝間ハ旗ヲ以テ、夜間ハ光ノ漏レヌヤウニシタ燈火ヲ以テ、發見シ易キヤウニ、之ヲ標示スベキデアアル。

兵站沿線ノ村落及町ノ如キ、絶エズ宿營スル住民地デハ、次第ニ平時ノ衛戍地ニ似タ状態ト施設トヲ現出スルコトニナル。

休止中ノ軍隊ハ自ラ警戒ヲ行ハネバナラス。其實行法ハ敵ノ遠近ニ依ツテ異ナル。之ニ就テ一定ノ

型ハ無イ。其都度一般ノ狀況我が意圖、及地形ニ依ツテ適度ニ定ムベキデアアル。何レノ場合ニ於テモ前哨ハ休止中ノ軍隊ヲシテ敵ノ奇襲ヲ免レシメ、之ニ戰闘準備ノ時間ヲ與ヘ、敵ヲシテ我が狀況ヲ窺ハシメ得ザルコトヲ以テ其任務トスル。軍隊愛借ノ爲メ、絶對ニ必要トスル以上ニ、多クノ兵力ヲ前哨ニ使用スベキデナイ。適切ナル宿營ノ區處ニ依ツテ、既ニ警戒ガ出來テ居ル場合ガ往々アル。例ヘバ若シ一般ノ宿營地域ノ前方デ、敵ガ突進シテ來ル場合ニ必ズ通過スベキ所ニ、微弱ナル部隊ヲ出セバ、其警戒ハ十分ニ達成サレル。前方ニ出サレタ其隊ハ自ラ全然局部的(直接ニ)ニ警戒スルカ、若シクハ更ニ警戒兵ヲ敵方ニ出シテ警戒スル。

敵ヨリ遠キ場合ニハ、通常各宿營地毎ノ局部的警戒デ足リル。

一地區ノ後方デ休止スル場合ニハ、其通路ノ閉塞ニ依ツテ、警戒ガ十分ニ出來ル。但シ翌日其地區ヲ越エテ前進セント欲スル場合ニハ、稍々有力ナル部隊ヲ即時敵方ノ側ニ出シテ、通路ヲ保有シ置クが良イ。

敵ノ近傍ニ於テハ、縦長區分ヲ有スル前哨ヲ設ケル必要ガアル。敵トノ觸接ガ密デ、戰備ヲ整ヘル必要ヲ認メル場合ニハ、前哨ノ配置及區分ハ總テ戰闘ヲ願慮シテ行フ。

會戰ノ勝敗未決ノ儘、敵ト近ク相對峙シテ夜ニ入ツタ場合ニハ戰闘陣地ニ於テ露營スル。其場合ニハ戰闘前哨ヲシテ、警戒ニ當ラセル。即チ小部隊ガ至嚴ノ戰備ヲ整ヘ、前哨及斥候ヲ、爲シ得ル限リ

敵ニ近ク出ス。

陣地戰デハ、警戒ハ歩哨ヲ置イテアル障礙物ガ、同時ニ警戒線ノ用ヲ爲ス。陣地間ニ兵ヲ配置シテ無ク地域アラバ、其所ニ遊動性ノ戰鬪前哨ヲ出スノガ良イデアラウ。

常ニ敵方ニ通ズル道路ヲ監視スル必要ガアル。次ニハ前方ヲ展望シ得ル地點ヲ、警戒スヘキデアアル。依托セザル側面ハ、翼ヲ曲ゲルカ、若シクハ特別ノ警戒部隊ヲ出シテ、之ヲ掩護スル。敵ノ戰車攻撃ヲ受クル恐アル場合ニハ、特別ノ處置ガ必要デアアル。之ニ對抗シテ最モ安全ナル掩護ヲ與ヘルモノハ濕地々帶、掘割、深キ水流若シクハ砂質ノ急斜面デアアル。其他尙ホ、道路ノ阻絶及陷穽並ニ一、二中隊ノ砲兵ノ用意ヲ要スルコトモアラウ。

前進スル部隊ガ宿營シタ場合ニハ、通常前衛ガ其一部ヲ以テ前哨勤務ニ當ラセル。之レガ、爲メニハ軍隊指揮官カラ、前衛司令官ニ概略ノ指示ヲ爲ス。夫レニハ通常本隊ノ位置スベキ概略ノ地域、警戒スベキ線、搜索スベキ範圍、並ニ敵襲ノ場合ニ取ルベキ處置ヲ含ム。前衛司令官ハ之ニ依ツテ前哨部隊及前哨司令ヲ定メル。

前哨司令官ハ、前哨ノ適切ナル配置及區分、並ニ隣接縱隊(若シ之アラバ)ノ警戒部隊トノ連絡ニ就テ、責ニ任ズル。主ナル仕事ハ速カニ道路、展望點及支撐點ヲ手ニ入レ、又前哨ニ配屬サレタ砲兵ノ使用法ヲ定メ、且ツ前哨内ノ各部ノ通信連絡線ヲ設クルコトデアアル。

前哨ハ前哨本隊、前哨中隊、小哨及步哨ニ區分スル。

前哨本隊ハ多クハ行軍路ニ止リ位置ヲ占メル。夫レヨリ一若シクハ數個ノ前哨中隊ヲ出シ、前哨中隊ハ復タ放線狀ニ、小哨(下士哨)及步哨ヲ出ス。晝間ニハ軍隊騎兵ガ、前哨ノ前方全體ノ搜索及警戒ニ任ズル。然シ此ノ騎兵ハ黃昏ト共ニ、本隊ノ許ニ歸ヘル。夫レカラハ前哨配備ヲ取ラネバナラス。又狀況ニ依リ二ツノ前哨地區ヲ、並列シテ設ケル必要モ起ル。尙ホ本隊カラ特別ノ部隊ヲ出シテ、側面ヲ掩護スル場合モアルデアラウ。

警戒ノ最良手段ハ、間斷ナク近距離搜索ヲ行ヒ、且ツ十分ニ展望ヲ利用スルニアアル。砲兵及重機關銃ハ、敵ノ近接路ヲ搜射シ得ル如ク、陣地ヲ占メル。夜間ノ射擊開始ヲ準備シ、敵襲ノ際各人ノ爲スコトヲ知ラセテ置ク。前哨ハ本隊ガ應援スルマデ主抵抗線ヲ維持スルカ、若シクハ地區毎ニ抵抗シツツ逐次本隊ノ方ニ退却スル。其何レヲ探ルカハ、前哨司令官ガ明確ニ示スベキデアアル。

舍營地ノ直接警戒ニハ、其出口ノ所ニ外衛兵ヲ設ケ、敵ガ侵入シテ、宿營部隊ヲ混亂ニ陥ルコトヲ豫防シ、住民ガ他ノ村落等ト交通スルコトヲ防止スル。

警戒ノ外ニ掩蔽ヲモ行フ。之レハ主トシテ騎兵及飛行機ノ任務デアアル。而シテ十分ノ兵力ガ存在スル場合ニハ、攻勢的ニ行ツテ敵ノ空中偵察ヲ妨ゲ、且ツ敵ノ騎兵ヲ戰場ヨリ擊退スルノガ、最モ良イ。防禦ニ於テハ、通路ノ外ハ超エ得ヌ地區ヲ、閉塞スルノガ、最モ容易ニ掩蔽ノ目的ヲ達シ

得ル。掩蔽ニ任ズル部隊ガ、巧妙ニシテ且ツ目立たヌヤウニ、之ヲ實行スレバ其効果ハ益々顯著トナル。

第七節 攻撃及防禦

「攻撃カ防禦カ」ト云フ問題ハ、兵家ノ好シテ論議スル所デアアル。蓋シ攻守ノ何レガ有利カト云フ問題モ、又百千ノ想定ニ對スル答解ノ多種多様ナル點モ、共ニ皆研究者ノ興味ヲ引クニ足ルカラデアアルクラウゼウイツツハ「本來ハ防禦ノ方ガ攻撃ヨリモ作戰上有利デアアル」ト云ヒ、他ノ一流ノ兵學家ハ戰略的攻撃ヲ以テ、作戰上最モ有効ナル方法ト爲シタ。

多クノ論者ハ、此ノ問題ヲ取扱フニ當ツテ、攻撃ト防禦トハ戰爭實行者ガ自由ニ選擇シ得ルモノ、如ク考ヘテ居ル。然シ斯カル場合ハ、實際ニハ殆ンド起ラヌモノデ大抵ノ場合ニハ、最初カラ一方ハ攻撃他方ハ防禦ヲ選ラバネバナラヌコトニナツテ居ル。故ニ攻撃、防禦ノ有スル本質上ノ利害ノ比較ヨリモ、寧ロ此ノ作戰上ノ二ツノ根本形式ノ固有ノ要求ニ就テ研究スル方ガ、遙カニ緊要デアアル。元來兩者ノ比較ナドヲ試ミルノガ正當ナ事カ否カガ、既ニ疑ハシク思ハレル位デアアル。

攻撃及防禦ノ兩者ハ、何レモ之ヲ戰略的及戰術的ノ二ツニ區別スル（但シ此ノ二ツモ其根本ニ於テハ一ニ歸スルノデアアル）。戰略的攻撃ハ總テ敵ヲ破ル爲メニ、運動ト戰鬥トヲ行フヲ以テ其特色トシ、

戰術的攻撃ハ單ニ個々ノ戰場ニ於ケル攻撃的動作ノミヲ指ス。戰略的防禦ハ大體カラ見テ防衛デアツテ、戰術的防禦ハ選定セル陣地ニ於テ攻撃ニ抵抗スルモノデアアル。此ノ區別モ亦、其本質ニ正シク合ツタモノデハナイガ、唯ダ攻撃若シクハ防禦ノ特別ナ實行法ヲ單簡ニ言ヒ表ハスノニハ、此ノ名稱ヲ用フルノガ便利ナノデアアル。

戰略的攻撃ノ前ニハ、ゲシヒトリツヘボリチツシエシクシツ歴史的及政治的攻撃ガ先立ツ。防禦ニ在ツテモ亦概ネ同様デアアル。前者ハ國民ノ攻撃的（主戰的）態度ニ基キ、後者ハ其防禦的（守勢的）態度ニ由來スル。

歴史的進展ハ其由來スル所ガ遠ク、政治的進展ハ其時々ノ高潮ヲ來シテ、開戦ニマデ導キ入レル。政治的進展ニ引續イテ、軍事的處置ガ好機到レリト實行サレル。歴史的及政治的ニ攻勢ヲ取ル國家ハ自國ノ希望ヲ國境外ニ於テ現實セントスル。從ツテ復タ軍事上ニモ攻撃的ニ行動セネバナラス。自己満足ノ境地ニ達セル者、即チ千九百十四年ニ於ケル獨逸ノ如キハ、必然的ニ防禦ノ地位ニ立ツ。

何事ニモ例外ハ免レヌ。軍事上不利ナ状態ニアル場合ニハ、勢力ヲ振ヒ始メタ國民モ、一時防衛ノ地位ニ立ツ。現ニセルビアノ如キハ、歴史的ニモ、政治的ニモ奧匈帝國ノ存立ニ反抗シテ努力シテ來タノデアアルガ、千九百十四年ニ至ツテモ未ダ、同國ニ對シテ軍事上ノ攻撃ニ出ヅルヲ得ズ、露國ノ援助ヲ受ケテモ、尙ホ依然トシテ、防者ノ地位ニ立タザルヲ得ナカツタ。

尙ホ又諸外國トノ密接ナル關係ノ間ニ在ツテ崛起スル國家ハ、總テ皆或期間ハ、敵國ガ同盟シテ之

ニ壓迫ヲ加ヘルカラ、止ムヲ得ズ防禦ノ地位ニ立ツコトニナル。羅馬モ、獨逸モ、共ニ斯カル境涯ヲ經テ來タノデアアル。

獨逸帝國ガ世界貿易ト、民族ノ平和的競争ニ於ケル世界ノ霸權トノ上ニ、一大飛躍ヲ爲シタコトガ前述ノ如キ情勢ヲ招來シタ。即チ自己ノ既得權ヲ脅カサレタト感ズル諸國ハ、此ノ新シイ競争者ヲ打チ倒ホス爲メニ、相提携スルニ至ツタ。此ノ時ニ於テ、ウイヘルム二世ハ只管世界平和ヲ念トシ、身ニ迫ル危險ニ對シテ、曾テフリードリッヒ大王ノ實行セシ如ク、好機會ニ立ツテ劍ヲ拔クコトヲ斷行シナカッタ爲ニ、遂ニ世界ヲ包ム同盟ガ成立シ、之ニ對シテ攻撃的政策ヲ取ルガ如キハ、無謀ノ極ト云フコトニナツタ。夫レニモ拘ハラズ獨逸ハ到底戰爭ヲ避ケ難キコトニ立至ツタ時ニ、他ノ方法デハ最初カラ成功ノ望ガ無ササウデアツタカラ、止ムナク軍事上攻勢ニ出タノデアアル。

歴史的ニモ、政治的ニモ、全ク防禦ノ地位ニ立ツタ國家ガ、軍事上ノ攻撃ニ依ツテ、戰爭ヲ開始スル場合ヲモ考ヘ得ル。

千九百十四年ニ行ハレタ如ク、兩軍共ニ攻勢ニ出タ場合ハ、其軍備ガ同等ノカト同等ノ組織トヲ有スルコトヲ前提トスル。交戦ノ準備ニ僅々數日ノ差ヲ生ジタダケデモ、後レヲ取ツタ方ノ軍ヲシテ、先ヅ防禦ノ位置ニ立ツノ止ムナキニ至ラシメル。

那翁一世ハ神速果敢ナル攻撃ノ成功ニ依ツテ、世人ヲシテ攻撃ガ絶對ニ有利デアルトノ意見ヲ懷カ

シメルコトニ多大ノ援助ヲ與ヘタ。爾來益々各種ノ火器ガ進歩シタ爲ニ、今日デハ戰術的關係カラ見レバ、防禦ノ方ガ有利ナル如ク思ハレルヤウニナツタ。後ニモ述ベル如ク、戰略的攻撃ハ是非共戰術的攻撃ヲ併用スベキモノデアアルカラ、若シ戰術的攻撃ガ不利ナモノナラバ、總テ復タ戰略的攻撃ヲモ不利ナラシメル筈デアアル。

然ラバ、全般ノ關係カラ、防衛ノ地位ニ立ツベキ者、即チ苦シイ地位ニアル方ガ、同時ニ有利ナ地位ニ居ルコトニナル。此ノ撞着ハ即チ、防禦ガ攻撃ヨリモ有力デアルト云フ觀念ガ、兎ニ角誤ツテ居ルト云フコトヲ告白シテ居ルノデアアル。

勿論今日ノ戰爭デハ、防者ガ其正面ノ前地ヲ掃射スル力ハ到底從來ノ戰爭ノ比デハナイ。防者ハ重砲及遠距離射撃砲ヲ除イテモ、既ニ五乃至六糎ニ於テ其野砲兵ノ主力ヲ以テ敵ヲ有効ニ征服シ得、重機關銃ハ二千呎、輕機關銃ハ八百呎ヲ以テ既ニ頗ル有利ナ射程ト爲シテ居ル。地形堅固ナル住民地防禦工事等ノ與フル保護ハ、悉ク皆防者ノ爲ニ利益トナル。防者ハ動かズシテ攻撃ニ備ヘ、其計畫的ニ準備セル射撃ハ、絶エズ彈雨ヲ注グ。之ニ反シ攻者ノ方ハ、困難ナル状態ノ下ニ前進シ、射撃ヲ屢々中絶セネバナラス。其際攻者ハ損害ト危險トノ外ニ、更ニ疲勞ヲモ忍バネバナラス。又防禦ノ方ハ、總テ事ガ單純デアアル。指揮ハ統一シテ上ノ方カテ行ハレ、軍ノ内部デハ、各指揮官ガ攻撃ノ場合ヨリモ、獨立的ニ動作スベキコトガ遙カニ少ナイ。軍隊ニ對スル彈藥、各種戰用器材及糧食ノ補給、並ニ

増援隊ノ招致ガ、比較的容易ニ行ハレル。是レハ一定ノ抵抗地帯ヲ維持スルノデ、攻撃ノ場合ノ如ク分離シテ前進シ兵力ノ分散、混雜ヲ來シ、方向ヲ換ヘ、或方面デハ緩漫トナリ、或方面デハ敵ニ迫ルト云フヤウナコトガ無イカラデアアル。

防者ハ尙ホ、戰術的範圍以外ニモ、若干ノ利益ガアル。即チ攻者ノ如ク、策源地ヨリ遠ザカラヌカラ、最初其輸送ガ容易且ツ單純デアアル、其後ニモ多クハ策源地ノ方ニ眞直ニ退却シ、爲メニ後方連絡線ハ短縮シ、攻者ノ如ク絶エズ延長スルコトハナイ。又防禦ニ於テハ直接ニ防禦ニ從事スル部分以外ノ隊デ、攻者ガ携行シ得ヌモノマデモ、利用スルコトガ出來ル。防者ノ方デハ戰場トナルベキ範圍内ノ要塞ガ用ヲ爲ス。即チ其ノ方ニ敵ノ部隊ヲ引キ着ケテ、攻者ノ兵力ヲ殺グ。現ニ獨逸軍ハマルスノ會戰ノ際、アントウエルブン及モーブーヂノ兩要塞ニ抑ヘラレタ二軍團ガ會戰ニ加ハラナカツタガ、若シ之レガ在ツタナラバ、十分ノ勝利ガ得ラレタデアラウ。攻者ハ内地ノ要塞ニモ、多少ノ守兵ヲ留メネバナラズ、又撃退サレテ來ル場合ヲモ考ヘテ置カネバナラヌカラ、其一部ヲ出征セシムルニ過ギヌ。又要塞ノ兵ハ敵地ニ於テ攻撃的ニ使用スルニ適セヌ者ガ多イ。之ニ反シテ防者ハ此ノ種ノ兵ヲモ蔭蔽地若シクハ堅固ナ陣地ニ利用シ得ル。尙ホ又千九百十四年ノ白耳義ノ如ク、義勇兵マデモ援助スルガ、攻者ハ攻撃ノ目的ニ、此ノ如キモノヲ使用スルコトハ出來ヌ。老齡ノ市民ヤ農夫ハ、自己ノ郷土ヲ防衛スル爲メニ武器ヲ執ツテ立ツコトハアルガ、軍ガ敵國ニ深く進入シテ、占領地ガ擴大シタカラ

ト云フテ、之ヲ援助スルコトハアルマイ。

戰略的攻撃ガ戰略的防禦ヨリモ多クノ損失ト勞力トヲ要スルハ、事實デアアル。其本來ノ勢力ガ、前進ニ從ツテ著シク減退シテ行クコトハ、著シキ不利デアアル。

攻者ハ最初敵國ノ國境内ニ進入シテ、之ヲ占領セネバナラヌ。或程度ノ國境要塞ノ系列ヲ突破シ、若干ノ要塞ヲ攻圍若シクハ監視セネバナラヌ。此ノ兩者ハ共ニ兵力ヲ必要トスル。軍ガ前進スルニ從ツテ、其後方連絡線ヲ掩護スル爲メ、日々少數ノ守備兵ヲ殘シテ行カネバナラヌ。輸送ハ連絡線ノ延長ニ伴ツテ、困難ノ度一増スクシテ攻撃軍ノ兵力ハ春雪ノ如ク次第ニ消エテ行ク。百萬ノ軍ヲ提ゲテ國境ヲ越エタ軍モ、數ヶ月後ニハ僅カニ二、三十萬ノ兵ヲ以テ、敵國ノ中心デ戰ヲ交ヘルコトニナル。那翁ハ千八百五十二年二十萬ノ兵ヲ以テ獨逸ノ戰場ニ臨ミ、巧ニ兵力ヲ節約セシニ拘ハラズ、十月二日ノアウステルリツツノ決戰ニハ、僅々八萬ノ兵ヲ集メ得タニ過ギヌ。露國遠征ニ至ツテハ、一層甚ダシイ結果ヲ來シ、千八百十二年六月ニ三十六萬三千ノ兵ヲ以テニエーメン河ヲ渡ツタモノガ、九月半ニモスコーニ入ツタ時ハ、九萬五千人ニ減ジタ。獨逸ガ世界大戰ノ時ニ深く敵國內ニ進メタ戰線ニ戰爭ノ末期ニハ所要ノ兵數ヲ維持シ得ナクナリ、人員ノ缺乏ガ統帥部ヲシテ神經ヲ益々過敏ナラシメタ。人員ノ缺乏ノ爲メ、現存ノ軍隊ヲ極度ニ使用シ、終ニ其戰鬥力及志氣ニ惡影響ヲ及ボスニ至ツタ。其結果豫備ノ不足ヲ來シタ爲メ。戰爭ノ初期ノ利益ヲ維持シ且ツ利用シ得ナクナツタカラ、成功ノ見

込アル攻撃マデモ、終ニ擊退サレタコトガ往々アツタ。千九百十八年三月ノ佛國ニ於ケル大會戰ノ如キハ之レガ適確ナ實例デアアル。

更ニ攻者ノ困難トスル所ハ、最初ノ英氣ヲ維持スルコトデアアル。國民ハ最初ノ勝利ニ依ツテ目的ヲ達成サレ、利益ガ收メラレタト思フ。其成功ヲ維持スル爲メニハ、絶エズ新鋭ナ勢力ト手段トヲ必要トスルコトガ、十分ニ理解サレズ、如何ニ多クノ犠牲ヲ拂フヲ要スルカト云フコトヲ、判斷スルコトガ難イ。防者ハ之ト趣ヲ異ニスル。敵ガ益々侵入シテ來レバ、新ニ資源ガ得ラレル。即チ新兵、武器及經費ヲ得ル爲メノ非常手段モ、國民ニ承認サレル。最初ノ失敗カラ（若シ自尊心ノ盛ナ、強イ國民ガ其背後ニ立ツナラバ）防禦ニハ應援ガ加ハツテ來ル。米國ノ獨立戰爭中ノ北方ノ政府、普佛戰役ノ後半並ニ千九百十四年九月ノ戰ニ於ケル佛國ハ其著シキ實例デアアル。

而カモ尙ホ攻者ハ防者ヨリモ、國軍ノ精神力ヲ發揮セシメ得テ、前述ノ如キ不利ヲモ、裕ニ償ヒ得ルノ可能性ヲ持ツテ居ル。今迄モ多クノ場合ニ攻者ガ終局ノ勝利ヲ得テ居ル事ハ、全ク之ニ基因スルノデアアル。攻者ハ最初ヨリ目的ヲ定メテ、仕事ニ取リカ、ル。場所ト時トヲ選ブ自由ヲ有シ、目標ヲ自ラ選定スル。之レガ爲メ、其精神的努力ニハ、全ク確定シタ方針ヲ與ヘラレテ居ル。其精神ヲ實現スル力ハ、四圍ノ勢力ニ依ツテ益々高メラレル。攻者ガ防者ヨリモ多クノ行動ヲ爲スト云フダケデモ、既ニ利益トナツテ居ル。夫レハ他ノ點ガ全然同等ノ兩軍デハ、多ク活動スル方ガ勝利トナルコト

ニ依ツテ知り得ル。

防者ハ敵ノ攻メテ來ルノヲ待ツテ之ヲ擊タント欲シ、敵ニ注目シ、其動作ニ依ツテ、自己ノ動作ヲ定メル。從ツテ到底攻者ホドノ活氣ガ無イ。之レガ爲メ攻者ハ先制ノ利ヲ占メルコトニナル。此ノ如キ地位ニ立ツト云フ感ハ、直チニ全軍士卒ノ志氣ヲ作振シテ、驚クベキ働ヲ爲サシメル、前進スル軍ノ態度ハ、退却スル者ハ勿論、止マツテ敵ヲ待ツ者トハ、大ニ趣ヲ異ニスル。攻者ハ防者ヨリモ遙カニ廣大ナル活動範圍ヲ有スルカラ、企圖心ガ自然ニ湧キ出テ、其實行力ヲ發揮サセル。前ニモ述べタ如ク。首將ハ唯ダ一般ノ方針ヲ示スノミデアツテ、部下ノ指揮官ガ之ニ基ツイテ自ラ仕事ヲ爲サネバナラス。最下級ノ指揮官ト雖モ、遇々重要ナ機會ニ遭遇スレバ、自ラ進ンデ處置ヲ爲スモノデアアル。元來防者ノ陣地ハ如何ニ巧妙ニ選定シ、如何ニ強固ナモノデアツテモ、何レカニ弱點ガ存スルコトヲ免レヌ。丁度此ノ弱點ニ打當リ、其所カラ其有利ナ狀況ヲ利用シ得ル者ハ、全般ノ形勢ヲ決スルニ足ル所ノ仕事ヲ成シ遂ゲルデアラウ。此ノ如キ可能性ハ、克ク將卒ノ名譽心ト實行慾トヲ勵マスニ足ル。全軍ノ將卒ガ皆此ノ如キ境地ニ至リ得ルカラ、攻撃軍ノ志氣ガ振フノデアアル。而シテ其兵力ノ増大ト共ニ、成功ノ見込ガ益々多クナル。斯クテ果敢ナル衝撃ニ依ツテ先ヅ破レタル部分ニ向ツテ、決水ノ勢ヲ以テ、敵陣ニ侵入スル。之ニ依ツテ果シテ敵ノ防禦組織ヲ全然崩潰シ得ルカ否カハ、勿論他ノ種々ノ事情ニ依ツテ定マルノデアアルガ、兎ニ角之ニ依ツテ終局ノ勝利ニ數歩ヲ進メタモノト云ヒ

得ル。茲ニ二重ノ意氣ガ含マル、ヤウニ思フ。即チ防禦ノ成功シタ場合ニハ常ニ、敵ガ其瞬間ニハ吾ヨリモ有力デハ無カツタコトヲ證明スルニ過ギヌガ、攻撃ガ成功シタ場合ニハ必ズ、自己ガ有力デアツタコトヲ信ジサセルコトニナル。

戰爭デハ精神ノ力ハ物質ノ力ニ劣ルモノデハナイ。讀者ガ試ミニ、何時危險ガ來ルカ分ラヌ場合ヲ想像シテ見レバ、防禦ニ於テ敵ヲ待ツ軍ノ氣分ヲ、推察スルコトガ出來ルデアラウ。防禦ニハ發動的性質ガ無ク、人ノ力ヲ促ガサズシテ之ヲ拘束スル。ソコデ動々モスレバ兵卒ヲシテ、軍及其指揮官等ガ自ラ形勢ヲ支配セズシテ形勢ニ支配サル、モノト、信ジサセル。防禦ハ我が動作及運動ニ依ツテ、形勢ヲ轉換セシムルコトガ出來ヌ。

又他ノ一面ニ於テハ、「防者ハ全正面ニ於テ成功シタ場合ニノミ勝利ヲ得ルガ、攻者ハ長イ戰鬪正面ノ唯ダ一點ニ於テ成功スレバ、勝利ヲ得ル」ト云フ從來ノ主張ガ、最近ノ經驗ト一致セヌ爲メニ、却ツテ防者ノ地位ヲ高メルニ至ツタ。著シク増進シタ火器ノ効力ト益々周到ナル土地ノ利用トヲ以テスル所ノ、現代ノ戰鬪技術ガ、此ノ如キ變化ヲ來タシタコトハ、確カニ事實デアアル。攻者ガ防禦地帯ニ侵入シタ時ハ勿論、更ニ進ンデ之ヲ突破シタ時ト雖モ、夫レガ必ズシモ常ニ決勝的ノモノデハナカツタ。寧ロ其楔狀ニ進入シタ攻撃部隊ハ防者ノ集中砲火ト、自動車及鐵道ニ依ツテ各方面カラ急行シ來ル豫備隊トノ爲メニ、忽チ至難ノ狀況ニ陥ツタ。攻者ガ若シ突破點ヲ神速ニ擴張シ、且ツ實際ニ多大

ノ兵力ヲ之ニ投入シ得ナカツタナラバ、自己ノ側面ニ對スル壓迫ニ堪ヘズシテ、一旦獲得シタ地歩ヲモ、再ビ放棄スルノ止ムナキニ立チ至ツタ。千八百七年八月十八日ノ會戰ニハ、正面攻撃ニ任ズル部隊ヨリモ遙カニ微弱ナル兵力デ、側面攻撃ヲ行ツテ、勝敗ヲ決シタノデアアルガ、今日ノ如キ陣地戰デハ、側面攻撃ハ到底昔日ノ如キ効力ヲ示スコトガ出來ナクナツタ。深ク地中ニ立テ籠ツテ居ル防者ノ戰鬪部隊ハ、決シテ有利ナ目標ヲ現ハサズ、包圍ヲ受ケタ防禦正面ハ、微弱ナル守兵ニテモ尙ホ克ク強烈ナル火力ヲ發揮シ、莫大ナル兵力及彈藥等ヲ使用セネバ、之ヲ壓倒スルコトガ出來ナイノデアアル。

夫レニモ拘ハラズ、包圍ヲ受クル方ハ包圍ヲ行フ者ヨリモ、著シク不利デアアル。是レハ前者ガ放散的射撃ヲ行フニ反シ、後ハ集中的射撃ヲ行ヒ得ルカラデアアル。唯ダ從來ノ如キ瞬間的効力ヲ收メルコトガ出來ナクナツタ。世界大戰デハ包圍ヲ受ケタ陣地ガ一月餘モ、又時ニハ最後マデモ、良ク維持サレタ。

一點ガ破レ、バ、防禦ガ失敗ニ歸スルト云フ從來ノ狀態ハ、今日ニ於テモ亦河線及山地線ノ防禦ニハ適合スル。此種ノ防禦ハ、連續シタ防禦地帯ヨリモ、遙カニ困難デアアル。ライン河モドナウ(ダニユーブ)河モ、共ニ長ク敵軍ヲ支ヘ得ナカツタコトハ、戰史ノ立證スル所デアアル。千九百五年マツケンゼン將軍ガ、セルビアヲ擊破シタトキノ、ドナウノ渡河ヤ、又其翌年ニ獨逸第九軍ノルーマニアニ

對スル進軍ヲ、トランスシルバニア、アルプス山脈ガ、長ク支へ得ナカッタ事實ハ、良ク之ヲ立證スルニ足リル。豫想ノ各隘路若シクハ渡河點ノ守備ニ任ズル部隊間ノ隔離ガ、危險ヲ藏スルノデアル。而シテ其各守備隊ハ隣隊ガ過早ニ退却スレバ忽チ孤立ニ陥リ易イト云フコトガ。一層良ク不利ヲ證明スル。「適當ノ時機ニ退却」ト云フ事ガ、既ニ其放棄ヲ認容シテ居ルモノデ、之レガ抵抗ノ決心ヲ鈍ブラス。

詩人ガ敗戦ノ將軍等ニ就テ、

「君ノ隊ガ先ニ逃ゲタノダ」

「何ノ隊モ皆踏ミ止マラナカッタ。皆一樣ニ退却シタノダ」

「イヤ始メニ退却シタノハ君ノ方ノ翼ダ」

ト歌ツテアルノハ、正シク、長イ戦線ノ防禦戰ヲ頭ニ想像シテ書イタモノデアラウ。ジヨミニハ山地ヲ以テ、「越エベカラザル障礙デ、而カモ何時モ越エルモノ」ト云ツテ居ル。

故ニ縱合防禦ガ、クラウゼウイツツノ云ヘル如ク、本來有力ナ方法デアリ、其劣勢ナ方ガ地形ト工事トニ依ツテ援助ヲ受ケ、少ナクトモ敵ヲ擊退スルト云フ消極的目的ヲ達成シ得ルノ利益ヲ收メ得ルコトガアツタトシテモ、夫レヨリモ、一層大ナル活力ガ攻撃ニ含マレテ居ルノデアル。クラウゼウイツツノ著述ノ内デ、攻撃ニ關スル書物ガ、草稿ノマ、ニナツテ居ルコトハ、眞ニ惜ムベキデアル。恐ラク此ノ

大兵學家ハ、嚴密ナル研究ノ後ニ、晩年ニハ攻撃ノ方ヲ利トスル說ニ變ツタモノデアラウ。

攻撃ガ晩近ノ軍事ノ進歩ノ爲ニ、著シク困難ニナツタコトハ、吾々ノ既ニ認メテ居ル所デアル。

既ニ世界大戰中ニモ、器純ナ突撃ヤ敵ノ側面ヲ擊ツダケデハ十分デ無カッタカラ、將來ノ統帥者ハ更ニ一層慎重ニ考慮ヲ廻ラスデアラウガ、又同時ニ、從來ヨリモ一層思ヒ切ツタ處置ヲ爲スデアラウ。或程度マデ價值ノ同等ナル敵ニ、徹底的打撃ヲ與ヘルニハ、至大ノ努力ヲ要スルハ言フ迄モナイ。

然シ此ノ如キ種々ノ事情ガアツテモ、攻撃及防禦ニ關スル今迄ノ判斷ヲ動カスニ足リス。之レハ外形上ノ原因ニ基クノデナク、人間ノ不思議ナ特性カラ生ズル所ノ精神的原因ニ由來スルノデアル。攻者ハ其任務ガ如何ニ困難ニナツテモ、新考案、新勢力ヲ喚ビ起シ、其思慮ヲ鋭クシ、其企圖心ヲ高メ艱難ノ増スニ從ツテ、益々其力ヲ振フコトニナルデアラウ。運命ノ神カラ攻者ノ役ヲ割り當テラレタ戰士ハ幸福デアルト云ハネバナラヌ。

凡ラユル戰鬪ノ最大ノ成功、即チ敵ノ戰鬪力ノ撲滅ハ、結局攻撃ニ依ツテノミ、之ヲ達成シ得ルノデアアル。防禦ヲ辯護スル者ハ防者モ最後ニハ攻撃ニ移リ、敵ノ前進ヲ撃チ退ケテカラ、逆襲ヲ行フベキコトヲ常ニ說イテ居ル。之レヲ他ノ言草デ表ハセバ、「防者モ亦攻者タランコトヲ欲スルノデアアルガ唯ダ成功ノ見込ノ立ツ迄暫ラク延バスニ過ギヌ」ト云フコトニナル。之ニ依ツテ見レバ、防禦ハ作戰上獨立シタ方法ト見ラル、資格ノ無イコトヲ承認スル譯ニナル。畢竟防禦ハ副次的動作タルニ過ギヌ

他人ニ襲ハレテ自己ガ打タル、ノヲ唯ダ防イデ居ル者ヲ見テ、其者ハ撲リ合ヲシテ居ルノダト主張スル人ハアルマイ。夫レト同様ニ防者ヲ指シテ眞ニ戰爭ヲ行ツテ居ルモノト云フノハ、實ハ適切デ無イノデ、寧ロ戰爭ノ災難ニ罹カツテ居ルノデアアル。

戰爭ヲ行フトハ、攻撃スルト云フコトデアアル。

以上ノ一般の觀察ニ次デ、攻撃ノ適切ナル實施法ニ就テ研究ヲ進メタイ。先ヅ開戰當初ノ狀況ヨリ説明シヨウ。

今日ノ大口徑砲彈ト飛行爆彈トノ與ヘル破壊力ヲ知ル者ハ、最初ヨリ戰場ヲ敵國ニ選ブノ極メテ必要ナルコトヲ直チニ承認スルデアラウ。多少デモ之レガ出來ルト、自ラ信ジナガラ、夫ヲ實行セヌ國ハ、決シテナイデアラウ。

故ニ敵ヨリ先ニ國境ニ兵ヲ進メネバナラス。

次ニハ國軍ガ迅速且ツ整然タル大兵團ノ運動ヲ實行スベキ能力ヲ有スル必要ガアル。此ノ運動ハ敵ノ處置ノ如何ニ依ツテ困難トナル。即チ敵ハ攻者ニ對シテ自ラ攻撃的ニ向ツテ來ルガ、然ラザレバ正式ニ防禦工事ヲ施シテアル地帯ニ依托シテ、攻者ニ頑強ナ抵抗ヲ爲ス。故ニ攻撃軍ハ運動戰ニ熟練シテ居ルベキデアアルガ、又一方ニ於テハ築城ノ攻略ニモ熟達セネバナラス。後者ノ爲メニハ特殊ノ砲兵

其他ノ技術的裝備ヲ必要トスル。萬一之レヲ缺クカ、若シクハ不十分デアルト、必ズ失望ヲ招クコトニナル。千九百十四年八月末及九月始メニ於ケル獨逸第六、第七軍ノロートリンゲンノ築城線ノ突破ノ失敗ハ、其適例デアアル。

彼我ノ兩軍ガ其能力及精神的價值ニ於テ、略ボ相等シキ場合ニハ、攻者ハ數上ノ優勢ニ依ツテ其任務ガ著シク容易ニナル、前ニモ述べタ如ク、數上ノ優勢ハ一般ニ戰爭ノ成功ノ爲ニ、重要ナ條件デア

ル。即チ有利ナ攻撃の開戰ヲ爲サンガ爲ニハ、嚴正ナル平時教育ニ依ツテ練成サレタ立派ナ訓練ト裝備トヲ有スル國軍ヲ持チ、爲シ得レバ、敵ニ優ル兵數ヲ有スベキコトデアアル。

危急ノ場合ニ臨ンデ行フ全國募兵ノ如キハ、縱令其數ガ多クトモ、前述ノ如キ任務ニ堪ヘルモノデナイ。彼等ガ應募ノ覺悟ヲ定メル前ニ、敵ハ早クモ國境ヲ越エテ國內深ク進入シテ居ルデアラウ。事茲ニ至ツテハ、形勢ノ挽回ハ到底彼等ノ能クシ得ル所デナイ。

戰爭ニハ通常民兵的(義勇兵的)軍隊ニ課スルコトノ出來ヌ任務ガアル。即チ急速且ツ長途ノ行軍、陣地及防禦工事ヲ施セル住民地ニ對スル奇襲ノ如キハ、其一例デアアル。然ルニ斯クノ如キ企ガ、何レノ攻撃ニモ附物ナノデアアル。

尙ホ此ノ種ノ軍隊ハ、多クハ低級ノ指揮ヲ受ケルコトニナル。經驗ヲ積ミ、勤勉、勇敢、且ツ獨立